地名研究会報

第77号　　平成14年9月1日
鹿児島地名研究会

Ⅰ.第77回例会　　平成14年6月2日（日）　　於教職員互助組合会館和室

（出会者）　上野堯史・大田照夫・納　栄蔵・小山田稔・川野雄一・坂本　誠・築地成郎・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・福元忠義・松田　誠・三善喜一郎・米原正晃　（計14名）

Ⅱ.大日本地名辞書読会　　P.1768～ P.1769　　西諸県郡・野尻・春野・高原

Ⅲ.高山町の地名

〔問題となった地名および事項〕　島津義弘帰還の経路、春野郷、夷守、越と峠、飫肥街道、日向国と肥後国の連絡路、タタラと砂鉄、波見、咄合と流合、ドウメキ、宮下・富山、壺屋・高麗、論地と辺塚、高付・金貫、皮籠作、五反田・添、城ケ平と城ケ谷、走馬・鳥越、検見崎・大丸、柊・染木、寒水・毛戸口、ホキ・前床・硯石・落平

島津義弘帰還の経路

平田　今日読んだ所は、野尻、紙屋。ちょっと見にくい地図ですが、野尻は此処、紙屋は此処です。綾が此処、この辺が小林から真幸、此処が人吉。この辺は行ったことがないのですが、あゝバスで通ったことがある。霞神社ですか、白い蛇がいる所がありますね。あの一帯です。

高原は、島津義弘が関ヶ原の戦いで敵中を突破して、大阪から海路細島に来て、美々津に着きます。佐土原を経て高原から、霧島の高千穂河原に出て来るわけです。そして霧島川沿いを下り、富隈城に辿り着いて、義久に挨拶する。兄弟感激の対面をするわけです。そのルートはあんまり知られていないようです。高原から霧島を越えて、田口・大窪と霧島川沿いに下って来ています。

上野　八代という所がありますか。

平田　ありますよ。

上野　西都原の近くですか。

平田　そうですね。

上野　八代までは、私が読んだのには出ていたのですが、そこから先は書いてないのです。

平田　あゝ、そうですか。

上野　八代から直ぐ帰ったように書いてあったから。

平田　逃げ帰った道は『西藩野史』に書いてあります。高原から高千穂峯と中岳の間、それから高千穂河原を通って霧島川に沿って下って来ています。元気があればいつか歩いてみようとは思うのですが。宮崎県の人達は高原から高千穂峰に登るのではないですか。どうだろう。

上野　向うからでしょうね。

平田　そのような道があったのです。その道は日向を攻める時にも利用されたのです。日向に攻め込む場合、一隊は浜之市から上って義弘が帰って来た道を越えて行きますが、

今一つは加治木から北上して栗野を経て吉松そして日向に攻め込む道だったと思います。

上野　真幸道。

平田　そうですね。

上野　義弘が帰って来る時、稲津の乱というのがあった。伊東氏につながる稲津祐信というのが反乱を起こして待ち構えているのです（東諸県郡倉岡の項参照）。それがなければ真っ直ぐ佐土原・都城を通って帰って来ただろうと思うのですけどね。

米原　「紙屋地方に逃る」とありますが、紙屋地方というのはどこですか。

平田　野尻の近く。此処が野尻、野尻から西都の方に抜ける道があり、その途中に紙屋があります。

泰野郷

平田　日向国の郷名では、泰野郷というのは所在不明とされています。「泰：ハル」は原野だと解釈するのですが、私は曽於郡松山町の「泰野」の誤記ではないかと考えるのです。後世の救仁院・救仁郷は志布志一帯ですから、志布志付近に諸県郡の一郷があってもよいと考えるのです。大隅国・日向国の郷名比定は日向国との関係もあって、大隅国だけでは片づけられない。さらに材料を集めなければと思っています。そういう視点もあるということです。

夷守（ひなもり）

上野　夷守（ひなもり）というのは、今もその地名があるのですか。

平田　小林に夷守岳があります。獅子戸岳の東北にある山です。

上野　あゝ。

平田　山の名前がある。「ヒナモリ」がいたのでしょう。あるいは「ヒノモリ」が。ヒナモリは田舎を守る尖兵という意味だったのでしょうか。魏志倭人伝に出て来る卑奴母離は。

上野　今それを考えていたのですが。そうすると、それと同じ？

平田　同じ意味ですよ。

越と峠

繁昌　「天堤越」という表現が出て来ました。「越」も「峠」も山を越える所だと思いますが、それに違いがあるのかどうか。それから○○道とかいう表現がありますが、それはその全体をいうのか、ただ一部をいうのかその辺はどうなんですか？

平田　「峠」という表現は時代的に新しい。それより古いのが「越」です。さらに古いのは、峠のことを「タオ」という。○○道というのは目的地を意識させる呼び名です。「どこどこへ向かう道」を意味する言い方になるわけです。道路に付いた表現でしょうね

飫肥街道

上野　夷守に続いて、駅路とありますが、飫肥街道のことですか。どのあたりですか？

平田　（黒板に貼った地図を辿りながら）此処が佐土原、此処が綾。西都はどこになるかな。

上野　綾の北の方。

平田　この辺だね。此処が西都。日向国府があった所。ここに佐土原があって、こっちが宮崎。西都から山を越えて来れば、綾ですね。綾から紙屋・野尻・夷守・真幸へと続きさらに吉松から栗野の方へつながる道があります。吉松から大口の方へ出て、肥後国へ抜けられる。真幸から加久藤を越えて、人吉に出る街道もある。

上野　説明板に飫肥街道と書いてあった。だから、飫肥街道は。

平田　これを宮崎県では飫肥街道と呼んでるの？

上野　だろうと思いますね。途中までが飫肥街道なのか、全部なのか、そこは判りません。小林・真幸へと来る途中は少なくとも飫肥街道だと思います。

平田　でも、飫肥はこっちだから。

上野　だから、変だなと思ったのですが。

平田　薩摩街道、出水筋、いろんな言い方がありますね。それと同じく大隅筋・高岡筋・日向筋。日向筋から分かれるのが飫肥街道でしょうね。都城から飫肥へ抜ける道。

上野　飫肥にですね。野尻の辺は違うのですね。

平田　宮崎県で飫肥街道とは飫肥へつながる道と肥後国にもつながる道を考えておったのかもしれませんね。（編集時後記：飫肥―清武―佐土原を結ぶ道を飫肥街道という。他県のこととなると隣県でも音痴同様の知識不足の実態を示す好例である）。

日向国と肥後国の連絡路

平田　人吉に出る加久藤越えというのは長い道でしょう。

上野　あれは歩きましたけど。

平田　相当長いでしょう。

上野　つらいです。

平田　ところで、日向国府から米良に出て人吉に抜ける道というのは考えられないことはないのだがなぁと思うのですが、その道を昔の道として宮崎の人たちはあまり考えないのですね。米良から人吉に出るのではなくて西都から紙屋・野尻・夷守・真幸そして加久藤越に抜ける道を考えています。あっちの方はどうだろう。人吉から米良を越えて日向入ったルートもあるのじゃないかな。

小山田　今は大きなダムが出来ています。

平田　あゝ、そうですか。

小山田　もの凄い山道です。一回、バスで米良から高鍋に下りて来ましたけど、凄い所です。

平田　昔からあまり通らなかったのかな。

小山田　そうじゃないですか。谷が深い。

平田　それなら霧島山麓を通って行くのが日向国と肥後国の連絡路ということですね。

高山町の地名

米原正晃

高山町の地名を調べるようにという話が出たのが昨年の最初の会ではなかったかと思っています。その後平田先生が役場の税務課に依頼の手紙を出されたが、返事はなかったとのことでした。昨年の夏休みに役場に行ってみました。平田先生の依頼の件もほとんど通じておらずに、そのままになっていました。忙しかったということもあったのか、あんまり相手をしてもらえませんでした。一応頼んで改めて訪れてコピーをとってもらいました。家に帰って見ると、コピーも写っていないところいっぱいありました。○○としてあるのは、私も読めなかったものです。無理して読んだり、間違ってるのが、だいぶあるかも知れません。そういうことで、もう一回役場に行って調べてみようとは思って

います。松田先生も高山町の地名を持っておられるとのことでしたが。

松田　民具の近藤さんがもっている。

米原　近藤さん、あゝ、そうですか。

平田　私ももってるよ。先日手に入った。

米原　お配りした資料の番号は役場の台帳の番号と大体同じものを書いてあります。大字の番号はちょっと違いますけど、小字の番号は役場の台帳に基づいています。役場の台帳も同じものが二つ書いてあると、一つは消してあったりでした。そういうことで番号自体はちょっとずれていることもあります。読み方は、その土地の読み方でなくて現代風に読んだ呼び名のようです。本当はそもそもの読みが欲しかったのですけれども、今からはそういうことは無理かも知れんなと思ったりもしています。

また、高山町に関しては全く知識がありませんでした。今でも地理的なことに関しては全く判りません。そういうことで、皆さんの方が高山町の地形とか様子に関しては詳しいのではないかと思います。

一応、小字の一覧表をワープロで打ってみました。そして今までの例にならって分類をしてみました。さらに分布というか、頻度を調べてみようと思ったのですけど、私自身が充分知識もないし、期日が迫らんと仕事をしないので頻度については、1/4か1/5程度しか試みていません。

4枚目の右側に、高山町の地名を考えるにあたって、とまとめておきました。高山町に関しての知識がありませんので『高山町郷土誌』をこの機会にじっくり読ませてもらいました。地名に関するものを拾いあげておきました。それを読んでみます。

高山之郷 —— 上古ハ高ノ字神ノ字ヲ用ヒテ神山ト書キタリシ由古ク申伝候。

新留村——上古ハ留ノ字富ヲ用ヒテ新富村トシタル由。

野崎村——上古ハ野崎村ト云、中古塚崎村ト村名替ヘタリシ由ナレド、又上古ノ如ク今ハ野崎村ト云。

後田村——上古ハ鷲村と云、其後今ノ前田村ト合併シテ和泉田村と云ヒシ代アリ。何ツ比ヨリカ又二村ニ分レテ、本ノ鷲村ハ今ノ後田村ト村名替ヘタリヤ。

前田村——上古ハ西方村ト云。

（後田に対して前田。後と前、そういうことだろうと思います）

宮下村——上古ハ富山村ノ内ニテ——宮宅ナラムカ、又屯倉・三宅トモ書キタリシと云

（どの本もこういう形で書いてあるのです。この辺りのことも後で教えて下さい。それでいいのかどうか、私自身は全くその辺りの知識がありません）。

富山村——上古ヨリ富山村ト云テ村名ヲ替ヘタル伝ヘ無之。

波見村——上古ハ野崎村ノ内ニテ何ツノ時代ニ当村ノ方限別ニ波見村ト分レ立シ事不詳——地名ハ本ヨリ波見ト云。

ここで問題になるのは、波見という地名がどこから来ているか、ということです。後でいろいろと意見を聞かせて下さい。それからこう言った小字を見ていると、地形を表した地名が非常に多いことに気付きます。それで郷土誌の中から拾い出して見ました。これは小字名ということよりは、集落名ということです。集落が直接地形を表すということではありませんが、波野・本城・川上・二俣川校区および鳥越とか永野。宮富・高山校区および後田校区など、はっきりと山麓地帯あるいは台地の末端集落を示しています。

高山の場合、地形がはっきりしていることが一つの特徴だろうと思います。麓集落では東麓・中麓・西府もと・西方など、川沿いの所では宮下・川北・川南・下住・下之門・池之園・津曲・下伊倉など。海岸集落では有明校区・波見・浦町という形です。市街地が本町（もとまち）・中町・新町・真正町・栄町・坂中町・福留町・西之宮・八幡寺町など、はっきり判るような地名です。「池」が多いのも特徴的です。タタラ池・花牟礼池・天道池・塚崎池など。先程ちょっと話が出ましたが「人口が少なく、台地下の湿田だけで耕作する間は問題はなかったが、人口が増加し、水田開発が進んで、水田が肝属平野の中央へ進出すればするほど水不足がおこった。こうしてこれらの築造が薩摩から人を移して・・・」と書かれています。

谷山迫は後で説明します。「池」を作った後、溝を造るというのでしょうか、堀を造るという形で集落形成が此処では行われているわけです。だから「池」の地名とか「堀」の地名とかが沢山残っているというのが一つの特徴でしょうか。

それから「台地と水」としましたが、台地上の全く水の出ない乾燥した所には集落は出来ていない。同じ台地上でも割合簡単に水が得られる笹ケ尾・鳥越・永野・中原・川出・上原などは、台地上の集落として存在しています。

台地としては井戸がかなり浅い所にある例：谷山迫・白坂・山下・染木など。谷山迫は谷山から集団で移住した所です。谷山の方でも言い伝えが残っているようです。

低地が直接山地に接している所としては、波見・荒瀬・平後園があります。その辺りの地名として、割目（われめ）という地名も残っている。割目というのは、つまり、水の出る所。富山にも割目という小字があります。

冷泉の湧水池もある。湯之谷・花牟礼・野崎などです。そう言った水との関わりが非常に大きい所です。湧水のすぐ側には水神があって、しかも古いのが多い。荒神水神・塚崎水神などが書かれています。こう言った名前が付いているという事ではなくて、荒瀬の水神：荒瀬にある水神という意味だろうと思います。塚崎の水神・花牟礼の水神、まぁそういう意味だろうと思います。

台地末端集落にも水神がありますが、この場合は田之神と一緒に祀ってあります。これは割と時代が新しいものだということです。寒水水神（そうずすいじん）というのも湧水の水が冷たい所ということなんでしょうか。

この辺りの神社では、湧水が神社の境内にあるものがいくつかあるということです。神社の境内が湧水池になっているのです。

それから「迫」という地名が非常に多い。小牧迫・稲荷迫・東迫・大脇迫・灰迫・谷山迫など。迫のある所は、水は僅かに出る程度だということです。

5枚目の地名分類表は私が便宜上こういう形に分類しただけのことです。も一度整理し直さなくてはと思っています。今日の分は私が興味を持った所だけを入れてみました。本来はそれぞれの頻度が何ﾊﾟｰｾﾝﾄと今までのような形にすべきですが、文字が読めなかったりするものが沢山あったりして、こういう形で出してみました。

古墳密集地域であるために「塚」の付く地

名がいくつも見られます。双子塚とか高塚などですが、後田の「高塚」は古い塚ということじゃなくて、島津・肝付の争いの時の首を埋めた所だという伝承があるようです。「イヤノ前」は後産を埋めた所だと伝えられています。

神山迫：ｺｳﾔﾏｻｺ、というのでしょうか。これが高山町の名の起こりという所なんでしょうか。

染木（そめき）については、郷土誌の中では戦さのために血が流れたと書いてありますが果たしてそうなのでしょうか。郷土誌の説明に沿って伝説の欄に入れました。山神・供養之元・花立・祇園。志布志から向こうの方は祇園信仰・祇園講が盛んです。合戦田、肝付・島津の戦いの伝承が非常に多い所で、いくつかそういうのがあるようです。

先程の大日本地名辞書の中に軍谷（ｲｸｻﾀﾞﾆ）というのがありましたが、此処にも軍原（ｲｸｻﾊﾞﾙ）というのがあります。右の方の「原」の欄に書いておきました。これも伝説の方に入れた方がよかったのかも知れません。

坊さんのところは仏教関係の地名です。それから天道信仰があるんだろうと思います。天道あるいは天道山というのが野崎にあります。天道信仰の山だろうと思っています。

城に関する地名も多い。城山・新城。そう言ったものの近くには寺があったりします。米山寺ノ上というのは、姶良町の米山薬師と関連した薬師さんがあるということでした。

地頭用という地名が波見の欄にあります。水田か何なのか、ちょっと判りません。

木・草・森というふうにしましたが、これが適当かどうか判りません。金貫（ｷﾝｶﾝ）・青木（ｱｵｷ）・茶平（ﾁｬﾋﾞﾗ）・榎元（ｴﾉｷﾓﾄ）・榎崎（ｴﾉｷｻﾞｷ）・小倉松（ｵｸﾞﾗﾏﾂ）・二本松（ﾆﾎﾝﾏﾂ）・柊蒔（ｸﾇｷﾞﾏｷ）。蒔は何でしょうか。丁木（ﾁｮｳｷ）、ここに入れましたが一体何なのかちょっと判りませんでした。丁木、いわゆる昔のトイレットペーパー代わりということなのか。何なんでしょうか。ドウメキは、一応此処に入れてみました。（後記：ドウメキは擬音地名。ドヨメクの転化）。胡麻ケ瀬戸（後記：信仰地名の護摩ケ瀬戸もあり得る）

多いのが川・泉・池の類です。割目（ﾜﾚﾒ）・井手下（ｲﾃﾞｼﾀ）。逆水（ｻｶﾐｽﾞ）というのは水が逆さに流れるということなんでしょう。落（ｵﾄｼ）・水洗（後記：ﾐｽﾞｱﾗｲ、水喰と同じく浸食地名？）。寒水（ｿｳｽﾞ）・咄合（ﾊｷｱｲ）・赤池、樋ノ口（ﾋﾉｸﾁ）・神之市川原（ｺｳﾉｲﾁｶﾜﾗ）・神之市というのは市を開いた所だということです。郷土誌にも出ています。高山町の名の起こりに関係する地名として、ここにあげておきました。

新堤（ｼﾝﾂﾂﾐ）。堤防の堤だろうと思い、此処にあげておきました。轟（ﾄﾄﾞﾛｷ）・滝の上（ﾀｷﾉｳｴ）・川添（ｶﾜｿﾞｴ）・水流（ﾂﾙ）などは此処にまとまっています。堀・溝。池を掘り堀を掘って新しい集落を作ったことから、地名としてだいぶ残っているようです。

牟田・田。低地の洪水地帯・湿田地帯でしたから、それに関する地名も非常に多い所だなと思いました。

畑・園というのを一緒にまとめておきました。小豆ケ瀬戸（ｱｽﾞｷｶﾞｾﾄ）・茶園（ﾁｬｴﾝ）・三反畑（ｻﾝﾀﾝﾊﾞﾀｹ）・水流畑（ﾂﾙﾊﾞﾀｹ）。

木場（ｺﾊﾞ）という地名も沢山あります。出葉鹿倉（ｲｽﾞﾘﾊｶｸﾗ）。この出葉というのは山間部にはかなりあり、熊本県あたりまでずーっと続きますから、木の名前なんだろなと思いましたけれども、どうなんでしょうか。

道・渡り・橋・辻・峠。こういう形であげておきました。中辻（ﾅｶﾂｼﾞ）・上辻（ｶﾐﾂｼﾞ）・道添（ﾐﾁｿﾞｴ）・街道添（ｶｲﾄﾞｳｿﾞｴ）坂上（ｻｶｳｴ）上渡（ｶﾐﾜﾀﾘ）・大橋（ｵｵﾊｼ）・中村通り（ﾅｶﾑﾗﾄﾞｵﾘ）・坂元（ｻｶﾓﾄ）・牛渡口（ｳｼﾜﾀｼｸﾞﾁ）・馬渡（ﾏﾜﾀｼ）・近道（ﾁｶﾐﾁ）・川路（ｶﾜｼﾞ）・通山（ﾄｵﾘﾔﾏ）。帰道（ｶｴﾘﾐﾁ）・中渡（ﾅｶﾜﾀｼ）・渡口（ﾜﾀｼｸﾞﾁ）・元辻（ﾓﾄﾂｼﾞ）・十文字（ｼﾞｭｳﾓﾝｼﾞ）帰（ｶｴﾘ）という地名も波見に残っています。

東風泊（ｺﾁﾄﾞﾏﾘ）。海上交通の地名として、ここに入れるのはどうかなと思ったのですが気象地名の所に入れた方がよかったかも知れません。

崩壊地名として砂走（ｽﾅﾊﾞｼﾘ）・水喰（ﾐｯｸﾚ）崩ケ迫（ｸｴｶﾞｻｺ）・石落（ｲｼｵﾄｼ）。波見（ﾊﾐ）というのも海に関する地名なのか。それとも鶴喰（ﾂﾙﾊﾞﾐ）・竜喰（ﾀﾂﾊﾞﾐ）と同様のものではないかなということで、此処に入れてみたのですけど、どうでしょうか。後でいろいろと教えて下さい。

町・門・集落の欄。新屋敷（ｼﾝﾔｼｷ）・中村（ﾅｶﾑﾗ）・稲村（ｲﾅﾑﾗ）・原ノ村（ﾊﾗﾉﾑﾗ）・博労町（ﾊﾞｸﾛｳﾏﾁ）。博労の所では牛市・馬市が盛んだったということです。唐人町（ﾄｳｼﾞﾝﾏﾁ）が此処にはあります。新町（ｼﾝﾏﾁ）・商人ケ崎（ｱｷﾝﾄﾞｶﾞｻｷ）・西之町（ﾆｼﾉﾏﾁ）・町（ﾏﾁ）。

産業開発地名として、そこに入れておきました。そういう形でいいかどうか。細工（ｻｲｸ）・箕作（ﾐﾉｻｸ）。「みのさく（みづくり？）」はどういうことかと思ったのですが、文字をそのまま考えて此処に当てはめてみました。皮籠作（ｶﾜｺﾞｻｸ）・竹作（ﾀｹｻｸ）・鈩（ﾀﾀﾗ）・鈩ノ下（ﾀﾀﾗﾉｼﾀ）・鈩宇都（ﾀﾀﾗｳﾄ）・立野（ﾀﾃﾉ）。これは茅立野（ｶﾔﾀﾃﾉ）のことだろうと思います

先程配った資料の中でも立野（ﾀﾃﾉ）と軍谷（ｲｸｻﾀﾞﾆ）がセットみたいに出ていました。仕明（ｼｱｹ）は農民の開墾地のことです。この中にまとめてみました。

牧が非常に多いことも一つの特徴だろうと思います。牧は上・中・下というような形で地名が付けられているようです。方角を示すものとして、南とか西方などがあります。西浦・小向（ｺﾑｶｲ）・夫婦石ノ向（ﾐｮｳﾄｲｼﾉﾑｶｲ）。「向」というのは向側ということなのか。先程、平田先生が向（ﾑｺｳ・ﾑｶｳ）という意味もあると云われましたが、「向（ﾑｶｲ）」ということの意味は「むかい」あるいは「むかう」なのか、そのあたりことも後で議論して頂きたい。東・西は東浦・西浦のインプットミスです。

「迫」はそこに書いてあるものです。勝負ケ迫。後田の中に勝負ケ迫というのがあります。前田にも波見にもあります。「迫」のところに入れましたが、高山町郷土誌では戦さに関係する地名として、伝説地名というのでしょうか、そういうような解説がありました。戦さに関するものだということです。

それから「原」。笠野原（ｶｻﾝﾊﾞｲ）は笠野が主で、それに原がくっ付いたのだろうと思いますが、笠野の方は書いていません。

瑞祥地名として、米盛（ﾖﾈﾓﾘ）をここに入れました。新富（ﾆｲﾄﾐ）も瑞祥地名だろうなと思いました。

気象地名として、風ケ谷（ｶｾﾞｶﾞﾀﾆ）・神成窪（ｶﾝﾅﾚｸﾎﾞ）。これは雷：神鳴だろうな、と思って此処に入れました。

私の理解出来る範囲で打ち込んでみたのですが、まだ４分の１か３分の１程度だろうと思います。以上で一応、説明を終ります。

〔質疑応答〕

平田　ご苦労さまでした。遠慮なく質問をお願いします。補足することは？

米原　問題点として４枚目の下に３行ほど書いておきましたが、検見崎(ｹﾐｻﾞｷ)・安野(ｱﾝﾉ)・染木(ｿﾒｷ)・折小野(ｵﾘｵﾉ)・波見(ﾊﾐ)・笠野(ｶｻﾉ)・田多尾(ﾀﾌﾞｵ)・江胡(ｴｺﾞ)・勝負ケ迫(ｼｮｳﾌﾞｶﾞｻｺ)などを、どう考えるかということ。地形に関する地名、神社あるいは史跡などに関する地名などは非常に多いけれども、動物に関する地名が少ないなと思いました。鹿倉というのは何カ所かありました。鳥越、これはどう考えるか。鳥が渡って行く所と考えていいのかな、と。

海に面している所なんだけど海・浜の関連地名も少ないと思いました。荒瀬・塩入・塩崎ノ鼻というのがありますが、ちょっと少ないと思いました。一応そういうことで皆さんの意見を聞かせて下さい。

タタラと製鉄

三善　地図の中では、後田(ｳｼﾛﾀﾞ)というのは、どの辺ですか。

米原　後田はこの辺です。（指さす）

平田　大字でしょう。

三善　後田の欄の産業開発地名に鈑(ﾀﾀﾗ)とありますが、どの辺ですか。

米原　細かいことはちょっと判りません。此処に字総図がありますので、あとで見て下さい。

三善　この辺は海岸で砂鉄のよくとれる所

米原　そうです。砂鉄がとれる所です。

平田　どこで採るの？柏原の方？

米原　川上の方とか聞いています。

平田　すると、山の方で採るのだな。

米原　タタラは、あっちの方にもあるみたいなことを書いてありました。

平田　なるほど。

波見

平田　波見はもう相当前の話ですが、私が問題提起したことがあります（地名研究会報第11号。S.61.3)。

米原　あゝ、そうですか。

平田　お考えになったハミ（喰み）の解釈で結構です。喰むと同じです。喰むから変化したのが、噛む・噛みつく。米噛(ｺﾒｶﾐ)という地名が出て来ます。大隅国風土記逸文に娘たちが米を噛んで桶に溜める。やがて醗酵して酒が出来るという話に結び付きます。鶴喰・鳥喰・鼠喰・猿喰など、「喰」地名は皆浸食・崩壊地名です。語源的に近いのがハブだと思います。ハムとハブ。奄美のハブは噛みつくの古語だと思います。伊豆の大島に波浮の港がありますが、あれはマールで噛みつかれたような地形になります。

納　名越左源太が奄美のハブをば、そのような漢字を当てとったですよ。

平田　あゝ、そうですか。

納　「噛」という字も途中にあったようです。

平田　名越左源太の本は現在発売中ですね

納　それに書いてあります。それと以前に出た『南島雑話』か、おかしな漢字をはめ込んであったですよ。

平田　難しい漢字でしょう、おかしな漢字ではなくて。

納　私は文字を憶えていません。噛むだったか喰むだったか、何かそういう文字。

平田　波見はやっぱり抉られていますからね、そういう地形名でしょう。

咄合・流合

平田　これ、咄合は「はきあい」ですか、「はぎえ」ですか。

米原　咄合(ﾊｷｱｲ)です。

平田　川内にこういう地名と名字があります（板書）。流合（ﾊｷﾞｴ)とよみます。

三善　川の合流地点ですか。

平田　川の合流地点です。これを「ﾊｯｹ」と読む所もあるし「ﾊｷﾞｴ」と読む所もある。

ドフメキ

平田　新富のドウフキ。前回も出て来ましたが、野田町のドウメキも同じです。ドヨメクから変化したもの。

米原　ドウメキね。沢山ありますよね。

平田　ホメキ、ドウメキ。擬態語ですね。

宮下・富山

納　大字の富山と宮・・

平田　宮下(ﾐﾔｹﾞ)。

納　ミヤケと読んでいいですね。

平田　土地では「ミヤゲ」と云ってます。

納　富山(ﾄﾐﾔﾏ)の場合、土地の人々はトッチャマというのですよ。どうして「トッチャマ」になるかと思いました。トミヤマの場合「ミ」が促音便になって「ツ」になるのです。促音とヤが続けば拗音に変わって来るのです。最初はどうして「トッチャマ・トッチャマ」というのか判らんかったのです。土地の人に聞いても、改まると「トミヤマ」というのです。促音便ということが考えられたら、トミヤマがトッチャマになります。富山の位置は、鹿屋市と高山町と串良町とが接した所で、少々入り組んでいます。

平田　ああ、そうですか。はい。

壺屋・高麗

納　笠野原の場合、明治10年頃に陸地測量部の地図を見ると、壺屋とか高麗という名前が出ています。師範学校の地理の教科書があるのですが、壺屋とか高麗という名前が地図に書いてあります。

平田　陶工が苗代川から移って行ったということでしょう。

納　鹿児島の高麗町が人が増えたものだから、笠野原に移した。さらに笠野原の流れが西俣に移って来た。あれは鹿屋市になるのかな。

平田　大姶良の方でしょう。

納　西俣という所に移って行きます。それで、笠野原の神社とか西俣の神社では祝詞をあげる場合に、苗代川・・・えーと。

平田　苗代川、現在は美山。

納　美山の神社と同じような朝鮮語の祝詞をあげるらしいのです。それも現在の人々でその祝詞は終わりじゃないかと鹿屋の神主さんが云うたのを聞いたことがあります。

平田　文禄・慶長之役の時に移されて来た人たちが薩摩・大隅にどのように拡がって根付いたかということは、きちっと抑えておく必要はあるけれども、壺屋とか高麗という表現は問題を含むことを心得ておかなければならない。昔は差別用語として意識的に使われていたことは事実です。今年は昨日から始まった韓日ワールドカップの年です。仲良くしなければいけないと思います。

論地と辺塚

納　論地の場合、吾平論地と高山論地があります。その裏側に行けば、辺塚か。

平田　内之浦辺塚と佐多辺塚。

納　それから川内と阿久根。同じ部落が川内と阿久根に分かれています。

平田　何という所ですか？

納　川内川のずーっと下の方です。何と

いう所だったか、忘れました。

平田　また思い出す時があるでしょうからその時に出してください。じゃー、逐条で行きましょう。

高付・金貫

平田　富山の所、1行目。何か疑問の地名があったら出して下さい。上から順番に見て行きましょう。25.栂下(ｶｺｲﾉｼﾀ)は城郭地名でしょうね。高付(ﾀｶﾂｷ)は高い槻の木。植生地名、目印地名。いわゆる坏や椀の高坏じゃないと思います。

2行目、34～64。何かありませんか。金貫(ｷﾝｶﾝ)というのは何ですか？

米原　私はキンカンとしたのですが、どうなんでしょうね。

平田　金貫(ｶﾈﾇｷ)じゃないのですか。ルビはなかったのですか。

米原　「きんかんのうえ」となってました

平田　それならば「きんかん」でしょうね

米原　下の方にまた、59.金貫とあります

平田　蜜柑のキンカンじゃないでしょうね

米原　私はそのつもりで書いたのですが。

平田　金冠・金管もあり得る？はい、判らないことにしておきましょう。

次は3行目。宮下の1～33。龍泉(ﾘｭｳｾﾝ)泉の名前ですか？

米原　はい、そのように書いてありました

平田　他にありませんか。

皮籠作

米原　13.皮籠作(ｶﾜｺﾞｻｸ)。これは耕作地名というか、製作地名と見てよいですかね。

平田　皮籠作(ｶﾜｺﾞﾂｸﾘ)？

米原　籠はその通りの意味です。

平田　皮籠というのは、皮で作った弁当箱みたいなものでしょう。

米原　そうです。それに「作」が付くのです。

平田　皮籠屋が耕作した畑と解釈すれば、皮籠作になりますよね。「作」というのは、だれだれの「作」という表現が普通です。

納　　55.イヤ前。私は吾平山陵の近所とばかり思っておったのですが、宮下に入っているのですね。「イヤ」というのはいわゆる後産。

平田　イヤという場所は沢山あっていいわけですから。吾平山陵の方にあってもいいのでは。あっちは吾平町、こっちは高山町。イヤは後産を埋めた場所として、高山にもあったでしょうし、吾平町にもあったと考えればいいのじゃないですか。

五反田・添

三善　五反田・三反田というのは？

平田　田圃の面積にもとづく地名です。これは沢山あります。五反の広さの田圃・三反の田圃の意味です。

三善　面積ですか。

平田　そうです。六反田とか一町田とか、いろいろあります。とくに五反田は多く、東京にも五反田があります。

繁昌　「添」は何ですか？

平田　「添」というのは、或場所に沿うて開発した土地を示す地名です。岸良道に沿って畑を作ったとか、そういう意味です。

三善　「木場」というのは焼畑農業をやった所じゃないですか。

平田　前回も同じことが出ました。今日の第76号にも「木場」は書いてあります。

米原　文字通りの意味でしょうね。そのように思います。

(編集時後記：宮崎県椎葉村では現在でも畑をコバと呼ぶ。鹿児島県の場合、木場地名が多く、広さや立地を考えると木場のすべてが焼畑農業と結びつくとも思えない)。

城ケ平と城ケ谷

平田　次の後田に行きましょう。145～180問題はありませんか。181～216は？217～252はどうですか？

納　　192.城ケ平(ｼﾞｮｳｶﾞﾋﾗ)と振り仮名が振ってありますが、私の近所にも文字は同じものがあります。新しい人たちはｼﾞｮｳｶﾞﾋﾗというのですが、私はｼﾞｮｳｶﾞﾀｲというのです。どっちが本当でしょうか。

平田　「ｼﾞｮｳｶﾞﾋﾗ」と「ｼﾞｮｳｶﾞﾀｲ」。鹿児島で「ﾀｲ」という場合は「谷」を言います。平(ﾋﾗ)を「ﾀｲﾗ」とか「ﾀｲﾗ」と読む場合もありますけど。「ｼﾞｮｳｶﾞﾀｲ」と言った場合は城ケ谷：谷です。例えば鹿児島市長田町に「ｼﾞｮｳｶﾞﾀｲ」がありますが、あれは「城ケ谷」です。城ケ谷と書くべき所を、城ケ平と役場の方で書き違ったとしたら考え方は違って来ます。昔から城ケ平を「ｼﾞｮｳｶﾞﾀｲ」と読んでいたのか、それはちょっと判断出来ないのでは。

納　　広い意味では言えば「谷」の状態になっています。崖の下なんです。

平田　それは、そうでしょうけど。

納　　「デラ」というのは？

平田　デラとかタイラは、緩傾斜面です。城ケ平は「ｼﾞｮｳｶﾞﾋﾗ」としか読めない。

217～252は、いいですか。

走馬・鳥越

平田　252.走馬(ﾊﾔﾏ)の読み・当て字は面白い。

米原　何カ所かあって、全部この文字を使っています。

平田　253～270。263.銭亀、本来は銭神。信仰地名です。鳥越は「ﾄｺﾞｴ」、鳥が越えて行く所です。鹿児島では多い地名です。中国では雁が渡って行くので「雁門」という。雁門関という地名があります。中国でも日本でも鳥が越える所を似たような感覚で地名を付けています。

検見崎・大丸

平田　2枚目に行きましょう。後田の1～36。10.角仏(ﾂﾉﾎﾞﾄｹ)、面白い地名ですね。海元(ｶｲﾓﾄ)も面白い当て字だな。検見崎(ｹﾐｻﾞｷ)は何ですか？

米原　郷土誌では、城のあった所で、そこで見張りをしたとか、そういう形で書いてあります。そうなのかなと、思ったのですが。その下の大丸(ﾀﾞｲﾏﾙ)。これはなんでしょうか。大丸(ﾀﾞｲﾏﾙ･ｵｵﾏﾙ)。

平田　大丸さんが開拓した畑・田圃ということじゃないの。○○丸・小犬丸・田主丸など平安時代・鎌倉時代の人の名前を考えた方が理解し易いのじゃないですか。

次の37～72はどうですか。

柊・染木

納　　71.柊蒔(ｸﾇｷﾞﾏｷ)。此処も柊(ｸﾇｷﾞ)と読ましてますね。普通これは柊(ﾋｲﾗｷﾞ)でしょう。柊原(ｸﾇｷﾞﾊﾞﾙ)と一緒で。

平田　そうです。これは鹿児島県の人しか読めない。

米原　そうですね。

平田　他県の人ならば、柊(ﾋｲﾗｷﾞ)と読みます。鹿児島県には古い漢字が残っているということです。染木(ｿﾒｷ)は染料に使った木があったのじゃないかな。

米原　そういう木があったとしか考えられないですよね。

平田　染木原(ｿﾒｷﾊﾞﾙ)・染木谷　(ｿﾒｷﾀﾞﾆ)

とありますね。

米原　染木というのが、ちょっと多い感じです。

平田　73～108.此処では釿(ﾀﾀﾗ)の場所に注意しましょう。91.団兵衛作、団兵衛さんが耕作した開発地名でしょう。

米原　人の名前ですね。

平田　さっきも「作」が出てきましたが、○○作はそのように理解していいのじゃないですか。109～144。113.保枝作、これは何ですか。

米原　これも二ケ所ほどあったのですが。

平田　独特な地名ですね。

寒水・毛戸口

平田　前田に行きましょう。1～36。2.寒水山(ｿｳｽﾞﾔﾏ)。寒水とは泉のことです。筧(ｶｹｲ)のことを「そうず」とも言います。それから「ししおどし」も。

米原　トタン・トタンと落ちるもの。

平田　あれも「そうず」と言います。鹿児島県の場合「そうず」の存在を俊寛僧都と結び付けて俊寛伝説にまで発展しています。3.軍原、ここでは「ぐんばる」？

米原　此処では「ぐんばる」になっています。郷土誌では「いくさばい」になっています。

平田　あゝ、そうですか。

米原　はい。

平田　「いくさばい」の方がよかかも知れませんね。

米原　そうですね。

平田　4.の宗寿ケ原(ｿｳｼﾞｭｶﾞﾊﾗ)。これも人の名前ですね。

米原　人の名前ですね、これは。「宗寿」というのは別の所にもあります。

平田　10.志賀は滋賀県の「しが」と由来は同じでしょうが、意味は判りません。古いことばであることは間違いない。37～72 67.備後(ﾋﾞｺﾞ)ですか、「びんご」でなくて

米原　役場の一覧では「びご」となっていたのですが。これは確かめてみます。

平田　73～97。

米原　ここにも銭神が出て来ます。

平田　94.毛戸口(ｹﾄﾞｸﾁ)は、街道口でしょうね。

米原　あゝ、なるほど。

平田　外戸(ｹﾄﾞ)と書いたりします。

米原　街道口・けどぐち。意味が通じますね。

ホキ・前床・硯石・落平

平田　次は新富。

米原　153.保気(ﾎｷ)と此処にもあります。

平田　ホキとは深い谷のこと。鹿屋の方では生意気なことをいうと、ホキに突っ込んどというのです。ホキに落とされたら出ては来れませんからね。シラスの深い谷を「ホキ」と言います。

165.多聞坊(ﾀﾓﾝﾎﾞｳ)は、寺の名前。次は野崎。1～36。6.口事本(ｸﾁｺﾄﾓﾄ)、なんですか、これは。争い事の「くじもと」ではないの？そんな気がするけどな。37～72。44.韓作というのがありますね。宇内(ｳﾅｲ)、何だろう。波見の1～36。問題になりそうな地名はないですね。

三善　9.前床(ﾏｴﾄｺ)というのはどんな所？

平田　上床とか平床、床というのは床の間のような一段高くて平たい地形で、前の方にあるから前床でしょう。37.瓮尾(ｶﾒｵ)、これは面白い表現。瓮(ｶﾒ)と読むのですね。「ひらか・ほとぎ・もたい」など、甕の小さい物

をいう。面白い文字を使っていますね。硯石(ｽｽﾞﾚｲｼ)。硯の石が採れるのですか。採れるかもね、あの辺では。

米原　あすこにありますね。海岸の所に。

平田　あゝ、そうですか。硯になりそうな石が採れる。あるかもね。

米原　あるんでしょう。名前がそうですから。あの辺は石がごろごろしています。

平田　四万十層があるのでしょうね。73～108.はどうですか。109～146.は？。此処に青崎がある。

三善　114.馬込(ﾏｺﾞﾒ)というのは？

平田　馬を追い込める所。苙(ｵﾛ)みたいな所です。

最後のﾍﾞｰｼﾞ、新富、1～36。25.除ノ口。「ﾖｹﾉｸﾁ」じゃないのですか。鹿児島市には横井町（ﾖｺｲﾏﾁ)というのがある。仕明(ｼｱｹ)は開墾地のこと。37～72、73～108、ありませんね。109～144。

福元　132.落平(ｵﾁﾋﾗ)。川内に同じ文字だとおもうのですが、落平(ｵﾄｼﾋﾞﾗ)という所があります。牧に関係があったのじゃないかと思います。此処にも牧がいっぱい出て来るものだから、この牧はいつ頃の牧だったのだろうかと思って聞いていました。馬を高い所から落として船に乗せる。そういう場所だったと言われています。寄田にそういう場所があり、落平(ｵﾄｼﾋﾞﾗ)と言われています。

平田　馬を落とすのですか。普通落(ｵﾄｼ)という場合には、水口で水を取り入れ田圃に使って川に水を戻す所を「ｵﾄｼ」と言います。落(ｵﾁ)と読むのは、そう言った意味があるかも知れませんね。落(ｵﾁ)と落(ｵﾄｼ)を拾いあげて落(ｵﾁ)がどんな所にあるかを整理したら段々判って来るのじゃないでしょうか。

福元　寄田町の馬を高い所から落として船に積んで外に出す。そういう場所だった、そういう意味だったと云われているものですから。

平田　そうですか。急な所から落としたら怪我をせんかな。それは別として、落(ｵﾁ)と読むものと落(ｵﾄｼ)と読むものを全部拾いあげて地図の上に分布図を作ってみたら、そのような解釈が裏付けられるかも知れません。

私は暇さえあれば、角川の小字一覧で同じ地名を拾いあげてカードをつくっているのです。同じ地名がどこかにあると信じて地名を拾っています。全部が全部、振り仮名を振ってはありませんが、仮名を振ってある所もありますから、段々地名が読めるようになりますし、同じ地名だけ拾っておけば解釈の手がかりも得られます。落(ｵﾁ)・落(ｵﾄｼ)の区別はそのような作業をされたらいいと思います。

他にありませんか。時間になりました。次回は私がやります。「内之浦町の地名」。

そのうち上野さんが歩かれるでしょうから12月あたりに日向の話をして下さい。

上野　12月ですか。プレッシャーですね。宮崎は今月、歩こうと考えています。

平田　その歩いた報告をお願いします。9月は西郷南洲顕彰館を会場としてやってみます。

《当日配布の小字一覧の文字不明部分》

後田　160. 谷道尾（ﾀﾝﾄﾓ）
　　193. 豆ケ塚（ﾏﾒｶﾞﾂｶ）
　　245. 大窪堀込迫（ｵｵｸﾎﾞﾎﾘｺﾞﾒｻﾞｺ）
　　254. 轟木（ﾄﾄﾞﾛｷ）
前田　90. 湯涌田（ﾕﾜｲﾀﾞ）
　　93. 達中（ﾀｯﾁｭｳ）
　　96. 横嶺（ﾖｺﾐﾈ）
新富　167. 北小塚（ｷﾀｺﾂﾞｶ）
野崎　22. 旧寺ノ前（ｷｭｳﾃﾗﾉﾏｴ）
　　71. 川治谷（ｶﾜﾁﾞﾀﾞﾆ）
波見　102. 轟石（ﾂﾀｲｼ）
　　103. 苦木ケ平（ﾆｶﾞｷｶﾞﾋﾗ）
　　104. 轟（ﾄﾄﾞﾛ）
新富　22. 尾瀬名（ｵｾﾅ）
　　26. 四十割（ｼｼﾞｭｳﾜﾘ）
　　34. 竿ノ口（ｻｵﾉｸﾁ）
　　65. 御社馬場ノ前（ｺﾞｼｬﾊﾞﾊﾞﾉﾏｴ）
　　84. 長珠庵牧（ﾁｮｳｼﾞｭｱﾝﾏｷ）
　　92. 桟敷ケ尾（ｻｼﾞｷｶﾞｵ）
　　120. 筈尾（ﾊｯﾎﾞ）

新富の92.は原簿で「浅敷ケ尾」となっているが、誤記とみられる。「桟敷」地名は牧・芝などに多い地名。なお修正資料は、高山高校校長（現開陽高校長）今村勇氏から頂戴した高山町の地名資料にもとづいた。

会員名簿

平成14年９月１日現在

青柳　俊二
池田　純
上野　堯史
小山田　稔
大田　照夫
納　栄蔵
唐鎌　祐祥
川野　雄一
霧島　一浩
久米　雅章
小原　親英
小山　更
坂本　誠
下野　敏見
築地　成郎
永井　啓介
永坂　芳彦
西田　春人
能勢　正之
長谷川順一
原口　泉
繁昌　正幸
肥後　芳尚
肱岡修一郎
平田功美子
平田　信芳
福元　忠良
二見　剛史
本田　碩孝
松田　誠
松浪　由安
三善喜一郎
村山　謙一
山崎　盛隆
吉原　林昭
米原　正晃

高山町の地名

2002・6・2　鹿児島地名研究会
米原正晃

1 富山

1	柳丸	やなぎまる	34	上辻	かみつじ		
2	城之下	じょうのした	35	中辻	なかつじ		
3	宮下	みやした	36	須崎	すさき		
4	屈田	くつだ	37	前迫	まえざこ		
5	鞍打	くらうち	38	坂上	さかのうえ		
6	池添	いけぞえ	39	柿元	かきもと		
7	逆水	さかみず	40	上笠野	かみかさの		
8	深田	ふかだ	41	笠野原	かさのはら		
9	中牟田	なかむた	42	上尾	かみお		
10	西深田	にしふかた	43	上牧	かんまき		
11	永深田	ながふかだ	44	中牧	なかまき		
12	大丸	だいまる	45	中尾	なかお		
13	大柳田	おおやなぎた	46	割目	われめ		
14	上渡	かみわたし	47	下牧	しもまき		
15	二塚添	ふたつかぞえ	48	堀込	ほりごめ		
16	青木	あおき	49	小迫西	こざこにし		
17	林下	もりのした	50	前畑	まえばた		
18	細工	さいく	51	大塚	おおつか		
19	脇田	わきた	52	金貫上	きんかんのうえ		
20	茶平	ちゃひら	53	宇都上	うとのうえ		
21	北川	きたがわ	54	下上牧	しもかみまき		
22	牧川	まきがわ	55	今市牧	いまいちまき		
23	小園	こぞの	56	今市	いまいち		
24	西下	にしした	57	上ノ園	うえのその		
25	椎下	かこいのした	58	街道添	かいどうぞえ		
26	米盛	よねもり	59	金貫	きんかん		
27	砂走	すなばしり	60	森下	もりした		
28	箕作	みのさく	61	上持田	かみもちだ		
29	高付	たかつき	62	尾崎	おざき		
30	前田	まえだ	63	道添	みちぞえ		
31	井手下	いでした	64	下境田	しもさかいだ		
32	笠野	かさの					
33	堂迫	どうざこ					

2 宮下

1	古川	ふるかわ	34	若宮田	わかみやだ		
2	志古田	しこだ	35	川畑上	かわばたうえ		
3	渕ノ上	ふちのうえ	36	上堅宮	かみかしみや		
4	渕ノ上添	ふちのうえぞえ	37	弓場本	ゆみばもと		
5	榎崎	えのきさき	38	柳崎	やなぎさき		
6	榎元	えのきもと	39	太田下	おおたした		
7	池添	いけぞえ	40	三反田	さんたんだ		
8	尻溝	しりみぞ	41	北丸	きたまる		
9	大橋	おおはし	42	角田	すみだ		
10	三町丸	さんちょうまる	43	口坪	くつぼ		
11	永田	ながた	44	川北七枝	かわきたななえだ		
12	龍泉	りゅうせん	45	柳丸	やなぎまる		
13	皮籠作	かわごさく	46	中牟田尻	なかむたじり		
14	椎前	かこいまえ	47	城之内	じょうのうち		
15	小田	おだ	48	宮前	みやまえ		
16	古溝	ふるみぞ	49	小平田	こびらた		
17	川畑	かわばた	50	中島	なかしま		
18	小田後	おだうしろ	51	坂元	さかもと		
19	道久田	みっくだ	52	宮上	みやうえ		
20	竹作	たけさく	53	迫	さこ		
21	五反田	ごたんだ	54	竹脇	たけわき		
22	久保田	くぼた	55	イヤノ前			
23	一町田	いっちょうでん	56	窪園	くぼぞの		
24	中村通	なかむらどおり	57	前園	まえぞの		
25	火打形	ひうちがた	58	西田	にしだ		
26	堀川口	ほりかわぐち	59	西境田	にしさかだ		
27	尻溝	しりみぞ					
28	堀田	ほりた					
29	甲斐元	かいもと					
30	上池田	かみいけだ					
31	宮田	みやた					
32	迫	さこ					
33	高田	たかだ					

3 後田

145	平木場	ひらこば	181	竹山	たけやま	217	西迫	にしざこ
146	羽山	はやま	182	尾牟礼	おむれ	218	北谷道添	きただにみちぞえ
147	南	みなみ	183	栗須	くりす	219	片野	かたの
148	本田	ほんだ	184	井水	いみず	220	堀ノ口	ほりのくち
149	通山	とおりやま	185	東尾牟礼	ひがしおむれ	221	勘六ケ原	かんろくがはら
150	折生野	おりおの	186	後ケ谷	あとがたに	222	小野	おの
151	中折生野	なかおりおの	187	馬床	うまとこ	223	長谷渡	ながたにわたし
152	上折生野	かみおりおの	188	山田平	やまだひら	224	川添の前	かわぞえのまえ
153	橋之元	はしのもと	189	荒平原	あらひらばる	225	北長谷	きたながたに
154	中崎	なかざき	190	荒平原	あらひらばる	226	南長谷	みなみながたに
155	永岩	ながいわ	191	中石ノ脇	なかいしのわき	227	滝ノ尻	たきのしり
156	湯之谷	ゆのたに	192	城ケ平	じょうがひら	228	小口	こぐち
157	四俣	よつまた	193	○ケ塚		229	黒ケ宇都	くろがうと
158	野之頭	ののかしら	194	山神	やまかみ	230	小松八重	こまつやえ
159	川床	かわとこ	195	山石	やまいし	231	小松八重道添	こまつやえみちぞえ
160	谷○○	たんと○	196	墨岩	すみいわ	232	市来迫	いちきざこ
161	岸良道添	きしらみち	197	小豆ケ瀬戸	あづきがせ	233	姫ケ野	ひめがの
162	吉直上	よしなおうえ	198	栗ケ谷	くりがたに	234	野尻	のじり
163	西牟礼山	にしむれやま	199	北平	きたびら	235	笹ケ尾	ささがお
164	東牟礼山	ひがしむれや	200	三本松平	さんぼんまつかげひ	236	崩ケ迫	くずしがさこ
165	石原	いしばら	201	赤仁田	あかにだ	237	小高園	こだかぞんえ
166	杉ノ下	すぎのもと	202	三本松	さんぼんまつ	238	大窪	おおくぼ
167	大牧	おおまき	203	高野	たかの	239	西大窪	にしおおくぼ
168	岩之元	いわのもと	204	立谷	たちたに	240	西谷	にしだに
169	代角	だいかく	205	下大平	しもおおひら	241	下西谷	しもにしだに
170	野坂	のさか	206	上大平	かみおおひら	242	後野谷	あとのだに
171	出道	でみち	207	柿尾	かきお	243	境谷	さかいだに
172	木場尾	こばお	208	宇都口	うとぐち	244	平松	ひらまつ
173	奥野	おくの	209	向原	むこうばる	245	大窪掘込迫	
174	牛渡口	うしわたしぐち	210	田ノ迫	たのさこ	246	掘込迫	ほりごめさこ
175	堂ノ後	どうのご	211	杤木迫	はぜきさこ	247	供養元	くようもと
176	神山迫	かみやまざこ	212	風ケ谷	かぜがたに	248	長谷口	ながたにぐち
177	和田	わだ	213	上ノ原	うえのはら	249	大瀬戸	おおせと
178	岩屋道添	いわやみちぞ	214	北谷	きたたに	250	俣ケ迫	またがさこ
179	上山	うえやま	215	北谷頭	きたたにがしら	251	岩倉	いわくら
180	迫田	さこだ	216	西北谷	にしきたたに	252	上走馬谷	かみはいまたに
						253	走馬谷	はいまたに
						254	○木？	
						255	守屋迫	もりやさこ
						256	打越	うちこし
						257	西鳥越	にしとりごえ
						258	西笹ケ尾	にしささがお
						259	二子塚頭	ふたごつかがしら
						260	二子塚	ふたごつか
						261	横堀	よこぼり
						262	稲荷岡	いなりおか
						263	銭亀ケ岡	ぜんがめがおか
						264	小牟田上	こむたかみ
						265	堀の内	ほりのうち
						266	論地	ろんぢ
						267	西水流	にしつる
						268	境溝	さかいみぞ
						269	伊東	いとう
						270	柳田	やなぎた

3 後田

1	高塚	たかつか	37	馬渡	まわたり	73	瀬戸宇治原		109	後迫	うしろざこ
2	灰迫	はいざこ	38	中ノ下	なかのした	74	木佐貫原	きさぬきはら	110	中尾	なかお
3	北灰迫	きたはいざこ	39	川路	かわぢ	75	板ケ谷	いたがたに	111	中尾頭	
4	中久保	なかくぼ	40	帰坂	きさか	76	中原	なかばら	112	笹ケ尾迫	ささがおざこ
5	八定	はちぢょう	41	瀬戸宇治下		77	鉾ケ宇都	たたらがうと	113	保枝迫	ほえざこ
6	平田	ひらた	42	池尻	いけじり	78	鉾ノ下	たたらのした	114	笹ケ尾前	ささがおまえ
7	論地前	ろんぢまえ	43	近道	ちかみち	79	鉾	たたら	115	水喰下	みつくいした
8	水洗	みずあらい	44	中原向	なかばるむか	80	永野前原	ながのまえはら	116	鳥越	とりごえ
9	角佛	つのぼとけ	45	横嶺	よこみね	81	西永野	にしながの	117	大坂	おおさか
10	海元	かいもと	46	染木前	そめきまえ	82	永野牧	ながのまき	118	鳥越ケ 都	とりこえがうと
11	寒水口	そうずぐち	47	染木原	そめきばら	83	永野原	ながのはら	119	岩下	いわした
12	寺田	てらだ	48	山下上	やましたうえ	84	新迫	しんさこ	120	小田	おだ
13	検見崎ノ下		49	丸田牧	まるたまき	85	西之迫	にしのさこ	121	屋根添	やねぞえ
14	大丸	だいまる	50	井手ノ上いでのうえ		86	鳥越	とりごえ	122	永田	ながた
15	山野牟田	やまのむた	51	中牧	なかまき	87	東鳥越	ひがしとりごえ	123	森ノ下	もりのした
16	小牟田	こむた	52	新堀上	しんぼりうえ	88	堀込	ほりごめ	124	上荒平	かみあらひら
17	谷山迫下		53	新堀	しんぼい	89	下堀込	しもほりごめ	125	石之脇	いしのわき
18	野添	のぞえ	54	後牧	うしろまき	90	中牧	なかまき	126	川添の下	かわぞえのした
19	尾ノ鼻	おのはな	55	検見崎牧	けんみざきま	91	団兵衛作	だんべえさく	127	鎌田淵	かまだふち
20	神田	かんだ	56	検見崎	けんみざき	92	小牧	こまき	128	桑水流	くわつる
21	七ツ枝	ななつえだ	57	橋戸	はしど	93	永迫上	ながさこうえ	129	上桑水流	かみくわつる
22	尾之下	おのした	58	岩崎牧	いわさきまき	94	東道中	ひがしどうちゅう	130	落	おとし
23	塚田	つかだ	59	小池原	こいけはら	95	西道中	にしどうちゅう	131	川添迫	かわぞえさこ
24	岩下	いわした	60	小池	こいけ	96	柳ケ崎上	やなぎがさきうえ	132	船付	ふなつき
25	下井手	しもいで	61	尾之上	おのうえ	97	柳ケ 迫	やなぎがさこ	133	下牧	しもまき
26	畠田		62	稲村	いなむら	98	柳ケ迫下	やなぎがさこした	134	牧岡	まきおか
27	柳元		63	中村	なかむら	99	上段	うえんだん	135	牧ノ迫	まきのさこ
28	柿元		64	中村上	なかむらうえ	100	西上段	にしうえんだん	136	上牧	かんまき
29	上井手		65	二本松	にほんまつ	101	前之迫	まえのさこ	137	中野原	なかのはら
30	井手		66	東牧	ひがしまき	102	丁木元	ちょうぎもと	138	永迫	ながさこ
31	宮本下		67	下小倉松	しもおぐらま	103	西原上牧	にしはらうえまき	139	大牧	おおまき
32	内園	うちぞの	68	小倉松	おぐらまつ	104	西原下牧	にしはらしたまき	140	新屋敷	しんやしき
33	橋口	はしぐち	69	道添	みちぞえ	105	小森	こもり	141	新屋敷上	しんやしきのかん
34	染木ノ下	そめきのした	70	勝負ケ迫	しょうぶがさこ	106	瀬戸口原	せとぐちはら	142	巌岩下	たけいわした
35	永和田	ながわだ	71	柊蒔	くぬぎまき	107	小森迫	こもりざこ	143	瀬戸ノ口	せとのくち
36	染木谷	そめきだに	72	上柊蒔	かみくぬぎまき	108	小牟田頭	こむたがしら	144	巌下岩下	たけしたいわした

4 前田

1	小倉三角	おぐらさん	37	咄合	はきあい	73	大塚西	おおつかにし			
2	寒水山	そうずやま	38	寺崎道下	てらさきみち	74	馬場外園	ばばほかぞの			
3	軍原	ぐんばら	39	牧元	まきもと	75	福留	ふくどめ			
4	宗寿ケ原	そうじゅがはら	40	川添	かわそえ	76	和泉田	いずみだ			
5	勝負ケ迫	しょうぶがさこ	41	堀下	ほりした	77	上ノ馬場	うえのばば			
6	下宗寿ケ原	しもそうじゅがはら	42	行衛園	ゆきえぞの	78	宮ノ上	みやのうえ			
7	牛窪	うしくぼ	43	池田島	いけだじま	79	銭神ケ尾	ぜんがみがお			
8	田布尾・たぶお		44	杉木島	すぎきじま	80	堂迫	どうざこ			
9	下シケ丸	しもしげまる	45	寺田	てらだ	81	地福寺	ぢふくじ			
10	志賀	しが	46	渡口	わたりぐち	82	道具園	どうぐぞの			
11	牛窪川原	うしくぼかわ	47	西浦	にしうら	83	上村	かみむら			
12	柿園	かきぞの	48	柳田	やなぎた	84	浜弓場	はまゆみば			
13	砂走	すなばしり	49	後藤	ごとう	85	花立	はなだて			
14	堂園	どうぞの	50	中牟田	なかむた	86	六反	ろくたん			
15	合戦田	かっせんだ	51	加宇加伎	かうがぎ	87	堂園上	どうぞのうえ			
16	西方上	にしかたうえ	52	前畑	まえばた	88	宇都上	うとうえ			
17	西方中	にしかたなか	53	後藤後	ごとうご	89	寺ノ上	てらのうえ			
18	西方下	にしかたしも	54	溝田	みぞだ	90	○○田				
19	上赤池	かみあかいけ	55	永吉	ながよし	91	中牧	なかまき			
20	赤池	あかいけ	56	桟敷	さじき	92	下中牧	しもなかまき			
21	西宮下	にしみやした	57	荒巻	あらまき	93	○中				
22	福留	ふくどめ	58	露重	つゆしげ	94	毛戸口	けどぐち			
23	元辻	もとつじ	59	竹元	たけもと	95	二本松	にほんまつ			
24	二百田	にひゃくだ	60	戸守作	ともりさく	96	横○				
25	水流崎	つるざき	61	皮籠	かわご	97	原ノ村	はらのむら			
26	後庵	ごあん	62	大丸	だいまる						
27	平田	ひらた	63	小池	こいけ						
28	水迫	みずさこ	64	灰迫尻	はいざこじり						
29	川崎	かわさき	65	水喰	みずくい						
30	天神馬場	てんじんばば	66	堤中	つつみなか						
31	馬庭水流	まにわつる	67	備後	びご						
32	中水流	なかつる	68	東堤中	ひがしつつみなか						
33	寺崎前	てらさきまえ	69	深田	ふかだはら						
34	寺崎添	てらさきぞえ	70	福留後	ふくどめじり						
35	笠祇前	かさぎまえ	71	前畑	まえばた						
36	中渡	なかわたり	72	新園	にいぞん						

5 新　富

145	樋ノ口	ひのくち
146	平野	ひらの
147	木場	こば
148	四ツ岩	よっついし
149	野坂	のさか
150	深田	ふかだ
151	永迫	ながさこ
152	奥安田	おくやすだ
153	保氣	ほき
154	平左エ門エケ谷	へいざえもんがい
155	安田下	やすだのした
156	松ケ迫	まつがさこ南
157	平	みなみひら
158	宇都口	うとぐち
159	松ケ尾	やまつがお
160	倉田	くらだ
161	坂ノ下	さかのした
162	西田	にしだ
163	中島	なかしま
164	中川原	なかがわはら
165	多聞坊	
166	出水田	
167	北山〇	
168	西和田	

6 野　尚

1	東田	ひがしだ
2	和田下	わだした
3	園田添	そのだぞえ
4	山の口	やまのくち
5	栗須添	くるすぞえ
6	口事本	くちことともと
7	鐙尻	あぶみじり
8	コモ原	こもはら
9	七ツ枝	ななつえだ
10	中田	なかだ
11	本園内	もとそのうち
12	新江ノ口	しんえのくち
13	中原	なかはら
14	明用	あけもち
15	五反ケ丸	ごたんがまる
16	口之坪	くちのつぼ
17	石塚	いしつか
18	旧寺ノ下	きゅうてらのした
19	彼岸田	ひがんだ
20	新堤	しんつつみ
21	八幡領	はちまんりょう
22	旧赤ノ前	
23	潮井川	
24	野添	のぞえ
25	西田	にしだ
26	塚崎尻	つかざきしり
27	廣町	ひろまち
28	大塚前	おおつかまえ
29	竹ノ下	たけのした
30	柿本	かきもと
31	古川	ふるかわ
32	東	ひがし
33	水窪	みずくぼ
34	堀川口	ほりかわぐち
35	吉ケ前	よしがまえ
36	川原ケ崎	かわはらがさき
37	中道	なかみち
38	中通	なかどおり
39	津曲	つまがり
40	尾ノ上添	おのうえぞえ
41	瀬戸ノ口	せとのくち
42	小向	こむかい
43	前田	まえだ
44	韓作	かんさく
45	道メキ	どうめき
46	西折口尻	にしおりぐちじり
47	西折口	にしおりぐち
48	西	にし
49	鼻	はな
50	西原	にしはら
51	田渕	たぶち
52	原	はら
53	原中	はらなか
54	堀込	ほりごめ
55	横頭	よこがしら
56	西之町	にしのまち
57	長五郎	ちょうごろう
58	大塚	おおつか
59	篠崎後	しのさきあと
60	芋ケ迫	いもがさこ
61	旧寺ノ上	きゅうてらのうえ
62	平原	ひらはら
63	倉谷	くらたに
64	川地	かわち
65	前田迫	まえださこ
66	原口	はらぐち
67	六郎塚	ろくろうづか
68	旧坊仙寺	きゅうぼうせんじ
69	平入道	ひらにゅうどう
70	上原	うえはら
71	川〇谷	かわらたに?
72	新道	しんどう
73	天道	てんどう
74	小原	こばら
75	天道山迫	てんどうやまあち
76	平谷	ひらたに
77	大園の上	おおそののうえ
78	大園	おおその
79	宇都山尻	うとやまじいり
80	和田城	わだじょう
81	士出ケ宇都	さむらいでがうと
82	宇内	うない
83	宇渡前口	うわたしまえぐち
84	宇渡	うわたし
85	三牟田	さむだ
86	白木場	はくこば
87	狩俣	かりまた
88	芦平	あしひら
89	窪野	くぼの
90	出葉鹿倉	いづいはかぐら
91	横道	よこみち
92	上床安田	うわとこやすだ
93	小先	
94	古後庵	
95	和田	

7 波　見

1	楠田	くすだ
2	桑原田	くわはらだ
3	山ノ神田	やまのかみだ
4	小田	おだ
5	深坪	ふかつぼ
6	上深坪	かみふかつぼ
7	浜田	はまだ
8	座頭作	ざとうさく
9	前床	まえとこ
10	水洗	みずれ
11	東	ひがし
12	荒瀬	あらせ
13	道の下	みちのした
14	滑の下	なめのした
15	中牟田	なかむた
16	小谷口	こたにぐち
17	八反田	はったんだ
18	中	なか
19	下ケ原	しもがはら
20	山添	やまぞえ
21	山田	やまだ
22	平田	ひらた
23	稲荷山	いなりやま
24	西	にし
25	仮屋	かりや
26	野中	のなか
27	野崎	のさき
28	岡の下	おかのした
29	西の園	にしのその
30	脇之前	わきのした
31	三反田	さんたんだ
32	藤助島	とうすけじま
33	水神の元	すいじんのもと
34	廣瀬渡	ひろせわたし
35	大潟	おおがた
36	荒瀬尻	あらせしり
37	瓮尾?	かめお
38	塩入	いおいり
39	角前	かどまえ
40	町	まち
41	中島	なかしま
42	浦	うら
43	磯崎	いそざき
44	柳井谷	やないだに
45	柳井谷添	やないだにそえ
46	硯石	すずりいし
47	古桶	ふるおけ
48	荒崎	あらさき
49	一ツ松	ひとつまつ
50	松尾	まつお
51	大和田	おおわだ
52	西山添	にしやまそえ
53	山ノ神免	やまのかんめん
54	川添	かわそえ
55	尾ノ上	おのうえ
56	兎田	うさぎだ
57	牧ノ尾	まきのお
58	久保	くぼ
59	谷添	たにぞえ
60	西之谷	にしのたに
61	堀込の上	ほりごめのうえ
62	仮屋	かりや
63	下堂原	しもどうはら
64	尾麻瀬	おませ
65	宮ノ前	みやのまえ
66	山下	
67	東風泊	こちどまり
68	西泊	にしどまり
69	大迫	おおさこ
70	飯ケ谷	いいがたに
71	堀込	ほりごめ
72	中須	なかす
73	渕ノ子	ふちのこ
74	崩ケ平	くずしがひら
75	牟田迫	むたさこ
76	小牟田迫	こむたさこ
77	荷付石	につけいし
78	堀ノ内	ほりのうち
79	持留添	もちどめぞえ
80	持留	もちどめ
81	牧ノ内	まきのうち
82	大迫頭	おおさこがしら
83	園田	そのだ
84	胡麻ケ瀬戸	ごまがせと
85	堂山	どうやま
86	西迫中	にしさこなか
87	歌ケ平	うたがひら
88	中野	なかの
89	床滑	とこなめ
90	桃ケ谷	ももがたに
91	走馬ノ岡	そーまのおか
92	一ツ松上	ひとつまつうえ
93	三丈ケ平	さんじょうがひら
94	大谷尻	おおたにしり
95	夫婦石ノ向	めおといしのむかい
96	夫婦石	めおといし
97	勝負ケ迫	しょうぶがさこ
98	木場	こば
99	一ノ谷	いちのたに
100	諏訪宇都	すわうと
101	牟礼	むれ
102	蔦石?	つたいし
103	若木ケ原	
104	蠑	
105	中村	なかむら
106	地頭用	じとうよう
107	西山	にしやま
108	荒瀬	あらせ
109	樋ノ口	ひのくち
110	曲尾	まがりお
111	塩崎	しおざき
112	小谷	こたに
113	平後園	へいごぞん
114	馬込	まごめ
115	堂取	どうとり
116	高付	たかつき
117	西山ノ上	にしやまのうえ
118	小井手	こいで
119	長谷	ながたに
120	瀧の上	たきのうえ
121	柳ケ迫	やなぎがさこ
122	芦平	あしひら
123	猪ノ牟礼	いのむれ
124	古木場	ふるこば
125	平石向	ひらいしむかい
126	蕗原谷	ふきはらだに
127	大八重	おおばえ
128	平石野	ひらいしの
129	帰り	かえり
130	荒鹿倉	あらかぐら
131	野添	のぞえ
132	一ツ橋	ひとつばし
133	赤迫	あかさこ
134	丸山	まるやま
135	井手ケ平	いでがひら
136	涼松	すずまつ
137	御緑野	おみどりの
138	鳥居ケ尾	とりいがお
139	国見ノ下	くにみのした
140	青崎	あおざき
141	道添	みちぞえ
142	日平	ひびら
143	大谷	おおたに
144	大ツラ	おお
145	惣鹿倉	そうがくら
146	砂留道下	すなどめみち

5	新　富											
1	蛭牟田 ひるむたく	37	石ケ 崎 いしがさき	73	神之市 かみのいち	109	下り山 さがりやま
2	六ケ 所ろくかしょ	38	中牟田 なかむた	74	神之市川原かみのいちかわら	110	参ケ 尾ノ さんがおのうえ
3	神成窪 かみなりくぼ	39	杉元 すぎもと	75	和田ケ 瀬 わだがせ	111	石落ノ上いしおとしのうえ
4	十文字 じゅうもんじ	40	北千町田きたせんちょう	76	西古川 にしふるかわ	112	崎山 さきやま
5	十文字添じゅうもんじ	41	南千町田せんちょうだ	77	中村園 なかむらぞん	113	川路山 かわじやま
6	蛭馬口 ひるまぐち	42	入牟田 いりむた	78	東古川 ひがしふるかわ	114	築ケ 城 ちつがしろ
7	蛭牟田 ひるむた	43	入牟田上いりむたうえ	79	南古川 みなみふるかわ	115	渕ノ輪 ふちのわ
8	紺屋馬場 くやばば	44	東迫 ひがしざこ	80	川路 かわぢ	116	七割 ななつわり
9	博労町 ばくろうまち	45	学林 がくりん	81	高宗寺牧 こうそうじまき	117	木佐貫 きさぬき
10	中馬場 なかばば	46	小牧 こまき	82	上牧 うえまき	118	渡り口 わたりぐち
11	御社馬場 ごしゃばば	47	脇田ノ上わきたのうえ	83	北上牧 きたうえまき	119	西〇〇 にしはつぼ?
12	唐人町 とうじんまち	48	笹ケ 尾 ささがお	84	長〇庵牧	120	〇〇 はつぼ?
13	島畑 しまばた	49	湛水院 たんすいいん	85	新城 しんじょう	121	樋ノ口 ひのくち
14	茶円園 ちゃえんそん	50	南佐牟田みなみさむた	86	外堀 そとぼり	122	池田 いけだ
15	屋彌添 やねぞえ	51	丸岡 まるおか	87	大林堀込おおばやしほりご	123	新村 しんむら
16	園田 そのだ	52	稲荷迫 いなりざこ	88	永山出口 ながやまでぐち	124	小牧 こまき
17	三反畑 さんたんはたけ	53	下ノ迫 しものさこ	89	船迫 ふなざこ	125	四束庵 しそくあん
18	古川 ふるかわ	54	蛭牟田牧ひるむたまき	90	馬場ケ 迫 ばばがさこ	126	中牧 こまき
19	上ノ園 うえのその	55	石佛 いしぼとけ	91	城ケ 平 じょうがひら	127	寺ノ下 てらのした
20	古馬水流 ふるまづる	56	牧原 まきはら	92	〇〇ケ 尾	128	寺ノ上 てらのうえ
21	下水流 しもづる	57	米山寺ノ 上よねやま	93	八幡ノ上 はちまんのうえ	129	八窪 はちくぼ
22	〇瀬名 〇せな	58	馬場ノ上 ばばのうえ	94	中牧 なかまき	130	三石 みついし
23	松崎 まつざき	59	佐牟田ノ上さむたの	95	鐘付 かねつき	131	西仁田脇にしにたわき
24	立野 たての	60	東横間 ひがしよこま	96	水喰 みずくい	132	落平 おちひら
25	除ノ口	61	小塚 こつか	97	水添 みずぞえ	133	井手口 いでぐち
26	四十割	62	和田ノ上 わだのうえ	98	南水流 みなみみずぞえ	134	東仁田脇 ひがしにたわき
27	渕ノ上 ふちのうえ	63	西横間 にしよこま	99	植村 うえむら	135	内ノ窪 うちのくぼ
28	北前迫 きたまえざこ	64	福崎 ふくさき	100	前畑 まえはたけ	136	川畑 かわばた
29	北前迫 みなみまえざ	65	〇〇馬場前ごんや	101	水喰谷 みずくいだに	137	野首 のくび
30	水流畑 つるばたけ	66	八幡領 はちまんりょう	102	石落 いしおとし	138	山川 やまがわ
31	堀切 ほりきり	67	宇都谷 うとたに	103	大戸 おおと	139	平石 ひらいし
32	商人ケ 崎 しょうにん	68	城山附 しろやまつき	104	北大戸 きたおおと	140	岩元 いわもと
33	東多聞坊 たぶんぼう	69	城山 しろやま	105	参ケ 尾 さんがお	141	前田 まえだ
34	〇之口	70	森ノ下 もりのした	106	花牟礼 はなむれ	142	浜弓場 はまゆみば
35	東ドフメキ	71	外屋敷 そとやしき	107	芋ケ 迫 いもがさこ	143	福ケ 迫 ふくがさこ
36	仕明 しあけ	72	西川原 にしかわはら	108	小原 こはら	144	江胡 えご

高山町の地名を考えるにあたって

1、高山之郷・・上古ハ高ノ字神ノ字ヲ用イテ神山ト書キタリシ由古ク申伝候
新留村・・上古ハ留ノ字富ノ字ヲ用ヒテ新富村トシタル由
野崎村・・上古ヨリ野崎村ト云中古塚崎村と村名替ヘタリシ由ナレド又上古ノ如ク今ハ野崎村ト云
後田村・・上古ハ鷲村ト云其後今ノ前田村ト合村シテ和泉田村ト云ヒシ代アリ何ツノ比ヨリカ又二村ニ分レテ本ノ鷲村ハ今ノ後田村ト村名替ヘタリヤ
前田村・・上古ハ西方村ト云
宮下村・・上古ハ富山村ノ内ニテ・・宮宅ナラムカ又屯倉三宅トモ書キタリシト云
富山村・・上古ヨリ富山村ト云テ村名ヲ替ヘタル伝ヘ無之
波見村・・上古ハ野崎村ノ内ニテ何ツノ時代ニ当村ノ方限別ニ波見村ト分レ立シ事不詳・・地名ハ本ヨリ波見ト云

「高山名勝誌」

2、地形と集落　「高山町郷土誌」（昭４１年発行）より
山麓集落・・波野、本城、川上、二俣川校区および鳥越、永野など
台地末端集落・・宮富、高山校区および後田校区の境川流域集落など
麓集落・・・東麓、中麓、西府もと、西方など
川沿いの集落・・宮下川北、川南、下住、下之門、池之園、津曲、下伊倉など
海岸集落・・有明校区、波見、浦町など
市街地・・本町、中町、新町、真正町、栄町、坂中町、福留町、西之宮、八幡寺町

池・・・タタラ池、花牟礼池、天道池、塚崎池など・・人口が少なく、台地下の湿田だけで耕作する間は問題はなかったが、人口が増加し水田開発が進んで、水田が肝属平野の中央へ進出すればするほど、水不足が起こった。こうして、これらの築造が薩摩半島から人を移して・・・。

台地と水・・
乾燥したところ
割合簡単に水が得られるところ・・笹ケ尾、鳥越、永野、中原、川出、上原など
台地としては井戸がかなり浅いところ・・谷山迫、白坂、山下、染木など台地上の浅い侵食谷にある集落
低地で、直接山地に接している・・波見、荒瀬、平後園など・・割目

冷泉の湧水・・・湯之谷、花牟礼、野崎
山麓集落と水神・・湧水のすぐそばに水神がある・・古いのが多い。
荒瀬水神（宝暦３）、塚崎水神（延亨３）、花牟礼水神（明治１４）、
永野水神（宝暦１１）、大窪水神（寛政１１）、本城水神（明治５）
台地末端集落と水神・・・水神と田の神が一緒に祀ってある。
寒水水神（明治２６）、長能寺水神明治８）、丸岡水神（昭和２８年）、横間水神（明治４４）、灰迫水神（明治２９年）、稲村水神（大正２、明治３７）
湧水が神社の境内にあるもの
天の岩戸別神社（丑ロタ後田）、竹田神社（西方）田布尾権現神社（田布尾）
迫の地名が多い・・小牧迫、稲荷迫、東迫、大脇迫、灰迫谷山迫など・・湧水はないが迫の下手の方は水が滲み出る程度

問題点・検見崎・安野・染木・折生野・波見・笠野・田布尾・江胡・勝負ケ迫
・動物地名の少なさ・・鳥越
・海、浜の関連地名も少ない。

	富山	宮下	後田	前田	新富	野崎	波見
塚	二塚添・大塚		二子塚・高塚	大塚	小塚・	石塚・大塚・六郎塚	
信仰・伝説人物		イヤノ前・	神山迫 走馬・染木・山神・供養元	花立・笠祇前・合戦田	多聞坊 石仏・六ケ所・	天道・天道山・鍛尻・平入道・長五郎	水神の元・走馬ノ岡・座頭作・山の神免・稲荷山
歴史・城社寺・堂	城之下 宮下・	弓場元・ 堂迫 宮前・堅宮	論地	浜弓場・馬場地福寺・天神馬場・寺の上・宮ノ上・西宮下・鐘付	紺屋馬場・御社馬場・浜弓場・湛水院・新城・城山・寺ノ下・米山寺ノ上・築ケ城	旧坊仙寺・八幡領・旧寺ノ下・	宮ノ前・地頭用
木・草 森	金貫・青木・茶平	榎元・榎崎	小倉松・二本松・柊蒔丁木・柳元本・柿元・杉の下・竹山・杪木迫	二本松	学林・東ドフメキ・森ノ下	道メキ・コモ原・	一ツ松 胡麻ケ瀬戸
川・泉・池渕・水	池添・割目・井出下・逆水・北川	龍泉・堀川口	小池・井水井出・完遂寒水口・鎌田渕・落・水洗・桑水流・湯之谷	咄合・赤池・落・寒水山・川添堤中	樋ノ口・川路・古川・神之市川原落平・西川原	川地・津曲・新堤・堀川口・潮井川・水窪・古川	水洗・樋ノ口・轟・川添・瀧の上
水流			桑水流	中水流・水流崎	下水流・古馬水流		
堀・溝		尻溝	掘込・堀ノ口・新堀		外堀	堀込	堀込・堀ノ内
牟田 田	境田・脇田・永深田・西深田・三反田・屈田・持田・	中牟田・中牟田尻・一町田・境田・宮田・高田・角田・若宮田・五反田・道久田・小田・堀田・池田・平田・太田・志古田い・久保田	小牟田・小牟田尻・・平田小田・小田平田・神田・三反田・畠田・永田本田・柳田	中牟田・和泉田・深田・寺田・二百田・柳田・六反	蛭牟田・佐牟田・入牟田・深田・出水田・和田・倉田・前田千町田	三牟田・中牟田・田渕彼岸田・和田・前田・東田	神田・南田・山田・兎田・三反田・浜田・山ノ神田・猪ノ牟礼

	富山	宮下	後田	前田	新富	野崎	波見
畑・園	前畑・上ノ園・	川畑・窪園・麻園	小豆ケ瀬戸	堂園・道具園・前畑・柿園・新園・行衛園	茶園園三反畑・水流畑・	大園・	西ノ園・平後園
山・岳・場 鹿倉			・木場尾・平木場・木場尾	木場・	木場・	白木場 出葉鹿倉	・荒鹿倉・古木場
道・渡り・橋・辻・峠・	中辻・上辻・道添・街道添・坂上・上渡	大橋・中村通り・坂元	牛渡口・馬渡・近道・川路・道添・通山・橋之元・道中・帰坂・長谷渡・橋口	中渡・渡口	元辻・中渡十文字	宇渡・横道・中道・中通	帰り・道の下・一ツ橋・東風泊・廣瀬渡
崩壊	砂走		水喰・崩ケ迫・	水喰	水喰・石落・（波見）		崩ケ平
町・村・敷 集落・門			新屋敷 中村・稲村	上村・原ノ村	博労町・唐人町・新町・商人ケ崎	廣町・西之町	町
産業 開発	細工・箕作	皮籠作・竹作・	鈩・鈩ノ下・鈩宇都		立野・仕明		
牧	上牧・中牧・下牧・今市牧・		上牧・下牧 中牧・後牧 丸田牧・永野牧・大牧	中牧・牧元	蛭牟田牧・中牧・上牧 高宗寺牧		
方角・方向			南・	西方・西浦		小向・西	平石向・夫婦石ノ向・東・西・浦
迫	堂迫・小迫西	迫・	灰迫・小森迫・柳ケ迫・新迫・牧ノ迫・勝負ケ迫・守屋迫・芋ケ迫	勝負ケ迫・堂迫	松ケ迫・永迫・船迫・		勝負ケ迫・赤迫・牟田迫
原	笠野原・		中原・永野原・瀬戸宇治原・瀬戸口原・向原	宗寿ケ原・軍原	牧原	西原・原・原中	
瑞祥	米盛				（新富）		
気象			風ケ谷		神成窪		

地 名 研 究 会 報

第 78 号　　平成14年12月1日

鹿児島地名研究会

Ⅰ.第78回例会　　平成14年9月1日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　今村誠一・上野堯史・納　栄蔵・小手川清隆・川野雄一・坂本　誠・諏訪園　誠・築地成郎・永坂芳彦・西田春人・平田信芳・増山竹次・三善喜一郎・米原正晃（計14名）

Ⅱ.大日本地名辞書読会　　P.1770～ P.1771　狭野神社・妻霧島神社・小林・狗留孫嶽

Ⅲ.内之浦町の地名

〔問題となった地名および事項〕　夷守、妻霧島・東霧島、安曇（阿曇）氏、高天原・天孫降臨、韓国との関連、竪野馬場と竪馬場、松本と松元、銭亀塚・赤木屋、　岸良、日本という名字、狩行司、竪馬場の方位

夷守

平田　今日、読んだのは狭野神社・東霧島神社・小林。霧島岑神社・狗留孫嶽・飯野などです。何か気になることがあったら出してください。

上野　右側の一番下、3行目。野後・夷守・真斫とあります。野後・真斫は判りますが夷守はどういうことですか。夷守という地名はありますか？

平田　小林のこと。

上野　小林？

平田　夷守岳が地名として残っています。

上野　野後は、現在は野尻ですね。夷守の文字は？

平田　夷守岳は、この文字を使っているでしょう。

上野　あゝ、夷守岳ですね。

平田　野後は今の野尻、真斫は真幸です。これは延喜式の駅の名前の文字です。

妻霧島・東霧島

西田　1,770ﾍﾟｰｼﾞの中段、妻霧島のツマ。これは吾妻・東(ｱﾂﾞﾏ)を略してツマと言っているのですが、こういう形の用例はあるのですか？

平田　さぁ？

西田　此処の場合は東(ｱﾂﾞﾏ)をツマとしてますね。

平田　そうですね。

西田　そういう使い方があるのですか？

平田　それは知りませんが、「ツマ」は「端っこ」ということでしょう。それにアという接頭語を付けたと解釈するだけのことであって・・・・

西田　東(ﾋｶﾞｼ)は「アヅマ」？

平田　吾妻です。

西田　吾が妻ですね。それの結果でいいのですかね。

平田　それは知りませんけど。よく言われるのは、薩摩の語源説に「アヅマに対してのサツマ」というのがあります。それと似たのが、こちらに阿多(ｱﾀ)があり海を隔てて佐多(ｻﾀ)がある。アとサの対比ですね。それからアガタとサガタというのが、佐渡国にあるの

かな。（伊予国の記憶ちがい）

西田　県(ｱｶﾞﾀ)は南那珂郡です。

平田　そうですね。その南那珂郡というのは日向国の話であって、英太(ｱｶﾞﾀ)・賞多(ｻｶﾞﾀ)というのが佐渡国（伊予国）にあります（佐渡国は雑太：ｻﾜﾀ）。そういう対称のグループがあって、アとサを接頭語みたいに対比させる言葉があるのです。ツマに対してアを付けてアヅマ、サを付けたらサツマになる、と。

そういう解釈がありますが、ちょっと強引すぎますよね。

狭野神社はいかにも古そうな神社ですね。杉の巨木が参道沿いに並んでいる所です。霧島神宮に比べても神社のただずまいという点で、あちらの方が古そうな感じです。

安曇（阿曇）氏

上野　石瀬川のところに狗留孫嶽のことが出て来ます。1,771ﾍﾟｰｼﾞの方にもありますが狗留孫(ｸﾙｿﾝ)というのは極めて非日本的な表現のような気がするんですけど。これは、どこか、韓国あたりに由来する・・・・

平田　昔からそのように言われています。クルソン岳、それからクシフル岳。そこに天降したという話もあります。天孫降臨の話は以前にも話したことがあるかも知れませんが、新撰姓氏録には大きく三つに分けてあります。天皇の子孫が皇別、天皇家よりも古くから日本列島に住んでいた者が神別。そして蛮別。蛮別は後に日本に来て帰化した人々：高句麗とか百済、新羅や中国などにルーツがある人々です。これは判り易いのです。さらに神別は天神・天孫・地祇の三つの分かれます（板書）。天神は天皇家よりも以前に来ていたグループです。そして天神の筆頭に藤原氏が来ます。中臣氏・藤原氏。

新撰姓氏録は 815年に出来ているのですが佐伯有清という学者が研究しているだけで、新撰姓氏録を顧みる人はほとんどいないのです。日本の学者はほとんど見ていないと思いますが、韓国の学者は相当突っ込んで調べていると思います。

新撰姓氏録を見て不思議に思うのは、天孫に隼人が入ることです。それから隼人族に近い存在として、昔から安曇氏をあげる説があります。安曇一族は隼人に類似した存在ということです。

今一つ、信濃国に安曇郡があります。去年女房に連れられて（女房に連れられてというのは変な話ですが）上高地に行きました。上高地に梓川という川があります。穂高岳から流れて来る川です。上高地を流れている梓川というのは実に澄んでいて、玉石の中を流れているきれいな川です。周囲にある便所は全部有料便所で浄化装置が付けてあって、川を汚さないようにしてあるのです。日本にもこんなきれいな川が残っているのかと感心する所です。そこに行って初めて、この一帯は安曇郡という所なんだと気付きました。安曇氏は大和朝廷が東国に攻め込んだ時、天皇家の尖兵となって安曇郡を支配したということを感じとりました。日本海の方から糸魚川構造線が延びていて、信濃川の上流にもなります。その先端に梓川があります。梓という地名から考えて、安曇に近いなと思ったのです（後記：梓弓の産地でもあった）。

どういう所かというと、こちらが飛騨国、こっちが信濃国になります（板書）。観光客は梓川がきれいだとか、奥穂高の景色がすばらしいとか、それに見とれるのですが、私は

安曇という地名に惹かれました。ガイドの話を聞いていたら、昔は飛騨国からこの梓川の上流を通って信濃国に来たというのです。越えて来る峠が、野麦峠だという。「あぁ、野麦峠」で知られる所です。飛騨の娘たちが諏訪に出稼ぎに来たという女工哀史の物語がある所ですが、その道を見て、安曇氏が大和朝廷の尖兵となって此処に乗り込んで来たと直感しました。もちろん、海の方からも水軍を率いて迫り此処とも連絡を取りやすいようにした。そんな所に橘頭堡を築いたと理解したわけです。

穂高神社は、安曇氏が祀った神社だということはすぐ判ります。その祭神は穂高見命で豊玉彦命の子。そこですぐ思い付かれるだろうと思うのですが、彦火々出見命すなわち山幸がワダツミノミヤに行って豊玉姫に見そめられる。連れて帰って来て生まれるのが、ウガヤフキアエズノミコトです。さらにその子供がカムヤマトイワレヒコノミコト：神武天皇になります。豊玉彦が出て来ると、豊玉姫とは結び付きがあるなと、すぐ判ります。そう言った点からも隼人に近いと言われる安曇氏は注目に値するなと感じます。普通なら観光旅行でぼやーっと聞いているのでしょうが、歴史を学んでいると、そんな方向に眼が行ってしまいます。

従来、隼人が天孫であるということは注目されていないと思います。隼人は特別扱いにされているのです。すなわち天皇家の兄：彦火々出見命の兄の子孫だ、と結び付けているのです。ホノスセリノミコトですね。

高天原・天孫降臨

平田　霧島は天孫降臨と結び付く所ですから、脱線したような話になりました。先程出て来た狗留孫とかクシフルが外来の表現だとすると、ホノスセリノミコトの子孫は隼人の支配者。原住民ではなく渡来人ということになるのでしょうね。古代朝鮮語と南九州の言葉とがうまく結び付いて解釈出来たらいいのでしょうけど。どうも朝鮮とつながるということで取り組むのを逃げているのかも知れません。

上野　そうしたら天孫降臨の天は、高天原は朝鮮の方にあったかも知れませんね。

平田　高天原がどこであったかは、それは判りませんけど、高天原から降って来たという話は抹殺は出来ない。

上野　高天原が韓国だということになれば騒ぐ人たちが多いのでしょうけど。

平田　大変なことになるでしょうね。

上野　天皇は、この前、何か明言されたですね。

平田　百済王とのつながりです。以前にも話しましたが、去年韓国に行った時に、韓国の墓地がこういう形：馬蹄形をしていることに気付きました。これが日本に伝わって来て前方後円墳の周濠の形になっている。仁徳天皇陵とか応神天皇陵の周濠はよい例です。全羅南道とか全羅北道に行けば、村の墓地はみんな、こんな形です。この形は向う起源だとすぐ判ります。

西田　天皇は、桓武天皇の生母高野新笠、あの方は百済王の血を引いていると、大胆な発言をされたのです。

韓国との関連

平田　山口県に行くと、大内氏は百済聖明王の子孫だと観光案内板にはっきり書いてあります。日本人の血の何十ﾊﾟｰｾﾝﾄというか高い濃度で朝鮮の血が入っているわけです。

西田　そうですね、上流階級は。

平田　上流階級は皆、向うから来たのかも知れません。

上野　平安時代の貴族の数十ﾊﾟｰｾﾝﾄは韓国系ですから、純日本人というのはほとんどいない。

平田　此処に出て来た安曇氏。安曇比羅夫というのは白村江の戦の時の司令官。負けた将軍になる。安曇比羅夫が日本から百済王子豊璋を護って百済再興のために出かけ、豊璋が百済王になるのです。結局は唐・新羅の連合軍に敗れてほうほうの体で帰り、日本の水軍は四百余艘を焼かれて惨敗します。その時、百済王豊璋は行方不明になります。そこまでは日本書紀に書いてあるのです。最近、どういう根拠からか知りませんが、この豊璋が中臣鎌足：藤原鎌足になったのだという説が出て来ております。他にありませんか。他になければ10分ばかり休憩しましょう。

内之浦町の地名

平田信芳

角川地名大辞典の中で小字一覧が収録されていない町村を拾いあげて、穴埋めするつもりで目下取り組んでいます。今まで桜島町・野田町、前回は高山町を取り上げました。今回は内之浦町です。全部で９か町村あるのですが、徐々に埋めて行きましょう。

内之浦町の大字は三つ。今日配った資料の通り、北方・南方・岸良とあります。岸良に教え子のＴ君がおり、彼を利用しました。教え子と言っても五つ年下で、もう65才を越えています。もとＮＨＫに勤めていました。Ｔ君と連絡をとって、役場から小字の一覧表を入手して送ってもらいました。

原（ﾊｲ・ﾊﾙ・ﾊﾗ）

Ｔ君のいうには、役場の方では土地の人々が呼ぶ言い方とは違ったのがある、と。例えば、原（ﾊｲ・ﾊﾙ）は全部原（ﾊﾗ）と読んでいる。あちらでは皆、原（ﾊｲ）というのだが、と。鹿児島でも紫原（ﾑﾗｻｷﾊﾞｲ）があります。此の辺は上之原（ｳｴﾝﾊｲ）です。小学生の時からウエンハイのおじさんヤド（上之原の叔父さんの家）というのは聞いていたのですが、地名を調べるようになるまで此の文字が当てはまることは気付きませんでした。また吉野の方は同じ文字を書いても上之原（ｶﾝﾉﾊｲ）と読みます。横道にそれましたが、内之浦の場合、ほとんどが原（ﾊｲ）という、と。しかし原（ﾊｲ）から原（ﾊﾙ）になったとも思えない、というのです。言われてみれば、その通りです。役場が原（ﾊｲ）を原（ﾊﾗ）と表記したのも責められない、というのです。

納　私は紫原（ﾑﾗｻｷﾊﾞｲ）というのですが人によっては紫原（ﾑﾗｻkﾊﾞﾙ）と言います。

平田　紫原（ﾑﾗｻｷﾊﾞﾙ）は九州各県並みの表現です。九州各県について角川地名大辞典の読みを調べると、大分県が70％ぐらい原（ﾊﾙ）と読みます。他の県も50％は「ハル」と読みますが鹿児島県だけが「ハラ」と読みます。それも70％以上が「ハラ」です。地元では、「ハイ」というのですが。例えば笠野原（ｶｻﾝﾊﾞｲ）は地名大辞典では「カサノハラ」です。

納　うちでは、私だけが「カサンバイ」と言います。

平田　「カサンバイ」というのです。そういう所は皆「ハラ」になっているということです。初めに送られて来た資料にはルビがなかったので私が全部振り仮名を付けて送り返し、これで良いかと確認しました。全部に付けることも考えましたが、常識的に読めるものは振り仮名を付けませんでした。以下、一応読んでいきます。（省略）

北方の小字
南方の小字　｝別添資料を参照のこと。
岸良の小字

北方の字絵図数は250です。小字数151というのは小字に(1)～(3)・(1)～(4)というふうに付けてありますが、それは字切図が３枚に分かれているとか４枚に分かれていることを示します。字絵図の枚数は250枚だがそれを差し引くと小字数は151になるということです。南方の字絵図数214、小字数128、岸良の小字数99も同様です。

『鹿児島県万能地図』にみえる地名

角川地名大辞典の小字一覧のところに小字でなくて集落名と思われるものが掲げてあります。また、南日本新聞社刊行の『鹿児島県万能地図』に見える地名を拾い上げて小字と見比べてみると、小字にないものも出て来ます。※印は小字にもある地名です。その他に俗称地名も相当あると思います。

小字の類別

「内之浦町の地名(2)」は、地名の意味を考えるために種類別に分けたものです。

(1)信仰地名から説明します。天神前（ﾃﾝｼﾞﾝﾏｴ）、安良（ﾔｽﾗ）。これは横川町の安良神社と何らかの関係があるのだろうと思います。夏越田（ﾅﾂｺﾞｼﾀﾞ・ﾅｺﾞｼﾀﾞ）、二月田（ﾆｶﾞﾂﾀﾞ）、須木田（ｽｷﾀﾞ）。スキダについては、悠紀田・主基田（ﾕｷﾃﾞﾝ・ｽｷﾃﾞﾝ）というのが続日本紀にあります。それにあやかったものかなと考えたりしますが、よく判りません。神田（ｶﾝﾀﾞ）、宮前（ﾐﾔﾏｴ）、宮後（ﾐﾔｳｼﾛ）、京田（ｷｮｳﾀﾞ・ｷｮｳﾃﾞﾝ）。反花（ﾀﾝｶﾞ）は村はずれにある御堂のことです。修業僧たちが泊まる場所です。朝早く離れて行くので「旦過」。辻堂とも言います。

銭亀塚（ｾﾞﾆｶﾞﾒﾂﾞｶ）は、銭瓶（ｾﾞﾆｶﾞﾒ）・銭神（ｾﾞﾆｶﾞﾐ）の両方が考えられます。船塚は船のような形をした塚：前方後円墳でしょうか（銭亀塚・船塚は例会当日は説明もれ）。

建石ケ迫（ﾀﾃｲｼｶﾞｻｺ）は、石を建てて何かを祀った所。立迫（ﾀﾃｻｺ）も何か信仰と関係があると思うのです。立迫は焼畑を放置した所をいうとの説もありますが。牧神平（ﾏｷｶﾞﾝﾋﾞﾗ）、山神添（ﾔﾏﾝｶﾝｿｴ）。「添」は山神の側を切り開いたということで、(7)開墾地名に入れた方がいいかも知れませんが、「山神」は他に出て来ませんので此処に入れました。

南方には、宮ノ元、山王ノ前、山王ノ尻、安ノ元（ｱﾝﾉﾓﾄ）。安（ﾔｽ）と読んだら、意味は判らない。庵のことです。大師庵（ﾀﾞｲｼｱﾝ）、銭貫（ｾﾞﾝｶﾞﾝ）、善田（ｾﾞﾝﾀ）。下ノ下リ（ｼﾓﾉｻｶﾞﾘ）・渡リ上リ（ﾜﾀﾘｱｶﾞﾘ）。ノボリ・クダリと読んでいたようですが、こらは「サガリ・アガリ」と読むのがよいと思うのです。昔、修験者たちが山に登る時に見送る場所が「アガリ」であり、修行を終えて下って来るのを皆で迎えて祝い事をする場所を「サガリ」と言っていた。鹿児島県には、そういう「アガリ・サガリ」地名が沢山あります。それから立石（ﾀﾃｲｼ）、竪野（ﾀﾃﾉ）、丸塚。

岸良は、大宮田（ｵｵﾐﾔﾀﾞ）、神園（ｶﾐｿﾞﾉ）、

柴立(シバタテ)。登堅(ノボリタテ)は「のぼりばた(幟)」を立てたのでしょう。旗立(ハタタテ)という所もよそにはありますし、鉾立(ホコタテ)もあります。

(2) は城郭・集落・門・入会地などです。城ノ脇(シロノワキ)、山下前、大門(ダイモン)。中村・下村は集落ですね。城元(シロモト)。倉は集落にある。乙田屋敷(オッタヤシキ)。下向(シモムキ)・上向(カミムキ)・浜向(ハマムキ)は、向い側の集落をいうのでしょう。上町(ウエマチ)・仲町。

大牟礼(オオムレ)。牟礼というのは古代朝鮮語という説が強く、ムラ(村)ではなくて山の意味に使うとも言います。しかし、これからムラ(村)が出たと考えたら、集落と見る方がいいでしょう。そして村前(ムラマエ)、堀内。岸良には堀ノ内、山下。六郎館岳(ロクロウカンダケ)という山がある。村上(ムラカミ)・村下(ムラシタ)、姫門(ヒメカド)。これは門名なんでしょうけど。村前・村山。郷ノ原(ゴウノハラ)は入会地の意味があるのかも知れません。

(3)土地区画を示すものとして、永田すなわち長い田圃。畦原(アゼハラ)、八反ケ丸、大坪・小坪・長坪、一町ケ丸、横縄手(ヨコナワテ)・新地。一ノ坪・ロノ坪、三反丸・五反丸。

(4)市・町・交通地名。坂元・坂下・坂ノ上、登越(トゴエ)、道ノ上、吉田渡(ヨシダワタリ)上枦木馬場(カミハシノキバンバ)・下枦木馬場(シモハシノキバンバ)。磯道・永道(ナガミチ)、竪馬場、一ノ口(イチノクチ)・一ノ谷(イチノタニ)。これは市場と見て分類しました。飛渡(トビワタリ)、五橋(ゴキョウ)・橋ノ口。坂元、一川原(イチガワラ)・一ノ谷。これも市場と理解すればこういう分類になります。船付(フナツキ)は、船着場でしょう。そして、港(ミナト)。

(5)水利地名。中溝(ナカミゾ)・上中溝(カミナカミゾ)、大樋口(オオヒグチ)。落シ元(オトシモト)は田圃に引いた水を落とす所。水ノ手(ミズノテ)は水が出て来る所。次の井料(イリョウ)。南方には入料とあります。井料というのは中世の荘園でみんなを集めて溝を掘ったり、井戸を掘ったり、いろんな仕事をするためには費用がかかりますから、それを捻出するための田圃のこと。そういう性格の地名なので、水利地名に入れました。鹿児島県には井料(入料)という名字があり、あちこちで聞きます。井戸の用途に使うという意味です。

井手谷(イデタニ)、堤(ツツミ)。井手は川の中で堰き止める所。樋渡(ヒワタシ)、冷水(ヒヤミズ)、井手口(イデグチ)。水口(ミナグチ)は、水を取り入れる所、落(オトシ)の反対です。

井手上(イデウエ)、堤、樋渡、入料。

(6)人名地名。折丸(オリマル)、上小丸(カミコマル)下小丸(シモコマル)、中丸、大丸(オオマル)、入道ケ山(ニュウドウガヤマ)、庄助牟田(ショウスケムタ)。庄助に関係のある牟田ということでしょう。島別当(シマベットウ)、狩行司(カリギョウシ)は、何か仕事か役割があったということでしょう。その人の田圃とか林という意味でしょう。

(7)開墾地名として、園・原・添をあげました。上園(ウエゾノ)・外園(ホカゾノ)、新原(ニイハラ)、道添(ミチゾエ)・城添(シロゾエ)・杉添(スギゾエ)・新溝添(シンミゾゾエ)、荒田(アラタ)、梅木園(ウメキゾノ)・奥ノ園(オクノソノ)、川添(カワゾエ)、大谷添(オオタニゾエ)・港山添(ミナトヤマゾエ)。

次の「宇ノハエ」というところ。「ハエ」は開墾地だということを亡くなった本田親虎さんが言っておられました。疑問点もあったので、T君に手紙を出して「宇ノハエ」は海岸にあるのか、陸地にあるのか、と尋ねました。海岸にあれば岩礁:瀬にある「ハエ」

(5)水利地名。中溝(ナカミゾ)・上中溝(カミナカを考えなければならないのだが、と言ってやりましたら。山手の方にあるとのことでした。海岸地名でないということで、開墾地名だと考えました。

次は上ノ園(ウエノソノ)・中園・小園(コゾノ)・外園(ホカゾノ)、川添・野添・山添、荒田(アラタ)開キ(ヒラキ)・開田(ヒラキダ)。

(8)産業関係地名。仕事に関係のある地名です。赤木屋(アカキヤ)、木場山(コバヤマ)、牧・馬込(マゴメ)、加治屋川(カジヤカワ)、羽口(ハグチ)。炉の羽口とかタタラの羽口と言いますから、それと関係のある地名と考えてそこに入れました。平木場(ヒラコバ)、土取(ツチトリ)、牧・小牧・牧ノ原。これらは牧に関わる地名です。

(9)田畑地名。ほとんどが「田」です。北方から眺めます。池田・牛田(ウシタ)・折田(オリタ)・迫田(サコタ)・砂原田(スナハラタ)・高田(タカタ)・鶴田(ツルタ)・永田・浜田・平田・丸田・上前田(カミマエタ)・和田・脇田・田中。一反田～五反田。源ノ木田(ゲンノキタ)というのは何でしょうか。判りませんが「田」があるので此処に入れました。畑は川畑と高畑(タカハタ)。

南方は、石原田(イシハラタ)・乙田(オッタ)・楠木田(クスノキタ)・中島田(ナカシマタ)・名古田(ナコタ)。名古というのは、いわゆる漁師たちを意味する言葉です。仁田山田(ニタヤマタ)・船倉田(フナクラタ)・前田・和田・田中・川畑。門田・小山田(コヤマタ)・柿木田(カキノキタ)・修理田(シュウリタ・シュウリデン)。修理田は社寺の修理費用に当てる田圃。浜田・前田・柳田。龍子田(リョウコタ)というのは、人の名前が付いているだけのことでしょう。

(10)瑞祥地名。新留(ニイトメ)、露重(ツユシゲ)重(ヨシシゲ)・豊留(トヨトメ)も瑞祥地名とみました。これらは門地名かも知れません。こんな門名をよく見かけます。

(11)自然地名に分類するもの。宇都(ウト)・迫(サコ)はその通りの地形です。江平(エヒラ)・国見平(クニミヒラ)。国見をする「平」。段・大竹原(オオタケハラ)・平原(ヒラハラ)・中島(ナカシマ)。宇都・大迫・上小野(カミオノ)・下小野(シモオノ)・芝原(シバハラ)・瀧山(タキヤマ)・宇都・大迫・大原・小森(コモリ)・大中島(オオナカシマ)・岩瀬戸(イワセト)・尾崎(オザキ)。

(12)位置を示す地名。松ノ下・松本、竹下・竹ノ元、横手元(ヨコテノモト)、後迫(ウシロサコ)・西ノ迫・迫ノ尻、段ノ上・段ノ下、江平ノ上(エヒラノウエ)、前ケ平・前原(マエバラ)・上ノ原(ウエノハラ)。磯涯(イソガイ)、「イソギワ」という事なのでしょうね。「イソガイ」と読んでありましたが「イソギワ?」。しかし磯貝十郎左衛門という名前がありますね、赤穂浪士の中に。あれは食べる「貝」の字を使いますが。石中(イシナカ)、岩下、川頭(カワズ・コガシタ?)・川上、淵上(フチウエ)、中谷(ナカタニ)、山ノ口、出口

西ノ妻、後迫・中ノ迫・西迫、中原、西ノ俣、池ノ元、岸ノ下、東谷、小山ノ下、山ノ口、一崎ノ元(イッテキノモト)、尾方前(オガタマエ)・五橋尻(ゴキョウシリ)、後窪(ウシロクボ)、滝尻(タキシリ)。滝尻は場合によっては自然地名でしょうが、位置地名としてこちらに整理しました。

後迫・上原、柏木元(カシワキモト)、木ノ下・岸ノ下、串元、竹中、中崎、中島、尾ノ口、南、山口。

(13)形状地名。四つに分かれた迫を意味する四枝(ヨツエダ)・枝迫、長尾・丸尾、平床(ヒラトコ)、横松。横松は松の木が横に伸びている状態:「ヨンゴマツ」です。小川内(コガワチ)

露が多いと良いことがあるのでしょうか。吉窪・上大久保(カミオオクボ)・下大久保(シモオオクボ)小久保(コクボ)、長迫、飯山、平岩、鍋ケ浦、これらは説明はいらないと思います。三枝(ミツエダ)、飯森(イイモリ)、永石(ナガイシ)・永山・板ケ山、久保。板ケ山というのは形状地名としては変でしょうが、持って行く所がないので此処に入れたにすぎません。

(14)目印地名。榎木ノ元、樫脇、葛崎(クズサキ)、「カズラサキ」かも知れません。桑ノ元、花ノ木、花木山(ハナノキヤマ)、松生(マツハエ・マツオ)・小松生(コマツハエ)・松原、高付(タカツキ)、犬ケ原(イヌカハラ)、青木元、榎木元、栗山、勝負ノ元(ショウフノモト)、小白木(コシラキ)・白木、高付、下松尾(シモマツオ)・松崎(マツサキ)・松山、鳥ケ山(カラスガヤマ)。鳥ケ山と書いてあって、ルビは「カラスカガヤマ」になっています。

榎木元、蒲生ケ迫(カモウガサコ)、室木(ムロキ)、佐土原(サトバラ)。「サトワラ」でなくて「サトバラ」とルビが振ってありました。杉木元(スギノキモト)柳ケ迫。

(15)浸食崩壊地名。石踊(イシオトリ)、赤崩(アカクエ)・信崩(ノブクエ)・下崩(シモクエ)。

(16)湿地地名。川窪、塩入(シオイリ)、滑迫(ケメサコ)、赤牟田・草牟田(クサムタ)。「牟田」は全部、湿地地名に入れました。川原、垂水(タルミズ)、水尻(ミズシリ)。それから仁田(ニタ)。仁田山、菅牟田、川原。

岸良は、水流(ツル)、塩入、牟田、川原、古川などです。

(19)意味不明。アフセ。これは虻がいる瀬かも知れません。よく刺す虻が群がっている瀬ということ。小幡(コバタ)、小茂柿(コモガキ)除ノ尻(ジョノシリ)と読んでいますが、「ヨケノシリ」じゃないかと思うのです。ヨケだったら魔除てあったと思うのです。妙円寺詣りの時に通る横井町を「ヨケンマチ」と言いますが、本来「除(ヨケ)」に結び付くのじゃないかと思います。津房(ツブサ)、吹廻(フキメグリ)、古川玉(フルカワタマ)、芳原(ホウハラ)と読んでいるのは意味が判りません。「ヨシハラ」ならば葭原でしょうけど。本勘場(モトカンバ)、勘場というのは何か作業場のような意味だと思うのですが、確実な解説に出会っていません。

上籠(ウワコモリ)。籠(コモリ)が何を意味するのかまだ判りません。船の避難場所という見方もありますが、確信がないのでこのまま入れました。津代(ツシロ)、恒内(ツネウチ)。大平見(オオヒラミ)は大平から周囲を眺める所なんでしょうが分類の仕方で入れる所がなかったので、こういう形にしました。国見(クニミ)と同様な地名なので自然地名に入れた方がよかったかも知れません。

尾瀬名(オセナ)、定使(ジョウツカイ)、タメナ、増当(マストウ)、これらは何を意味するのか、何か意味があったと思うのです。なお増当は前内之浦町長の名字だそうです。

数値的分析

これらの地名を分析し、整理して来た中で(1)信仰地名～(10)瑞祥地名は人文関係地名(11)～(18)は自然関係の地名になります。

表の数値は、例えば北方の小字数151に対して信仰地名17は11.3%になることを示します。ゴシック体で示した数はトータルの場合のパーセンテージと比較して大きいか小さいかによってその大字の特徴を見出そうとするものです。北方は信仰地名・交通地名・水利地名・田畑地名・位置地名・湿地地名・意味不明の地名が多いと見てとれるわけです。意味不明の地名は歴史が古いことを物語ります。

それが北方に多いということです。以下同じです。南方は信仰地名・集落地名・区画地名・交通地名・人名地名・瑞祥地名・位置地名・形状地名・目印地名が多い。これに比べると、岸良は集落地名・水利地名・人名地名・開墾地名・産業地名が多い。要するに、田舎めいていて開墾した時期の地名が多く残っているのが岸良だと言える。それから浸食地名や湿地地名が多いのも、岸良。狭くて危ない所だったということなんでしょう。

小字数の151とか128、99は役場の台帳に出ている数です。個々の数は、役場の台帳に出ていなかったのも加えてあるので、若干増えます。

太平洋側は今は僻地と化していますが、昔は薩摩から大隅・日向を通って大阪に上る航路に面して栄えた時期もあったのです。T君に内之浦の焼酎の銘柄は何かと尋ねると残念ながら内之浦は焼酎は造らないとのことでした。焼酎を造り出す江戸時代の後半には廃れ始めた地域になっていたことが考えられます。

なお、字総図は大きいためにコピーが大変なので貰わなかったということで送って来ませんでした。そのうち必要になれば貰おうかなと思っています。以上で内之浦町の地名の説明を終ります。何か質問があったら遠慮なく出してください。

〔質疑応答〕

竪野馬場と竪馬場

納　2ページ、南方の178番竪野(タテノ)。此処(西郷南洲顕彰館)の下は竪野ですね。

平田　えゝ、竪野です。

納　民俗学をしておられたあの人は？

平田　小野重朗さん？

納　あの人が「立野」という地名について書いておられました。曰く、茅葺の屋根を葺くために一応切って乾燥させるために立てていた、と。そういう所を立野というのだ、と。そこの竪野もそういう解釈でよいのですか。

平田　茅を切って立てた野というより立野は立入禁止とか、信仰的な立場から立ち入りを禁止した標野(シメノ)という意味合いの入会地としての性格とか信仰的な性格が強いのではないですかね。

納　宗教的な性格が強い？

平田　茅取場は入会地として共通に利用出来るわけですから、茅を切り取って立てていたから「立(タテ)」と解釈するのでしょう。

納　竪馬場は縦の通り。竪野とか竪野馬場というのもありますね。現在の国道筋か？あれは竪野馬場か。

平田　竪野馬場でしょう。そして竪馬場もある。

納　そこの竪野馬場の場合は、立野馬場と書いてあったような気がする。

平田　それは？

納　昔の文字というのはいい加減なことを書くのだな、と。

平田　地図を作る所が簡単な「立」で書く場合もあるでしょうし、難しい文字を書く場合もあるでしょうから。

松本と松元

納　もう一つ、6ページの(12)位置地名に松本とありますね。その下の(14)目印地名に榎木元とあります。鹿児島県の場合は「元」が多い。これは名字から見て言っています。名字と地名は、大体

似たようなものだと思います。隣の熊本県は球磨川沿いの人吉、宮崎県に入れば小林近辺それに都城、鹿児島寄りの所はほとんどモトは「元」を使っています。その他の所は全部「本」です。何故、鹿児島だけ、モトが元に書かれるのか。

平田　目下、名字の整理もしていますが、鹿児島は「本」が少なく「元」になっているという説が横行しているのですけれども、案外「本」も多いのですよ。

納　「本」もあることはあります。

平田　五分五分ぐらいにいくのじゃないですかね。

納　電話簿を見て拾ったのです。

平田　電話帳を見ても案外あるのです。

納　川内の五代か、焼酎屋。あれを造っている所は、山元。

平田　あれは山元。やまげん。

納　土地の人は、やまげんと言います。

平田　それが、うなぎ屋の「やまげん」になっているのです。鹿児島県の場合、「本」を使わずに「元」が多い、と。そっちの方が書き易かったのだという説がありますが、電話帳を調べるとタケモト・ヤマモト・マツモトの場合、「本」も案外あるのです。鹿児島県は「元」が圧倒的に優勢だというのは、ちょっと言い過ぎじゃないかと思うのです。これは相対的な問題です。他県に比べれば元が多い。そういう程度だと思うのです。圧倒的に「元」という表現が多いとは言えないのではないか。一般的には「元」という字を書いたら鹿児島の人間だと思えと言われているのは事実です。

納　私はこんな事を聞いたことがある。明治の初めに普通の人も名字を付けるようになった。その時にその辺の顔役に「あたいげん名前は何にすればよかんどかい」と尋ねけいたところが、みんなそれぞれ適当な名前を付けてくれた。恐らく元というのは、音が一緒でありさえすれば、どういう文字でもくっ付けてあるような気がするのです。意味はどうあろうと、音さえ合えばどうでもいいと、そういうふうに付けたのじゃなかろかい、と。

平田　今の問題は電話帳に当たって、「元」と「本」を徹底的に洗い直してみると、違った見方が出て来るかも知れません。

銭亀塚・赤木屋

小手川　私は実家が内之浦なんです。今日見た地名は知らないのが多かったのです。5ﾍﾟｰｼﾞ、北方の信仰地名に銭亀塚というのがありますが、銭亀というのは山の中の地名です。なんであんな所が銭亀やろかいと思っているのですが。それと、産業地名で赤木屋というのがあります。赤木屋は私の実家の隣の集落なんです。赤木屋というのはどういう産業なのか教えて下さい。

平田　昔、赤木という木を取って草木染の染料に使った。それを取った所と理解したのです。染料に使います。銭亀は銭瓶とか銭神。昔は中国から伝わって来た宋銭とか明銭を瓶に貯めていた。文字通り「銭瓶」です。それが埋まっていた可能性もあるのでしょうけど、「銭神」とした所も多いのです。何か民俗信仰として伝わったと思います。銭亀は県下に相当数あります。具体的に現地を見たことはありませんが。

岸良

納　もう一つ、ここに書いてある大字名ですが、内之浦の場合、北方、南方、岸良。この岸良の場合、私は昭和30年頃、あすこに行ったのです。土地の人は岸良(ｷｼﾗ)のことを「キシタ」というのですよ。

平田　今でも「キシタ」と言いますよ。

納　それで、こちらに来れば串良(ｸｼﾗ)があります。串良の人に「おまんさぁたちゃクシタとは言わんとな」と聞くと「うんにゃクシタとは言わんどクシラちう（と言う）」ないごてクシラの人はクシタと言わんたーろかい、と思って。どうも鹿児島はからいも普通語をいうから、クシタとは言わずにクシラというのじゃなかろうか、と思うたのです。

平田　ああ、串占と結び付けて串良、と。クシタというのは聞いたことがあにですよ。

納　河頭(ｺｶﾞｼﾗ)を「コガシタ」というのですからね。それと同じだと考えれば串良の衆はからいも普通語でいうとじゃないか。

平田　それは判りませんね。

納　一人か二人、そういうことを言いよったど、という人はおるのですよ。串良をば、クシタ、と。

平田　鹿児島弁は早口で言った場合には、違った発音になるわけです。ダとラは区別がつかない。ラッキョウはダッキュ、落花生はダッキショ。ダッガアカン（埒があかん）とか。それは何とも言えません。

日本という名字

納　名字の場合ですが、内之浦には日本(ﾆｯﾎﾟﾝ)という姓がありますね。

平田　島津の殿様から特別に「日本」と名乗ってよいとの許しを得たとのことで日本一とか名乗っていると新聞で紹介されました。

納　電話帳を見ると「日本」と書いてあります。私が記憶しているのでは、「日本肇、日本一」という名前。

平田　それは良い名前だな（笑い）。

納　それから鹿児島には「東洋一」と書いて「ヒガシヨウイチ」と読ましとる人もある。

平田　それはいるでしょう。

狩行司

西田　狩行司というのはどういうものですか。職掌的には。

平田　内之浦町史を読めばよかったのでしょうけど、よく判りません。山の監視に当たる人たちをいうのでしょう。

西田　山役人の一種ですね。

平田　山役人の呼び名でしょうね。

西田　島別当は？

平田　やはり役柄でしょうね。

竪馬場の方位

唐鎌　先程出て来た竪馬場、あれは鹿児島だけでなく、南九州によくある通りの名前じゃないですか。

平田　竪馬場？国分にも竪馬場がありますよ。だから、城に近い所で目抜通りを竪馬場と呼んだのだなと理解していました。国分の場合は舞鶴城の西側に、竪馬場・中馬場というのがあります。

唐鎌　中世の屋形に伴う道では？

平田　屋形の前の馬場？その可能性もあるね。

唐鎌　他にありますか。

平田　私が知っているのは、鹿児島と国分だけ（後記：金峰町宮崎に立馬場、吹上町中原に立馬場、加治木町反土に建馬場がある）。

唐鎌　常安峯とは？

平田　常安峯に真っ直ぐ向かっています。

唐鎌　清水城とは、どうなんですか？

平田　清水城はあの筋ではありません。

唐鎌　場所的には？

平田　内城の場合とか国分の舞鶴城の場合どっちも島津義久に関係があります。こっちも義久が居城していたし、国分の場合も義久の築城。

唐鎌　縄張りする時には通ったのでは？

平田　縄張り・縄引の時の基本線であった可能性は大きいですね、竪馬場は。それが結果的に目抜き通りになるのでしょう。商人たちがその周辺に住み着けば。それから鹿児島の竪馬場は基本的には真北：北極星を見通した方向です。鹿児島では真北はＮ６°Ｅになります。これは５万分１図や２万５千分１図に、西に６度振っていると表現されているものです。それぞれの土地の真北は、５万分１図：地形図を見れば書いてあります。

昔は北は北極星を見通して決めたのです。今は磁石で測りますけど。その場合、磁石と北極星の方位がそれぞれの土地によって少しずつずれているわけです。鹿児島の場合は西に６度振っているのです。この真北の方位で薩摩国府とか大隅国府・国分寺は町づくりをやっているし、条里制もその方位で実施している所が多いようです。

上野　私が車を運転して国分高校に向かうと、冬には光が必ず真っ正面から来ることに気付いたのです。

平田　国分は春分の日に出る太陽の方向、それを基本として町づくりをやったということが舞鶴城の場合は判る。あれは、あんたの大発見だよ。町づくりというのは、基本的な方位がある。

大阪大学で地理を教えておられた七高の先輩（海野一隆阪大名誉教授）によると、昔の地図は春分の太陽の出る方向とか夏至の時・冬至の時の太陽の方向とかちゃんと書いてあったそうです。国分の地図に、池之馬場（舞鶴城の前の通り）の方向に、春分の日に太陽が出るということが書いてある地図を見付けたら一つの発見になると思います。

納　竪野、あれは。

平田　あゝ、昔の電車道路。

納　信用金庫の前に竪馬場の由来を書いた看板があるのを此処に登って来る時に見ました。

平田　はい、あります。あれは南洲神社の宮司：鶴田さんの文です。

納　そこの階段を降りて行けば左側になるな。

平田　はい、そうです。

次回の例会

平田　次回は12月、此処でやります。上野さんに期待します。

上野　あの例の歩いた報告を。

平田　日向街道を歩いた報告です。

上野　まだ暑いから。

平田　ちょっとプレッシャーをかけるかも知れません。

上野　宮崎までしか歩きません。

平田　それで結構です。

西田　いつになりますか。

平田　12月１日です。じゃー、机を元に戻しましょう。これで終ります。

内之浦町の地名

大字 北方

1	前田	57	吉田渡 (1-2)	106	宇都	155	上垂水		
2	鶴田	59	中島 (1)-(2)	107	松本	156	登越		
3	折田	61	淵上	108	アフセ：阿布施	157	枝迫		
4	二反田	62	川上	109	津房 (1)-(2)	158	山ノ口		
5	丸田 (1)-(3)	63	京田	111	畦原	159	宮ノ前		
8	山下前 (1)-(4)	64	水ノ手	112	折丸 (1)-(2)	160	草牟田		
12	榎木ノ元	65	城添	114	高畑	161	犬ケ原		
13	坂元 (1)-(3)	66	立迫	115	牛田 (1)-(2)	162	丸尾		
16	中溝 (1)-(3)	67	江平	117	夏越田 (1)-(2)	163	迫		
19	花ノ木 (1)-(2)	68	段ノ上	119	須木田 (1)-(2)	164	迫ノ尻		
21	横手元	69	段 (1)-(2)	121	砂原田	165	高田		
22	新溝添	71	段ノ下 (1)-(2)	122	堤	166	高付		
23	大樋口	73	小幡 (1)-(2)	123	船塚 (1)-(4)	167	浜田 (はまんた)		
24	八反ケ丸	75	葛崎	127	永田	168	井手谷		
25	道添 (1)-(2)	77	反花 (1)-(2)	128	二月田	169	脇田 (わっのた)		
27	本勘場 (1)-(2)	79	四枝 (1)-(2)	129	杉添	170	磯涯 (1)-(4)		
29	川畑 (1)-(2)	81	小松生 (1)-(3)	130	平牟田 (1)-(2)	174	木場山 (1)-(11)		
31	井料 (1)-(2)	84	松ノ下 (1)-(3)	132	池田	185	後迫		
33	川窪 (1)-(2)	87	平原	133	宮後 (1)-(3)	186	滑迫		
35	田中 (1)-(2)	88	前原	136	出口 (1)-(2)	187	山神添 (1)-(2)		
37	五反田 (1)-(2)	89	下川原	138	外園	189	下村		
39	上中溝 (1)-(2)	90	除ノ尻	139	源ノ木田 (1)-(2)	190	川頭 (1)-(5)		
41	落シ元 (1)-(2)	91	芦牟田	141	迫田	195	平松 (1)-(7)		
43	竹ノ元	92	上ノ原	142	横松 (1)-(2)	202	水尻 (1)-(4)		
44	竹下	93	長尾	144	樫脇	206	芳原		
45	道ノ上	94	赤木屋	145	新原	207	塩入		
46	坂下	95	赤牟田	146	天神前	208	建石ケ迫		
47	中牟田	96	石中	147	中村	209	中谷 (1)-(7)		
48	桑ノ元	97	大門	148	上前田	217	平田		
49	坂ノ上	98	馬込	149	新道	218	荒田 (1)-(7)		
50	坂元	99	和田	150	下柞木馬場	225	銭亀塚 (1)-(7)		
51	立石	100	中河原	151	上柞木馬場	232	西ノ迫		
52	安良	101	一反田 (1)-(2)	152	松原	233	前ケ平 (1)-(5)		
53	吹廻 (1-2)	103	古川玉 (1)-(2)	153	垂水	238	神田		
55	小茂柿 (1)-(2)	105	新留	154	中垂水	239	滑		

北方 大字 南方

240	岩下	1	下向	53	吉重	100	平岩		
241	国見平	2	浜向	54	恒内	101	小白木		
242	松生	3	上町	55	池ノ元	102	鍋ケ浦 (なべごら)		
243	平床	4	仲町	56	村前 (1)-(2)	103	中ノ迫		
244	上園	5	上向	58	一崎ノ元 (1)-(2)	104	丸山		
245	牧神平	6	仁田山	60	磯道	105	白木		
246	牧	7	堅馬場	61	梅木園 (1)-(2)	106	山ノ口		
247	大竹原	8	橋ノ口	63	青木元 (1)-(2)	107	立石		
248	江平ノ上	9	船倉田	65	勝負ノ元 (1)-(2)	108	倉 (1)-(2)		
249	花木山	10	加治屋川 (1)-(2)	67	横縄手	109	津代 (1)-(17)		
250	城ノ脇	12	豊留	68	下ノ下リ	127	川原瀬 (-10) こらぜ		
		13	中原	69	後窪	137	尾方前 (1)-(16)		
		14	中丸 (1)-(3)	70	大迫	153	松崎 (1)-(2)		
	字絵図数 250	17	渡り上り	71	宇都	155	長坪		
	小字数 151	18	善田	72	冷水	156	向川原		
		19	田中 (1)-(2)	73	小山ノ下	157	島別当		
		21	松山	74	上川原 (1)-(2)	158	丸塚		
		22	樋渡	76	中川原 (1)-(2)	159	菅牟田 (1)-(4)		
		23	大坪 (1)-(2)	78	下川原 (1)-(2)	163	烏ケ山 (1)-(4)		
		25	小坪	80	栗山	167	銭貫 (1)-(2)		
		26	永道	81	滝尻	169	瀧山		
		27	西ノ妻	82	名古田	170	上大久保		
		28	田中	83	上小丸	171	下大久保		
		29	榎木ノ元	84	下小丸 (1)-(2)	172	長迫		
		30	小久保 (1)-(2)	86	仁田山塩入 (1-2	173	大谷添 (1)-(3)		
		32	川原 (1)-(2)	88	中島田	176	和田		
		34	岸ノ下 (1)-(2)	89	上小野	177	井手口		
		36	小川内 (1)-(4)	90	下小野	178	堅野		
		40	安ノ元	91	仁田山田	179	大平見		
		41	庄助牟田	92	港山添	180	大牟礼		
		42	川畑 (1)-(2)	93	後迫	181	横尾		
		44	露重 (1)-(2)	94	無川原	182	羽口		
		46	堀内 (1)-(2)	95	西ノ俣	183	西迫		
		48	入料	96	大丸	184	一ノ谷		
		49	前田 (1)-(2)	97	東谷	185	一ノ口		
		51	上籠	98	下松尾	186	川原崎		
		52	下籠	99	飯山	187	高付		

南方		大字		岸良		岸良	
188	楠木田	1	塩入 (1)-(2)	54	佐土原	100	牧 ?
189	川頭	3	浜田	55	中園 (1)-(2)	101	浜添
190	入道ケ山	4	修理田	57	村山	102	川添
191	芝原	5	船付	58	井手ノ上 (1)-(2)	103	一ノ谷
192	石原田	6	南	60	上ノ園	104	大中島
193	乙田	7	杉木元	61	中牟田	105	堀ノ内
194	乙田前	8	岸ノ下	62	宇都	106	尾ノ口 (1)-(2)
195	宮ノ元	9	村前	63	後迫	108	山添 (1)-(2)
196	古川	10	三枝 (1)-(2)	64	郷ノ原	110	平木場
197	乙田屋敷	12	永山 (1)-(2)	65	三反丸	111	増当 (1)-(3)
198	城元	14	入料 (1)-(2)	66	五反丸	114	飯森
199	山王ノ前	16	久保 (1)-(2)	67	タナメ	115	赤崩
200	山王ノ尻	18	竹中 (1)-(2)	68	中島	116	岩瀬戸
201	飛渡	20	川原 (1)-(2)	69	門田	117	姫門
202	奥ノ園	22	尾瀬名 (1)-(2)	70	坂元	118	大原 (1)-(2)
203	五橋 (1)-(5)	24	木ノ下 (1)-(2)	71	水口	120	大迫 (1)-(4)
208	一町ケ丸	26	外園	72	山下	124	柳ケ迫 (1)-(3)
209	宇ノハエ	27	龍子田	73	一ノ坪	127	小山田
210	川添	28	柿木田	74	牧原 (枚原?)	128	小森 (1)-(5)
211	道下	29	柏木元	75	大水流	133	港
212	五橋尻	30	口坪	76	土取	134	蒲生ケ迫 (1)-(2)
213	新地	31	板ケ山	77	神園	136	尾崎
214	大師庵	32	室木 (1)-(2)	78	上原	137	永石
	(でっしあん)	34	開田	79	牟田ケ迫	138	柳田
		35	狩行司	80	小牧 (1)-(2)	139	鎌牟田 (1)-(2)
		36	中崎	82	登堅	141	村上
		37	小古川	83	上川原	142	村下
	字絵図数 214	38	樋渡 (1)-(2)	84	山口	143	島別当
	小字数 128	40	一川原 (1)-(2)	85	定使		
		42	柴立	86	下川原		
		43	山川原	87	信崩		
		44	榎木元 (1)-(2)	88	大宮田		字絵図数 143
		46	串元 (1)-(2)	89	下崩 (1)-(2)		小字数 99
		48	小園	91	前田 (1)-(3)		
		49	石踊 (1)-(2)	94	中丸		
		51	堤 (1)-(2)	95	荒田 (1)-(4)		
		53	開キ	99	野添		

『角川日本地名大辞典46、鹿児島県』・『鹿児島県万能地図』に見える地名

北方		南方		岸良	
小串	こぐし	乙田	おつた ※	川口	かわぐち
樫脇	かしわき ※	新地	しんち ※	港	みなと ※
天神	てんじん ※	上建	かみたて	東	ひがし
朸木	はしのき ※	下建	しもたて	本地	ほんじ
平牟田	ひらむた ※	上町	うえまち ※	下西	しもにし
津房	つぶさ ※	仲町	なかまち ※	上西	かみにし
津房川	つぶさがわ	下町	したまち	大原	おおはる ※
坂元	さかもと ※	浜崎	はまさき	姫門	ひめかど ※
馬込	まごめ ※	上向	かんむき ※	浜	はま
赤木屋	あかぎや ※	川路	かわじ	舟木	ふなき
江平	えびら ※	大平見	おおひらみ ※	船間	ふなま
国見山	くにみやま	侍金	さぶれがん	五郎ケ元	ごろうがもと
黒尊岳	くろそんだけ	小田	こだ	辺塚	へつか
水尻川	(水尻 ※)	小田川	こだがわ	大浦	おおうら
広瀬川	ひろせがわ	小野	この ※	北岳	きただけ
海蔵	かいくら	津代	つしろ ※	荒西山	あらせやま
高崎	たかさき	宮原	みやばる	六郎館岳	ろくろうかんだけ
火出崎	ひのでさき	甫与志岳	ほよしだけ	稲尾岳	いなおだけ
丸尾ノ鼻	まるおのはな	叶岳	かのうだけ	一ノ谷川	(一ノ谷 ※)
		美濃峠	みのとうげ	久保田川	くぼたがわ
		佐牟田	さむた	松崎	まつさき
		吉重	よししげ	戸崎	とさき
		川原瀬	こらぜ ※	黒崎	くろさき
		上原	うえはら	黒島	くろしま
		五橋	ごきょう ※	鳥島	とりしま
		白木	しらき ※	女石	おなごいし
		黒岩	くろいわ	小山田	こやまだ ※
		火崎	ひのさき		
		二本松	にほんまつ		
		長坪	ながつぼ ※		
		鍋浦	なべこら		

※は、字絵図にも見える地名。

内之浦町の地名（その２）

	北　　方	南　　方	岸　　良
(1) 信仰地名	天神前・安良・夏越田 二月田・須木田・神田 宮前・宮後・京田・ 反花・銭亀塚・船塚・ 立石・建石ヶ迫・立迫・ 牧神平・山神添	宮ノ元・山王ノ前・山王ノ 尻・安ノ元・大師庵・ 銭貫・善田・下ノ下リ・ 渡リ上リ・立石・竪野 ・丸塚	大宮田・神園・柴立・ 登竪
(2) 城郭・集落 門・入会地	城ノ脇・山下前・大門・ 中村・下村	城元・倉・乙田屋敷・ 下向・上向・浜向・ 上町・仲町・大牟礼・ 村前・堀内	堀ノ内・山下・六郎館岳・ 村上・村下・姫門・村前 ・村山・郷ノ原
(3) 土地区画	永田・畦原・八反ケ丸	大坪・小坪・長坪・ 一町ケ丸・横縄手・新地	一ノ坪・口坪 三反丸・五反丸
(4)市・町 交通地名	坂元・坂下・坂ノ上・ 登越・道ノ上・吉田渡・ 新道、上枦木馬場・ 下枦木馬場	磯道・永道・竪馬場・ 一ノ口・一ノ谷・飛渡・ 五橋・橋ノ口	坂元・一川原・一ノ谷・ 船付・港
(5) 水利地名	中溝・上中溝・大樋口 落シ元・水ノ手・井料 井手谷・堤	樋渡・冷水・入料・ 井手口	水口・井手ノ上・堤 樋渡・入料
(6) 人名・職掌	折丸	上小丸・下小丸・中丸 大丸・入道ケ山・ 庄助牟田・島別当	中丸・狩行司・島別当
(7) 開墾地名	上園・外園・新原・ 道添・城添・杉添・ 新溝添・荒田	梅木園・奥ノ園・ 川添・大谷添・港山添 宇ノハエ	上ノ園・中園・小園・ 外園・川添・野添・浜添 山添・荒田・開キ・開田
(8) 産業地名	赤木屋・木場山・牧・ 馬込	加治屋川・羽口	平木場・土取・牧・小牧 ・牧ノ原・

	北　　方	南　　方	岸　　良
(9) 田畑地名	池田・牛田・折田・ 迫田・砂原田・高田・ 鶴田・永田・浜田・ 平田・丸田・上前田・ 前田・和田・脇田・ 田中・一反田・二反田 ・五反田・源ノ木田・ 川畑・高畑	石原田・乙田・乙田前 ・楠木田・中島田・ 名古田・仁田山田・ 船倉田・前田・和田・ 田中・川畑	門田・小山田・柿木田・ 修理田・浜田・前田・ 柳田・龍子田
(10)瑞祥	新留	露重・吉重・豊留	
(11) 自然地名	宇都・迫・江平・ 国見平・段・大竹原・ 平原・中島	宇都・大迫・上小野・ 下小野・芝原・瀧山	宇都・大迫・大原・小森 ・大中島・岩瀬戸・尾崎
(12) 位置地名	松ノ下・松本・竹下・ 竹ノ元・横手元・後迫 ・西ノ迫・迫ノ尻・ 段ノ上・段ノ下・ 江平ノ上・前ケ平・ 前原・上ノ原・磯涯・ 石中・岩下・川頭・ 川上・淵上・中谷・ 山ノ口・出口	西ノ妻・後迫・中ノ迫 ・西迫・中原・西ノ俣 ・池ノ元・岸ノ下・ 東谷・小山ノ下・ 山ノ口・一崎ノ元・ 尾方前・横尾・川頭・ 道下・五橋尻・後窪・ 滝尻	後迫・上原・柏木元・ 木ノ下・岸ノ下・串元・ 竹中・中崎・中島・ 尾ノ口・南・山口
(13) 形状地名	四枝・枝迫・長尾・ 丸尾・平床・平松・ 横松	小川内・窪・上大久保 ・下大久保・小久保・ 長迫・飯山・丸山・ 平岩・鍋ケ浦・	三枝・飯森・永石・永山 板ケ山・久保
(14) 目印地名	榎木ノ元・樫脇・葛崎 ・桑ノ元・花ノ木・ 花木山・松生・小松生 ・松原・高付・犬ケ原	青木元・榎木元・栗山 ・勝負ノ元・小白木・ 白木・高付・下松尾・ 松崎・松山・鳥ケ山・	榎木元・蒲生ケ迫・室木 佐土原・杉木元・柳ケ迫
(15)浸食・			石踊・赤崩・信崩・下崩

	北　　方	南　　方	岸　　良
(16) 湿地地名	川窪・塩入・滑迫・ 赤牟田・草牟田・滑 芦牟田・中牟田・ 平牟田・下川原・ 中河原・垂水・上垂水 ・中垂水・水尻	仁田山・仁田山塩入・ 菅牟田・古川・川原・ 上川原・中川原・下川 原・無川原・向川原・ 川原崎・川原瀬・	大水流・塩入・中牟田・ 鎌牟田・牟田ケ迫・川原 上川原・下川原・山川原 小古川
(17) 意味不明	アフセ・小幡・小茂柿 ・除ノ尻・津房・吹廻 ・古川玉・芳原・ ・本勘場・	上籠・下籠・津代・ 恒内・大平見	尾瀬名・定使・タナメ・ 増当

内之浦町の地名（数値的分析）

人文地名　２０３(53.7%)　　自然地名　１６７（44.2%）　　意味不明　１８

大字	北　方		南　方		岸　良		計	
小字数	151		128		99		378	
1)信仰地名	17	**11.3%**	12	**9.4%**	4	4.0%	33	8.7%
2)集落地名	5	3.3%	11	**8.6%**	9	**9.1%**	25	6.6%
3)区画地名	3	1.9%	6	**4.7%**	4	4.0%	13	3.4%
4)交通地名	9	**5.9%**	8	**6.3%**	5	5.1%	22	5.8%
5)水利地名	8	**5.3%**	4	3.1%	5	**5.1%**	17	4.5%
6)人名地名	1	0.7%	7	**5.5%**	3	**3.0%**	11	2.9%
7)開墾地名	8	5.3%	6	4.7%	11	**11.1%**	25	6.6%
8)産業地名	4	2.6%	2	1.7%	5	**5.1%**	11	2.9%
9)田畑地名	22	**14.6%**	12	9.4%	8	8.1%	42	11.1%
10)瑞祥地名	1	0.7%	3	**2.3%**	0	0	4	1.1%
11)自然地名	8	5.3%	6	4.7%	7	**7.1%**	21	5.6%
12)位置地名	23	**15.2%**	19	**14.8%**	12	12.1%	54	14.3%
13)形状地名	7	4.6%	10	**7.8%**	6	6.1%	23	6.1%
14)目印地名	11	7.3%	11	**8.6%**	6	6.1%	28	7.4%
15)浸食地名	0	0	0	0	4	**4.0%**	4	1.1%
16)湿地地名	15	**9.9%**	12	9.4%	10	**10.1%**	37	9.8%
17)意味不明	9	**5.9%**	5	3.9%	4	4.0%	18	4.8%

地 名 研 究 会 報

第７９号　　平成１５年３月２日
鹿児島地名研究会

Ⅰ.第79回例会　　平成14年12月１日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　今村誠一・上野堯史・池田　純・納　栄蔵・小山田　稔・川野雄一・坂本　誠・諏訪園　保・築地成郎・繁昌正幸・平田信芳（計11名）

Ⅱ.大日本地名辞書読会　　P.1772～P.1773　木崎原・加久藤・白鳥池・真幸・高牟礼神社

Ⅲ.参観交替路を歩く

〔問題となった地名および事項〕

えびの市の官道遺構・木崎原・白鳥池と白鳥山・大隅国と日向国の連絡路・参観交替とは・参観交替のルート・島津重年の参観交替路・都城～高城～高岡・高岡～佐土原・佐土原～都農・街道の日本史・倉岡番所・参観交替の実状・南林寺・野外郷土史講座ノート・人名辞典作成計画

えびの市の官道遺構

平田　今日読んだ所から。木崎原は行ったことがないのですが。たまたま、４日の10時から、えびの市教育委員会が日向国の駅路：官道を見付けたということで記者発表をするそうです。そんなことを知ったのは古代交通研究会長の木下良氏から手紙が来て、３～４日えびの市に行くから、落ち合おうとの連絡があったのです。いわゆる現地説明会です。日向国から肥後国へ連なる駅路と言っているけど、これは大隅国につながる駅路と思うので鹿児島県の埋文センター関係者が見ておく必要があると思う。繁昌君、えびの市教育委員会に連絡を取ってみたら、役に立つと思います。私は３日に出かけます。

（えびの市の官道遺構については12月５日の南日本新聞を参照されたい）。

木崎原

平田　木崎原に行ったことのある方は手をあげて下さい（３名）。少ないですね。私は行っていないのですが、えびの市の発掘現場を見に行くために２万５千分１図を買ったのです。そして今日の所を下読みしたら買って来た地図がたまたま一致したわけです。

これなども、２万５千分１図ですが、木崎原の文字は入っていません。結局『宮崎県の地名』（平凡社）と見比べながら、どこに飯野城があり、どこに加久藤城があり、どこが木崎原かと理解していった次第です。歴史を理解するためには、５万分１図では小さ過ぎる、２万５千分１図が便利だなと今更ながら感じた次第です。

白鳥池と白鳥山

池田　私たちは山登りをしますが、白鳥池という言い方はしません。六観音池という。

平田　六観音池？

池田　はい、これが一般的です。白鳥池という言い方は初めて聞きました。白鳥山という山があって、その下の方に六観音池がある。

平田　六観音池というのは、えびの高原の

下の方ですか？

池田　こっちに白鳥山があって、韓国岳の下の方になります。

平田　池めぐりというコース？

池田　そうですね、あの中に入っている。

平田　あれがそうですか。六観音池というのはよく聞きますね。

池田　白紫池・六観音池。それと、えびの高原一帯に不動池というのがある。

平田　白紫池というのがスケートをする所ですね。

池田　そうですね。

平田　韓国岳に登る時、下の方に見える池ですね。

池田　そうですね。多分、見えると思います。

平田　白鳥山は、元禄年間に東大寺の建て直しをする時、柱の用材を白鳥山で切り出しています。そして浜之市から積み出しています。それともう一つは、志布志から積み出したという記録があるのです。白鳥山から川内川沿いに来て、栗野に出て来ます。栗野町の木場に、遺跡名は忘れましたが、木馬道みたいなのが確認されています。栗野から浜之市まで、どこを通ったかは判っていません。昔の駅路を引っ張って降りたのか、バイパスがあったのか、そこらは判りません。

大隅国と日向国の連絡路

池田　昌明寺の温泉というのは、吉田温泉のことですか？

平田　吉田温泉のことだと思うけど。（黒板に貼ってあった２万５千分１図を見て）此処が昌明寺。吉田温泉と書いてあります。西南の役と時には、大抵、吉田温泉に泊まっています。

地形から考えると、大隅国から日向国につなぐ道は、此処が一番通り易い所でしょうね。この辺は古代の駅路が通り、古代末から中世には真幸院があり、北原氏が支配していたのを島津氏が滅ぼし、そこに伊東氏が乗り込んで来て争奪戦が展開されます。木崎原の合戦で島津氏が勝利を納めた所になります。木崎原合戦は島津義弘のことばかりが言われますが、島津義久も軍勢を出しています。義久は小林を攻めて落とすことが出来ず、兵を休ませるために飯野城に入ります。飯野城で義久本隊が休養している間に、城を兄貴に任せて義弘は打って出ることになります。城をがらあきにして出たら、いつ攻められるか判らないわけですから。その戦いには義久もからんでいたのです。（編集時後記：木崎原合戦は５月４日、飯野城を守ったのは有川貞真。義久の飯野城着は８月18日。８月23日に高原城を攻め、８月24日に小林城攻略）

上野　吉松とえびの市の間には、坂らしい坂はほとんどありません。一体化している地域です。僅かな坂の所を登って行けば、鹿児島県と宮崎県の境の石碑がある。それに鹿児島から何里、宮崎へ何里と書いてあります。それを見ると、言われるように大隅国と日向国を結ぶルートだなと思います。

平田　重要なルートになる。

上野　道路も改善されているのだけど、これに書いてあるのを見ると、10号線を行く距離とはほとんど変わらない。数キロも違わない。現在、道路を変えようとしているのだけど、それでも数キロも変わらない。昔からの道だろうと思う。私が歩いた10号線あたりは昔は全く出て来ないのではないか。江戸時代にはあるかも知らんけれども、中心は吉松・えびの経由の道だろうと思う。歩いたことはないのですが、どうなんですかね。えびのから高原そして高岡まで行けば、わりと平坦な道。

小山田　そうですね。霧島の向う側はバスで改良された道を通ってもあんまり大きな坂はないですね。

平田　あゝ、そうですか。結果的に見ると島津荘ということで都城の存在が大きくなるにつれて、都城：島津荘から国分につながる道ということで鹿児島側が強く意識し過ぎたのかも知れない。都城経由の日向街道が重視されるのは、明治になってから都城聯隊が出来て、福山港からいろんな物資を運ぶ輸送路になり急激に重要性を帯びて来たことに引きずられているのじゃないかと思うのです。

日向と大隅を結ぶ道のヒントは、今度えびの市の道路遺構を見て、どのように大隅とつなげるかについての意見交換によって見出されるのではと思うのです。従来、宮崎県は宮崎県だけで駅路を考えていたし、鹿児島の歴史家が鹿児島県内だけを考えていて、両方をつなぐことを考えなかったと思うのです。全然宮崎県側のことは知らないわけですから。

『大日本地名辞書』読会も日向国の最後のページになって、なんとか地図などを見てやれば理解し易いなということを感じた次第です。

小山田　宮崎に行くには、どっちかというと、やっぱり都城でなく真幸の方。

平田　どっちが近いですか？

小山田　バスで行っても、真幸ルートが早い。都城を回るよりも。

平田　真幸ルートが近いですか。

小山田　真幸の方が早い。

平田　えびの市の埋文担当者と連絡した時何で来られますかというから、汽車で行くよと言うたら、特急バス“はまゆう”に乗って下さい、天文館から出ます、というのです。それで天文館に行って調べたら、９時から16時まで大体１時間おきに出ているのです。そして１時間20分ちょっとで行くのです。近いなと思ったのです。溝辺からえびのと言ったらすぐですからね。料金もわりに安いのです。鹿児島空港までが1200円でしょう。えびのまでは1500円だから。韓国岳に登るには“はまゆう”を利用した方が気が利いているかも知れない（編集時後記：特急バスは登山口を通らない。他のバス会社の既得権保護の運行で客の利便性は全く考えない仕組みである）。そんなに近い所ですが、ほとんど知られていなかった所です。他にありませんか。なければちょっと休憩しましょう。

参観交替路を歩く

――高岡筋の場合――

上野堯史

参観交替とは

私にとの指名があったものですから。お手元に参観交替の資料その他を配付してあると思いますが、今朝あわてて「本日の要旨」を作りましたので今から配ります。５万分１図を使って説明します。２万５千分１図ならばこれの４倍になります。３年ぐらい前ですか西南戦争の西郷本隊のルートを、ある先生の

本をもとにして歩いたということで発表させて頂きました（会報65号、平成11年12月）。西南戦争の敗路を辿れば今日出た木崎原とかも通ることになるのですが、それはあんまり気乗りしないもんですから、今は参観交替の方を研究しています。これは研究している人がほとんどいないので何も本はありません。

参観交替について、ちょっと触れます。正確な文字は、やっぱり「参観交替」がいいのじゃないかと思います。２年前生徒を使って文化祭で発表したら、校長が来て勝手にこの文字を変えていました。後で気付いて憤慨したのですけど。この字でなければいかんわけです、本当は。実際に参観交替に関する島津家の史料・公刊史料なんかを見る限りではこの文字は出て来ないのです。参観交替という言葉はないのです。「述国に行く」という表現です。要するに幕府の鹿児島支店長が報告に行くという形。日銀支店長と見ればちょうどいいのじゃないでしょうか。大体各県に一つぐらいあるのじゃないでしょうか。報告に行くというような表現で、参観に行くという表現は見たことがなかったです。あちこちから出て来る言葉からすると、参観交替が正しいのじゃないでしょうか。帰って来るのも「下国」とかいう言葉はありますが、交替という言葉は全くありません。そういうことに気付きました。他の藩には参観交替という言葉があるのかも知れません。

参観交替のルート

皆さんがよくご存知のルートは、鹿児島→伊集院です。これは美山に泊まります。一日目は美山まで。二日目が川内までいきます。三日目が阿久根、四日目が出水。それから後は熊本県（肥後国）に入って行きます。そのルートが最も有名ですが、これは私が調べた範囲では18世紀の後半から一般化しているようです。何故かというと、その頃に道路が整備されているのではないか。相良侯も通りますし、八代藩主も通るわけですから。

最初の頃はどのルートかというと、２番目の鹿児島→伊集院→川内、そして川内から船で行くのです。平戸を通って、東シナ海をぐるーっと回って下関に出る。あとは瀬戸内海。これが初期のルートです。

鹿児島から加治木へのルートですが、私が見た範囲では、実際に歩いているというのは書いてないのです。鹿児島→福山というのは出て来ます。鹿児島→福山というのは船じゃないだろうか。福山までは船。福山から都城そして高城。この場合は「タキ」でいいのですね。都城のすぐそばにあるのは。

平田　タカジョウ。

上野　「タカジョウ」ですかね。

池田　タカジョウ。

上野　高城そして高岡。それから佐土原、高鍋、細島。細島から船で日向灘を北上します。鹿児島からず一っと行くいわゆる３号線ルートですが、これも門司から船で行ったりします。門司の大里(ﾀﾞｲﾘ)という所から船で瀬戸内海を行ったりします。一般的には下関まで渡った後、船で瀬戸内海を航行します。

大里から船で行く時の記録があるのですがあの島津重豪なんですよ。改革をしたと言えばよいのか、銭を沢山使ったと言ってよいのか、あの重豪公なんです。その時の船の名前なんか、全部書いてあります。それを勝手に解釈してこのように並べてみました（図を示して説明）。真ん中の赤い印が殿様が乗ったであろう船：御座船ですね。回りをいろんな船が囲んでします。そして曳船で曳く。帆で動かない時もありますから曳船で行くという感じです。曳船は鯨捕りをしている所であれば恐らくどこでも経験しているだろうと思うのです。鯨を曳かなきゃならんから。

こうして沢山の船が付いて行きます。湯殿の船とかも此処にあります。此処に玉江丸というのがあるのです。平田先生に話したら勿論否定されたのですが、玉江というのは玉里から江戸に行くということでお由羅の頃に付けたのじゃないか、と。半分は冗談も入れて言ったのですが、明らかに玉江丸とありますから地名なり名前なりがどこかにあったのだろうと思います。

これが1770年の出港です。この場合は勿論瀬戸内海を大阪まで行ったことになります。だから船を回さなきゃならんわけです。船を回す時に日向灘を通って行くルートは非常に危険です。川内から日向灘に行くルートがあると書いてあるけれど、現実にそのルートは見ていないのです。やはり平戸を回って行くルートが主体です。

初期に平戸を通って行ったという一番の理由は、まだ細川ともなじみが薄いし、加藤とは勿論なじめない、その後もなじめない。いつ撃たれるか判らないから歩きにくかったのじゃないかと私は想定しています。世の中が安定して来てから平戸回りを止めたのではないか、と思います。

島津重年の参観交替路

私が歩こうと考えたのは福山～都城というこっちなんです。これは宮崎からの地図ですから、福山からつなぐと大きなものになるのですが今日はつないでおりません。このルートを歩いて江戸まで行こうと考えています。プリントに「高岡筋を歩く」とありますが、このルートは島津重年公の参観交替路です。この方は加治木と縁がある方で、加治木島津家から本家を継がれた方です。例の木曽川改修工事の後家老平田が切腹しますが、その後間もなく重年公も亡くなられるのです。参観交替をしておられた期間は短いのですが、この方を採りあげた一番の理由は、唯一いろんな地名が出て来るのです、その記録の中に。他のは出た時と着いた時しかない。江戸と鹿児島を書いてないのもあります。重年公の場合はよく書いてある。重豪公の場合もこのルートの経路がよく書いてあります。

重年公は江戸を４月23日、これは勿論旧暦です。江戸を４月23日に出て、旧暦６月19日鹿児島に着いています。このルートを私は逆に辿ろうとしているのです。それにはまず鹿児島から福山まで船で行かにゃならんのですが、船を借り切って行くと、えらいことですから（笑い）。これは一応省略、と。

現実に加治木まで何回も歩いていますからそれでいいだろうということで、汽車とバスで加治木から福山に行き、歩きました。それでよかろうと勝手に解釈しています。　出来るだけ参観交替のルートをと思うのですが、もうはっきりしません。所々、参勤交代に使った道というのが書いてありますので、その時は歩きますが、福山から歩くにしても非常に難しい道です。今日のプリントに歩いたルートが冊子にしてあります。

「参観交替路を歩く」ということで、福山から始めています。福山町の役場、やはり、あれが中心だということで基点にしました。大体今の道路に沿って歩かんと、昔の道を歩くことはちょっと出来ませんので参観交替の

気持だけは体現するということでやっています。

上之茶屋とありますが、「ウエンチャヤ」までの所に「日州街道」という旧参観交替の道があるのです。此処までは約二百数十㍍なんですが、これが真っ直ぐ上っています。昔の人は曲がって歩くのは、まずせんかったと思うのです。そして、この上之茶屋からは昔のルート、あの例の誰ですか、死んだ人、あすこの戦いで。

平田　島津忠将。

上野　あのお墓がある。あっちへ上る道があって、あの道を昔は行ったみたいです。今は藪になって全然歩けません。一応道があることになっていますが。仕方がないので今の道を通って廻城の入口の近くを通ってという形で行きました。あとは10号線を真っ直ぐ行きましたので、そこに書いてあるのを見て貰えばいいのじゃないかと思います。

都城の市役所まで 27.56 Km. これは１歩を72cmで計算した数値です。71cmにすると距離がちょっと減るかも知れません。この距離をどげんして確認するかと言えば、こういう大きな道路は皆１Kmごとに標示があります。極端に言えば、100m.おきにあるのです。100m.おきは、私は信用しないのですけど、１Kmおきののは多分正しいだろうということで、１Km歩いた間を歩数で割っていけば、大体自分の１歩の長さが出て来ます。それでいくと大体72cmから71cm。それで計算してありますので、車で走った場合とは違いがあるかも知れません。車で走ってもタイヤの上等とボロとでは、ちょっと違うのではないかという気がせんでもありませんが。これで約６時間かけて歩きました。

都城～高城～高岡

次を見て頂きますと、此処からがちょっと厄介だったのですが、実は第２日・第３日というのは私に合わせて書いてあります。私が歩いた２日と３日というのは、実は１日で歩いているのですけど殿様にとっては２日分の距離になります。

都城の市役所前を出たのが2000年11月11日（土）。これが宝暦３年６月の６日・７日に対応します。当時の暦を付けてあると思うのですが。

平田　一番うしろ。

上野　はい、一番うしろにありますか。これは私しか持っていない、コンピューターで計算する暦です。例えば、ザビエルがいつ来たかということが判れば、その頃を打ち込めば西暦で日付が出るように、土・日も出るように暦を作っています。西暦でいうと1753年７月６・７日、木・金曜日を歩きゃったということになります。そこを私が遡って行く形になります。

都城から本当は高城まで歩くべきだったのです。これはあんまり短い距離なので、僅か13Kmぐらいですから、それなら思い切って高岡まで歩こうと思って歩きました。これは無茶だったなと、後で考えるのですが。

この辺の所では、高城がお城がありまして昔の中心地だなと思わせる部分です。穂満坊お寺さんです。こういうのがあったりする所です。ちょっと先に観音寺とか香善寺とか、そういうのがあり、やはり昔のおもかげがあります。有水万年橋とありますが有水からは登りなんです。登ったり降ったり、これからが大変な山道になります。今は道路が良くなっていますが、昔は大変だったろうと

思います。だから先程の話の時に、こっちじゃないなと感じたわけです。大隅・日向をつなぐのはやっぱりもっと楽な坂の高原方面だったのじゃないかなと考えるわけです。多分西郷軍も此処はほとんど通っていないだろうと思います。確か高原方面から下って行っていますよね。

それから後は、もう山の中を歩くので目印になるアイショップとか店を目印にせんと、あとは山で杉の木を目印にするわけにいかんわけですから（笑い）、こんなふうにしてあります。YAMAAIというのも店の名前です。食堂みたいなのが時々あります。やっているのかやってないのか判らない食堂です。それから四谷鉱山とありましたので、昔、鉱山があったのかなと思いました。それから暫く行くと、ボートピア。これは競艇の所です。さらに行くと、有名な去川。サルカワ・サリカワですかね。

平田　サルカワ。

上野　去川関の所に来ます。小学校などがあり、これも一つの中心だなと思いました。この辺は歩道があったり、なかったりです。歩いていて町が近づくと、すぐ判ります。歩道が出て来ますから。歩道が切れたら、あぁ町はこれで終り、と。これは一つの目安だと思います。３号線を歩かれたことはないだろうと思いますが、３号線も確か歩道が切れた時があります。どっちを歩こうかと迷ったことがあります。脇に農道が走っている。こっちを歩こうかと思ったぐらいで、３号線すら歩道のない所があるわけですから、10号線はなおさらのことだろうと思います。都城に行く道路でも歩道のない所が沢山あり、危ないなと思います。

唐崎橋を渡り、唐崎トンネルを通ります。トンネルの中、これは危いです。歩道は全然ありませんから。まぁ短いから良いようなものですが。それから面早流。ちょっと読み方は忘れたのですが、これは橋です。この橋を渡ると、面早流というバス停があります。バス停の所で見たら歩道はなさそうなので、川に沿った道を行くことにしました。多分、同じ所に行くだろう、と。近くの人に聞いたら、なんとこれが旧10号線だと言われるのです。川向(カワムカエ)の方にも旧10号線があるということで、その旧10号線を歩きました。約２Kmぐらい歩きまして、現在の10号線に川口橋という所で合流しました。

高岡の町に出て、役場前を終点にしようと思ったのですが実際に役場前まで行っていません。これは大体のところです。もう暗くて役場がどこかも判らない状態でした。その辺に人は全く歩いていません。店の中には一人いるけれども道を歩いてる人は全くおらず、この日道路を歩いていたのは恐らく私が一人じゃないかと思うぐらいです（笑い）。それが実情です。これで2000年の歩きは終りました。

高岡～佐土原

2001年に歩く予定は全くはずれました。第４日目としてありますが、私にとっては３日目なんです。一応、４日目としてあります。2000年とあるのは間違いで、2002年11月19日です。平田先生から発表をということでしたので、一つぐらいは増やさにゃと、良い日を待ってるのですが、ご存知のとおり10月から11月はしょっちゅう雨が降るのです。兎に角歩こうと思った日は必ず雨続きで、歩かないと思った日は晴れで、どうもうまくいかず、

この日は若干心配でしたが、でかけました。此処を歩いたのは重年公の場合は1753年７月４日（火）です。たまたま曜日が一致しました。７月４日というのは、夏ですから、夏を歩いたら死ぬんじゃないかと思いますけど。昔の人は丈夫だったのでしょうね。また樹木も生い茂っていただろうと思います。今とすると道は狭いし、そんなにまぁ死にもの狂いで歩くことはないだろうとは思います。

高岡麓を出発し、役場の入口の所の交差点を過ぎまして、柴手橋という所に来ます。此処から高岡の城が見えるのです。綺麗な城。あれは天ケ城。

池田　天ケ城(ｱﾏｶﾞｼｮｳ)。

上野　そこがきれいに見えます。よく整備されているようです。それから国富町境までほとんど距離はありません。国富町境からまた登って降りた所に広域消防本部がありま す。そばに美味しいダンゴやら売っている所があります。行かれたら是非ひとつ。ちょうど向い側にありますので。此処で休憩しました。休憩というたら、そこでダンゴを買って食うたと考えてもらえばよいです。

国富町嵐田。「ｱﾗｼﾀﾞ」だと思います。此処は交差点なんですが何十ﾒｰﾄﾙもなかうちに本庄川があります。本庄川を渡って行った所にバイパスの入口があり、見たら歩道がなさそうな気がして、仕様がないということで旧道を本庄高校前・本庄小学校と行きました。曲がって下りて行きますと、バイパスの合流点に出ました。本庄小学校からちょっと行った所に、道路脇に古墳がありました。説明が付いていましたが、文章は記憶しておりません。コンピューターの方には写真も入れてあります。

エデンの園というのは老人施設です。六野みずな会直売場、これは坂を登りきった所です。それから西都市境、そして茶屋という所になります。此処から西都市に行くルートと都於郡に行くルートとが分かれます。此処で私は右折して都於郡の方に向いました。回りにコスモスがきれいに咲いています。聞いてみたら宮崎県は道路脇をそうやって飾るようにしているみたいです。その一環として此処は老人会がやっているんだという説明を受けました。

あとは坂です。江藤商店、途中にあった店です。八木佐野BS、BSはバス停、Bus Stop.そして都於郡町のバス停。此処まで約16Km.それから都於郡城址。城址前という交差点があるのです。この城址前から妻に行く、いわゆる西都市に行く道路があって、それが真っ直ぐ佐土原に向かっているわけです。本当は此処でもう良かったわけです。次の日、此処から歩き始めればよかったのですが、佐土原を通ったのじゃないかと思ったのです。佐土原は鹿児島と結び付きの深い所ですから。私は間違って、もとの佐土原じゃなくて現在の佐土原駅の方へ行っちゃったのです。本当は都於郡中学校から山道の方に行けば都於郡に出る道があるのです。そっちへ行くべきであったと後悔しております。

高屋神社がありまして、この後は道路がよく整備されております。相ケ谷(ｱｲｶﾞﾀﾆ)だったと思うのですが、見下ろすと遙か下の方に高速道路が走っているのです。例の新しく出来ている東回り高速道です。何十ﾒｰﾄﾙも下を道路が走っているのです。此処で旧道と合流しました。ずーっと旧道を行けばよかったのですが、バイパスの方を行きました。

久峰公園。これが佐土原町の町民の憩いの場所になります。うどんとかそばの店があって大きく宣伝していました。

そして佐土原駅に行きました。役場は佐土原駅の近くにあるのです。だけど、昔は此処からどのくらいなんですかね。今まで私が話したのは、宮崎駅が此処ですから（５万分１図を指しながら説明）、此処からバスで高岡まで行きました。約１時間です。それから歩き始めまして、佐土原は此処ですね。しかし此処は現在の佐土原、昔の佐土原は此処なんですよ。これが約７～８cmぐらいですから、大体１里。８cmだと４Kmになります。

佐土原～都農

最新の歩いた記録、27日のがあると思います。そこまで行ってから歩こうかと、だいぶ迷ったのです。此処から先のルートが実ははっきりしないのです。佐土原から後は妻に行くことは考えられません。佐土原の旧い町から昔行ったのは新田原。新田とか伊倉とか追分などです。全部、地名が５万分１図にも出ています。それらを辿って高鍋を過ぎて猪窪。ところが猪窪というのが地図で見つからんのです（編集時後記：塩付と川北の中間）今日はちょっとお示し出来ません。

これは妻ルートです。多分通っていないと思います。妻――下穂北――三才原。下穂北は判りますが三才原はちょっと判りませんでした、５万分１図では。（編集時後記：三才原は畦原と湯ノ宮の中間）。それから、畦原――市の山――椎木――木城、これが例の大友との戦争があった高城合戦ですかね。唐瀬――塩付、これは地図にあります。また猪窪が出て此処でつながるのですが、どうしても猪窪が判りません。（編集時後記：明治中期の20万分１図に三才原・猪窪の記載あり）。この後、川北に行きますが、これはもう都農です。都農で合流するとよく書いてありますが、都農の入口付近なのかそれとも手前なのか、ちょっとそこは判りません。

最後の行程を見て頂ければ判りますが、第５日目としてあります。これは重年公が７月３日に歩かれた所です。都農に泊ったという記録はないのですが、７月２日に細島に出て３日に都農を出発するわけですから、２日に都農まで来たと解釈出来ます。

まぁ今日は都農まで歩けばいいと考えました。ひょっとすると細島までかな、と思いましたが、これは到底無理な行程です。さらに30Km近くあります。一日では夏の時期はやっぱり無理。多分これは分けただろうと思います。

佐土原を出て、一ツ瀬川、日向大橋。私は川というのはこんなものかと思いました。鹿児島県では川内川に匹敵するのかな。渡ると新富町の標識があります。約600ﾒｰﾄﾙぐらいの長さの橋です。それからすると、鹿児島の甲突川なんかは溝ですね。セメントで塗り固めて、なお溝に似たような気がします。こんな橋をと感心しながら渡りました。

それから宮崎県の場合、こんなふうになってるというのが判りました。市街地があり、その中を旧10号線が通っているのです。ところがバイパスは全部周辺部を通るようにしている。最近は鹿児島県もこういうふうな傾向があるようです。だからそういう所では旧道を通るようにして行くのですが、それも判らん所があるのです。そこは自分の判断です、その場限りですから。５万分１図には書いてありません。２万５千分１図の方がいいのか

も知れません。兎に角もう自分の想像でその辺を歩きました。永谷ＢＳ、右側に歩道、まだこの手前ですね、南富田、右に入る。この辺は全部旧10号線だと想定して私が入ったと考えていいです。あとは10号線を歩いて行くだけなんです。

高鍋町の高鍋大橋。これも大きな橋です。渡りきると消防本部があって警察も確かそこにあったと思います。ずーっと坂を上って高鍋を通りすぎると、持田古墳群の案内板が10号線のすぐ脇に立っております。そばには湖というか、池：用水池もあります。

そして川南町に入りました。川南町の町の中を旧10号線が通っていました。おばさん達に聞いたら旧10号線だとのことで自信をもって歩きました。写真撮影をと思ったら、旧10号線の案内板が都合良くちょうどそこに残っていました。それで、なおよく判りました。それからトロントロン交差点というのがあるのですよ。何のことだか判らないのですが、「トロントロン」と書いてあるのです。片仮名だったと思うのですが、それだけは疑問を持ちながら歩きました。

都農町に入り、都農町の市街地を歩きました。多分これは10号線だろうと思います。北町交差点を右折、役場前。役場まで本当は行くべきだったのですが汽車の時間が気になり都農駅に直行しました。此処までが８時間という行程になります。

他にも時間を書いてありますが時間はもう一遍自分でも計算してみます。というのは、今日配った第５日目の資料は正しく計算してあるのですが、以前のは計算が間違っているのじゃないかと思います。

そういうことで私は歩いております。12月か１月には細島まで歩こうと考えています。今まで何回か車で行ってルートは知ってるのです。そして次は船で大坂に渡ります。大坂から姫路に行き、姫路から歩きます。というのは昔は姫路に上陸したからです。姫路から大坂へ、そして京都へ行って、東海道を歩いて江戸まで行くには、さて何年かかるか。

現在60才ですが、２・３年前に人吉から八代まで五十数ｷﾛﾒｰﾄﾙを夜歩いたという元気はもうないです。どうしてもここ１・２年の間にしないと体力が弱って歩けなくなります。また二日連続は歩けません。最低、中一日は置かないと歩けません。昔の人は丈夫だったんだなと思います。

なお参観交替を調べていて、ちょっと可哀そうだなと思ったのは、途中で死ぬのです。藩士たちが病気で死んだり、江戸で死んだりする。島津の殿様だって極端に云うと半分ぐらいは江戸で死んでいるわけですから。そういうのを考えると、昔の人にとってもやはり苛酷な旅だったのじゃないかなと思います。何かの参考になればと思います。

平田　こっちの説明は？

上野　これは、現在読んでいる本の名は？

平田　大日本地名辞書。

上野　大日本地名辞書で鹿児島県と宮崎県の関係した部分をピックアップして年代順に並べ替えたものです。２枚が西南戦争関係、１枚が戦国時代関係です。復習される時に資料として使って頂ければ、ということです。これで復習して、やっと自分なりに理解出来たと思います。

〔質疑応答〕

街道の日本史

平田　どうもご苦労さまでした。今、吉川弘文館から「街道シリーズ」出されており、鹿児島県関係はまだ現物を見ておりませんが南島ルートの本（街道の日本史『鹿児島の湊と薩南諸島』）が、本屋に出ていると思います。出水筋（『薩摩と出水街道』）が平成15年度の出版予定です。先日、掲載する写真を送れと急々に言って来ました。写真などは昔撮ったものを簡単に探し出すことも出来ないし、今から写しに行くにしても冬は天気の良い日は少ないわけですからあわてさせられます。２年前に原稿を出したのですが、その時に写真をと言えばじっくり対応出来ただろうにと思います。出版社は藪から棒に急々に言って来ます。それは兎も角としても鹿児島県の分は今年から来年にかけて出るだろうと思います。

それから見てはいませんが、流行なんでしょう。似たようなものが出て来るようです。朝日新聞社が日本全国の街道シリーズを編集しているようです。

上野　週刊誌みたいなものですね。

平田　そうです。週間か旬刊。

上野　参考に出来ればよいのですが、あまり期待出来ない。

平田　一般向きでしょうからね。娯楽中心というか。吉川弘文館のものは各県の研究者に執筆させていますから、まぁましでしょうが、あれも商業主義のものですから全国を揃えるとなると大変です。

さて、今後も歩かれるそうですが、質問があったら出して下さい。

倉岡番所

池田　高岡から。

平田　高岡から本庄。

池田　そうですね。本庄の方。そっちへ行ったのでしょうか。倉岡まで薩摩藩だからあっちの方へ行ったのかなと、ちょっと思ったのですが。

上野　普通はそうかも知れませんが今度の場合は都於郡に泊まったとあるのです。都於郡から倉岡へは逆方向になります。だから、多分あのルートだろうと思いました。県道24号線なんです。

倉岡と去川に関があったのですかね。

平田　去川関だね。（編集時後記：倉岡には津口番所があった）。

上野　去川は渡舟ですね。それの場所もあります。本来ならあすこを通って宮崎から豊日街道というのを通っただろうと思うのです。他に通った道の記録があるかというと、私が見る限りではないのです。宮崎ルートが沢山地名が出て来て正確に書いてあると言っても僅か２例です。

参観交替の道

平田　参観交替路というのを調べたことはないのですが、薩摩の場合は旧記雑録がありますから、それに参観交替の日記とか記録などは収録されていると思います。参観交替の道は老中に届けた道でないといけない。勝手にあっちこっちに行けないということが一つ。それから鹿児島では出水筋を通る場合と高岡筋：日向国に出る場合、それから大口に出るルートもあるのでしょうが、今度はどこを行こう、どの道をとろうというのはその藩で検討して藩主の意向によって通って行くわけですから、大口筋を通った参観交替もあったかもしれませんね。

上野　それはあっても、幕府の指示が必要です。

平田　それは、そうだ。

上野　参観交替は 260例ぐらいあります。しかもこれは殿様だけじゃないのです。光久の場合なんかは、子供も行く、孫も行く。子供の綱久という方は死にましたけど、孫が跡を継ぐ（綱貴）。３代、同じ時期に動いています。途中浜松で話をしてすれ違うという例もある。それからルートは決まっていますが、一つだけ大変な記録があります。船で帰る途中、あまりに暑くて広島に上陸し、山口まで行くのに１ヶ月ぐらいかかっているのです。そんな馬鹿げたことはないわけですが、多分ルート変更を幕府に申し出た結果なんでしょう。

平田　許可をもらったのでしょうね。

上野　大坂城代の許可を得るまで待ってたのじゃないかな。そう思えば１ヶ月ぐらい空費したのも説明がつくのです。

それから帰って来たら、帰って来たか帰り着かんうちにすぐお礼の使者を送るのです。この使者も大至急にやります。これは行列で行く必要はないわけですが、必ずお礼の使者を出します。実に無駄なことをやっているのです。

参観交替を逐一調べていたら、例えば将軍が鶴を下さった、と。その鶴を運んで来るのです。途中で死んだらどうするのかなと思ったのですが、まぁ運んで来る。それを運ぶ役が十数人。藩邸から運ぶのです。これは体の良い一種の服属（帰服）です。古い形式の帰服儀礼です。将軍が祝いの品を色々呉れる。そのたびに運ぶのです。その意味ではルートが決められていてよかったのじゃないか、と思います。それから、家老が報告に行く時の早さ・スピードから見ると、途中は民間の船で瀬戸内海をすっ飛ばして大坂に着いたのだろうと思います。

ついでもう一つ言っておきます。参観交替に行こうとして島津忠義が例の井伊直弼の事件で、途中の福岡から引き返す。あれ以後、行っていないのです。忠義公は戻ってからは一遍も行っていない。あれ以降いったのは、久光です。江戸に行って幕政の改革を迫る。実はその時、初めて蒸気船を使ったのです。大坂まで蒸気船を使います。その時の航路は日向灘です。参観交替の終末が蒸気船で終ったというのは、考えてみると非常に象徴的じゃないかと思うことがあります。

平田　薩摩の場合、もう一つ、琉球を支配してますね。琉球国王が代わるたびに謝恩使というのを出す。そして、将軍の代替わりに慶賀使というのを出す。琉球の使者が行く時には薩摩の殿様が必ず付いて案内して行くわけですから、琉球の記録も調べるといろんなのが出て来ると思うけど。

上野　私はそれを参観交替とはとらえませんでした。本質的には本土からのものと考えて敢えてそうしました。260回ぐらい往復しているのですが、考えてみたら年数にすると260年なんです。

平田　ほとんど毎年だね。

上野　私は1620年から計算しています。それ以前のは参観交替なのか政治交渉に行ったのか、そこはよく判らないのです。家久が妻子を連れて行く1624年頃から計算するのですが、この辺が始まりと見ているのです。それ以来ちょうど 260回ぐらい往復しています。しかし実際は島津重豪の場合、跡を継いだ時は、まだ。

平田　５才ぐらい（後記：加治木島津家を継ぐのが５才、本家を継ぐのが10才）。

上野　年齢はまだ一桁です。だから、成人するまでの間は幕府の役人が来て、いろいろ監視したり監督してやっています。結局７～８年、江戸から動いていない。その間、参観交替はなし。それから５代将軍の娘を貰った人は誰ですかね（20代綱貴）。その方は江戸に居って調子が悪いと言って鹿児島に戻らずこっちに来てもやっぱり調子が悪いと言って上京せず、そういう将軍とのつながりで我が侭がきいたのでしょうけども、相当サボってますね、この方は。１回行くと、相当財力を費やしますから、多分それを暗黙のうちに認めたのかなと思います。

重豪が幼くて戻って来れなかったという一番の理由は宝暦の治水で薩摩藩が疲弊している状態に対して、幕府に温情があったのかとも思います。

池田　お城（鶴丸城）が焼けたから免除したということもあるのでは？

上野　それは幕末の例の大騒動の時に、わざと藩邸を焼いて、藩邸がないから行けないという時のことです。いわゆる江戸藩邸焼討ちです。それ以前に実際は江戸を離れています。その頃は奥方は江戸から帰ってもいいとにしたから、皆国元に引きあげています。

参観交替で私が感じたことは若い人がこれを研究していけば、日本の交通を知ることになるし、経済も政治も見えて来る。ちょっと言わしてもらえば、アフガニスタンですね。話が横道にそれますが、私は女房に言うのです、タリバーンと同じだ、と。有力者の奥さんとかを皆中央に集めておいて、好きなようにせよと言っても、どうにも出来ませんよ。奥さん達が人質になっている。その辺のやり方は江戸時代の日本はうまかった。アフガニスタンには失礼だけど、私はあのレベルだと思うのです。これを国連に言えば採用されるのじゃないか（笑い）。

池田　北朝鮮もそうですね。海外に行く時は家族全員は絶対出さない。家族を置いて、本人だけ。

平田　他にありませんか？

南林寺

納　「野外郷土史講座ノート」に書いてあることですが、この中に南林寺とあるのです。

平田　はい、南林寺。

納　南林寺の読み方を、都城の鳥集（ﾄﾘﾀﾏﾘ）さん。

平田　ゴッタンで知られた人ですね。

納　南林寺のことを書いておられます。この人は南林寺にわざわざ「ﾅﾝﾃﾞｼ」と振り仮名を振っているのです。どうして「ﾅﾝﾘﾝｼﾞ」が「ﾅﾝﾃﾞｼ」になったのか判らないのです。「ﾅﾝﾃﾞｼ」というのを聞いた人がおいやっどかいと思うて。

平田　さぁー、ラ行音はダ行音に化けますよね、鹿児島では。落花生が「ﾀﾞｯｷｼｮ」。

納　私もそのように解釈してるのです。ラ行音がダ行音に変化する、と。それで「ﾅﾝﾘﾝｼﾞ」が「ﾅﾝﾃﾞｼ」になったんじゃなかろうかと想像しとるのです。

池田　そういう言い方を聞いたことがあります。

納　うん？

平田　「ﾅﾝﾃﾞｼ」を聞いたことがあるの？

池田　聞いたことがあります。

平田　古い鹿児島弁をしゃべる人もおったのですね。

平田　申し遅れましたが「野外郷土史講座ノート」というのは、清水町を中心に野外講座を１年間やった記録です。それと、国分・隼人を考える会で「大字中心の歴史」というのを提起しようと思っています。次回に配れば３月になりますので今日配っておきます。清水町生まれですので、清水町中心の資料を集めました。東福寺城・清水城・内城とあり城下町鹿児島の原点ですから、いろいろ参考になろうかと思います。ご利用ください。

人名辞典作成計画

上野　ちょっとお願いがあるのですが、実は私ども数名がある出版社の頼みで鹿児島県人名辞典を作ろうという話になり、その下準備をしております。１回でも名前が歴史書に出たということでやり始めましたが、簡単なことじゃなさそうです。やっと少し目途がつき、三千数百人を拾い上げました。明治の半ばまでと考えています。鹿児島を離れても活躍すれば、やっぱり鹿児島ゆかりの人と考えることにしています。西南戦争までの人を全部拾い上げてみようと思っております。３年ぐらいでと言われているのですが、整理すれば30年ぐらいかかりゃせんかと思うほどです。今、私がやっているのは鹿児島県史を中心に称名墓誌とかいろんなのを見まして、人名、城とか戦闘とか、賞品を貰った人とかいろんなのを記録しながら整理しています。間もなく貴久の時代に入ります。それがある程度まで行ったら資料として、こんな形で差し上げられるんじゃないかと思います。現在データーベースを作っているところです。

お願いがあるのは、人名に関してこういうのを見たらいいとか、こういうものを調べて下さいとか、この人を是非載せて欲しいとかもしありましたら、是非こういう会で教えて頂きたいのです。

池田　本藩人物誌は入っていますか。

上野　はい、本藩人物誌は一応インプットが済んでいます。称名墓志それから人名辞典をいくつか既に拾い上げてあります。ほとんど名前がダブルようになりましたから、多分もう拾い上げたかなという感じがせんでもありません。

平田　唐鎌さんが図書館でいつも明治や大正の新聞を見てるけど、新聞に出てくる人物というのは彼が拾い上げてるでしょう。

上野　彼も自分の分を担当しているわけです。まず人名を拾い上げて、撰んで、それから書き始めようということなんです。私の作業は、ほぼ１年かかりました。何かありましたら是非情報を頂けたらと思います。

平田　人物中心に歴史を見ていくということでしょうね。

上野　それもだし、実は書く人が決まっていないのです。三千数百名、私に書けと言われたって出来るわけがない。書く人も今からお願いしなければなりません。高校歴史部会をあてにしようにも現職を退いたので圧力をかけることも出来ない。

平田　元気のいいのは、皆、定年退職してしまったか。出来る範囲で協力する方法を考えましょう。

他になければ、これで終りましょう。３月は坊津の地名をそこにおられる川野先生にしてもらいます。彼はまだ現役ですから

参勤交替路を歩く

第1日目(2000年5月5日日曜日)

・・・・24代島津重年：宝暦3年6月8日(1753年7月8日土曜日)・・・・

地　　点	歩数*m	歩行数	歩行時間	経過分	分歩数
福山町浦町(役場下)	0	0	9:19 AM	0:00	
宮之浦神社(県478)	0.28	371	9:24 AM	0:05	74
日州街道へ	1.42	1892	9:38 AM	0:14	109
上之茶屋	1.64	2178	9:45 AM	0:07	41
小廻へ分岐(旧10号)	2.59	3442	10:01 AM	0:16	79
廻城入口	3.16	4208	10:09 AM	0:08	96
県504交叉(西牧之原BS)	4.82	6416	10:34 AM	0:25	88
県63町中心	5.18	6897	10:40 AM	0:06	80
休憩	5.18	6897	10:42 AM	0:02	0
国10号へ	5.91	7878	10:53 AM	0:13	75
県63交叉	6.12	8159	10:56 AM	0:03	94
交差点不明	6.48	8631	11:01 AM	0:05	94
門司413*m都城21*m標示	7.83	10440	11:18 AM	0:17	106
大隅町標示	8.54	11376	11:28 AM	0:10	94
福山町標示	9.89	13184	11:50 AM	0:22	82
佳例川交叉(BSあり)	10.1	13462	11:54 AM	0:04	70
休憩	10.1	13462	11:58 AM	0:04	0
長江交叉	10.65	14196	12:04 PM	0:06	122
財部町標示	11.59	15441	12:17 PM	0:13	96
休憩(ｱｲｼｮｯﾌﾟ南財部店)	11.63	15506	12:26 PM	0:09	7
食堂「農場の茶屋」	12.14	16175	12:35 PM	0:09	74
県501(末吉へ)交叉	13.31	17735	12:51 PM	0:16	98
通山宿場跡	14.77	19691	1:13 PM	0:22	89
馬立へ交叉	16.05	21397	1:37 PM	0:24	71
広域農道交叉	17.64	23520	1:57 PM	0:20	106
深川小へ交叉	19.44	25908	2:20 PM	0:23	104
深川中心部(柳迫小,BS)	21.48	28639	2:49 PM	0:29	94
太陽漬物	21.57	28757	2:53 PM	0:04	30
宮崎62*m都城5*m標示	22.39	29851	3:05 PM	0:12	91
休憩	22.39	29851	3:09 PM	0:04	0
宮崎県都城市境標示	22.62	30154	3:12 PM	0:03	101
門司394*m五十町標示	23.94	31916	3:31 PM	0:19	93
休憩(油田交差点)	23.94	31916	3:36 PM	0:05	0
永田病院	24.58	32769	3:43 PM	0:07	122
大岩田(269交叉，天長寺橋	25.84	34450	3:58 PM	0:15	112
なれひおどり橋	26.29	35044	4:04 PM	0:06	99
甲斐元交差点(松山，10号	26.86	35802	4:12 PM	0:08	95
都城市役所	27.56	36737	4:23 PM	0:11	85
		6022	6:42		

第2・3日目(2000年11月11日土曜日)

24代島津重年：宝暦3年6月6・7日(1753年7月6・7日木・金曜日)

地　　点	歩数*m	歩数	歩行時間	経過分	分歩数
都城市役所	0	0	8:06 AM		
前田交叉点	1.13	1456	8:22 AM	0:16	91
都城駅入口	2.06	2675	8:35 AM	0:13	94
高架下	2.29	2970	8:38 AM	0:03	98
タイヨー川東店	2.75	3564	8:44 AM	0:06	99
川東郵便局前	3.38	4380	8:52 AM	0:08	102
沖水橋	4.06	5265	9:00 AM	0:08	111
ハンズマン吉尾店	4.57	5928	9:07 AM	0:07	95
松ノ元(国221分岐)	6.29	8164	9:27 AM	0:20	112
地場産業ｾﾝﾀｰ	7.07	9169	9:36 AM	0:09	112
料金所横へ入る	9.71	12602	10:10 AM	0:34	101
高城町入口	10.76	13967	10:23 AM	0:13	105
新桜木橋	10.95	14218	10:25 AM	0:02	126
ジョイフル	12.62	16383	11:02 AM	0:37	59
高城町役場入口	13.25	17196	11:10 AM	0:08	102
穂満坊交差点	13.42	17418	11:13 AM	0:03	74
休憩		17418	11:45 AM	0:32	0
観音池入口	15.17	19695	12:08 PM	0:23	99
観音寺口バス停	16.07	20862	12:20 PM	0:12	97
石山小	17.42	22615	12:36 PM	0:28	104
三股入口	18.25	23690	12:46 PM	0:26	109
香禅寺バス停	18.32	23786	12:48 PM	0:28	104
休憩		23786	12:51 PM	0:03	
有水万年橋	19.62	25475	1:06 PM	0:15	113
有水中	20.42	26517	1:18 PM	0:12	87
アイショップ	23.56	30591	1:56 PM	0:38	107
ＹＡＭＡＡＩ	25.86	33572	2:26 PM	0:30	99
四家鉱山	27.65	35903	2:53 PM	0:27	86
四家	29.34	38098	3:14 PM	0:21	105
ボートピア高城入口	33.01	42861	4:05 PM	0:51	93
八竜橋	34.48	44770	4:28 PM	0:23	83
境谷橋(高岡町)	35.34	45886	4:40 PM	0:12	93
西谷橋渡り終り	35.78	46467	4:45 PM	0:05	116
去川バス停	36.29	47124	4:51 PM	0:06	110
唐崎橋渡り終り	37.7	48957	5:10 PM	0:19	96
唐崎トンネル	38.2	49607	5:16 PM	0:06	108
面早流，旧10号へ	38.9	50509	5:28 PM	0:12	75
10号へ合流	40.85	53043	5:51 PM	0:23	110
川口橋	41.68	54125	6:03 PM	0:12	90
Ｒショップ	42.09	54652	6:06 PM	0:03	176
赤谷交差点	43	55837	6:19 PM	0:13	91
浜子交差点，綾町へ	44.38	57636	6:37 PM	0:18	100
高岡町市街地へ	44.74	58099	6:43 PM	0:06	77
役場前	45.87	*59570*	7:00 PM	0:17	87
			9:18		

第4日目(2000年11月19日火曜日)
24代島津重年：宝暦3年6月4日(1753年7月4日火曜日)
6月4日都於郡から高岡に着いた一行はここで1日(6月5日)休み，翌6日高城へ向かった。

地　　点	歩数*1	試歩数	試歩時間	経過時分	分歩数
高岡麓ＢＳ	0	0	9:00 AM	0:00	
高岡町役場入口(県24号)	0.29	393	9:04 AM	0:04	98
柴手橋	0.65	898	9:13 AM	0:09	56
国富町境	1.92	2659	9:25 AM	0:12	147
広域消防本部	3.68	5100	9:51 AM	0:26	94
休憩	3.68	5100	9:55 AM	0:04	0
国富町嵐田(本庄川)	3.87	5372	9:58 AM	0:03	91
バイパス入口	4.26	5909	10:04 AM	0:06	90
本庄高校前	4.67	6479	10:09 AM	0:05	114
本庄小・義門寺	5.18	7181	10:16 AM	0:07	100
バイパス合流点	6.97	9673	10:46 AM	0:30	83
三名(ｻﾝﾐｮｳ)橋:深年川	7.58	10523	10:54 AM	0:08	106
県道355交差点	8.05	11174	11:07 AM	0:13	50
エデンの園	8.89	12336	11:13 AM	0:06	194
六野みずな会直売所	10.88	15098	11:40 AM	0:27	102
西都市境	11.78	16355	11:53 AM	0:13	97
茶屋(県18号へ)	12	16660	11:56 AM	0:03	102
長園入口ＢＳ	12.77	17730	12:07 PM	0:11	97
江藤酒店	13.66	18965	12:19 PM	0:12	103
八木佐野ＢＳ	13.77	19114	12:20 PM	0:01	149
休憩	13.77	19114	12:35 PM	0:15	0
325号との交差点	15.68	21771	12:54 PM	0:19	140
都於郡町ＢＳ	16.11	22366	1:00 PM	0:06	99
城址前のＴ字路(325へ)	16.46	22860	1:09 PM	0:09	55
休憩	16.46	22860	1:15 PM	0:06	0
都於郡中学校(歩道左へ)	16.81	23337	1:20 PM	0:05	95
高屋神社	17.36	24103	1:27 PM	0:07	109
増田商店(岩爪地区)	18.97	26344	1:47 PM	0:20	112
休憩	18.97	26344	1:51 PM	0:04	0
佐土原境	19.06	26467	1:52 PM	0:01	123
相ヶ谷大橋	21.01	29178	2:17 PM	0:25	108
旧道合流点	21.84	30322	2:27 PM	0:10	114
休憩	21.84	30322	2:31 PM	0:04	0
北伊倉交差点(国道14へ)	22.33	31012	2:38 PM	0:07	99
那珂小学校	23.16	32159	2:50 PM	0:12	96
信成橋(下村川)	23.6	32769	2:58 PM	0:08	76
佐土原中央工業団地	24.48	33991	3:10 PM	0:12	102
久峰公園	26.79	37195	3:42 PM	0:32	100
10号バイパス下	27.29	37889	3:46 PM	0:04	174
久峰中学校入口	27.63	38372	3:52 PM	0:06	81
駅前交差点	28.6	39718	4:07 PM	0:15	90
佐土原駅	28.68	39820	4:09 PM	0:02	51
			6:26		

第5日目(2002年11月27日水曜日)
24代島津重年：宝暦3年6月3日(1753年7月3日月曜日)
6月3日都農から都於郡に着いた。都農からは新田原基地の東西を走るルートがあり，そのコースとも考えるが不明。今回は，佐土原駅から現10号線を基本に歩くことにした。
※史料では「都農」とはあるが，ここだけ日の記述がないが，「6月2日 下船」とあるので，この日が都農まで，翌日3日が都於郡までだったのだろう。

地　　点	歩数*1	試歩数	試歩時間	経過時分	分歩数
佐土原駅	0	0	8:41 AM	0:00	
駅前交差点	0.07	92	8:42 AM	0:01	92
役場前	0.63	898	8:47 AM	0:05	161
10号バイパス合流点	2.5	3563	9:15 AM	0:28	95
徳ケ淵	2.78	3965	9:18 AM	0:03	134
休憩	2.78	3965	9:21 AM	0:03	0
一ツ瀬川日向大橋	3.01	4290	9:25 AM	0:04	81
新富町標識	3.6	5134	9:33 AM	0:08	106
新富町黒瀬交差点	4.34	6193	9:42 AM	0:09	118
南富田(とんだ) 右へ入る	5.76	8219	10:00 AM	0:18	113
富田八幡・富田小	6.19	8835	10:09 AM	0:09	68
えのくちばし(鬼付女川)	6.8	9702	10:17 AM	0:08	108
園田橋(旧10号か)	6.89	9839	10:20 AM	0:03	46
10号新富町今別府交差点	7.92	11306	10:34 AM	0:14	105
新富町日置，野中BS	9.4	13425	10:59 AM	0:25	85
休憩	9.4	13425	11:07 AM	0:08	0
万福禅寺	9.92	14158	11:15 AM	0:08	92
永谷BS，右側に歩道	10.61	15156	11:24 AM	0:09	111
ゆずり車線標識	11.82	16877	11:47 AM	0:23	75
休憩	11.82	16877	11:56 AM	0:09	0
古港橋(宮田川)	13	18571	12:14 PM	0:18	94
県道44号交差点	13.91	19861	12:26 PM	0:12	108
菖蒲池県道24号交差点	14.56	20789	12:35 PM	0:09	103
高鍋大橋(小丸川)	14.96	21366	12:43 PM	0:08	72
東児湯消防本部	15.31	21863	12:50 PM	0:07	71
高鍋町高河原交差点	15.86	22657	12:59 PM	0:09	88
休憩	15.86	22657	1:04 PM	0:05	0
持田古墳群案内板	17.21	24577	1:22 PM	0:18	107
高鍋町鬼ケ久保交差点	18.67	26661	1:42 PM	0:20	104
国光原中交差点，農業大	20.02	28586	2:04 PM	0:22	88
川南町上番野地交差点	21.05	30069	2:20 PM	0:16	93
休憩	21.05	30069	2:25 PM	0:05	0
川南町市街地旧10号へ	21.76	31076	2:34 PM	0:09	112
垂門橋(平田川)	22.3	31857	2:41 PM	0:07	112
写真撮影など	22.3	31857	2:44 PM	0:03	0
トロントロン交差点	23.23	33172	2:57 PM	0:13	101
10号バイパス合流，病院	23.9	34129	3:06 PM	0:09	106
川南町新茶屋交差点	25.09	35830	3:20 PM	0:14	122
休憩	25.09	35830	3:25 PM	0:05	0
川南町塩付交差点	26.34	37625	3:41 PM	0:16	112
名貫橋(名貫川)，高鍋16*1	28.65	40926	4:11 PM	0:30	110
都農町市街地へ分岐	29.32	41876	4:20 PM	0:09	106
北新町交差点，右折，駅へ	30.45	43488	4:34 PM	0:14	115
役場入口(200mぐらい)	30.57	43669	4:36 PM	0:02	91
都農郵便局	30.86	44082	4:40 PM	0:04	103
都農駅	31.61	45144	4:48 PM	0:08	133
			8:07		

本日の要旨

2002/12/1 加治木町：上野堯史

参観交替では

鹿児島～伊集院～川内～阿久根～出水と現国道3号線に沿って北上する
鹿児島～伊集院～川内～平戸～下関～瀬戸内海と海を行く
鹿児島～加治木～福山～都城～高城～高岡～佐土原～高鍋～日向細島～日向灘～瀬戸内海と行く

高岡筋を歩く

例を島津重年にとる
１７５３年４月２３日芝藩邸発
５月１０日大坂着
５月１６日坂越
５月２７日細島……火事で３日船中待機
６月２日下船，都農へ※下船とあり都農到着は上野が想定した
６月３日都於郡着
６月４日高岡着
６月５日高岡休養※記載なく休養かと想定する
６月６日高城着
６月７日都城着
６月８日福山着
６月９日福山～船～鹿府着

私はこの道を逆に江戸に向かうことを考えています。
同時に宮崎は西南の役で西郷軍が北上した道でもありますので合わせて考えたいと思う

1753						
7						
1						
日	月	火	水	木	金	土
						1
						宝暦3
						6月1日
						乙酉
2	3	4	5	6	7	8
宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3
6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日	6月8日
丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰
9	10	11	12	13	14	15
宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3
6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日
癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
16	17	18	19	20	21	22
宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3
6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	6月22日
庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午
23	24	25	26	27	28	29
宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3	宝暦3
6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	6月29日
丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑
30	31					
宝暦3	宝暦3					
7月1日	7月2日					
甲寅	乙卯					

記述順	項目地名	現市町村名	最近駅	年	月	日	軍団	内容	ページ
0	熊田	北川町		1877	8	16	官軍	重岡，三川内，古江の3路より熊田長井に入る	1740
0	熊田	北川町		1877	8	16	西郷軍	火之谷へ退く	1740
0	熊田	北川町		1877	8	17	官軍	豊後口司令長官谷少将，熊田に赤谷・祝子川に硝線	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	16	第2旅団	夜明け，長井村山上に西郷軍発見，砲戦夜に入る	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	17	第2旅団	砲戦す	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	17	西郷軍	夕，長井会議で突破決定	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	17	西郷軍	600～700名を前中後三軍に	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	17	西郷軍	可愛岳，八水山・宮谷山越え	1740
1	長井	北川町	JR日向長井	1877	8	19	第2旅団	斥候が賊屍，首級なし等250余発見す	1740
2	可愛岳	北川町	JR日向長井	1877	8	17	第1･2旅団	明朝の進撃約す(1野津，2三好)	1741
2	可愛岳	北川町	JR日向長井	1877	8	18	西郷軍	4:30，両旅団へ攻撃かける	1741
2	可愛岳	北川町	JR日向長井	1877	8	18	第1･2旅団	1野津，2三好は火の谷へ避難す	1741
2	可愛岳	北川町	JR日向長井	1877	8	19	第2旅団	稲葉崎による	1741
3	祝子	延岡市祝子(ほうり)町	JR延岡	1877	8	18	西郷軍	可愛岳を登り祝子川に下り，祝子から鹿川へ	1741
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	12	別働第2旅団	宇納間へ進撃す	1742
4	延岡	延岡市舞野町	(高)細見	1877	8	13	第1旅団	杉樹峠奪取，曽木から渡河，舞野村へ	1742
4	延岡	北方町寅	(高)吐合駅	1877	8	13	第1旅団	一隊は清水から笠下村へ	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	各旅団	三方より攻撃す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	海軍	清輝・日進・丁卯・鳳翔も砲戦す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	別働第2旅団	山道から延岡へ	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	第2旅団	山道から延岡へ	1742
4	延岡	門川町	JR南延岡	1877	8	14	第3旅団	海岸門川より延岡へ	1742
4	延岡	門川町	JR南延岡	1877	8	14	第4旅団	海岸門川より延岡へ	1742
4	延岡	門川町	JR南延岡	1877	8	14	新選旅団	海岸門川より延岡へ	1742
4	延岡	門川町	JR門川	1877	8	14	西郷軍	門川塁は堅固であった	1742
4	延岡	延岡市		1877	8	14	西郷軍	熊田へはしる	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	第2旅団	官軍，右翼を作る，追撃す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	第4旅団	官軍，右翼を作る，追撃す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	新選旅団	官軍，右翼を作る，追撃す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	第1旅団	左翼を作る，追撃す	1742
4	延岡	延岡市	JR延岡	1877	8	14	第3旅団	延岡を守る	1742
4	延岡	延岡市大武町	JR延岡	1877	8	14	第4旅団	午後，大武村へ進む，余賊撃つ	1742
4	延岡	延岡市樫山町	JR延岡	1877	8	15	第4旅団	右翼は下流渡河，遠見へ	1742
4	延岡	延岡市無鹿町	JR延岡	1877	8	15	第4旅団	正面は，無鹿村へ賊を逐う	1742
4	延岡	延岡市無鹿町	JR延岡	1877	8	15	別働第2旅団	右翼は，無鹿の山へ奪う(正午12時)	1742
4	延岡	延岡市稲葉崎町	JR延岡	1877	8	15	別働第2旅団	正面は，堂ヶ坂へ奪う(正午12時)	1742
4	延岡	延岡市382.2m	JR北延岡	1877	8	15	別働第2旅団	左翼は，長尾山へ奪う(正午12時)	1742
4	延岡	延岡市無鹿町	JR延岡	1877	8	15	西郷軍	西郷・桐野が自ら指揮す，最期の大戦	1742
5	曽木	北方町	(高)曽木	1877	8	13	第1旅団	曽木を取り，延岡に進入す	1742
6	瀧下	北方町	(高)亀ヶ崎	1877	8	18	西郷軍	祝川から鹿川へ向かう	1742
6	瀧下	北方町	(高)亀ヶ崎	1877	8	20	西郷軍	鹿川から山越で日影川岩戸村へ	1742
7	宇納間	北郷村宇納間	(高)川水流	1877	8	12	官軍	田代(現西郷村)から入る，延岡に向かう	1743
8	富高	日向市富高	JR日向市	1877	8	2	西郷軍	島津啓次郎，陣す(官軍報告)	1743
8	富高	熊田は北川町か	JR日向長井	1877	8	2	西郷軍	豊後口賊軍は熊田(官軍報告)	1743
8	富高	都農町川北	JR都農	1877	8	1	西郷軍	夜，西郷・桐野，都濃より富高新町へ	1743
8	富高	東郷町山陰やまげ		1877	8	8	別働第2旅団	一隊，山陰村より富高急襲し取る(大雨)	1743
8	富高	日向市富高	JR日向市	1877	8	8	西郷軍	耳川北岸の兵，押し寄せ囲む	1743
8	富高	日向市富高	JR日向市	1877	8	8	西郷軍	北走す	1743
8	富高	日向市富高	JR日向市	1877	8	10	官軍	2日後れて富高・細島入る	1743
8	富高	日向市細島	JR財光寺	1877	8	10	官軍	細島に運輸事務置く	1743
9	耳川	日向市幸脇さいわき	JR美々津	1877	8	初旬	別働第2旅団	耳川越えで細島へ	1743
9	耳川	日向市幸脇さいわき	JR美々津	1877	8	8	官軍	富高へ入る	1743
9	耳川	日向市幸脇さいわき	JR美々津	1877	8	9	官軍	大雨でこの日まで渡河できず	1743
10	山陰(ヤマケ゛)	南郷村神門・坪谷		1877	8	初旬	別働第2旅団	神門(ミカト゛)，渡川(トカワ)，尾鈴山三道より坪谷・山陰へ	1743
10	山陰(ヤマケ゛)	東郷町坪谷ツボヤ		1877	8	6	別働第2旅団	坪谷へ至る	1743
10	山陰(ヤマケ゛)	東郷町山陰やまげ		1877	8	6	西郷軍	400人，坪谷から山陰へ走る	1743
10	山陰(ヤマケ゛)	東郷町山陰やまげ		1877	8	7	別働第2旅団	中村中佐，耳川越え，山陰へ，長躯，富高へ	1743
11	神門(カト゛)	南郷村神門		1877	8	2	別働第2旅団	米良谷から渡川(トカハ゛)へ，神門へ至る	1744
11	神門(カト゛)	諸塚村七ツ山		1877	8	24	西郷軍	椎葉七山から神門へ入り，官軍糧食奪う	1744
11	神門(カト゛)	西米良村村所		1877	8	24	西郷軍	雨をつき，米良谷へ向かう	1744
12	三田井	高千穂町田原タバル	(高)高千穂	1877	5	25	官軍	田原三箇所の両路より三田井へ迫る	1744
12	三田井	日之影町宮水・七折	(高)日之影温泉	1877	5	25	西郷軍	三田井より潰走，宮水・七折へ	1744
12	三田井	高千穂町三田井	(高)高千穂	1877	6	下旬	第1旅団	牙営を三田井に移す	1744
12	三田井	高千穂町三田井	(高)高千穂	1877	8	21	西郷軍	三田井を通過，糧廠奪う	1744
12	七折	日之影町見立	(高)日之影温泉	1877	6	1	西郷軍	日影川，大楠・中村・大菅に塁す，弾薬製造す	1745
12	七折	日之影町見立	(高)日之影温泉	1877	7	2	官軍	五ケ瀬南岸，賊塁抜く	1745
12	七折	日之影町七折	(高)日向八戸	1877	7	2	西郷軍	鹿川・新町に拠る，日影川で阻止へ	1745
12	七折	日之影町七折	(高)日向八戸	1877	8		官軍	賊衰え，新町を取る	1745
12	七折	日之影町鹿川	(高)槙峰	1877	8	11	官軍	綱瀬川渡河す，菅原塁抜く，鹿川・曽木落ちる	1745
13	諸塚	諸塚村七ツ山		1877	8	22	西郷軍	三田井から七山へ入る(田代・家代を避ける)	1745
14	椎葉	熊本県矢部町浜町		1877	4	22	西郷軍	西郷，肥後浜町より椎葉越えで人吉へ2000余	1745
14	椎葉	熊本県泉村五家荘		1877	5	中旬	別働第2旅団	中村中佐，五家庄・椎葉那須を警戒す	1745
14	椎葉	？？？？？？？		1877	5	21	別働第2旅団	中村中佐，向山の賊撃ち，椎葉山へ進軍	1745
14	椎葉	熊本県水上村江代		1877	5	21	別働第2旅団	中村中佐，江代・胡麻・實木に哨線す	1745
15	米良	須木村		1877	7	初旬	別働第2旅団	第1方面兵，椎葉より進軍，別隊は須木より	1746
15	米良	西米良村から西都市		1877	7	12	西郷軍	1000余，一之瀬川沿いに東へ走る	1746

15	米良	南郷村～西都市銀鏡		1877	8	26	西郷軍	鬼神野・神門から渡川を経て銀鏡(シロミ)に入る	1746
15	米良	西米良村小川		1877	8	26	西郷軍	米良の小川に入る	1746
16	都萬神社	西都市妻		1877	8	1	官軍	米良・佐土原より妻町に入る，賊軍なし	1746
16	都萬神社	西都市妻		1877	8	2	官軍	一之瀬川渡河し高鍋へ向かう，賊逃げる	1746
17	尾鈴山	日向市美々津町	JR美々津	1877	8	3	官軍	美々津へ向かう	1749
17	尾鈴山	木城町高城	JR高鍋	1877	8	3	別働第2旅団	高城から尾鈴山(都農・木城町)占拠，富高を狙う	1749
17	尾鈴山	高鍋町・木城町		1877	8	3	西郷軍	高鍋・高城から耳川渡河して防禦線作る	1749
18	美々津	日向市美々津町		1877	8	4	官軍	美々津取る，渡河できず(9日まで)	1749
19	高鍋城址	高鍋町	JR高鍋	1877	8	1	官軍	佐土原・妻町両道より入る	1749
20	佐土原	高岡町高岡	JR宮崎	1877	7	31	官軍	高岡から佐土原・宮崎両道より進軍	1751
20	佐土原	国富町木脇		1877	7	31	官軍	左軍，木脇で遭遇戦，走らせる，平松越えで戦う	1751
20	佐土原	佐土原町東・西上那珂	JR佐土原	1877	7	31	官軍	右軍4中隊，上那珂村へ	1751
20	佐土原	佐土原町田島	JR佐土原	1877	7	31	官軍	午後九時，佐土原に入る	1751
20	佐土原	佐土原町田島	JR佐土原	1877	7	31	別働第2旅団	三好少将，山上に突進，7時入る，一之瀬川まで	1751
21	宮崎城址	宮崎市池内町	JR宮崎神宮	1877	7	30	官軍	都城・小林に勝ち，大淀川右岸に至る	1755
21	宮崎城址	宮崎市池内町	JR宮崎	1877	7	30	西郷軍	船を奪い抗戦す	1755
21	宮崎城址	宮崎市糸原・城ケ崎	JR宮崎神宮・南宮崎	1877	7	30	官軍	倉岡・城崎の2渡口より遊泳進軍，宮崎に入る	1755
22	木原(キバル)	田野町	JR田野	1877	7	28	官軍	田野駅より宮崎へ	1755
22	木原(キバル)	清武町今泉	JR日向沓掛	1877	7	28	西郷軍	大窪の岡に拠る，保塁数十，砲一門	1755
22	木原(キバル)	清武町今泉	JR日向沓掛	1877	7	28	第4旅団	午前10時，曾我少将の第4が撃つ	1755
22	木原(キバル)	清武町今泉	JR日向沓掛	1877	7	28	第4旅団	午後5時半，山砲が当る，2塁抜き，賊，宮崎へ潰走	1756
23	田野	田野町	JR田野	1877	7	24	西郷軍	都城を失う	1756
23	田野	清武町今泉	JR日向沓掛	1877	7	26	西郷軍	山之口5里の険阻すて清武保つ	1756
24	高岡	高岡町	JR宮崎	1877	7	24	第3旅団	高岡・宮崎へ向かう	1762
24	高岡	高岡町内山	JR宮崎	1877	7	24	第2旅団	右翼，去川左岸へ，第3の左翼と相応援す	1762
24	高岡	野尻町紙屋		1877	7	24	第2旅団	左翼，野尻官道より別2右翼と合し，紙屋へ，長谷場へ	1762
24	高岡	高城町		1877	7	24	第3旅団	第2右翼と国見峠から去川へ出る	1762
24	高岡	綾町		1877	7	28	第2旅団	別2と合し，紙屋・綾を取り，高岡街道偵察す	1762
24	高岡	高岡町浦之名		1877	7	29	第2旅団	柳瀬村・赤谷坂の賊打破す，高岡・倉岡制す	1762
25	須木	須木村		1877	7	10	官軍	2大隊，小林より入る，野尻・綾へ向かう	1762
26	五十町	都城五十(ゴジュッ)町	JR五十市	1877	7		西郷軍	庄内・小林を保つ	1764
26	五十町	？？？？？？？		1877	7		第3旅団	三浦少将，牙営を国分に，猪小石越えに	1764
26	五十町	財部町	JR財部	1877	7		別働第3旅団	大山少将，牙営を国分に，中央の財部方面へ	1765
26	五十町	福山町	JR国分	1877	7		第4旅団	曾我少将，牙営を敷根に，兵を福山方面に	1765
26	五十町	大隅町		1877	7		別働第1旅団	高島少将，牙営を高隈に，市成・恒吉駐屯，岩川方面へ	1765
26	五十町	都城市庄内	JR(吉)日向庄内	1877	7	24	第3旅団	平原に開戦し一挙に庄内駅へ，昼，都城に達す	1765
27	都城	都城市	JR都城	1877	7	24	官軍	都城を取る	1765
28	財部	福山町佳例川	JR大隅大川原	1877	7	13	官軍	敷根から荒襖嶽へ取る	1767
29	野後(ノジリ)	野尻町		1877	7	21	別働第2旅団	野尻に向かう	1769
29	野後(ノジリ)	野尻町		1877	7	21	第2旅団	野尻に向かう	1769
29	野後(ノジリ)	野尻町東麓天ケ谷		1877	7	21	西郷軍	後は天ケ谷，右翼は最高山などに100余塁	1769
29	野後(ノジリ)	野尻町紙屋		1877	7	21		八木少佐など賊右翼へ，紙屋へ走らせる	1769
29	野後(ノジリ)	西米良村天包山		1877	7	21	別働第2旅団	第1方面隊，天堤越の小川の賊塁へ	1769
29	野後(ノジリ)	西米良村天包山		1877	7	22	西郷軍	午前4時，小川本道より来る，左翼5塁失う	1769
29	野後(ノジリ)	西米良村小川		1877	7	22	別働第2旅団	第1方面隊，中村中佐，小川を取る	1769
29	高原(タカバル)	須木村中原ナカバル		1877	7	22	別働第2旅団	山田少将の選抜隊，軍谷から立野山へ，連戦2昼夜	1769
29	高原(タカバル)	須木村内山		1877	7	24	別働第2旅団	内山村，1小隊・半隊，野尻越・七ツ峠の偵察	1769
29	霧島峯神社	小林市細野	JR(吉)小林	1877	6	中旬	官軍	人吉陥落，日向・鹿児島へ	1771
29	霧島峯神社	小林市大河平オコヒラ	JR(吉)えびの飯	1877	6	19	西郷軍	小林の600余，大河平より別2第2方面(飯野)を襲う	1771
29	霧島峯神社	小林市飯野	JR(吉)えびの飯	1877	6	19	西郷軍	午前9時，遂に去る	1771
29	霧島峯神社	小林市飯野	JR(吉)えびの飯	1877	6	20	別働第2旅団	暗黒夜，飯野駅から川内川北岸に移る	1771
29	霧島峯神社	小林市飯野	JR(吉)えびの飯	1877	6	21	西郷軍	暁，襲う，日暮に去る	1771
29	霧島峯神社	小林市坂元	JR(吉)えびの飯	1877	7	10	西郷軍	この頃まで賊，砲撃する，振武・破竹・行進・佐土原	1771
29	霧島峯神社	小林市飯野	JR(吉)えびの飯	1877	7	11	第2旅団	小林を取る	1771
29	霧島峯神社	野尻町三ケ野山		1877	7	11	西郷軍	高原・野尻へ，小林1里の陣跡山の橋落す	1771
29	霧島峯神社	野尻町		1877	7		別働第2旅団	野尻方面へ	1771
29	霧島峯神社	高原町		1877	7		第2旅団	高原方面へ	1771
29	霧島峯神社	高原町西麓	JR(吉)高原	1877	7	14	第2旅団	高原方面取る，高崎麓・高岡街道偵察す	1771
29	霧島峯神社	高原町西麓	JR(吉)高原	1877	7	17	西郷軍	1000余来襲，村田・貴島が率いる	1771
29	霧島峯神社	高原町西麓	JR(吉)高原	1877	7	18	官軍	本営を高原へ	1771
29	霧島峯神社	高崎町大牟田	JR(吉)高橋新田	1877	7	22	官軍	斥候を高崎へ	1771
29	霧島峯神社	野尻町三ケ野山		1877	7	22	西郷軍	別第2の陣跡山を襲う(別府・辺見ら)，失敗	1771

掲載順	地名	かな	西暦	年号	月	日	人名	内容	ページ	備考1	備考2
1	英田郷	あがたごう	1577	天正5	12		伊東氏	都於郡没落す	1741		
2	英田郷	あがたごう	1578	天正6	4		土持氏	縣の土持氏，滅亡す	1741		
3	延岡城址	のべおかじょうし	1587	天正15			高橋元種	秀吉から封される	1742		
4	延岡城址	のべおかじょうし	1613	慶長18			有間直純	元種除封，替わる	1742		
5	延岡城址	のべおかじょうし	1692	元禄5			三浦明敬	封される	1742		
6	延岡城址	のべおかじょうし	1712	正徳2			牧野成英	封される	1742		
7	延岡城址	のべおかじょうし	1747	延享4			内藤政樹	封される，以後明治まで7万石	1742		
8	延岡城址	のべおかじょうし	1578	天正6			土持親成	大友勢3万と戦う(梓，白石，松尾城)	1742		
9	日知屋	ひちや	1533	天文2	9		伊東左兵衛佐	逆心して押し寄せる	1743		
10	日知屋	ひちや	1533	天文2			伊東祐清	三城へ引き，日知屋より出船準備	1743		
11	日知屋	ひちや	1533	天文2			伊東祐清	塩見，日知屋，門河，財部，山陰，田代	1743		
12	日知屋	ひちや	1533	天文2	11	16	伊東祐清	帰城す，改名して義祐(島津家譜)	1743		
13	細島	ほそじま	1596	文禄5	閏7		近衛	との浦より到着す	1743		
14	細島	ほそじま	1596	文禄5	閏7	23	近衛	暁天，出航，豊後内かまへ向かう	1743		
16	三田井	みたい	1587	天正15			高橋種統	縣・高千穂封せらる	1744		
17	三田井	みたい	1587	天正15			三田井親武	怒って合戦数度，滅亡(日向纂記)	1744		
18	椎葉	しいば	1577	天正5	12	14	伊東三位	一行，米良へ落ち，神門村へ(奈須氏)	1745		
19	椎葉	しいば	1602	慶長7				米良山民と椎葉山民の訴訟起こる	1745		
20	椎葉	しいば	1619	元和5	8	17	相良氏・幕府	山民10人誅殺す	1745		
21	椎葉	しいば	1619	元和5	8	21	相良氏・幕府	不土野・川口で200余斬る，おさまる	1745		
24	戸郡城址	とのこおりじょうし	1577	天正5	12		島津義久	野尻城へ	1748		
25	戸郡城址	とのこおりじょうし	1577	天正5	12		伊東三位	佐土原城落ちる，都於郡を出る	1748		
26	高城	たかじょう	1578	天正6	8		大友宗麟	臼杵城から日向牟志賀へ(5万余)	1748		
27	高城	たかじょう	1578	天正6	9	15	大友宗麟	先陣，耳川渡河，百町原北の浅付山へ	1748		
28	高城	たかじょう	1578	天正6	10	20	大友宗麟	全軍到着，5ヶ所の陣	1748		
29	高城	たかじょう	1578	天正6	11	上旬	島津義久	佐土原へ着陣す	1748		
30	高城	たかじょう	1578	天正6	11	上旬	島津義弘	都於郡へ	1748		
31	高城	たかじょう	1578	天正6	11	上旬	島津行久	財部へ	1748		
32	高城	たかじょう	1578	天正6	11	12	島津義久	天正6耳川合戦	1748		
33	高城	たかじょう	1587	天正15	4	6	伊東祐兵(たけ	新納院高城に51の陣	1748		
34	美々津	みみつ	1578	天正6	11		大友宗麟	美々津川北岸に	1749		
35	美々津	みみつ	1578	天正6	11		島津義久	美々津川南岸に	1749		
36	美々津	みみつ	1578	天正6	11	9		合戦する	1749		
37	美々津	みみつ	1578	天正6	11	12	大友宗麟	薩摩勢へ斬りかかる	1749		
38	美々津	みみつ	1578	天正6	11	12	島津行久	横より入る	1749		
39	美々津	みみつ	1578	天正6	11	13	大友宗麟	門川へ退く，紹忍は牟志賀へ逃げ，報告	1749		
40	美々津	みみつ	1578	天正6	11	14	大友宗麟	豊後へ引取る	1749		
41	高鍋城址	たかなべじょうし	1587	天正15			秋月種實	筑前より来る，明治まで3万石	1749		
42	新納	にいろ	1578	天正6	6	15	長倉祐正	楯こもるが明け渡す	1750		
43	佐土原	さとはら	1612	慶長17			聖誉	高月院(浄土宗)開く	1751		
44	佐土原	さとはら	1603	慶長8			島津以久	3万石	1751		
45	宮崎城址	みやざきじょうし	1588	天正16			高橋種統	宮崎池内の城に臣下の権藤種盛	1751		
46	宮崎城址	みやざきじょうし	1600	慶長5	9	29	伊東祐兵(たけ	攻め取る	1751		
47	宮崎城址	みやざきじょうし	1601	慶長6	8		伊東祐兵(たけ	高橋家に返す	1751		
48	曽井城址	そいじょうし	1587	天正15			伊東祐兵(たけ	曽井を賜わる	1754		
49	城崎	じょうがさき	1662	寛文2	9	19	日向地震	上別府民家5,600流失	1754		
50	清武	きよたけ	1600	慶長5	9		稲津重政	宮崎切り取りの功績	1754		
51	清武	きよたけ	1602	慶長7	6		稲津重政	伏見城経営の手伝い	1754		
52	清武	きよたけ	1602	慶長7	10	1	稲津重政	帰る	1754		
53	清武	きよたけ	1602	慶長7	10	12	稲津重政	立て籠もり後切腹，主清武氏への抵抗	1754		
54	加江田	かえだ	1662	寛文2	9	19	震災	夜，子の刻，35町・1500石・1213戸ほか	1756		
55	南那珂郡	みなみなかぐん	1617	元和3	5		伊東祐慶	5万7080石余	1760		
57	目井津	めいつ	1562	永禄5	5		伊東	飫肥城(～9月)	1760		
58	目井津	めいつ	1563	永禄6	8		伊東	北郷頼平が外浦破る	1760		
59	榎原	えはら	1600	慶長5	12		島津・秋月	八郎ヶ野で合同し，南郷鯛取峰へ	1760		
60	榎原	えはら	1600	慶長5	12		伊東	出張して防戦す	1760		
61	櫛間	くしま	1485	文明17			島津久逸	飫肥城主新納忠続を討つ	1761		
62	櫛間	くしま	1485	文明17			伊東祐国	戦死す	1761		
63	櫛間	くしま	1485	文明17			島津久逸	伊作に返される(島津忠昌より)	1761		
64	六笠城址	むかさじょうし	1370	建徳1		28	島津忠国	青塚原合戦	1762		
66	高岡	たかおか	1600	慶長5			比志島国貞	内山村に天箇城(ｱﾒｶ)	1762		
67	高岡	たかおか	1605	慶長10				700余人移住，「高岡」となる	1762		
68	倉岡	くらおか	1600	慶長5	9	27	島津義弘	細島上陸，八代に宿泊す	1762		
69	倉岡	くらおか	1600	慶長5	9	27	稲津祐信	宮崎城落す，さらに佐土原へ	1762		
70	倉岡	くらおか	1600	慶長5	10	4	稲津祐信	1000余人で穆佐城攻む，河田国鏡守る	1762		
71	倉岡	くらおか	1600	慶長5	12	4	稲津祐信	倉岡城襲撃す，丹生備前守る	1762		
72	倉岡	くらおか	1601	慶長6	1	7	稲津祐信	兵，穆佐城へ，城兵が清武で迎撃す	1762		
73	倉岡	くらおか	1601	慶長6	4	10	稲津祐信	倉岡城襲撃す，内山城の国貞救う，祐信逃	1762		
74	宮丸	みやまる	1596	文禄5	7		近衛	濱市より船，週へ(幸侃宿所)	1766		
75	宮丸	みやまる	1596	文禄5	7	16	近衛	庄内へ，龍伯送る	1766		
76	宮丸	みやまる	1596	文禄5	7	16	近衛	庄内へ	1766		
77	野後	のじり	1577	天正5	2		福永丹波	伊東三位へ不満，島津方へ	1769		
78	高原	たかはる	1572	元亀3			島津忠平	真幸・加久藤へ，飯野合戦	1769		
79	霧島峯神	きりしまみねじん	1716	享保1	9	26	霧島発火す	神社等焼ける	1771		
80	木崎原	きさきばる	1572	元亀3	5	3	伊東三位	夜半，加久藤で放火す	1771		

野外郷土史講座

ノート

平成十四年（２００２）十月

学校法人　共　立　学　舎

目　　次

目　　次 …… 1ﾍﾟｰｼﾞ
はしがき …… 2ﾍﾟｰｼﾞ
凡　　例 …… 3ﾍﾟｰｼﾞ
上町の範囲 …… 4ﾍﾟｰｼﾞ
古戦場としての多賀山 …… 5ﾍﾟｰｼﾞ
清水城 …… 6ﾍﾟｰｼﾞ
上町地区の略図 …… 8ﾍﾟｰｼﾞ
稲荷神社 …… 9ﾍﾟｰｼﾞ
滝之上火薬製造所 …… 10ﾍﾟｰｼﾞ
愛宕神社（摩利支天） …… 12ﾍﾟｰｼﾞ
若宮神社・春日神社 …… 14ﾍﾟｰｼﾞ
福昌寺由緒墓 …… 16ﾍﾟｰｼﾞ
南林寺由緒墓 …… 18ﾍﾟｰｼﾞ
福昌寺墓地 …… 20ﾍﾟｰｼﾞ
蛇の穴・智恵光院 …… 22ﾍﾟｰｼﾞ
内城と大竜寺 …… 24ﾍﾟｰｼﾞ
浄光明寺墓地と南洲神社 …… 26ﾍﾟｰｼﾞ
祇園之洲 …… 30ﾍﾟｰｼﾞ
諏訪神社・本立寺墓地 …… 32ﾍﾟｰｼﾞ
編集後記 …… 33ﾍﾟｰｼﾞ

正　誤　表

P.2　学校法人　共立学舎
　　理事長　田中寛吉　　が正しい

P.3　下から12行　　房わしい　→　ふさわしい　　が正しい

P.6　上から４行目　　奈良原助八郎　→　奈良原　助八　　が正しい

はしがき

平成12年11月、共立幼稚園３階に会議室が出来た。これを有効に使うことを考えようとの話がもちあがった。時期的にも平成13年は共立学舎創設125周年・共立幼稚園70周年に当たることから、共立学舎・大竜小学校・清水小学校を中心とした地域で、しかも園児が生活している一帯の歴史を振り返ることも意味があると考えた。

明治９年(1876)２月２日、西郷南洲翁の意を汲んだ鹿児島県令大山綱良のはからいで、私学校とは別に共立学舎が建設された。鹿児島県の歴史では「私立学校認可第１号」であったが、百二十数年の間、営利を求めることもなく、舎生の出来る範囲の力量で幼稚園を守り育てて来た。昭和20年の敗戦以来、鹿児島が誇った健児の舎はすべて衰退の道をたどり、生存の舎生も老齢の域に入った。

幸いなことに、わが舎の平田信芳理事は郷土史に造詣が深く、彼自身も知っている事柄を地元の人々に伝えておきたいとの意向が強かった。形のあるものを残しておけば、これが子供たちに自然と承け継がれるとの信念で、参加者が毎回二百円を拠出して積み立て、野外講座に用いられた資料を冊子にまとめることにした。いうなれば参加者みんなで創りあげた郷土資料である。市販の郷土史に比較して非常にレベルの高い内容になっているが恐れることなく熟読玩味されることを期待する。

平成14年10月

学 校 法 人共立学舎

理　　事　　長田中寛吉

凡　例

1. 平成13年11月24日から平成14年10月26日まで、月１回第４土曜日に実施した野外郷土史講座の説明資料を冊子にまとめたものであり、読み物としての体裁からは少々はずれているが、市販の郷土史にはない生の資料を多く揃えてある。
2. 浄光明寺墓地のグリッドナンバー（G.No)は４桁の数字、福昌寺由緒墓はⅠ列○番の要領で、「Ⅰ-12、Ⅲ-15」などのグリッドナンバーを付けた。参考資料として付け加えた南林寺墓地のグリッドナンバーは、福昌寺墓地と同じようにⅡ列○○番の要領で付けた。現地で確かめて理解して頂きたい。
3. それぞれの講座当日に配布した資料で誤字であったものはこの冊子で訂正した。また当用漢字に改めたものもあるが、なるべく原字によることにした。
4. 配付した地図であっても、印刷物として刊行すれば著作権や版権に抵触するものについては省略した。講座参加者であっても、将来この冊子に記載してある事項を引用する場合は、典拠が「野外郷土史講座」であることを明記されたい。これは論文などを書く時の心得になる。
5. 引用した資料については、一々典拠を明示してある。出典の明示がないものは執筆者が作成したオリジナルな資料と理解されたい。
6. 藤山石について：西田橋・西郷隆盛墓・甕島改葬碑・県立博物館建物などの使用石材が藤山石（鹿児島市小野町藤山産の溶結凝灰岩）であると説明して来た。たまたま県立図書館で『石材産業史』鹿児島県石材工業協同組合、S.43.5という小冊子を見かけ「西田橋は小山田石（小山田みかげ）でつくられた」という先行研究があることに気付いた。小山田は誰でも知っている地名なので呼び名として房わしいと思ったが、河頭石が明治の後半以降の用材であり、小山田は河頭よりも上流になるので、江戸期に架けられた西田橋の石材を小山田で採石したとは考えられない。江戸時代に河頭や小山田で採石していたことがはっきりすれば、小山田石の呼び名でよいと考える。

   地質学的な表現をすると、小野石・肥田石・飯山石などは犬迫火砕流に属し、藤山石（小山田石）・河頭石は下門火砕流に属する。層序は小野石/藤山石/河頭石の順になり、小野～河頭～小山田にかけて分布する。藤山石と河頭石は見た目ではよく似ているが、粒子の大きさ・固さが若干異なり、溶結度が強くて固い安山岩質のものが河頭石と呼ばれるものになる。

   蛇足：上町一帯で用いられた反田土石（たんたどいし）は吉野火砕流に属する。
7. 8ﾍﾟｰｼﾞの地図に印された●点は、本冊子で説明した史蹟を示している。煩雑になるのを避けて説明を省いた。記載漏れもあるが各人で補充されたい。

上 町 の 範 囲

平成13年11月24日（土）

（1）鹿児島城下の方限

上方限・下方限 ―― 鶴丸城本丸と二之丸の間の線を境とす。

清水町・春日町を上町ということがあるが、これは上方限・下方限と混同した用法でその表現は定着しているので誤りではないが、厳密な区分は(3)(4)の説明になる。

その場合の上町・下町の境界線は長田中学校と私学校跡の間の線になる。

（2）鹿児島城下の郷中（33郷中）

上ノ平郷中、下ノ平郷中、新照院郷中、高見馬場郷中、上加治屋郷中、下加治屋郷中、馬乗馬場郷中、樋之口郷中、新屋敷郷中、塩屋郷中、上之園郷中、上荒田郷中、高麗町郷中、草牟田郷中、西田郷中、常盤郷中、正建寺郷中、八幡郷中、紙屋谷郷中上之原郷中、城ケ谷郷中、岩崎郷中、冷水郷中、屯田郷中、後迫郷中、鞭撻郷中、清水馬場郷中、中之町郷中、福昌寺郷中、内之丸郷中、横馬場郷中、中村郷中、実方郷中 ―― 「鹿児島のおいたち」P.323

郷中：文禄・慶長の役に際し、残留青少年の風儀が乱れたので、留守をあずかった新納忠元が二才を集めて錬磨する組織をつくったのに始まる、という。

（3）上町・下町の区分（江戸時代）

上町六町：地蔵町・柳町・車町・和泉屋町・戎町・浜町（家数1,102軒）

下町十一町：六日町・中町・呉服町・大黒町・木屋町・築町・新町・今町・堀江町・船津町・納屋町（家数1,591軒） ―― 通昭録巻七（「鹿児島の歴史」P.113所収）

（4）明治初めの上町・下町（明治12年11月制定：鹿児島県地誌）

下町（16町）：山下町（県庁所在地）・易居町・生産町・六日町・築町・汐見町・泉町・金生町・中町・呉服町・大黒町・堀江町・住吉町・船津町・新町・松原通町

上町(8町)：小川町・和泉屋町・恵美須町・車町・栄町・柳町・浜町・向江町

その他 ―― 新照院通町・薬師馬場町・鷹師馬場町・西田町・平ノ馬場町・西千石町・東千石町・加治屋町・山口馬場町・樋ノ口通町・新屋敷通町・冷水通町・長田町・下龍尾町・上龍尾町・池ノ上町・鼓川町・稲荷馬場町・清水馬場町・春日小路町

上町＝内城の城下町

下町＝鶴丸城の城下町

古戦場としての多賀山

（1）東福寺城攻防戦

暦応３年(1340)　肝付兼重・中村秀純、東福寺城に拠る。
島津師忠（第４代忠宗三男忠光のこと：佐多氏の祖）・禰寝重種ら東福寺城を攻撃。

暦応４年(1341)　東福寺城・尾頸小城、陥落。

康永２年(1343)　島津貞久、催馬楽城の矢上氏を攻略。

貞和３年(1347)　熊野水軍（南朝方）が東福寺城を攻める。

応永20年(1413)　伊集院頼久、清水城を攻略。町人篠原新右衛門ら東福寺城を防衛。

（2）清水城の位置：清水山説と大興寺山説の２説

1.林　吉彦「考古学上ヨリ見タル清水城址」昭和７年 ―― 清水山説

2.「天保絵図」は大興寺山の位置に「清水城」と明記。

「旧射圃記」(1796)の碑文に（諏訪社の）「北距清水城址、四百二十歩」とある。

大興寺山では逃げの城としての山城址を確認（鹿児島市教委の発掘調査）。

清水城本丸址とみられる石垣の中軸線の方位は真北（N6° E)。

大興寺・小城権現の存在は一対のもの（五味説）。清水山は尾頸小城。

（3）西南之役と多賀山

M10.2.15　薩軍、北上開始

3.8～3.13　政府艦隊入港、祇園之洲砲台・滝之上火薬工場などを破壊。

3.9　愛宕山に大砲を持ちあげて滝之上火薬工場を砲撃。

5.5～6.24　薩軍の鹿児島奪回作戦（城山攻防戦は薩軍が攻撃、官軍が防御）。

（官軍）新上橋～武之橋、城山及び市街地
花倉山・磯～鳥越～多賀山～永安橋

（薩軍）玉江橋・玉里邸～冷水・上之原～常安峰～玉竜山
～鞭撻撃・桂山～雀ケ宮

5.5　薩軍の城山攻撃

5.6　甲突川口の戦い

5.29　花倉山の戦い

6.15　武村・馬の背の戦い

6.22～23　吉野の戦い

6.24　涙橋の戦い・武岡の戦い

7.7　春山原の戦い ―― 薩軍総崩れ、薩軍諸隊の降伏続出

9.1～24　城山攻防戦 ―― 多賀山は官軍の司令部

平成13年12月22日（土）

清　水　城

(1) 清水城での出来事

至徳元年(1384)　島津元久、清水城を築く。

応永20年(1413)　伊集院頼久、清水城を陥れる。

永正５年(1508)　島津忠昌、自刃（大興寺境内？）。奈良原助八郎、殉死。

天文４年(1535)　島津勝久、川上昌久を誅殺→川上一族の抵抗・家臣団の反抗を招く

島津実久、清水城を攻撃。島津貴久、田布施に逃れ態勢を立て直す

(2) 三国名勝図会

「大興寺の上の山をいふ、古書に是を鹿児島本城、或は清水城と記せり、齢岳公嘗て東福寺城の狭隘なるを以て其外郭を広くし大をなし給はんの御意ありしが、其事を遂げずして薨じたまふ。恕翁公（元久）に及て、別に此城を築き志布志内城より是に移給ひしこと、聖榮自記に見えたり。」

(3) 鹿児島大百科事典（読んでも理解に苦しむ従来の解説例）

至徳元年(1384)、島津元久が現鹿児島市清水町・皷川町付近に築城。・・・吉野台地の南端丘陵部から山麓部へ居館建設を企てた。拡大しつつある守護領国の統治機関の整備と家臣団の受け入れを兼ね、稲荷川を含む規模壮大なもので、麓に屋形・主殿・厩・雑掌所・御前などがあり「譜代御住所」「鹿児島本城」ともいわれ、守護島津氏の本城となった。この城の南側に守護の城下町が発達、のちに上町といわれるこの一帯は鹿児島市街の基礎となった。・・・廃城後、経囲山宝成就院や千台山真乗院大興寺などの敷地となり、居館跡は現在清水中学校となっている。

(4) 経囲山宝成就寺大乗院（藩主の祈願所：真言宗、本尊千手千眼観音）

島津久豊、伊集院荘厳寺創設（応永25年：1418）→島津貴久、本藩鎮護の道場を松峯山麓に建て、荘厳寺本尊を移す（天文年中：1532～55）→その寺を経囲山下に移す(1556)

島津貴久が鹿児島本城を内城に移した後、館跡は薩摩藩祈願所の総本山大乗院となる。

坊中馬場：慶長以来、二王門内に十坊が造営さる。

二王堂水：坊中馬場と清水馬場の交差点にあった泉（清水町の語源）。

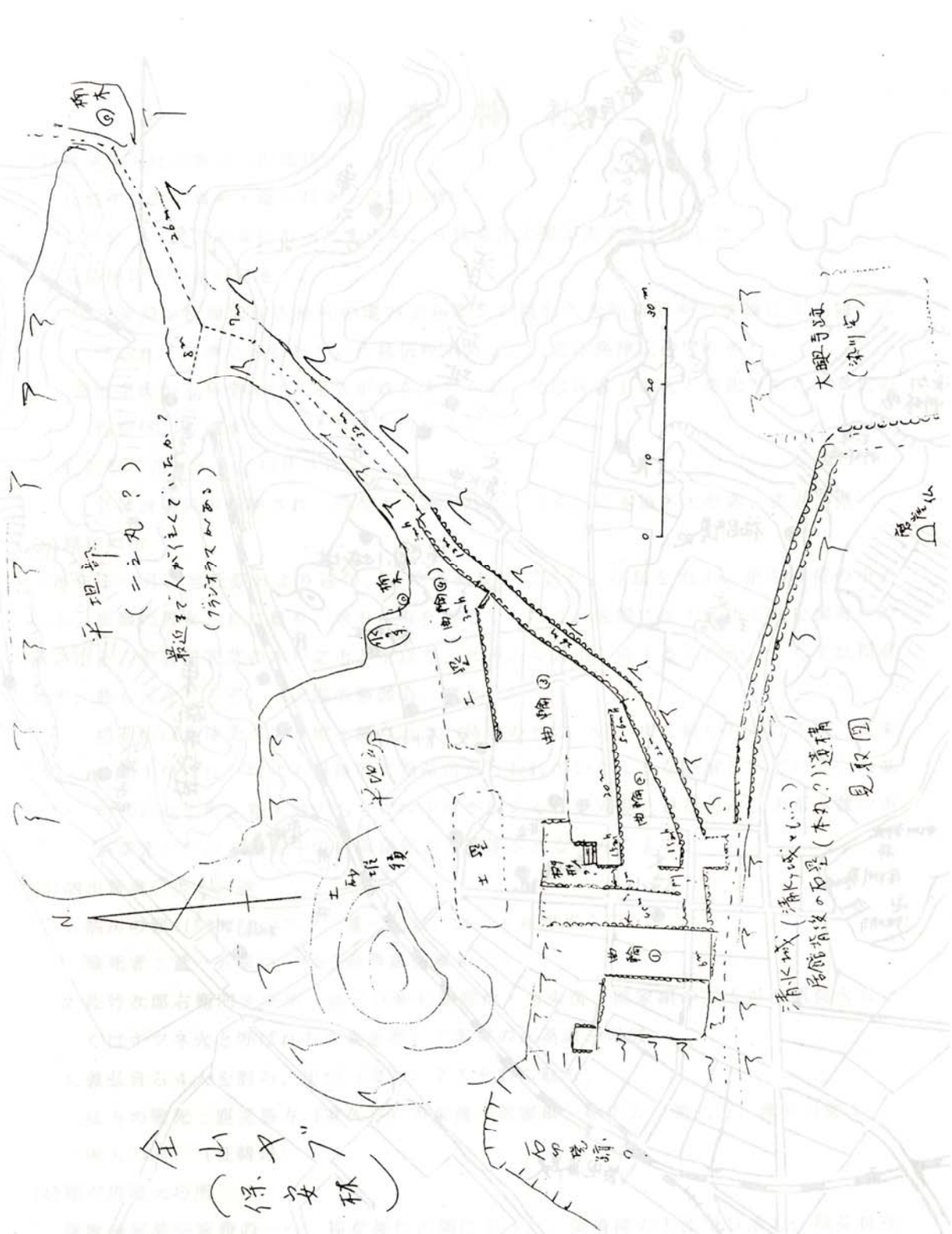
大乗院橋：天保13年(1842)岩永三五郎が架橋、昭和63年(1988)の水害で若干の輪石が流出（流れたのは４個）、同年撤去。若宮公園にスケール２分之１で復元（体積では８分之１になる）。

清水館跡：県教委が校舎増築前に調査（平成２年度？）

逃げの城：市教委が調査（平成４年度？）

(5) 千台山真乗院大興寺：大覚寺義昭僧正尊宥の菩提寺として建立（永正５年：1508）。

毘沙門堂：天文４年(1535)、川上昌久が此の地で自殺。故に此の堂を建立。


大興寺跡
(清水中)
清水城(清水中学校)
居館跡(本丸の石塁)
見取図
(二の丸？)
平田邸
(クラシエホーム？)
(現在)
(現在)
(現在



稲荷神社

(1)鹿児島五社の第三（旧郷社）

1. 祭神　倉稲魂神・瓊々杵尊・伊弉冉尊

2. 由来　日置郡市来にあったものを、９代島津忠国が鹿児島に移した。

3. 島津氏との結び付き

①丹後局が摂津国住吉神社の境内で島津氏の祖忠久を稲荷明神の加護により狐火に守られて無事出産したという狐伝説がある。（狐は島津氏の守り神）。

②惟宗氏から島津氏へと忠久が姓を変えるが、惟宗氏はもともと秦氏であり、秦氏の稲荷信仰を継承したことも考えられる。

4. 例祭　正月１日、11月３日

昔は流鏑馬が奉納され、稲荷市が開かれた。（角川日本地名大辞典、鹿児島県）

(2)稲荷の市

「毎年十一月、当社祭日より連旬、近地通衢数町に亘り、浮舗（イチミセ）を出す、是を稲荷の市といふ、都鄙の男女、日に集り、求るに有らざるものなし、他国に於て此市と豊後国府内の浜之市と、肥後国天草の本戸之市とを以て、九州三の大市と称するとかや、かくて此稲荷の市、最も大なりとぞ」（三国名勝図会、巻之三）。

稲荷市は島津氏が清水城を拠点とした時代のもの。いつまで続いたかは不明。従来の郷土史は江戸時代も継続的に稲荷市が行われていたような理解をしている。内城時代には上町、鶴丸城のもとでは下町が出来る。鹿児島、豊後府内、天草本渡の市が栄えたのは16世紀中頃の南蛮貿易と関連があるとみてよい。

(3)泗川新寨三勇士之碑

1. 泗川の戦(1598)　　明軍（董一元軍）20万・島津軍５千

戦死者：董一元軍38,717、島津義弘軍４

2. 佐竹次郎右衛門光明坊・瀬戸口弥七郎重治・市来清十郎家綱の三人が、稲荷火もしくはキツネ火と呼ばれた火薬を抱いて明軍の火薬庫を爆破。

3. 義弘自ら４人を討ち、忠恒（家久）７人を討ち取る。

味方の戦死：鹿児島方（家久方）市来清十郎家綱、帖佐方（義弘方）瀬戸口弥七両人のみ。（征韓録）

(4)稲荷馬場火巧所

薩摩藩銃薬局施設の一つ。稲荷神社の隣にあった。菜摘滝の上流で取水し、稲荷神社の背後まで水路で導水した水を利用した水車を動力源として銃弾・弾薬を製造した。明治10年１月31日～2月1日早朝にかけて、市来政明を中心とした共立学舎生が襲撃、銃弾・弾薬を奪った。これを契機に共立学舎は私学校に復帰、西南之役に参加した。50名出兵、18名戦死。（共立学舎125周年記念誌）

滝之上火薬製造所

平成14年１月26日

（１）「古歌」にもとづく命名

1. 菜摘瀑布（薩藩名勝考）・夏箕瀑布（三国名勝図会）

吉野なる菜摘の川の川淀に鴨ぞ鳴くなる山陰にして（万葉集375）

風渡る夏見の川のゆふ暮に山かけ涼し日くらしの声（島津忠宗、続千載集）

稲荷神社より北の方、山を隔て十町余に当る、樋木川の上流なり、此辺を瀑の上といふ

ここもまたよし野にちかきなつみ川ながれて滝の名にやおつらん（細川幽斎）

2. 滝の上

滝の上の三船の山に居る雲の常にあらむとわが念はなくに（万葉集242）

み吉野の三船の山に立つ雲の常にあらむとわが念はなくに（万葉集244）

3. 実方（実方神社）・雀ケ宮

藤原実方（？～998）　三十六歌仙の一人、藤原公任や清少納言と交遊、自由奔放な風流人でエピソード多し。藤原行成と歌枕論争を行い陸奥守に左遷。

（２）滝之上火薬製造所

1. 嘉永２年(1849)　島津斉彬の命令で建設。水車６基が稼働。「銃薬方」と称した。

2. 黒色火薬：滝之上（本局）と敷根（分局）２ケ所で年間７万斤（１斤は500ｸﾞﾗﾑ）製造

オランダ式火薬：硝石70・硫黄15・木炭15

イギリス式火薬：硝石75・硫黄15・木炭10

3. 慶応中、中津・姫路・土佐・平戸藩その他に火薬を売る。

4. 明治10年３月９日、軍艦「春日」が滝之上・敷根両火薬製造所を破壊。

滝之上・敷根で火薬製造に当たっていた技術者は東京に招かれて海軍の火薬工場で火薬製造に従事した。

5. 江戸時代の火薬製造：「塩硝小屋」の地名が残っている。

古い家の床下にはアマメやネズミの死骸など多くの窒素分があり硝酸バクテリアの働きで硝酸カルシウムが出来ていた。そのような土を集めてアク巻（鹿児島独特のチマキ）を作るアク汁（木灰汁）を混ぜると硝酸カリウム（硝石）を抽出することが出来た。

（３）火巧所（銃薬方の一施設？）

1. 滝之上で取水した水路の水を動力源とした銃砲製作所が稲荷神社脇にあった。

明治10年２月１日、共立学舎生が襲撃・・・・西南之役につながる。

（４）滝之上水力発電所（明治41年：1908年、末広氏が創業？）

明治41年8月15日運転開始、昭和48年3月31日廃止

廃止に伴い小手川鉱業・九州配電（九州電力）から鹿児島市へ水利権譲渡

昭和50年４月、鹿児島市水道局滝之神浄水場通水開始

（５）骨粉工場（大正６年：1917年、鹿児島肥料k.k.創業）

日清戦争後中国大陸から獣骨を輸入、肥料用に加工。

（６）石橋その他

1. 実方太鼓橋から稲荷橋の間に全部で５橋あったが、８・６水害で菜摘の滝のすぐ上流にあるものだけになった。多くの石橋の存在は幕末からの工場立地がその背景になる。

2. 瀑之上観音

瀑布の前，巌壁の上にあり、桂山観音ともいふ。千手観音の石像なり。寛永十四年(1637)、平山対馬守安置す。（三国名勝図会）

3. 水神・地神

石碑があったというが、所在不明

（７）関連事項

明治42年11月20日	肥薩線開通（八代～鹿児島）
明治45年４月１日	清水小学校開校
大正２年10月11日	武停車場（西鹿児島駅）完成
大正３年１月12日	桜島大爆発
大正３年７月28日	第一次世界大戦勃発

（８）参考文献

1.『薩藩海軍史』（昭和４年、公爵島津家編輯所編）

2.『銃砲史研究』177号・179号・181号（昭和61年、銃砲史研究会）

3.『敷根火薬製造所跡発掘調査報告書』（平成元年、国分高校郷土研究クラブ）

4.『鹿児島のおいたち』（昭和30年、鹿児島市編）

5.『鹿児島百年』下巻（昭和43年、南日本新聞社）

6.『鹿児島市水道史』平成３年、鹿児島市水道局編

7.「火薬史年表」『日本史分類年表』（昭和59年、東京書籍）所収

（９）鹿児島藩火薬史（上記「火薬史年表」より抄出）

1543　鉄砲伝来　（1554、岩剣城攻撃に島津忠将が鉄砲を使用）

1549　島津貴久、加治木城攻撃に鉄砲を使用して勝つ

（1575　長篠の戦、織田信長3,000丁の鉄砲で武田勝頼の騎馬軍団を破る）

1837　山川で米艦モリソン号を砲撃

1846　大砲製造所を設置

1849　敷根・滝之上２カ所に火薬調分所設置

1855　鉱山で発破を行う

1857　雷管銃試作

1863　敷根火薬製造所設置・薩英戦争

1866　英国商人よりミニエー銃3,000丁その他新式銃を購入

愛宕神社（摩利支天）

平成14年２月23日

(1) 愛宕山宝幢寺勝軍院

坂本村後迫にあり、本府大乗院の末にして真言宗なり、本尊勝軍地蔵（木像騎馬）、開山頼済法印と云、当寺、旧は愛宕社の別当寺也、初め大中公（15代貴久）愛宕社を此地に御建立にて祭敬し給ひしが、其後廃せしを、寛永８年(1631)慈眼公(18代家久) 再興し、且当寺を建給ひ、頼済座主となる、今愛宕社は本府般若院管轄す。（三国名勝図会、巻之四）

愛宕信仰：火伏せの神（鎮火神）としての愛宕社に寄せる信仰。本地仏は勝軍地蔵と名付けられ、勝利の神として戦国武将に崇拝された。・・勝軍地蔵は「塞神（さくじん・しゃくじ）」の転訛と考えられている。（国史大辞典、吉川）

摩利支天：天女形座像。中世武士の間で守護神と仰がれ、江戸時代になると、大黒天・弁財天に並ぶ三天として、蓄財福徳神とされて商工業者間でも尊崇された。（ibid）

(2) 再興摩利支天石龕記并銘（宝暦５年：1755）

摩利支尊天者、軍陣利運之本誓殊専也。茲以明暦三年丁酉十一月、麑府左武之士一百余輩同志、請于官府、応力、始立石龕、其像安於東福山上。南則大海浩湯、北則層峯削〇、西眺城邑紆余、東望平泉超忽。信神居之勝地也。寛延元年戊辰十月、暴風煙怒蹙〇伐木、遂敗毀石龕、而莫営構繹者、春秋看八換、可為長大息矣。夫鴻鐘虚受無来、不応清〇、自〇則惟恍惟惚、神如在其左右大矣。〇〇同志一百十三人、乃相与戮力、弘啓興復、是以新旧物、般若院役英〇〇〇真祭之儀、蓋因所始云窃所祈、邦祚安寧、兼天地長久、家運久栄理則修忠孝義信之道、一処不幸、尤当励鷹揚蠭虎之志、顕霽鼓染鍔之功、以彗掃蓄害、将上〇光尊天之威徳、下以大庇生類、為此邦国干城、丹誠一致、神人同機、冀尊天亦無謬其本誓也、刊石作〇、銘其辞曰

〇矣陽〇夸〇、霊斉煽介、拝祚夸好延禎、武徳夸輝億年

宝暦五年乙亥八月五日　　惟宗政公拝誌

同志姓名、記左方、乃与此矣、別写一、仮蔵龕中

安養院、辻〇休蔵盛章、星野藤次長寛、木脇喜兵衛祐兄、否笠〇六政〇、大島郷七有次、吉井孫八泰興、益満孫兵衛儁〇、川上善八親次、川上釜八親次、貴島源七兼香、有馬清兵衛純庸、植村新七長貞、河野源助通寧、村田善八経容、岩山長兵衛直浩、平田平六貞兼、市来勘六政名、伊藤忠太貞和、福島清兵衛香宏、横山勘助安朗、萩原平八貞雄、市来正蔵政央、川上半兵衛親興、肥後平蔵盛応、別府藤市明次、伊東才蔵祐次、貴島勘兵衛兼福、町田惟平次実仍、町田幸之進実直、村田善太夫経中、川上八之丞親方、村野喜平太実秀、伊藤十四郎祐長、町田新次郎実庸、肥後平七郎盛郷、市来惣兵衛政相、伊藤覚兵衛祐伝、若松八之丞長富、税所弥八郎篤央、寺尾庄兵衛暁通、町田慶之丞実孝、讃良長五郎貞敦、鎌田源兵衛政方、伊藤善兵衛祐成、新納源四郎時以、伊東仙兵衛祐臣、伊東彦太郎祐次、

野村勘九郎盛房、小田慶輪為卿、野村八十八盛真、植村七太郎長次、山田権兵衛国倫、山田金太郎国次、森　鐵兵衛時央、辻　休五郎盛香、中江次郎右衛門員儔、田中六郎左衛門政甫、伊藤七郎右衛門祐清、大野藤次兵衛義士、竹原次郎兵衛為常、武佐後右衛門貞關中江八右衛門員蔵、奥山三左衛門政次、村田庄右衛門経長、市来六右衛門政憲、伊藤五郎兵衛祐昌、黒葛原助左衛門兼伴、伊集院清右衛門兼甫、宮之原助右衛門栄伝、神宮司弥兵衛純芳、大島権右衛門久方、市来瀬兵衛政公、大廻五右衛門元恭、市来権右衛門政盈、田中郷左衛門守予、家村次郎太郎住次、田中伊右衛門盛尹、村田善左衛門経孝、有川駒右衛門貞貫、有川休右衛門貞恒、白坂市余右衛門篤興、山口杢左衛門行佐、町田越右衛門実穏、山田貞次郎国次、南金右衛門正茂、伊集院平五郎栄風、肥後長左衛門盛庸、町田弥右衛門実邦、海江田伊右衛門直〇、焼山才右衛門安春、横山仲左衛門安昌、讃良権右衛門貞数、〇山庄左衛門長堅、平野休左衛門友恕、貴島源右衛門〇明、〇〇休左衛門信尹、伊集院甚七兼澄、折田〇左衛門〇〇、梅北楮右衛門貞恒、若松庄右衛門珎良、白石杢左衛門秀次、有馬弥右衛門純将、渋江勘右衛門公紀、岡之原伊太郎友〇、伊東杢右衛門祐倫、伊東庄右衛門祐章、藤崎嘉左衛門公保、田中伝右衛門盛苗、折田甚助寧孝、馬場伝右衛門篤貫、中馬新次郎規馮、白石仲左衛門惟秀

(3) 龕傍石欄記（宝暦九年：1759）

本文省略（『鹿児島市史』Ⅲ.P.843 は本文のみを掲載）

宝暦九年己卯春二月二十日　　小田為卿謹記諸

池田善之丞為章、植村新七長貞、黒江善庵景陳、柏原甚蔵公晃、岩山喜平次直貞、新納新蔵時昌、小田慶輪為卿、税所平八篤公、有馬清兵衛純君、有馬正助純模、川北孫八貞庸町田仲蔵実盈、村田源兵衛経房、村田源蔵経幸、面高真蔵英積、伊藤善八祐清、面高伝兵衛英置、藤井喜助親房、川上真助親行、新納十郎時意、竹之内慶助実応、馬場伝右衛門篤貫、蘭牟田主左衛門舜香、上別府彦八昌士、柏原東左衛門公敦、蘭牟田半右衛門舜陳、本田佐平次親安、竹原次郎兵衛為常、海老原伝左衛門為村、本田庄五郎親次、大野正右衛門用規、迫水甚五左衛門政春、図師大四郎貞次、黒江正右衛門景当、迫水五納右衛門径達市来楮之八政常、面高長右衛門英政、酒匂兵右衛門景雄、小田仲之進為憲、落合喜右衛門兼福、頴川幸左衛門龍房、平城休之進盛庸、荒武伊右衛門祐英、頴川袈裟次郎龍次、町田八之進実次、伊地知八之丞季香、落合三七兼次、左近允金平尚次、東正右衛門常善、面高長五郎英次、面高松之助英次、津留甚右衛門正方、村田三之丞経次、頴川平四郎安次、児玉藤左衛門実興、小田安次郎為次、町田藤五郎実次、上田源左衛門常里、上田鉄袈裟常次、永江〇次郎尚次、竹之内慶次郎実次、岩山喜角直次、荒武幸次郎祐次、山下伝内。

若宮神社・春日神社

平成14年３月23日

(1) 若宮八幡宮

祭神四坐、応神天皇・神功皇后・玉依姫・仁徳天皇。正祭九月九日。聖栄自記を案ずるに、齢岳公諏訪神を山門院より迎祀して、本府の宗廟とし、且大隅正八幡の三ヶの神輿を以て若宮八幡と号し、勧請し給ふといへり、即ち当社にて、鹿児島五社の第五なり・・・

(三国名勝図会、巻之三)

(2) 春日神社

建甕槌命・経津主命・天児屋根命・姫大神の四坐を奉祀す、正祭十一月廿八日、本社大和国添上郡春日郷春日神社にして、鹿児島五社の第四とす。(ibid.)

(3) 五社・例祭・別当寺

1. 諏訪神社	7月28日	安養院（真言宗）	愛染明王
2. 八坂神社	6月15日	文殊院（真言宗）	十一面観音
3. 稲荷神社	11月3日	宝持院（真言宗）	十一面観音
4. 春日神社	11月28日	西寿院（真言宗）	阿弥陀如来
5. 若宮神社	9月9日	？	

春日神社は本来藤原氏の氏神であり、長谷場氏・矢上氏が藤原純友の子孫と称する点と結び付くものがあるか？　矢上氏は鹿児島を追われた後は末吉に移ったとみられる。その際、鹿児島の住吉神を守って移ったか？　航海神である住吉神が陸地の末吉にあるのは理解に苦しむ。末吉の住吉神社は伴氏の子孫である肝付氏と結び付くものか？

若宮八幡：若宮＋八幡。若宮神社は若くして不慮の死を遂げた若君を祀る。

(3) 御船手跡

御船手：藩船を保管する役所。舟屋馬場：船頭・水主・船大工たちが住んでいた。

貞享５年(1688)頃まで此の地にあり、以後、新屋敷さらに天保山へと移転した。

(4) 森有礼誕生地の碑

(5) 卸口小路・・・真北の方位

春日町と柳町の境界、柳町からいわゆる「上町」に入る。

(6) 真北の方位：「北極星を見通した方向」で磁北とは異なる。土地によって異なり、国土地理院の５万分１図・２万５千分１図にそれぞれ「何度西にふれている」と説明がある。鹿児島市の場合、真北はＮ６° Ｅ：磁針は西に約６度振っている。

古代・中世を通じて北極星によって町並み・建物などの方位を決めた。

真北の方位が認められる所：清水城址石垣の中軸線・若宮神社・内城の地割・卸口小路

(7) 重富屋敷・宮之城屋敷（のちに祁答院殿の屋敷となる）。

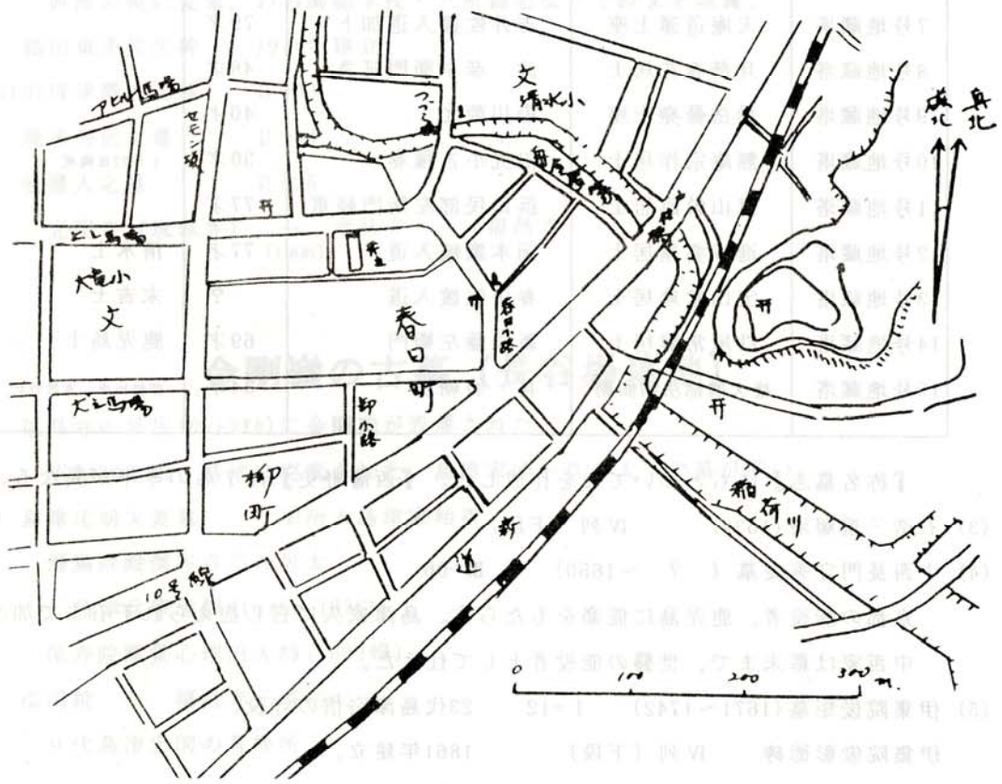
(8) 犬之馬場・上之馬場・横馬場（旧名、舟屋馬場）・春日小路

(9) 鹿児島の豪族

	遺跡	神社	豪族
稲荷川流域	若宮遺跡・大竜遺跡	五社(15c.～)	長谷場氏・矢上氏（～14c.） 島津氏(14c.～)
甲突川流域	？	鹿児島神社 (9c.) 伊邇色神社	伴氏（10～11c.） 伊敷氏（14～15c.）
田上川流域	一之宮遺跡 鹿大構内遺跡 → 郡家	郡本社（12c.～） 荒田荘	鹿児島氏（～13c.）

(10) 鹿児島郡司職の変遷

（伴兼行）……長谷場氏（薩摩平氏）——（源平合戦）——源氏＝鹿児島氏——（承久の乱）——北条氏＝矢上氏——（南北朝動乱）——足利氏＝島津氏



福昌寺由緒墓

平成14年４月27日（土）

(1) 阿多長寿院盛淳墓(1548～1600)　Ⅱ-03

関ヶ原の戦で兵庫入道と名乗り、島津義弘の身代りとなって戦死

畠山氏墓碑　Ⅲ-01　阿多長寿院盛淳追悼碑

(2) 十五基の地蔵塔　Ⅳ列（下段）　すべて慶長16年(1611)２月20日の日付。

島津義久茶毘の日に殉死した家臣十五人の墓碑。原位置のまゝとみられる。

	法　名	俗　名	享年	その他
1号地蔵塔	蘭室宋馨居士	新納式部少輔忠朝	44才	
2号地蔵塔	月舟守心居士	村岡豊前重光	46才	
3号地蔵塔	瑞翁良玉居士	市来清左衛門	26才	大口士
4号地蔵塔	花翁道栄居士	肥後権之丞	50才	国分士
5号地蔵塔	一山宗将居士	赤塚吉右衛門重増	51才	大口士、関ヶ原琉球従軍
6号地蔵塔	機先道全居士	山口対馬	50才	
7号地蔵塔	天庵道運上座	吉井佐渡入道加卜	79才	
8号地蔵塔	月蒲春花居士	武　彦左衛門延為	48才	
9号地蔵塔	舜岳曇堯上座	染川源允	40才	
10号地蔵塔	無庵宗作居士	田尻小吉種春	30才	1月22日殉死
11号地蔵塔	鏡山栄臨居士	浜田民部左衛門経重	77才	
12号地蔵塔	進歩要請居士	岡本讃岐入道	77才	清水士
13号地蔵塔	宝山常珍居士	春田佐渡入道	?	末吉士
14号地蔵塔	昌屋常盤居士	新原藤左衛門	69才	鹿児島士
15号地蔵塔	権大僧都法印仙朝	林　仙朝坊	34才	朝鮮出身、本姓朴氏

『称名墓志』にもとづいて表を作成した。『西藩野史』は７名の享年が異なる。

(3) 石造三重層塔(1639)　Ⅳ列（下段）

(4) 中西長門守秀長墓（　?　～1650)　Ⅲ-06

京都の能役者。鹿児島に能楽をもたらす。島津家久に召し抱えられ千石まで加増。

中西家は幕末まで、世襲の能役者として仕えた。

(5) 伊集院俊矩墓(1671～1742)　Ⅰ-12　23代島津宗信の守役。

伊集院俊彰徳碑　Ⅳ列（下段）　1861年建立。

(6) 偏詢師顕彰碑　Ⅳ列（下段）　1832年建立。

偏詢師(1659～1743)　福昌寺の秀才。碑文は難解。

(7) 田之浦御屋鋪年寄、岡山墓（　?　～1800)　Ⅱ-13

生国武州江戸、御旗本佐久間長左衛門平信仍娘。

(8) 白尾国柱(1762～1821) 墓碑銘　Ⅱ-11

薩摩の国学者。『麑藩名勝考』『倭文麻環』『成形図説』などを編纂。

(9) 調所広郷墓(1776～1848)　Ⅱ-08

天保の改革を推進した家老。密貿易の責を負って自殺。平成13年12月建立。

(10) 山田清安墓(1749～1849)　Ⅰ-11

嘉永朋党事件（お由羅騒動）で切腹。妻歌子は種子島に流されたが歌道を弘めた。

(11) 税所清太篤風墓碑(1842～1863)　Ⅱ-10

薩英戦争時、祇園之洲砲台で戦死。

(12) 横山安武墓(1843～1870)　Ⅰ-02

森　有礼の兄。明治新政府役人の腐敗を怒って割腹自殺　→　影響大。

横山安武碑　Ⅰ-01　1872年建立。

西郷隆永の文。のちに西郷隆盛と修正。隆永の方が歴史的価値大だったろうに。

(13) 東条伝之丞墓(1837～1904)　Ⅳ列（下段）

西南の役に従軍。のち師範学校・三州義塾などで詩文を講義。

鶴山東条先生碑　1914年建立。

(14) 旧琉球藩人之墓　Ⅱ-03

琉球僧侶之墓　Ⅱ-04

他藩人之墓　Ⅱ-05

光明寺（琉球寺）　→(1908)　南林寺　→(1921)　福昌寺

金剛嶺の古墓（長谷場墓地）

(1) 福昌寺の艮岳(ウシトラタケ)に金剛碑が設置された。

昭和30年頃、墓地は廃棄された。島津家ゆかりの人々の墓が多い。

(2) 島津忠朗夫妻墓　加治木島津家始祖

優島院殿傑岑自英大居士

島津兵庫忠朗(1616～1676)

保寿院殿覚心理円大姉(1692歿)

(3) 深固院　福昌寺三塔司の一。

９代島津忠国の菩提所。

南林寺由緒墓

平成14年５月25日

(1) 柏木源藤（ ？ ～ ？ ）　Ⅰ-01、鹿児島市史Ⅲ、p.818。
関ヶ原の戦で追撃して来た井伊直政を狙撃、致命傷を負わす。

(2) 山本伝蔵正誼（1734～1808）　Ⅲ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.829
造士館教授、『島津国史』編纂。

(3) 後醍院真柱(1805～1879)　Ⅲ-13、鹿児島市史Ⅲp.827
国学者大河平隆棟次男、平田篤胤門下。『神代三陵考』を著す。

(4) 藩医（奥医師）
①森元高見貞興(1712～1791)　Ⅱ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.820
②森元高見貞謙（ ？ ～1814）　Ⅱ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.821
③橋口杏庵兼喬（ ？ ～1810）　Ⅰ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.819

(5) 日置流弓術師範　cf.村山輝志『示現流』p.19
①東郷長左衛門重尚（ ？ ～1660）　初代。Ⅰ-02、鹿児島市史Ⅲ、p.818
②東郷四郎左衛門重張（ ？ ～1688）　第二代。Ⅲ-02、鹿児島市史Ⅲ、p.819
③東郷長左衛門実行（ ？ ～1754）　第四代。Ⅲ-03、鹿児島市史Ⅲ、p.819

(6) 野太刀自顕流　cf.村山輝志『示現流』p.25
①薬丸刑部左衛門兼陳(1607～1685)　初代。Ⅳ-03、鹿児島市史Ⅲ、p.819
②薬丸刑部左衛門兼福(1642～1693)　第二代。Ⅰ-03、鹿児島市史Ⅲ、p.819
③薬丸半左衛門兼義(1805～1878)　第八代。Ⅰ-13、鹿児島市史Ⅲ、p.820

(7) 刀工
①宮原主水正正清（ ？ ～1730）　Ⅳ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.829
②宮原清右衛門正近（ ？ ～1743）　Ⅲ-04、鹿児島市史Ⅲp.817、「薩州住正近」の銘

(8) 文化朋党事件（近思録崩れ・秩父崩れ）
①清水源左衛門盛之(1771～1802)　Ⅳ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.818
②森元高見貞謙（ ？ ～1814）　Ⅱ-06、鹿児島市史Ⅲ、p.821

(9) 幕末の動乱で死亡
①橋口伝蔵兼備（ ？ ～1862.4.23）　Ⅰ-08、鹿児島市史Ⅲ、p.819、寺田屋事件。
②森山新五左衛門永治（ ？ ～1862.4.23）　Ⅲ-09、鹿児島市史Ⅲ、p.820、寺田屋事件
③森山新蔵永賀（ ？ ～1862.6.3）　Ⅱ-09、鹿児島市史Ⅲ、p.820
西郷隆盛・村田新八と行動をともにするも、処分申し渡しなく、自殺。
④美玉三平(1822～1863)　Ⅱ-14、但馬生野の変、挙兵に失敗。
⑤篠崎彦十郎仲苗（ ？ ～1867）　Ⅲ-08、庄内藩兵の薩摩藩邸焼き討ちに遭い戦死
⑥指宿五左衛門永健(1840～1867)　Ⅰ-09、鹿児島市史Ⅲ、p.826、大阪で襲撃さる。

(10)戊辰之役戦死者
①入佐助八兼友(1845～1868.1.5)　Ⅱ-12、鹿児島市史Ⅲ、p.825、於鳥羽戦死。
②橋口与助兼行(1842～1868.3.9)　Ⅲ-11、鹿児島市史Ⅲ、p.819、於下野梁田戦死。
③二階堂右八郎行信（？～1868.閏4.25）　Ⅱ-11、鹿児島市史Ⅲ、p.823、於白川戦死
④岩下半之助道英(1848～1868.5.15)　Ⅲ-10、鹿児島市史Ⅲ、p.823、上野黒門口戦死
⑤山口鉄之助直英(1837～1868.6.14)　Ⅳ-11、鹿児島市史Ⅲ、p.824
寺田事件、鎮圧側。於越後高田戦死。
⑥東郷愛之進実古（ ？ ～1868.7.8）　Ⅰ-10　若き薩摩の群像の一人（西駅前銅像）
⑦河野浄介通鑑(1843～1868.7.11)　Ⅳ-10、鹿児島市史Ⅲ、p.830、於最上戦死。
⑧伊地知愛四郎秀寿(1846～1868.7.29)　Ⅱ-10、鹿児島市史Ⅲ、p.825、於庄内戦死。
⑨山之内次郎重虎(1843～1868.9.2)　Ⅰ-11、鹿児島市史Ⅲ、p.824、於会津若松戦死
⑩久長竜介貞昌(1846～1868.9.20)　Ⅲ-12、鹿児島市史Ⅲ、p.818、於出羽島村戦死

(11)その他
①加藤権兵衛清風（ ？ ～1763）　Ⅰ-16、武芸百般。通称家鴨先生。
cf.村山輝志『示現流』p.22
②川崎大乗坊祐中（ ？ ～1766）　Ⅳ-05、鹿児島市史Ⅲ、p.822、砲術家。
③坂本廉四郎清東（ ？ ～1800）　Ⅱ-15、天文学者。
cf.海野一隆「薩摩藩士坂本廉四郎」随筆かごしま、No.127
④徳田小藤次邑興(1738～1804)　Ⅳ-14、兵法家。
『島津家御旧制軍法』（新薩藩叢書、三）を著わす。
⑤吉村貞翁(1768～1834)　Ⅱ-08、宝島上陸のイギリス船員を射殺。
⑥赤塚源六真成(1834～1873)　Ⅳ-12、鹿児島市史Ⅲ、p.826。
軍艦春日艦長、五稜郭攻撃で武勲。海軍大佐で病没。
⑦宮下文蟻(1819～1881)　Ⅲ-13、鹿児島市史Ⅲ、p.828、画家。
⑧山田翠亭（ ？ ～1889）　Ⅳ-13、鹿児島市史Ⅲ、p.818。
愛媛県人。西郷隆盛の印鑑、西郷札原版を彫る。



《参考文献》辞典類は省略。
太原久雄『南林寺に蔵む』S.62
『鹿児島市史、Ⅲ』所収「鹿児島の金石文」
『称名墓志』新薩藩叢書、三、所収

福 昌 寺 墓 地

平成14年５月25日

(1) 島津家歴代の墓所：昭和28年、県指定史蹟。

玉竜山福昌寺（曹洞宗）　島津家の菩提所。第７代元久の請によって、応永元年(1394)石屋真梁が創建という。 主として、伊作島津家の墓所。

県下各地に散在していた墓を管理の都合上、島津家は鹿児島市に集めつつある。しかし数百年来崇めて来たものを移設するのはと、墓地所在地の人々は残念に思っている。

(2) 常安墓地

29代忠義・30代忠重・31代忠秀とその家族 ――― (上円下方墳多し)。

(3) 由緒墓：前回の資料参照

(4) 歴代住職の墓

初代石屋真梁(1349～1428)　伊集院氏（島津氏分家）出身。

３代仲翁守邦(？ ～1445)　島津元久長子。吾平町の含粒寺開山。

15代忍室文勝(？)　フランシスコ＝ザビエルと禅問答。

67代円了無参(1782～1851)　西郷隆盛・大久保利通らが参禅。

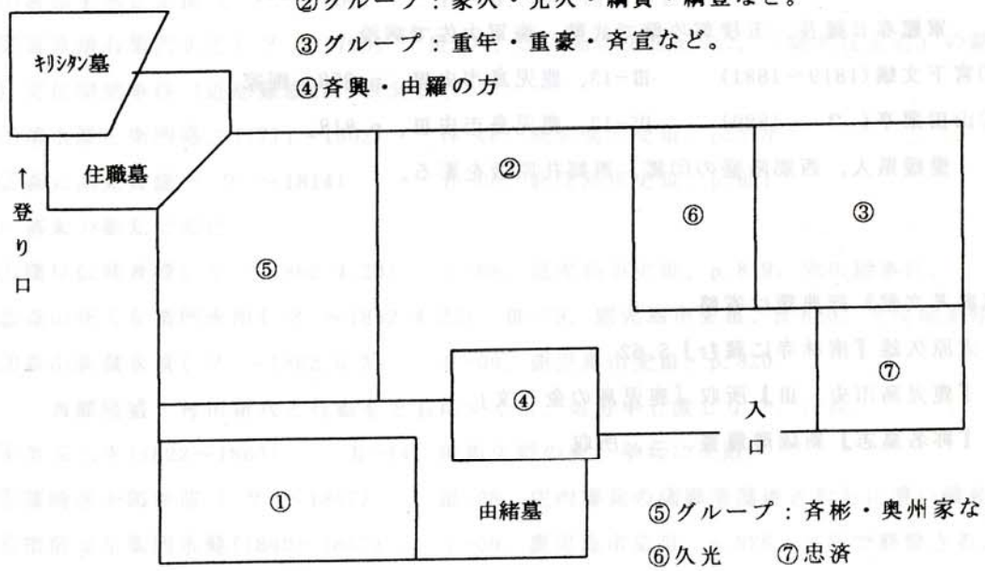
71代白洲寛山(？)　廃仏毀釈に遭う。

(5) キリシタン墓地

明治２年(1869)、長崎浦上のキリシタン四百余人が捕えられ、375人が福昌寺跡に収容された。明治５年に釈放されたが、滞在中58人が病死、13人出生、長崎に330人が帰還58人の墓をいう。（参考文献：『鹿児島の地名』平凡社）

《福昌寺墓地見取図》

①グループ：元久、貴久、義久、義弘など。
②グループ：家久・光久・綱貴・綱豊など。
③グループ：重年・重豪・斉宣など。
④斉興・由羅の方



⑤グループ：斉彬・奥州家など
⑥久光　⑦忠済

島津家歴代の墓所

代	太守	生没年代	墓　所	菩　提　所	法名	その他
1	忠久	？ ～1227	野田感応寺	浄光明寺（本立寺）	得仏	鎌倉にも墓
2	忠時	1202～1272	〃	〃	道仏	
3	久経	1225～1284	〃	〃	道忍	筥崎で病没
4	忠宗	1251～1325	〃	〃	道義	
5	貞久	1269～1363	〃	〃	道鑑	
6	氏久	1328～1387	大姶良龍昌寺	志布志大慈寺即心院	齢岳玄久	総州家省略
7	元久	1362～1411	福昌寺	福昌寺	恕翁玄忠	6代師久
8	久豊	1375～1425	穆佐悟性寺	福昌寺惠燈院	義天存忠	7代伊久
9	忠国	1403～1470	加世田杉本寺	福昌寺深固院	大岳玄誉	
10	立久	1432～1474	市来龍雲寺	市来龍雲寺？	節山玄忠	
11	忠昌	1463～1508	大興寺	興国寺	円室源鑑	
12	忠治	1489～1515	吉田津友寺	吉田津友寺？	蘭窓津友	
13	忠隆	1497～1519	隆盛院	隆盛院	興岳隆盛	
14	勝久	1503～1573	豊後国？	？	大翁妙蓮	
15	貴久	1514～1571	福昌寺	南林寺	大中良等	
16	義久	1533～1611	〃	妙谷寺	貫明存忠	国分金剛寺にも墓
17	義弘	1535～1619	〃	伊集院妙円寺	松齢自貞	
18	家久	1578～1638	〃		花舜琴月	
19	光久	1616～1694	〃		泰雲慈温	
20	綱貴	1650～1704	〃		昌道玄新	
21	吉貴	1675～1747	浄光明寺 → 福昌寺（移葬）		鑑阿天清道熙	
22	継豊	1701～1760	福昌寺		円鑑享盈	
23	宗信	1728～1749	〃		俊巌良英	
24	重年	1729～1755	〃		円徳院覚満良義	
25	重豪	1745～1833	〃		大信院栄翁如證	
26	斉宣	1773～1841	〃		大慈院舜翁渓山	
27	斉興	1791～1859	〃		金剛定院明覚亮忍	
28	斉彬	1809～1558	〃		順聖院英徳良雄	
29	忠義	1840～1897	常安峯		島津忠義命	
30	忠重	1886～1968	〃		島津忠重命	
31	忠秀	1912～　？	〃			

蛇の穴・智恵光院

平成14年６月22日（土）

(1) 毛利正直『大石兵六夢物語』より

◎兵六吉野発向に付群狐評定手配りする話「――敵は僅か一人、味方の狐は数千疋、殊に吉野は要害の地、むかし大塔の宮のこもらせ給ふ旧跡なれば、山険にして路ほそく、川深ふして苔なめらかなり、東は三里、海岸に面し、巌石屏風を立てたるごとくなれば、雉兎翡翠のかよひすら、心にまかせず、宍とる犬もむなしく帰る、南に石場なまころし、且又田之迫といふ関所あり、俗鞍馬攀と訛る、西は川上花棚につゞき、吉田蒲生の難所を固め、北はしろかね関屋の谷、七曲なるつゞらをり、内には牟礼の高岡に、自然石窟の天守をあげ、四方十里を目の下に見をろし、外には東福清水の砦あり、または実方、矢上の城の故塁あり、――」

◎兵六茨木童子に出会の話「男なるかな兵六は――跡見かへりも千地蔵、薄気味わるき左衛門坂、風蕭々となまぐさき鼓の河原を打ち過ぎて、行けば程なく御番所の、門もとざさぬ御代なれば――いそぐや旅の夜の道、くらきをてらす三仏の、智恵光院の鐘の声無明の夢やさますらん、笛と太鼓はなけれども、催馬楽も跡に見て、人の心の険と鳴る、石切場をもかるがると、登ればやがて鹿児島の、札の辻より一里塚、二里塚越えて三里塚四里にもみたぬ道なれど、旅ねとなればものうきに――心ぼそくも行くまゝに、実方近くなるかみの、紙打音のおびたゞや――鷺山よりぴかぴかと、ほのめき出るいなづまは大山伏の打火かと、我とむかゆる蛇の穴や、あなすざましの気色やと、むねに擣衣の鞍鞽鼕、太鞁の橋を打ち渡り、吉野の城に寄せたりけり――」

毛利正直(1761～1803)：鹿児島城下加治屋町出身。享保・元文年間に川上某が書いた『大石兵六物語』を天明４年(1784)『大石兵六夢物語』として書き改めた。薩摩の風刺文学の傑作。歴史的な地名を多く盛り込んでいる。

(2) 名越どんの坂：昔の大隅街道

名越左源太(1819 ～1881)の野屋敷で「お由羅騒動」の陰謀が協議されたとして連座奄美大島に遠島。左源太は配流中、奄美の風俗・習慣を調べ『南島雑話』にまとめた。

(3) 蛇の穴

『麑藩名勝考』『三国名勝図会』に詳しい解説がある。昼間でも星が見えるとして江戸時代もてはやされた名所。３～４カ所あったらしいが、現在残っているのは１カ所。

「蛇穴――在鞍鞽々山上、有禅院、号正真軒――薩州鹿子島の城より半里程なるタントウトいふところ、三町余山へ上れは、平にして岩屋あり、蛇穴と云、穴の口広四間ほと、奥へ五間許往て、岩屋より上の山へ、マハリ二把ほと、長二丈余の穴ありて、其穴より日中に星を見るといふ――」白尾国柱『麑藩名勝考』(1975)

正真軒：福昌寺末寺。寛文七丁未（1667)建立の観音像が埋没（平成12年12月確認）

(4) 智恵光院

坂本村撻鞽々にあり、坊津一乗院の末にして真言宗也、本尊地蔵菩薩（立像聖徳太子の作にて丸木作といふ）文禄中近衛藤公信輔、薩州に謫せらる、春日天満二神社を鹿児島下伊敷村に創建し当寺を営て別当寺とす、其帰洛を祈るなり、百余年を経て、当寺廃せしに、享保元年、一乗院第二十世堯周法印、今の地に移す、当寺の後庭は瀑泉崖上より瀉き下り、泉をを引て池を開き、種るに水を以てし、清幽愛すべし、又寺地稍高敞にして、南海を一望に収め、遠山の縹渺たる、風帆の来往する、景状一ならず。（三国名勝図会、巻之四）

《地蔵菩薩由来碑》　（反田上石）

御堂ニ在マス地蔵菩薩ハ、モト一乗院ノ末寺智恵光院ノ本尊ニシテ、聖徳太子ノ作ナリト伝ヘラレルモノナリ。蓋シ文禄年間、左大臣近衛信輔公、薩摩ニ謫セラルルヤ、伊敷村ニ智恵光院ヲ建テテ、其ノ帰洛ヲ祈リタリ。後信輔公ハ京都ニ帰リ、関白トナレリ。而シテ百余年ヲ経テ、当寺廃セシニ、享保元年、一乗院ノ堯周法印、撻鞽々ニ移シテ、久シク此ノ地ニ在リシモ、明治初年、廃仏毀釈ノ際、当寺亦其ノ厄ニ遇ヒタリ。サレト本尊ノ菩薩ハ、中村源次郎氏之ヲ阪下山手ノ岩窟ノ間ニ匿シテ、全キヲ得タリ。明治十年役後、中村氏ノ勧請ニ依リ鼓川町ニ於テ、当菩薩ヲ智恵光院址ニ安置シタ［　　］移シテ番所阪ニ在リシ［　　］以テ町内ノ有志相計リタリ［　　］源次郎氏ヨリ［　　］此所ニ御堂ヲ建テテ是ノ尊キ地蔵菩薩ヲ安置スルコトト成リタルナリ。依リテ、後日ノ為ニ、茲ニ其ノ由来ヲ記ス。

昭和三年七月廿四日　　池田武吉撰

宇都親寿書

発起人

小牟田穣真	桐原喜一郎	中村　勇	立山八之進	財部万助	津留見吉次郎
春口源次郎	脇田主右衛門	坂元五次郎	西元岩熊		
藤安　助八	藤安善次郎	町田嘉次郎	加藤　忠造	川畑市次	桑水流畝助
永井源次郎	小城　直志				

(5) お茶の水・番所跡・番所坂

名越どん坂・鞽鞽鼕坂・番所坂は旧大隅街道になる。幕末時代の道路整備状況は不明。明治10年９月１日、薩軍四百余がこれらの坂を下って鹿児島入りをした。

(6) 白尾国柱宅址碑　（藤山石）

白尾国柱、通称斎蔵、皷川ト号ス。父ハ本田親昌、母ハ坂本氏。宝暦十二年八月五日生レ。寛政二年、白尾氏ヲ嗣ク。夙ニ古典ニ通シ、同四年、神代山陵考ヲ著シ、且藩主重豪ノ取調ノ命ニ答フルアリ。後ノ三陵御治定ニ資スル、尠カラス。又、藩命ヲ以テ、曽槃等ト、成形図説百巻ヲ撰ヒ、外ニ麑藩名勝考・賤ノ苧環等ノ著アリ。文政四年二月十五日歿ス。年六十。大正四年、従五位ヲ贈ラル。

皇紀二千六百年記念　　鹿児島市

内 城 と 大 竜 寺

平成14年７月27日（土）

(1) 内城（うちじょう）

1. 1550～1602年の鹿児島本城：島津貴久（大中）・島津義久（竜伯）時代の居城。

2. 築城の地割りは真北の方位：北極星を見通した方位。

　鹿児島の場合、磁北は西に６度偏る。磁針はＮ６° Ｅを指し、Ｎの方向が真北。

3. 大竜小学校の敷地が内城跡。

　南側の東西道路を犬之馬場・大竜寺馬場というが、近年南州門前通りと名付けている。

　北側の東西道路を上之馬場、その一帯を内之丸（うっのまい）と呼ぶ。その他の詳細な縄張については知られていない。

4. 明治７年～明治10年　大竜寺跡は第七私学校となった。共立学舎は第七私学校から分離。

　（上龍尾町内之丸69番地が共立学舎初代舎長市来七之助：野村政明の本籍）

5. 大竜遺跡

　1977～1983年、６次にわたって市教委が調査。縄文早期から近代までの遺物が出土。

　①縄文時代後期（市来式土器・草野式土器、磨消縄文が中心）

　②古墳時代（成川式土器）

　③近世陶磁器

(2) 瑞雲山大竜寺（臨済宗）

　開山南浦文之(1556～1620)：島津氏の海外交易に関わり外交文書を作成。『鉄炮記』

　大隅国安国寺（加治木町）・国分正興寺（隼人町）住職でもあった。

　墓は安国寺にある（国指定史蹟）。

(3) 砲術館址の碑（藤山石）

　砲術館址

　島津齊興・齊彬両公、国防ノ充実ヲ図リ、洋式銃砲ヲ製造ス。此地ハ砲術家成田正右衛門を統裁トシ、藩内備砲ノ製作ハ固ヨリ、各藩ノ需メニモ応シタル砲術館址ナリ。

　昭和十六年三月　　鹿児島市

(4) 家鴨川と家鴨馬場

1. 家鴨川：内城の北側を画する天然の堀？

　現在は側溝となり道路化しているが、８・６水害では暴れ川になった。

2. 家鴨馬場：加藤家鴨先生の道場があったという。

3. 明治10年９月１日、薩軍本隊は家鴨馬場を経て城山に向かった。

　粗騨墾坂　→　番所坂　→　堂之前　→　家鴨馬場　→　般若院小路　→　堀之内馬場　→　岩崎谷　→　城山

第１表　薩隅日の主な臨済宗寺院　（三国名勝図会にもとづく）

本　山	寺院名	所在地	末寺数	備　考
京都東福寺	鎮国山感応寺	野田郷下名	5	
	瑞雲山大竜寺	鹿児島城下坂本村		南浦文之開山
京都妙心寺	竜興山大慈寺	志布志郷志布志	18	
	鶏足山二厳寺	都城郷宮丸	2	
	万年山竜泉寺	都城郷五十市	1	
	太平山安国寺	加治木郷段土		大隅国安国寺
	万齢山椿窓寺	加治木郷段土		
	大徳山宗功寺	宮之城郷虎居		
	少林山大道寺	宮之城郷宮之城		
京都建仁寺	霊鷲山正興寺	国分郷内村	6	桂庵玄樹開山
京都南禅寺	泰定山広済寺	伊集院郷郡村	11	
伊集院広済寺	太平山安国寺	中郷中郷村		薩摩国安国寺
	臨江寺	水引郷船間島		
	瑞香山蓮華寺	阿久根郷波留		
	海運山正竜寺	山川郷山川	6	
	菩提山大通寺	頴娃郷郡村	1	
	東海山海印寺	坊泊郷泊村		泊邑菩提所
	清月山広大寺	坊泊郷坊津		
	瑞鳳山清月寺	河辺郡黒島		
	仏母山多宝寺	伊作郷中原	5	伊作島津家菩提寺

浄光明寺墓地と南洲神社

平成14年８月24日（土）

(1) 浄光明寺

鹿児島市最古の寺院。島津家初代～５代の位牌安置所、21代吉貴の菩提所であった。文久３年（1863)薩英戦争時、英艦の砲撃で焼失。明治２年(1869)の廃仏毀釈で廃寺となっていた。西南之役では城山・岩崎谷に対する官軍の陣地となり、数多くの墓石は倒されて防塁として用いられ、門前に大砲２門を据えて私学校を砲撃したという。戦いが済んだ９月24日、西郷隆盛以下40人が境内跡に仮埋葬され、明治12年（1879)参拝所を設置。明治16年(1883)、各地で戦死した遺骨が集められて改葬。大正２年(1913)、参拝所を改築し南洲祀堂と呼び、大正11年(1922)南洲神社と改称。

廃仏毀釈後、浄光明寺は明治12年堂守を建立、明治16年寺号を公認されて再興。現在、南洲墓地と呼んでいるが、正式には浄光明墓地というべきである。階段の登り口に「南洲墓地と神社」という奥歯に物が挟まった表現の看板が立っている。

(2) 甕島改葬碑（読み下し文：一部意訳）：藤山石使用

余は西郷氏とも故友であり、大久保氏とも故友である。余が二人と友であったために、薩摩の人々の多くは余との親善を云う。甕島の河野主一郎という者が相談に来て、曰く、先の戦いで西郷氏と共に死んだ数は夥しい。半ばは既に帰葬したが、残りの1,917人は、薩隅日・肥後・豊後などの渓谷山林の間に、死んだ場所に、埋めたままである。祀られることもない。このたび西郷氏の墓の側に改葬しようとのことになった。年月も経って、姓名などは尋ねようもなくなった。知り得た者635人、うち152人はその家族が各自の墓所に葬った。要するに皆、薩摩・大隅・日向・肥前・肥後・筑前・対馬・大和・土佐・長門・秋田庄内の人たちである。余に文を請うたので唯々として引き受けた。余は大久保氏とも意見が反したし、また西郷氏とも反した。二人の忠義を比べてみると、日月と光を争う程困難である。余および西郷氏が征韓の議をたてまつりしより、終に大久保氏の論と相背馳した。血を塗り肝を漉うに至って後、事は已んだ。哀れむべきなり。今や咎亡ぶ。余は生きながらえて感ずることがある。君らをここに改葬することは、瞑目を願い、誼を厚くせんことを願うものである。これは当然のことである。友は死・生を拾うを問わず、王者は憎まず、聖人は禁ぜず。これで言葉は尽きる。碑を立て、銘を刻んだ。冢は累々として山とともに並ぶ、祀りは承け続けよう、昔ながらの友として。

明治十六年十二月　　副島種臣撰並びに書

（原文は漢文。漢文は、拙著『浄光明寺の歴史』・『石の鹿児島』所収）

副島種臣は外務卿で征韓論者、明治６年の政変で西郷と共に下野した。

〔裏面の文〕

黎庶昌（韓昌黎：韓愈のこと？）曰く、劉向・揚雄は司馬を称す。孔子は文に長じ、質にして俚しく、其の文は直なるも、其の事は核たり。吾、作るに於いて亦云う然り、と。陳允頤曰く、五百従〇、田横・有島中郎は集内郡〇（意味未解明）碑無し。此の文より出ず。而して西郷氏は遂に朽ちず。其の真気は鬱勃として古色道に至る。然れども筆は百錬の純の如く、釣陶は一腔の熱血あり。天地に質して鬼神を泣かしむ、何ぞ西台に滅び痛哭せん。方〇益（？）曰く、嗚呼、張耳・陳余の事は古今同慨のことなり。夫れ烈士名に徇う者は死す。権名与権の禍は烈し。西郷の事は往けり。談ずる者は猶道之文を楽しみ、独り券券として友朋の交誼を楽しまん。而して功罪の是非諸良の史に帰しても微なり。吾知る、後人此処に墓碣を撫し、昌黎の祭、田横の文を読むが如ければ、必ず感歎欷歔として去ること能わざらん。

式島のやまと錦の中にある、玉も砕くなる世をいかにせむ　　平朝臣国安

（平国安は、県令大山綱良の墓前灯籠に名がある渋谷国安のことであろう）。

黎庶昌曰、劉向・揚雄稱司馬、子長文質而俚、其文直其事核。吾於作者亦云然。陳允頤曰五百従〇田横・有島中郎、集内郡〇無碑。自此文出、而西郷氏、遂不朽矣。至其真気鬱勃古色道、然筆如百錬純、釣陶有一腔熱血、質天地而泣鬼神、何滅西台痛哭。方〇益曰、嗚呼張耳・陳餘之事、古今有同慨焉。夫烈士徇名夸者死、権名与権之禍烈矣。〇西郷氏事往矣。談者猶楽道之文、独券券於友朋交誼、而功罪是非、帰諸良史微矣。吾知、後人撫茲墓碣如読昌黎、祭田横之文、必有感歎欷歔、而不能去者。

（原文は句読点なし。難解な文章で、今まで読んだ者なし？読み間違いもあろう）

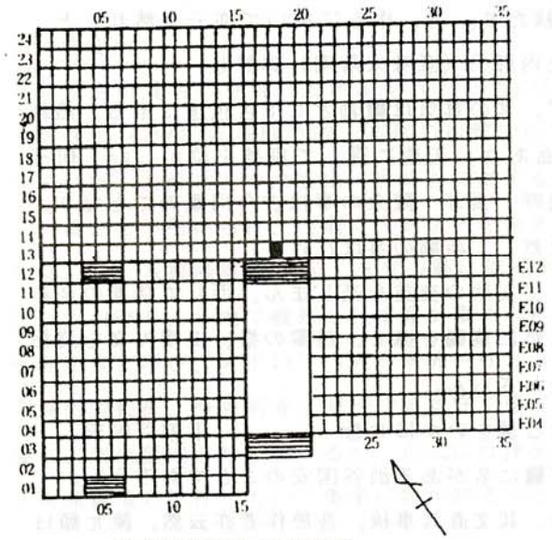
(3) 岩村県令紀念碑：河頭石使用

明治十年九月廿四日城山陥ルヤ、鹿児島県令岩村通俊、予メ参軍山県有朋・川村純義ニ請ヒ、墓域ヲ此ノ地ニ定メ、川村参軍ニ聞キテ、西郷隆盛ヲ中心トシ、三十九人ノ順位ヲ定メテ葬ル。是ノ日県令属僚ヲ率イ来リ、隆盛ハ長持ニ納メ、其ノ他ハ毛布ニ包ミテ葬ル且ツ自ラ筆ヲ執リ、各姓名ヲ記シ、木標ヲ建ツ。実ニ戦塵ノ渦中、礼ヲ厚クシテ歿メタルハ、英霊亦正ニ感動セシナラン。此処ヲ泉岳寺義士墳域ニ倣ハント期セシモ、果サズシテ転任ス。乃チ最モ忽忙ノ際、此ノ措置ヲ執リタルハ、世人其ノ高風ヲ仰キ、永ク遺徳ヲ感銘スル所以ナリ。通俊ハ高知県ノ人、貫堂ト号ス。累進シテ農商務大臣ト為リ、華族ニ列シ男爵ヲ授ケラル。頃日有志相謀リ、当年ヲ記念スル為碑ヲ建テ、題字ヲ西郷従徳侯ニ請ヒ、併テ銘ストト、爾カ云フ。

南洲神社崇敬者総代一同

鹿児島県史談会一同

(4) 浄光明寺墓地（南洲墓地）のグリッド配置



浄光明寺墓地（南洲墓地）
グリッド配置模式図
（西郷隆盛墓のグリッドナンバーは1318）

グリッド:Gridとは網のことで遺跡調査の時に用いられる方法である。網の目ひとつひとつに符号を付けて、該当地区を判り易くする方法である。X軸が先Y軸の番号を後にするのが普通のやり方だが、浄光明寺墓地の場合はY軸の番号を先にした。西郷隆盛墓はY軸13列・X軸18番目になり、1318の符号になる。中段東側は独立ブロックになるので、Y軸はE04～E12、X軸は01から始め、E0413というような形のグリッドナンバーにした。

(5) 共立学舎、西南之役戦没者(18名)

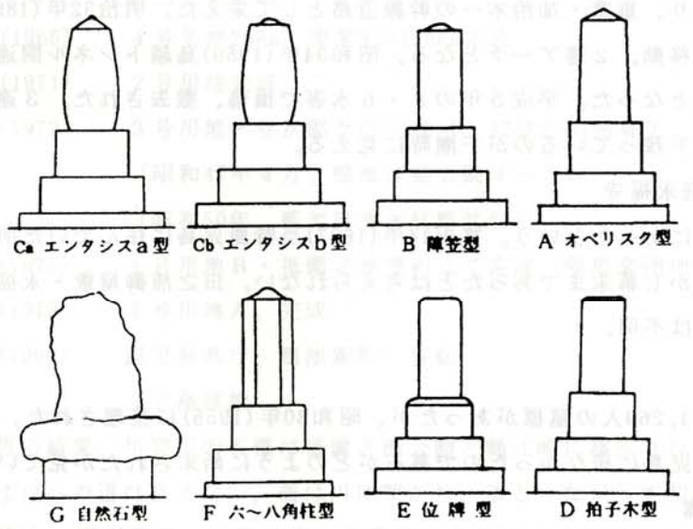
	行年	G.NO	歿年月日	戦死地	その他
池田孝太郎	14才	E0401	M.10.9.24	鹿児島城山	
市来宗五郎	17才	1419	M.10.3.12	肥後国山鹿	西郷隆盛甥
岩切　吉次	18才	2209	M.10.5.21	薩摩国牛山郷	
大迫宗之助		戦死地・墓所等、不明			
大迫徳之助		戦死地・墓所等、不明			
奥山卯之助		2405	戦死地等、不明		
折田　常政	23才	0205	M.10.3.14	肥後国田原坂	
樺山　武彦	16才	墓所不明	M.10.4.12	肥後国鳥巣	
川田　喜蔵	18才	1616	M10.3.30	肥後国松葉瀬	
菊地　藤七	21才	2224	M.10.4.19	肥後国永瀬	
児玉　万次		2040	M.10.3.24	肥後国田原坂	
知識　源吾	22才	2033	M.10.3.20	肥後国植木	
浜田藤之丞	21才	1906	M.10.3.27	肥後国田原坂	
船木直次郎		戦死地・墓所等、不明			
山田源之丞	22才	1706	M.10.9.24	城山岩崎口	
吉國　武吉		戦死地・墓所等、不明			
和田吉太郎		戦死地・墓所等、不明			

（共立学舎祭神名簿にあるもの：1名は舎生、他は第七私学校生徒。永年共立学舎で祭祀を行って来た）

赤塚　真人	27才	0879	M.10.4.16	肥後国河原村
小野木吉太郎		西南之役戦病死		
鎌田　政寛	50才	2239	M.10.3.23	肥後国植木
貴島　順介	23才	0720	M.10.3.14	肥後国田原坂
黒田直次郎	30才	1507	M.10.7.8	大隅国百引
田尻　栄助	24才	1524	M.10.9.24	城山岩崎口
本城　中治	23才	0403	M.10.9.1	吉野村帯迫
松本　美十	29才	1913	M.10.3.20	肥後国田原坂

《浄光明寺墓地のメモ》

1. 墓石総数　755基・3,451柱（今泉利治墓を除く）
   うち氏名不詳1,332名、宮之城郷107名、重複する者102名。
   実数1,910名、うち出身地不明の者216名
2. 大半が反田土石を使用。御影石使用は少数（桐野利秋・大河平隆寶・榊原政治・伴　兼之）
3. 島津啓次郎主従の墓は注目に値する
4. 桂　久武父子の墓は上円下方墳
5. 最大の墓は県令大山綱良のもの



第2図 墓碑の形

祇園之洲

平成14年９月28日（土）

(1)祇園之洲

その昔、稲荷川の河口に遠浅の干潟があった。そして祇園社があったので、一帯を祇園浜（祇園之洲）とよんでいた。祇園社は明治になってから八坂神社（鹿児島五社の一）とよばれるようになった。現在でも八坂神社の祭りは「御祇園さぁ」とよばれて、鹿児島の大きな祭りになっている。

八坂神社の祭神：素盞嗚尊・稲田姫・八王子　→　十柱（戸柱）

(2)戸柱港

稲荷川河口港：ザビエル上陸地・江戸時代初期まで薩摩藩の御船手（軍港）

(3)祇園之洲砲台跡

天保年間(1830～44) 時の家老調所広郷が藩主斉興に上申して、砲台と藩兵の屯集所を作るため、稲荷川の土砂を用いて埋め立てた。嘉永６年(1853) 藩主斉彬の時代に大砲10座が据えられ、兵70名が駐屯していた。文久３年７月２日（西暦８月15日）暴風雨の中でイギリス艦隊７隻と砲戦を交え、西側の１門を残して他はすべて破壊された。その時の兵員名簿74名分が太原久雄『稲荷川緑禄録』P.12にある（原典は『薩藩海軍史』）。なお祇園之洲砲台で戦死した税所清太篤風の墓は福昌寺由緒墓の中にある。

(4)永安橋（えいあんばし）

享保７年(1722)、田之浦から磯への道が開かれた時は板橋で、抱真橋（別名祇園橋）とよばれていた。天保13年(1842)、岩永三五郎設計の３連アーチの石橋架橋。明治５年、磯街道の開通により、重富・加治木への幹線道路として栄えた。明治32年(1899)、鉄道敷設により現在地に移動。２連アーチとなる。昭和34年(1959)鳥越トンネル開通により、国道10号線の裏街道となった。平成５年の８・６水害で損傷、撤去された。３連アーチ時代の基礎が河床に若干残っているのが干潮時に見える。

(5)東嶺山慈眼院永福寺

潮音院の右隣にあったという。寛永14年(1637)当時鹿児島に住んでいた明の商人たちが建立した寺。しかし幕末まであったとは考えられない。田之浦御屋敷・永福寺・潮音院の詳細な位置関係は不明。

(6)官軍墓地

政府軍関係者1,269人の墓標があったが、昭和30年(1955)に整理された。清水町に住みながら、当時鹿児島に居なかったので墓石がどのように始末されたか見ていない。

(7)薩摩焼慶田窯

明治３年、竪野系の田之浦窯が青木宗兵衛を迎えて開かれたが、藩の保護を失い廃絶。その後、明治12年(1879)竪野系の慶田窯が開窯。初めは岩元邸の位置にあったという。

(8)その他

「薩英戦争記念碑」・「ザビエル上陸記念碑」・「われは海の子の碑」・「岩永三五郎石像」・「石橋記念公園」などは、観光説明板によられたし。

「千手観音石像」は郡山町の大雄山南泉院に移設されている（平成７年頃？）。

(9)鹿児島に於ける海岸埋め立ての歴史：鹿児島県史第二巻による

（上方新築地）

正保２年(1645) ―― 長さ500間の石堤構築を幕府に申請、許可。

元禄14年(1701) ―― 前之浜埋立を申請、着工。（1789年に至るも竣工せず）

祇園前築地＝後の浜町・向江町

天保末年(1840頃) ―― 祇園之洲の埋立て

（下方新築地）

和泉町・堀江町 ― 宝永中(1704～1711)、南泉院寺門前となる

住吉町・汐見町・築町 ―― 文政年間(1818～1830) に名山堀～屋久島岸岐まで埋立

小川町 ―――― 弘化・嘉永(1844～1854) の頃、埋立

生産町 ―――― 明治５年(1872) の埋立

（波止の建造）

屋久島岸岐 ―― 文政年間(1818～1830)　　弁天波止 ―― 寛政年間(1789～1801)

新波止 ―――― 天保・弘化頃（1840頃）　　三五郎波止 ―― 天保末年(1840頃)

一丁台場　　明治５年(1872)

（近代・戦後の埋め立て：「鹿児島市史、Ⅳ巻」・「グラフかごしま」による）

明治39年(1889)	洲崎、埋め立て
昭和40年(1965)	４号用地25ha、東開町91.8ha完成
昭和46年(1971)	２号用地完成
昭和47年(1972)	３号用地・与次郎ケ浜完成（S.42城山団地着工、水搬工法）
	（昭和47年４月、鴨池運動公園オープン）
	（昭和50年、鴨池港垂水航路就航）
昭和52年(1977)	１号用地Ｂ・祇園之洲埋め立て完成（催馬楽団地の土砂を水搬）
昭和54年(1979)	１号用地Ａ、完成
平成８年(1996)	鹿児島県庁、鴨池新町へ移転
？	人工島建設

８・６水害の結果、甲突川の石橋は祇園之洲公園と鶴江崎に移設された。移設石橋の上に立っても江戸への道は見えない。橋は川に架かり、道とつながって初めて意味がある。「祇園之洲砲台→官軍墓地→石橋公園」の変遷は非常に示唆的である。川を浚渫しての埋め立ては自然との調和もあったが、山を削っての現代の埋め立ては失敗だった、と。

若き日々、夏の朝歩いた祇園之洲の砂浜の感触を侘びしく思い出す。

諏訪神社・本立寺墓地

平成14年10月26日（土）

(1)諏訪神社

鹿児島五社の一。祭神：上社・建御名方命、下社・事代主命。

初代島津忠久が信濃国塩田荘地頭職の時、諏訪明神の加護にあずかったという。第五代貞久が山門院に勧請。第六代氏久の時、山門院から現在地に遷座。第八代久豊の時、上社・下社２社とした。明治以降、上社を南方神社、下社を長田神社と呼ぶようになった。

(2)旧射圃碑

応永20年(1413) 伊集院頼久が清水城を攻め落とした時、上町の篠原新右衛門の呼びかけで上町の人々が東福寺城を防ぎ戦い多くの戦死者を出した。その褒美として島津久豊が土地を与え、射圃（弓道場）とせよとの許可を与えた。寛政８年(1796)、射圃を修復、記念碑が立てられた。昭和43年(1968) 篠原新右衛門の子孫篠原芳麿・芳幸父子が副碑を建立。（平田信芳『石の鹿児島』に原文・読み下し文がある。）

(3)護国山大楽寺安養院

諏訪神社の別当寺。道路（現国道10号線）を隔てた山裾にあった。別名、東福寺。その南隣りに島津氏久の治所（屋形および政所）があったという。島津氏の城下町は、清水町の多賀山（東福寺城）山麓から始まったと言ってよい。

寛政年間に諏訪神社を参拝した高山彦九郎が、諏訪馬場一帯は古びた石垣が多い所だと記している。

(4)清水山本立寺（五道院）

「本立而道生」（論語）にもとづくと言われるが、浄光明寺旧地の可能性もある。島津家五代の墓所。これは奥州家が立てたもの、野田感応寺の墓は総州家が造った墓所になる。忠久・忠時は鎌倉に墓があり、久経は筑前箱崎の陣屋で病没したので、久経以降、忠宗・貞久は野田に葬られたとみられる。

1.忠久	得仏道阿弥陀仏	瑞宝常照彦命	得仏大禅定門
2.忠時	道仏仁阿弥陀仏	剣太刀聡心雄命	道仏大禅定門
3.久経	道忍義阿弥陀仏	真明履道男命	道忍大禅定門
4.忠宗	道義仲阿弥陀仏	倭錦風雅士命	道義大禅定門
5.貞久	道鑑道阿弥陀仏	上寿豊福彦命	道鑑大禅定門

「阿弥陀仏」は時宗の法号。初代～第五代は時宗に帰依。第七代元久以降、曹洞宗寺院を菩提所とした。「大禅定門」は禅宗（臨済宗？）の法号。野田感応寺は臨済宗の寺。「命号」は廃仏毀釈後に付けられた神道にもとづく神号である。

本立寺馬場には「良子女王記念碑」が鶴峯高等女学校跡（現、県営住宅）にあり、黒糀の本家「河内源一郎商店」もあるが、説明は省略する。

編　集　後　記

清水町の「ひとっばし：一つ橋」で生まれ、「すわんばぁ：諏訪馬場」で育ち、そこに住んでいる者として清水町を多くの人に知って欲しいと考え、野外郷土史講座を企画して来た。清水町は仁王堂水・祇園之洲・官軍墓地・清水町電停・諏訪市を次々に失い、忘れ去られようとしている。原点を見直す意味で近辺の歴史を一番よく知っている者として、清水小学校を中心とする地域の史蹟を案内することにした。人々に説明するためには改めて確認しなければならず、確かめてみて初めて気付いたことも少なくなかった。例えば、福昌寺由緒墓で島津義久に殉死した十五人の地蔵塔、薩英戦争で戦死した税所篤風墓、竈島改葬碑の「日夕相争」は斜めに彫った字で「夕」と見えるが、よじ上って手で触ってみると４画で「月」であったなど、私自身得る所が多かったことに感謝しなければならない。「南林寺由緒墓」と「福昌寺由緒墓」を眺めてみると、鹿児島の近世史の大半に関係するので参考までに付け加えた。その他興国寺墓地・坂元墓地・草牟田墓地・郡元墓地などにある古墓の碑文をリストアップすればよい歴史資料になるはずであり、今後も営々と資料集めを続けなければならないので、情報をお知らせ頂ければありがたい。

「川上昌久墓碑」「薩軍戦死者山田正一墓」「田中頼庸宅跡」など（以上稲荷町）、「山田清安自決之地」「桐野利秋宅跡」（清水馬場）「伊東祐享生誕地」（清水小校庭）など説明が洩れたが、鹿児島市が立てた観光案内板などによって調べて頂きたい。案内板をスナップ写真に撮り、ノートに添付するだけで立派な郷土史ノートが出来あがるはず。

一年間の野外講座のノートを基礎に各人がいろいろ調べて成長されるよう期待する。

平成14年10月

平　田　信　芳

野外郷土誌講座ノート
平成14年10月26日発行
発行者　学校法人　共立学舎
892-0804　鹿児島市春日町6-25
Tel　099-247-1304
印刷製本　旭　印　刷
892-0802　鹿児島市清水町14-30

地名研究会報

第８０号　　平成１５年６月１日

鹿児島地名研究会

Ⅰ.第80回例会　　平成15年３月２日（日）　　於西郷南洲顕彰館研修室

（出会者）　上野堯史・内山憲一・納　栄蔵・尾辻　博・尾辻義人・小山田　稔・川野雄一・古木正行・柴山博信・永坂芳彦・西田春人・繁昌正幸・肱岡修一郎・平田信芳・松田　誠・松元　章・村山謙一・米原正晃

（計１８名）

Ⅱ.大日本地名辞書読会　　p.542～p.543　　大隅・襲国

Ⅲ.坊津町の地名

〔問題となった地名および事項〕　明治初期の町、鹿文と鹿屋と伽耶・帖佐郡と桑原国府往古の大路宮坂、踊郷の飛び地、廻城・小廻・大廻、浦と末

（坊津町の地名に関連して）　地名の分類、通山・乱橋・外戸之口、伝承地名、垂口、鹿倉・狩倉、樋之口（ﾄｲﾉｸﾁ・ﾃﾉｸﾁ・ﾀｲﾉｸﾁ）、矢岳・矢筈岳、横枕、荒所（ｱﾗﾄｺﾛ）、〇〇上と〇〇下

明治初期の町

平田　今日読んだのは大隅と襲国です。何か質問があれば。

繁昌　543ﾍﾟｰｼﾞの上段に町・村の数があります。町の位置づけと囎唹郡の町３は国分とか隼人とか、そういうことですか。

平田　明治の市町村の表をみれば判るのでしょうが。薩摩国の場合は『鹿児島県地誌』の記載があって町と村は判りますが、大隅国は欠けているので具体的には判りません。（編集時後記：鹿児島県地誌は明治17年刊行だから市町村制は未施行）。囎唹郡で「町」になりそうなのは、どこがありますか。国分・末吉、ちょっと判らんな。（囎唹郡の町：志布志町T.2、末吉町T.11、岩川町T.13、国分町T.15、財部町T.15。明治21年に市制・町村制が施行されているので、明治前半の場合は野町・浦町・浜町などをさしたと見られる。明治14年「桑原・囎唹郡役所一覧」によると、囎唹郡内には国分本町・唐仁町・浜之市町・敷根浜町・末吉野町・岩川野町・財部野町があった）。

鹿文と鹿屋と伽耶国

納　543ﾍﾟｰｼﾞ中段「襲国」の真ん中辺りに「熊襲梟師有二女」、その次ぎに市乾鹿文（ｲﾁﾌｶﾔ）とあります。

平田　「足日市乾鹿文」これは足じゃなくて兄ですね。兄すなわち姉が市乾鹿文で妹が市鹿文です。

納　そこに鹿文（ｶﾔ）という名前が三つぐらい続いていますね。鹿文というのは鹿屋とは名前のつながりはないのですか。

平田　中村明蔵さんは、つながりを考えていますね。

納　鹿屋の場合、鹿をつないでおくための小屋があったというのを、見たか聞いたかしたことがあります。

平田　それは私が言ったことです（笑い）

納　場所が違うもんだから、何かあったのかなと思って。

平田　鹿文(カヤ)は判りません。韓国の人たちは南にあった伽耶国の人たちが南九州に移って来て「カヤ」と言うたんだと主張しています。

納　大隅半島から大体今の鹿児島市の隣蒲生辺りまでが昔は大隅国と言いよったから鹿文と鹿屋は音が近いし、何かありやせんかと以前から思っとったんですよ。場所的には離れているが同じ襲国であるということから見てですね。

平田　あゝ、加治木町か隼人町に、加治木だったかな。鹿屋という地名がありますよ。それから広島県か岡山県に賀夜郡（後記：備中国）というのがあって、その賀夜郡に朝鮮半島から伽耶国の人たちが移って来たという説があるのです。

日本書紀を見ると、その記事の大半は朝鮮との関係です。今まで皇国史観ということで敢えて顧みなかった歴史家が悪いのかも知れません。徹底して朝鮮半島と古代日本の関係は見直さねばならないと思います。

帖佐郡と桑原国府

平田　帖佐郡という表現が建久図田帳にあります。この「郡」というのは、桑原郡の郷を説明している中で桑原郡の表現はなく、帖佐のところでいきなり帖佐郡と出て来るわけです。建久図田帳に書かれている以上、勝手に「郡」を名乗ったとは思えないのです。公的な太田文の中に「郡」という形で書かれているのは、此処に桑原郡の重要な機関があったことを示すと私は思うのです。その理由の一つは桑原郡に属する郷の中で帖佐の水田面積がずば抜けているのです。水田面積が多いということは帖佐が桑原郡の中心であったと見なければならないと思います。そこに書かれている「郡」の意味は、私称ではないと私は考えたいのです。

何故そういうことをいうか。確かに和名抄には、大隅国は「久波々良に府がある」と書いてあります。桑原郡に国府があるということです。常識的にいうと大隅国府所在地の一番有力な説は国分市府中です。それで国分の人たちはさかんに府中が桑原郡内にあったと解釈しようとするのです。しかし桑原郡と囎唹郡の境界は天降川の線です。今日は江戸時代の史料を持って来ました。国分郷を桑原郡と書いたものもあるんですが、但し書きに東国分は囎唹郡、西国分は桑原郡と書いています。どの史料を見ても、東国分は囎唹郡、西国分は桑原郡です。

そこで和名抄に「久波々良府」と書かれているのはどういうことかを考えてみます。国府の有力比定地が府中です。その近くに大隅国分寺があります。大隅国分寺は明らかに囎唹郡の範囲です。郡を分かって国府と国分寺が置かれたというのはほとんど聞きません。そこで国府は最初囎唹郡に置かれたが和名抄の時代に桑原郡に移っていたと考えるのです。島津庄を開いた平季基が大隅国府を焼き討ちする事件が11c.に起きますが、その時焼いた国府は桑原国府であったと思うのです。その後また、囎唹国府に帰って来た。囎唹国府に帰って来たのを記念して大隅国分寺に石造層塔を建てたし、正国寺にも石造層塔を建てた。これは国府の安寧・平和を願って建てたと思います。

大隅国府は囎唹郡から桑原郡に移り、そして桑原郡から囎唹郡に帰っている。そういう歴史があったと考えています。そして大隅国府が消滅するのは大永７年(1527)。清水城主本田董親(ﾀﾀﾞﾁｶ)によって攻め滅ぼされて、なくなってしまう。そういう歴史があることを私は主張するのですが、国分の人たちは地元がかわいいわけですから、府中が桑原郡の境域にあったと考えたいのです。隼人町の人たちは桑原郡に国府が移っていたのであれば桑原郡の範囲にあった西国分のどこかに国府があったと考えたいのです。

往古の大路宮坂

平田　隼人町に国府があったとすると次の事件の解釈に不都合が出て来ます。1132年に宇佐八幡と大隅正八幡とが争い、宇佐八幡の密使が大隅正八幡を焼いて石体神社の裏から溝辺の方へ逃げるのです。その事件の発端になるのが石体宮の所で石が割れて「八幡」の文字が現れたとの報告が大宰府を通じて時の政府になされたことです。これが石清水文書に残っているのです。その説明に「往古の大路、宮坂麓の石躰に八幡の文字が現れた」とあるのです。石体神社の裏から登って行く道が昔の駅路：官道であったことを示す記事だと思います。昔の官道という記録があるわけですから、国分市か隼人町に国府があったとすればそこを通って行くのが自然です。

そこを通らなくなったのは、どこかへ移っていたと考えなければならないわけで、帖佐付近に移っていたのが桑原国府だと考えるのが私の説なんです。以前から繰り返しているのですが、考古学的裏付けが現れません。

上野　今言われた道というのは朝日に登るあの道ですか。

平田　石体神社の脇から志学館大学の方へ登って行く道で、朝日に登って行く道でない上野　違うのですか。神社の裏から登って行く道。

平田　神社の裏を真っ直ぐ登って行って、志学館大学の前に出て溝辺台地を北上する道が往古の駅路だったと思うのです。それが、どこに変ったかはまだ判りません。

踊郷の飛地

平田　ところで、国分の人たちが桑原郡のうちであったと錯覚する史料があるのです。囎唹郡国分郷のうち小浜・小村・松木・野口・福島・内村・内山田・真孝・見次・小田・野久美田、これだけ11ケ村が桑原郡踊郷（現牧園町）の飛び地になっていたのです。それが幕末の頃です。そういう記録があります。桑原郡の飛び地が入り込んでいたので、桑原郡所属と錯覚を起こす要素があるわけです。小村・松木・福島などは天降川が国分寄りを流れていたわけですから、桑原郡所属とみられても不思議はないわけです。それが錯覚の要因になるのだろうと思います。

府中は上小川(ｶﾐｵｶﾞﾜ)とならんで曽小川とも言われていましたから、襲国（曽国）すなわち囎唹郡の範囲であったことは間違いないのです。

廻城・小廻・大廻

納　542ﾍﾟｰｼﾞの下の段、後から７行目に「永禄の初め、廻城（囎唹郡福山村）」とありますが、廻城というのは敷根から牧之原の方に旧道を登って行ったら、途中から海岸に降りる所がある。海岸に降りる途中は、亀割峠か・・・。

平田　亀割峠（甕割峠）。

納　あれから海岸に出てすぐ左側に大廻・小廻という集落がありますね。廻城址はあすこと考えていいですね。

平田　廻城は小廻にあるのです。納さんが登ったのは馬立(マタテ)。

上野　私は宮浦神社の裏から登って行ったのです。馬立は海を見下ろす所。昔の街道は廻城のすぐうしろの方にあります。今は散歩道になっています。

平田　小廻・大廻というのは、山の中腹を廻って行く道があって、大きくまわるのが大廻、小さく廻るのが小廻、と付けられた地名です。廻城攻防戦というのは肝付氏と島津氏が雌雄を決した戦いになります。島津義久の叔父（父貴久の弟）島津忠将が馬立に籠ったのですが、家老が止めるのを聞かずに飛び出して行って戦死します。忠将の率いた島津勢は全滅。甥の当主義久は弔合戦でかたきをとります。島津一族が相当数死んだので「廻」という名前を変えて「福山」としたのです。

浦と末

納　それから宮浦神社。あすこの浦は海岸だから「浦」だなと思っていたのですが。

平田　はっ？

納　吉野の先に、吉田か。あすこには、なんとか浦というのがある。

平田　佐多之浦と宮之浦があります。

納　「浦」がありますね。どうしてあそこら辺を「浦」と云うんだろかい、と。海岸の「浦」とばっかい思っておったのです。ウラというのは木のモトと、あの・・・。

平田　先っちょです。

納　先の方をウラというらしいですね

平田　はい。

納　それで判りました。

平田　万葉集に沢山出て来ます。古代語で先端部を末(ウラ)と言います。

坊津町の地名

川野雄一

平田　今日の問題提起者を紹介します。川野雄一先生です。先生と言ったらちょっとびびるかな。彼は私の教え子で、優秀な人物です。なるべく先生というようにしますが、川野と呼び捨てにする場合はご勘弁下さい。彼に坊津をまとめるように言いました。非常に真面目にまとめております。まず彼の説明から聞きたいと思います。どうぞよろしく。

川野　川野と申します。平田先生に川内高校で40年前に教えて頂きました。この研究会があるということで誘いを受けまして、あんまり勉強が好きじゃないもんですから逃げていたんですけれども、３か月に１回だけこの会に出会さしてもらっています。

お前も何かせよということでいろいろ資料を頂いていたのですけれども、ずーっと逃げ回っていました。去年の６月15日に坊津町の小字一覧を送ってもらいました。年があけた３月か６月に問題提起をせよと言われたのですが、それでも逃げていましたら２月５日に３月の案内を出すからと言われまして、あぁもう逃げられないと思って（笑い）、それからもう必至に始めました。

始めましたけれども何が何だか判らなくて実際に葉書が来て自分の名前が出ているのを見ると、どうしても逃げられないと思いました。三日ぐらい前には資料を送るようにとのことでしたので、パソコンもうまく使えないのですけど一応やってみました。修正すべき箇所も多いと思いますが、一回目の問題提起ということで、今日はいろいろ教えて頂いてそれを基に今後やっていきたいと考えます。

坊津に行ったのは一度だけです。加世田から大浦を通って坊津に抜け、枕崎に出たというのが一度。それも車で通っただけです。途中で鑑真和上の資料館に寄って見学しましたけれども、実際に降りて具体的にどんな所だったかは見ておりません。

一応、小字の資料を基礎にして分類したというだけです。また地図を調べたら少しは小字が載っているのかと思って、地図を売っている鹿児島市の徳田屋書店に行って、小字が全部載っている地図はと聞いたら、２万５千分１図が一番詳しい地図とのことでした。何か他に地図はないかと思って探しました。かごしま文庫に『坊津』というのがあり、その地図を借りました。一番最初の地図です。

大字は北の方から秋目・久志・泊・坊の四つに分かれています。うしろの方に地図が４枚ありますが、これは『坊津郷土誌』に掲載してあった地図をコピーしました。切羽詰まっていましたので、どちらも無断でコピーして出しました。（刊行物は出典を明らかにすれば無断にはならない。とくに公的機関の刊行物は許可を得る必要はない。ただし５万分１図・２万５千分１図など国土地理院発行のものは無断使用は出来ない）。

地図の説明から入ります。坊史跡図の中で四角で囲んである地名、これは角川の地名辞典に載っている所です。坊の浜(ボウノハマ)・上の坊(カミノボウ)・下浜(シモハマ)・上中坊(ウエナカボウ)・中坊・鳥越(トリコエ)・坊の浜東・坊の浜西・栗野(クリノ)が地名辞典に出ております。

泊史跡図。四角で囲んである所は、右側の方から小泊(オトマリ)・宇都(ウト)・町(マチ)・本殊院(ホンジュイン)。上の方に平原(ヒラバル)卸迫(タタラサコ)・草野(ソウノ)・茅野(カヤノ)。

久志では博多、史跡図には博多浦(ハカタウラ)と出ています。田崎(タサキ)・平尾(ヒラオ)・大久志(オオクシ)・山口(ヤマグチ)・共伸(キョウシン)・仁田川(ニタカワ)・今村・塩屋・池屋敷・末柏(スエカシ)、上の方に上野(ウエノ)。

秋目の地図、右側の一番上の方に平崎(ヒラサキ)というのがあります。これは久志に入ります。秋目は秋目が一つだけです。強いて分けると秋目東・秋目西があります。それだけしか地名辞典には出ておりません。２万５千分１図にも出ていません。

実際に行ったのは１回しかありませんので今まで発表された牧園・福山・高山・野田・内之浦・桜島などで小字の分類がどんなふうになされているかを見て、分類しました。

もう１枚の資料の説明をします。平田先生の「内之浦の地名」と「桜島の地名」の方法で一応資料を作りました。送って貰った小字の資料が13枚ありましたので、それをインプットしただけです。打っただけですが、私にとってはパソコンを使うのが大変で３日ぐらいかかりました。

７ページの「坊津の小字」からが、分類になります。分類する時に一番困ったのは、何地名にするか、地名の種類の見分けでした。今まで発表された方の分類の仕方もいろいろあったもんですから、どうしようかと迷いましてやむを得ず平田先生が桜島と内之浦でされているそのままにしたら、いろいろ教えて貰えるだろうと思ってやって来ました。

(1)信仰地名。そこに何を入れるかということがテーマになります。まず「塚」「神」「柴」はちょっと問題があります。「坊」、それから「銭」これも問題があります。それから御崎の「御」というもの。これも問題がありますけど。そういう文字が付いた地名を此処に入れました。

(2)城郭・集落・門・入会地。「城」とか「屋敷」とか「村」とか「門」が付くもの。「堀」をどうしたものだろうか。これは判らなかったものですから、カッコして、?を付けてあります。

(3)土地・区画地名のところは、「坪」を入れました。

(4)市・町・交通地名。「坂」「峠」「越(ｺｼ・ｺｴ)」「道」「街道」「馬場」「渡」「橋」「辻」「十文字」「茶屋」、海のそばですので「泊」、そういうのが付いたものを此処に入れてあります。

(5)水利地名。「溝」「樋(ﾋ)」「池」「落(ｵﾄｼ)」「水」など。また、「川」が付いた地名も此処に入れました。

(6)人名・職掌地名。名前らしきもの・職掌らしきものを入れました。判らないものは?を付けてあります。

(7)開発地名。「園」「添」「八重(ﾊｴ)」「開(ﾋﾗｷ)」などの文字があるものを入れました。

(8)職業・産業地名。以前、「牧」について問題提起がありましたので、此処に入ればいいかなと思って「馬」が付くもの「木場」それから「倉」が付くものが沢山ありましたので、「倉」はどこに入れたらいいのかなと迷っているのですが、此処に入れておけば何か教えて貰えるだろうと思って入れました。

(9)田畑地名。そのまま入れました。

(10)瑞祥地名は判らなかったので、一つぐらい入れた方がと考えて、「富貴」というのがありましたから、これはめでたいだろうと思って一応此処に入れました。

(11)自然地名のところは、以前牧園町の問題提起があった時に、「原」「野」「平」「段」「谷」「迫」「窪」「宇都」など、シラス地形で分けて考えたらいいというのがありましたので、それを参考にして分けました。「山」「岳」「崎」それから「瀬」「瀬戸」「浜」「浦」などが付いたのを此処に入れました。入れる時に同じものをまとめながら整理しました。

9ﾍﾟｰｼﾞに入ります。(12)位置地名。これは「上」「中」「下」「前」「後」それから「尾」「頭」「尻」、「口」「元」「根」。「鼻」は迷いましたが「端」という意味もあるので入れました。また「東」「西」「南」「北」。十二支は入れませんでしたが「辰」とか「寅」などが付いている場合は入れようと考えました。「横」「際」「脇」「間」が付いたものも此処に入れました。

(13)形状地名では「大きい」「小さい」「丸い」「厚い」「平たい」。「鍋」「窪」「烏帽子」「甑」など、そういうものを入れました。

(14)目印地名のところは、色の名が付いている所、植物の名が付いているもの、動物の名が付いているもの、擬音で表してあるもの、そういうものを此処に入れました。

(15)浸食・崩壊地名のところは、「崩」「走」「踊」「洗」「剥」などが付いているのを此処に入れました。

(16)川原・湿地地名は「川原」「牟田」「仁田」「水溜」などです。

(17)気象地名も何かあった方がいいのかなと思って「雨」とか「日影」などがあったのでそれを入れました。

(18)意味不明。どこに入れたらよいのか判らないのを此処に残しました。「向」は前回の問題提起で方角地名(位置地名)に分類してありましたが、教えて貰いたいと思って此処に入れました。それから「戻(ﾓﾄﾞｼ)」とか「○○見」というのもありました。「平見」とか「高見」など「見」の文字が付いているのは、どこがいいのか判らなくて此処に入れました。

此の資料を作った後、他の本を見たりしている時にいろいろ説明が付いているのがありましたので、その説明を入れてあるのもります。

桜島と内之浦の地名について、平田先生の数値的分析がありましたので、坊津町の場合もﾊﾟｰｾﾝﾃｰｼﾞを出して桜島と内之浦と比較が出来るように並べておきました。

最後のﾍﾟｰｼﾞは、例えば「山」が付いてもそれを自然地名に分けたり、あるいは位置地名に分けたり、信仰地名に分けたりするもんですから、それは兎も角しても、「山」の付いた地名がそれぞれの大字にいくつぐらいあるかと拾ってみました。

「山」のところだけは印刷まで間に合いましたが「平」「谷」「段」「迫」などは準備が出来ませんでした。「山」「岳」「岡」についてはプリントを配付します。

以上のような整理の方法で取り組んだ次第です。

地名の分類

「坊津の小字」というのが、7ﾍﾟｰｼﾞ以下にありますので、一つ一つ、この分類でいいのかどうかを教えて頂ければと思います。

(1)信仰地名。坊に岩塚・善塚(ｾﾞﾝﾂｶ)、弁財天ノ下、山神・山神ノ上・山神ノ下・山神平、愛宕山。芝山というのは目印地名か自然地名かと思いましたが、以前「柴立」というのがありましたので、一応そこに入れてみました。霧島は霧島神社の関係かなと思って、そきに入れました。上ノ坊・上中坊・中坊、これは一乗院の関係とみて入れました。胡麻田(ｺﾞﾏﾃﾞﾝ)というのは田畑地名かなと思いましたけど、護摩をたくというのがありますので此処に入れておきました。

銭迫(ｾﾞﾆｻﾞｺ)は「迫」が付いているので自然地名に入れた方がいいのかなと思いましたけど、以前「銭神・銭瓶」というのが信仰地名にありましたので「銭」というのは信仰に関係があるのかなと思ったりして入れました。また、銭(ｾﾞﾆ)ですから形に関係する形状地名になるのかなとも思いました。

「御崎(ﾐｻｷ)」は、ただ「御」という文字が付いていたので此処に入れただけです。

泊のところは、大智院ノ上・海印寺ノ上・本殊院・法光寺平。神ノ原・前神(ﾏｴｶﾞﾐ)・馬神平(ｳﾏﾝｶﾐﾋﾗ)・馬神迫(ｳﾏｶﾞﾐｻｺ)、諏訪原(ｽﾜﾊﾞﾗ)・諏訪西・堂ノ平(ﾄﾞｳﾉﾋﾗ)。今までの例にならって信仰地名に入れました。

金剛石(ｺﾝｺﾞｳｲｼ)、これは目印地名かなと思いましたけど、「金剛」というのが仏教に関係があるのじゃないかなと思って一応此処に入れました。

久志では丸塚、堂崎(ﾄﾞｳｻﾞｷ)・金堂(ｶﾅﾄﾞｳ?)など「堂」が付くもの、山神迫(ﾔﾏｶﾞﾐｻﾞｺ)・山之神・神山など「神」が付くもの庵ノ上(ｱﾝﾉｳｴ)、寺上(ﾃﾗｶﾞﾐ?)・寺山・寺

山、聖ノ平(セイノヒラ) ・聖ノ上(セイノウエ) 。聖の文字が付いているので入れています。

払川(ハライカワ) 。「払」が付いているので思い切って入れました。鳥井口(トリイグチ) 、鎮守尾(チンジュオ) 、芝之前(シバノマエ) ・芝之後(シバノウシロ) 。「芝」は以前にも信仰地名のところに出て来ましたので入れてあります。

秋目に天神免(テンジンメン) とありました。「免」というのは税を免除することではないかと思います。山神、上ノ宮田(カミノミヤタ) 、「神」とか「宮」ということで入れました。

平田　一応、此処で区切りましょう。質問はありませんか。久志の「聖」は聖ノ平(ヒジリノヒラ) ・聖ノ上(ヒジリノウエ) だろうね。ヒジリというのは「尊敬された人たちのこと」。芝は「祀場(シバ) 」と考えて宗教地名・信仰地名にする解釈があります。「柴」とか「櫟(シキミ) 」は植生地名かも知れませんが、神仏に供えるものでもあります。じゃー、次に。

川野　(2)城郭・集落・門・入会地。坊のところ、野首(ノクビ) というのは城の搦手に関係があるということです。坊ノ町(ボウノマチ) ・上ノ村(カミノムラ) ・下ノ村(シモノムラ) ・久保里(クボリ) 。それから「堀」が付いているのは此処に入れた方がいいのか判らないので、？を付けてあります。庄内(ショウナイ) は「庄」が付いているので入れました。

泊。城ノ谷(ジョウノタニ) 、中村。屋敷が付いているのも入れてあります。屋敷原(ヤシキバル) ・外堀(ソトボリ) ・後堀(ウシロボリ) ・向本堀(ムカイモトボリ) 。

久志では、垣ノ平(カキノヒラ) 。「垣」が城郭に関係があるのかな思って入れました。陳之尾(ジンノオ) 。これは「陣」に関係があるだろうと思って入れました。元屋敷(モトヤシキ) ・屋敷平(ヤシキビラ) ・池屋敷(イケヤシキ) ・村屋敷(ムラヤシキ) ・新屋敷(シンヤシキ) ・平崎屋敷(ヒラサキヤシキ) 今村・門ノ山(カドノヤマ) 。

秋目は野首・上村(アゲムラ) 。

平田　質問はありませんか。「堀」の付く地名は、大隅半島の場合、開墾地名が多いのですが、坊津あたりはあまり「城」というのは聞きません。「堀」があるのですか、坊津町に。水利地名に入れた方がいいかも知れんね。次、お願いします。

川野　(5)土地区画地名のところは、上ノ坪(カミノツボ) ・大坪(オオツボ) 。「坪」の付くのを入れました。

(6)交通地名のところ。最初の一ノ谷、以前、平田先生が「市」のところに入れられましたので此処に入れました。それから「峠」小峠(コトウゲ) ・峠ノ下(トウゲノシタ) ・耳取峠(ミミトリトウゲ) 。耳取峠というのは耳が切れるぐらい寒風が吹きすさぶという意味だとも言います。越山・越山ノ上(コシヤマノウエ) ・鳥越(トリコエ) などは山を越える場所から来た地名ということで此処に入れました。近道・近道ノ上(チカミチノウエ) ・近道平(チカミチヒラ) ・歩行道(ホコウミチ) 。街道口ノ上(カイドウグチノウエ) ・街道向・街道向迫(カイドウムカイサコ) ・桜馬場(サクラノババ) 。馬場は城の前の広場で武士たちが騎馬の練習をする所に、竪馬場(タテババ) がありますけど、ああいうのと関係があるのかなと思いました。

それから渡瀬・梅木渡瀬(ウメキワタセ) ・辻・辻ノ岡・十文字・十文字平・十文字下・石橋・御茶屋ノ下・外戸ノ口(ソトトノクチ?) 、外戸ノ口というのは牧の入口の所をいうとありました。御茶屋ノ下は殿様が見えた時に、此処で休憩されたとの説明がありました。

泊では市ケ平(イチガヒラ) ・赤坂・鹿倉坂(カクラザカ) ・西ノ尾越(ニシノオコエ) ・鳥越後平(トリコエウシロビラ) ・戸越(トコエ) ・本越(モトコエ) ・乗越(ノリコシ) 。「越」とか「坂」とか「市」が付いているのをそこに入れました。堀木道(ホリキミチ) ・建道(タテミチ) ・牛道(ウシミチ) 石橋・乱橋下(ミダレバシシタ) 。乱橋というのは川を挟んで両方の村人たちが争いごとをしたと郷土誌には説明が付いていました。御茶屋場(オチャヤバ) ・御茶屋下(オチャヤシタ) 。札ノ尾(フダノオ) ・鞍掛(クラカケ) ・小泊(オトマリ) ・泊浜(トマリハマ) 。札ノ尾は高札を立てたかなということで此処に入れました。信仰にも関係があるのかなとも思います。鞍掛：馬の鞍を掛けるというのは此処に入れた方がいいのかなとも思いましたけど、欠けるということで浸食地名に関係があるのかなとも思いました。泊というのは船が泊まる湊ということで此処に入れました。

久志では一の坂(イチノサカ) ・大浦坂(オオウラサカ) 織坂(オリサカ) ・大浦坂垣(オオウラサカガキ) ・丸木越(マルキコエ) ・乗越・乗越後(ノリコエウシロ) ・岳ノ越(タケノコシ) ・内登(ウチノボリ) ・新道(シンミチ) ・脇小路(ワキコウジ) ・川路(カワジ) ・通山 (ツヤマ？) ・茶屋元(チャヤモト) ・唐御崎(トウミサキ) 。

秋目の下峠(シモトウゲ) ・上ノ峠(カミノトウゲ) 諸越(モロコシ) 。久志の通山とか川路あるいは唐御崎。この辺は外国との貿易が盛んだったので、そういうのに関係があり、交通に結び付くということで此処に入れました。

通山・乱橋・外戸之口

平田　はい、質問はありませんか。下から二段目の通山(ツヤマ) 。これは通山(トオリヤマ) と読むのが普通です。

川野　これに通山(ツヤマ) と書いてあります

平田　これはね、役場の方で税務課の職員が付けた振り仮名なので、読み間違いも多いのです。通山(ツヤマ) と読むのは県下では少ないのです（通山58例中５例）。

それから乱橋(ミダレバシ) というのは県下に沢山あるのだけど。喧嘩をして乱れたというの？

川野　争いごとをしたからと、説明が付いていました。

平田　それは故事つけだろうね。水が増した時に水に漬かる橋、「水垂れ橋」だと思います。外戸之口(ソトトノクチ) というこれも役場の方の読み違いで、これは「ケドノクチ」だろうね。

川野　「ケドノクチ」じゃないかとは思っていたのですが。

平田　街道(カイドウ) が訛って「ケド」。牧場の外戸(ケト) は木戸(キト) ・外戸の類でしょうね。じゃー、次。

川野　(5)水利地名は坊の落(オトシ) ・清水(シミズ) ・水涌・水涌平(ミズワクヒラ) ・水上(ミズカミ) ・垂口(タレクチ) 。野池(ノイケ) ・山池(ヤマイケ) ・新川(シンカワ) 。

泊の堀落(ホリオトシ) ・落水(オトシミズ) ・落ス山(オオスヤマ) ・落ス迫(オトスサコ) ・霜鶴(シモツル) というのがあるのですけど、下水流？と思ってこれに入れました。出水(デミズ) ・清水(シミズ) ・小川(オガワ) ・新川(シンカワ) 。

久志の出山(イデヤマ) ・落山・上落山(ウエオトシヤマ) ・水呑鼻(ミズノミバナ) ・池出口(イケデグチ) 八田河(ハッタガワ) ・小川(オガワ) ・山河(ヤマカワ)

平田　山河(ヤマンコ) だろうね。

伝承地名

川野　山河(ヤマンコ) それから正仙川(セイセンガワ) 。秋目の座頭落。これは「落」が付いて

いたから入れたのですけど、阿久根に「ゴゼ落」、この近くにも「座頭落(ｻﾞｯﾂｵﾄｼ)」とかいうのがあります。阿久根の「ゴゼ落」は「ゴゼさんが通る時に崖から落ちたことからその名が付いた」ということでしたので、座頭落(ｻﾞｯﾂｵﾄｼ)とかいう地名と併せて考えたら目の見えない人が通る時に足を踏み外して落ちた所だということで付いたのじゃないかと思います。一応、水利地名にいれましたけど、そういう意味からすれば別の所に入れた方がいいかなと思いました。

平田　うん、その方がいいでしょう。

川野　どこに入れたらいいですか。

平田　伝承地名という項を立てた方がいいかもね。

川野　伝承地名？

尾辻　そうですね。落山(ｵﾄｼﾔﾏ)というのが久志にありますが、地形的に急な崖です。

平田　よく落ちる処？

垂口(ﾀﾚｸﾁ)

平田　此処で問題は垂口(ﾀﾚｸﾁ)です。垂口とか垂門(ﾀﾚｶﾄﾞ)とか、いろいろありますけれども、野町や浦町の入口に「縄のれん」が掛けてあった。垂れ下がっていたのです。その中はいわゆる治外法権的な特別な地域：アジールだった。これは(2)集落地名の部類に入れた方がよいかも知れません。垂口とか垂門とか、そう言った地名がある処に浦町や野町があったということです。従ってこれは水利地名ではない。じゃー、次。

川野　(6)人名・職掌地名のところ。坊の源太平(ｹﾞﾝﾀﾋﾞﾗ)・主膳下(ｼｭｾﾞﾝｼﾀ)、番屋下(ﾊﾞﾝﾔｼﾀ)、行司堀・行司堀ノ上(ｷﾞｮｳｼﾞﾎﾞﾘﾉｳｴ)・行司堀ノ下。

泊の喜八堀(ｷﾊﾁﾎﾞﾘ)・万太堀(ﾏﾝﾀﾎﾞﾘ)。

久志の藤太ケ浦(ﾄｳﾀｶﾞｳﾗ)・政三郎(ﾏﾀｻﾌﾞﾛｳ？)・藤九郎(ﾄｳｸﾛｳ？)・平太郎(ﾍｲﾀﾛｳ？・五郎窪(ｺﾞﾛｳｸﾎﾞ)・愛甲作(ｱｲｺｳｻｸ？)・番屋・島別当(ｼﾏﾍﾞｯﾄｳ)・上瀬々別当(ｳｴｾｾﾍﾞｯﾄｳ)・下瀬々別当(ｼﾓｾｾﾍﾞｯﾄｳ)・入道(ﾆｭｳﾄﾞｳ？)・長者(ﾁｮｳｼﾞｬ？)。

？を付けてあるのはどこへ入れたらよいのかなと迷いました。番屋というのは遠見番所(ﾄｵﾐﾊﾞﾝｼｮ)があった所です。先程の地図にもありますし、他の所でも番屋などが出て来ますので、そのような地名だと思います。

平田　職掌地名に入れてもいいし、(2)の城郭地名。そう言った軍事的な意味のものだから(2)でもいいと思う。

川野　「行司」は、前にも出ていました。何かをする時に「行司」という形で仕事を担当する人とありました。右側の方の名前が付いたのは、何なのか。

平田　名前：人名でよいでしょう。開発地名でしょうから。ほとんどが人の名前です。

川野　人の名前？「愛甲作」というのは？

平田　愛甲という人が作った畑、作をしている畑ということ。

川野　「入道」というのは、丸い山のことかなと思ったり、お坊さんに関係があるのかと思ったり。他に何かあるのか。

平田　出家したら入道になるので、その入道が持っていた土地なんでしょう。

川野　「長者」というのは？

平田　長者の畑。

川野　分類する時にはどこに入れたらよいですか。入道とか長者は。

平田　人名地名と考えればよい。

川野　人名地名でいいですか。

平田　次ぎの(7)に行きましょう。

川野　(7)開発地名は、堀添(ﾎﾘｿﾞｴ)・築地(ﾂｷｼﾞ)・大園(ｵｵｿﾞﾉ)・梶山園(ｶｼﾞﾔﾏｿﾞﾉ)・下ノ園(ｼﾓﾉｿﾞﾉ)・大開(ｵｵﾋﾗｷ)・小開(ｺﾋﾞﾗｷ)・東川添(ﾋｶﾞｼｶﾜｿﾞｴ)・西川添。「開」とか「添」が付いているのを入れました。築地は、海岸などを埋め立てて造った土地という意味もあると広辞苑に出ていました。

平田　質問はありませんか。

川野　(8)職業・産業地名。「馬」に関係があるもの。馬込(ﾏｺﾞﾒ)・本ヲロ・本ヲロノ尻(ﾓﾄｵﾛﾉｼﾘ)。馬庭(ﾏﾆﾜ)というのはどうしたらいいのか。平べったい土地を馬庭というのか、小さな土地を馬庭というのか、それとも馬に関係があるのか判らなかったのですけど此処に入れました。宍解場(ｼｼﾄｷﾊﾞ)、これは猪に関係があるかなと思っていれました。内ノ木場(ｳﾁﾉｺﾊﾞ)・焼山平(ﾔｷﾔﾏﾋﾞﾗ)・倉浜(ｸﾗﾊﾏ)・塩浜(ｼｵﾊﾏ)・餅売ケ谷(ﾓﾁｳﾘｶﾞﾀﾆ)・狩俣(ｶﾘﾏﾀ)・ヲロノ元。ソマブシ（？）、何かよく判らないのですけど。鹿倉(ｶｸﾗ)・船倉(ﾌﾅｸﾗ)・水無倉(ﾐｽﾞﾅｼｸﾗ)・下枦場(ｼﾓﾊｲﾊﾞ)・塩床(ｼｵﾄｺ)・塩屋・鐘子山(ｶﾝｽｶﾞﾔﾏ)・網代山(ｱｼﾞﾛﾔﾏ)・鰹切ケ浦(ﾌｶｷﾘｶﾞｳﾗ)・博多浦(ﾊｶﾀｳﾗ)・南木場(ﾐﾅﾐｺﾊﾞ)・木場野(ｺﾊﾞﾉ)・小ケ倉(ｺｶﾞｸﾗ)・猪ケ倉・中猪ケ倉(ﾅｶｲｶﾞｸﾗ)・馬庭(ﾏﾆﾜ)・馬込(ﾏｺﾞﾒ)・中牧(ﾅｶﾏｷ)・芋洗川(ｲﾓｱﾗｲｶﾞﾜ)・金ノ平・下金ノ平(ｼﾓｷﾝﾉﾋﾗ)。樫名場(ｶｼﾅﾊﾞ)・芋洗川・塩屋・木船山(ｷﾌﾞﾈﾔﾏ)・貝取崎(ｶｲﾄﾘｻﾞｷ)。「倉」が付くのを此処に入れていいのかどうか判らなかったのですけど一応入れてみました。

平田　「倉」は難しいですね。いわゆる倉庫の「倉」と、鹿児島県の場合は、崖地名の「クラ」がある。例えば鹿児島市の磯の向うにある花倉(ｶｸﾗ)。あれは急な崖に付いた地名です。二通りあります。

尾辻　この倉浜というのは、倉なんです。倉浜荘、あれは昔の

平田　貿易の場所？

尾辻　貿易の倉があった所。

古木　坊の倉浜の「倉」はそうなんですが久志にある小ケ倉・猪ケ倉なんかは地形からと思いますけど。

鹿倉・狩倉

川野　『鹿児島地名考』に、鹿倉は「切り立った岩山とか、石垣とか、小集落とか、狩をする場所、狩の区域」とあります。

平田　狩の区域が多いだろうね。

川野　鹿倉とか鹿倉山(ｶｸﾗﾔﾏ)というのは「狩猟のため一般の禁猟区域、鎌倉時代に始まる。上代は禁野(ｷﾝﾔ)・標野(ｼﾒﾉ)と呼ばれた」。小鹿倉(ｵｶﾞｸﾗ)は「峰・丘の高み」、猪鹿倉も「猪の出そうな所ではない。泉・水路・湿地のイである」とか。

平田　それは小幡さんがいろんな説を集めたもの。

川野　その説明を見て、いろんなのがあるのだなと思いました。

平田　「鹿倉」地名はいろいろと難しいようですが、「狩猟の場」「泊まる所」「殿様が狩りをする所」「禁猟区」という理解でいいでしょう。間伏(ﾏﾌﾞｼ)は猟師が隠れて獲物を待ちうける所です。

川野　木船山(ｷﾌﾞﾈﾔﾏ)とか網代山(ｱｼﾞﾛﾔﾏ)は此処に入れていいでしょうか。

平田　判らない。網代(ｱｼﾞﾛ)は入れなきゃ仕様がないだろうけど。

川野　網代に使う木を伐り出す所かなと思ったりしたもんだから。

平田　木船は。（編集時後記：貴船神社に結び付くかも知れない）

川野　金ノ平というのは枕崎で金がとれるというのがあったもんですから、それに関係があるかなと思って入れたのですけど。

平田　そうでしょうね。あんまり神経質にならん方がよい。はい、次。

川野　(9)田畑地名は、弓田(ユミタ゛)・田畑・前田・中田・占畑(シメハタ)・来畠(ライハタ)・前畠・丸田・六反田・荒田・早稲田・唐乾田(トウホ゛シタ゛)・楮畑(カシ゛ハ゛タ)・麻畑(アサハ゛タケ)

平田　はい、いいでしょう。

川野　(10)瑞祥地名はこれだけです。

平田　これでいいでしょう。富貴は蕗(フキ)が生えている所かも知れんけどね。

川野　自然地名も先程説明したようなもので、原・野・平・段などが付くのを此処に入れていますが、他のところに入るのがあるかも知れません。

平田　此処ではね、泊に桟敷(サシキ)というのがあるけども、苙(オロ)には桟敷が必ず付いています。「オロ」というのは駒を追い込む所でしょう。桟敷はそれを眺める所です。

泊の真ん中の軍見迫。これはグミが生えている迫。グミの木。次は(12)。

川野　(12)位置地名は先程説明したようなものです。この分け方でいいのかなと思ったのですけど。

平田　いいでしょう。判らんのがあるけど仕様がない。はい、質問はありませんか。

樋之口(トイノクチ・テノクチ・タイノクチ)

納　読み方で私流の解釈になるのですが4ﾍﾟｰｼﾞの秋目の20.樋之口(ヒノクチ)。鹿児島市ではこれを樋之口(テノクチ)さらに「タイノクチ」と読んでいます。現在やっているテレビドラマ「まんてん」ですが、商店名が「日高商店」ですね。ヒダカには「日高」と「樋高」とがある。それから、樋高(テタ゛カ)と読ませるのがあるのです。喜入には樋高(テタ゛カ)という集落があります。それで、これは地名辞典の振り仮名ですか、それとも土地の人々の呼び方によって振り仮名を付けられたのでしょうか。

平田　「樋(ヒ)」と読んだのは役場の担当者がそのように読んだのでしょうね。確かに鹿児島市の場合、樋之口町(トイノクチチョウ)を「タイノクチチョウ」と言います。そして鯛の魚(タイノイオ)を「テノイオ」ということと結び付けて、樋之口(テノクチ)を樋之口(タイノクッ)という。どうも解釈が発展し過ぎているように思うのです。これには垂口(タレクチ)が隠れているかも知れんのです。これならば「タイノクチ」と読んでもよい。

納　樋之口(テノクチ)のことを、「タイノクッ」という。先日、女のアナウンサーが読んでいましたが、聞いていると「鯛」に聞こえるのです。

平田　鯛の魚(テノイオ)ですか。

納　鯛と樋(トイ)の「タイ」は、片方は魚の鯛、一方は音を転化させた「タイ」。音を変化させると、鹿児島方言の場合は両方とも「テ」になるのです。それで、どこからどうして「テ」になったのだろうか、と。

平田　私が思うのは、あの辺に町人たちが住んでいた地域があるのです。樋之口(トイノクチ・テノクチ)が「タイノクチ」に化けたとすると、先程説明した「垂口」と結び付いた可能性があるなと思うのです。それならば「垂口(タイノクチ)」と自然に解釈出来ると思うのです。

納　地名で言えば、樋高(テタ゛カ)があります。日高は屋久島に多い。他の所の樋高を見ると「テタ゛カ」と読ませるのは多くない。

平田　あゝ、少ないのですね。はい、時間がありませんので、後で問題提起をしてください。

納　それから、もう一つですね。

平田　ちょっと待って下さい。先に説明を済ませて、後で質問を受けます。どうぞ。

川野　(13)形状地名は先程説明したようなことです。「久志」については『南日本の地名』の中に「湾に関するクシ・クチの転訛」と書いてあったのですけど、そんなものかなと、よく判りませんでした。

平田　まぁ、難しいな。

川野　今富士(イマフシ゛)というのは、富士山みたいな形だから。

平田　そうでしょう。

矢岳・矢筈岳・横枕

平田　此処で付け加えると、矢岳(ヤタケ)と矢筈(ヤハス゛)。矢岳というのは尖った男性的な山、矢筈岳は凹んだ山、これは女性型の山。男と女ということを言わずに矢岳・矢筈岳と上品な言い方に変えているのです。それから横枕(ヨコマクラ)。これは土地区画地名です。条里制できちっと割って行った場合、割り切れない余りが出てきます。余りが出来たら横に枕のように広げて載せる地割があるのです。これは全国に見られますから、横枕は土地区画地名として理解して下さい。次に行きましょう。

川野　(14)目印地名は先程説明したとおりです。下から3行目に熊ケ野(クマガ゛ノ)と書いてあります。判らなかったのでカッコ書きにしたのですが、昔は熊がいたのだろうか。それとも隈之城のクマか、山の隈か。

平田　それは判らんけど、熊がいたと見たらいいでしょう。上楊平(ウエタキヒ゛ラ)というのは何だろう。木へんのこれは「ヤナギ」と読むのだけど。坊津町の職員が読んでいるのでこれは独特な読み。

古木　揚平(タキヒ゛ラ)という姓もあるのです

平田　坊津町独特の文字ですね。

古木　手へんです。揚平(タキヒ゛ラ)は。

平田　「揚(アケ゛)」という文字ですね。

川野　木へんだったら「ヤナギ」。川ヤナギとか猫ヤナギとか。

平田　下から3行目の猿内(サルウチ)は猿打、鉄砲で撃つ。鹿間(シカマ)は難しい地名。これは判りません。「シカマ」には四釜・色麻・飾磨・四竈・鹿間など、意味は判りませんが、いろんな当て字を使います。不明としておいていいでしょう。次をお願いします。

川野　(15)浸食・崩壊地名。崩ケ平(クエカ゛ヒラ)・穴風呂(アナフ゛ロ)・崩下(クス゛レシタ)・崩平(クス゛レヒラ)。穴風呂は最初は不明にしておいたのですが、『南日本の地名』に「川の浸食作用によって幅70m・長さ30m・深さ30mの陥没したような窪地がある」と説明がありましたので、そこに入れました。

平田　何かありませんか。はい、次に行って下さい。

川野　(16)川原・湿地地名は、川原・牟田・仁田・水溜などです。

荒所(アラトコロ)

川野　(17)気象地名は、荒所・先荒所(サキアラトコロ)・雨見迫(アマミサコ)・日陰平(ヒカケ゛ヒ゛ラ)。荒所という地名は海が荒れる所かなと思ってそこに入れました。垂水にも荒崎とかあるので、そういうのと関係があるのかなと思いました。

尾辻　荒所というのは入江なんです。町立病院が出来て、私はそこに6年住んでいまし

た。きれいな静かな入江です。松があって、風が強い所ですけど、入江なんです。荒所浜(ｱﾗﾄｺｲｶﾞﾊﾏ)というのですよ。船が入りよったのです。

平田　荒行などする所じゃないのですか。

尾辻　それはないですね。

平田　やっぱり、風の強い所。

尾辻　風の強い所という意味じゃなですかね。

川野　(18)意味不明のところ。先程も述べたのですが、「向(ﾑｶｲ)」はどこに入れたらよいか。

平田　向(ﾑｶｲ)でいいだろう。向(ﾑｶｲ)とか後(ｳｼﾛ)とか川向(ｶﾜﾑｶｲ)。

川野　位置地名？

平田　うん。

川野　それから、犬戻シ(ｲﾇﾓﾄﾞｼ)。戻シが判らない。

平田　犬が引き返して来る所だろう。

川野　高見(ﾀｶﾐ)・白屋(ﾊｸﾔ)・十王平(ｼﾞｭｳｵｳﾋﾞﾗ)・出来山(ﾃﾞｷﾔﾏ)。

平田　十王は信仰地名でよい。出来山は何か判らない。

川野　岩野(ｲﾜﾉ)・善三ケ本(ｾﾞﾝｻﾝｶﾞﾓﾄ)

平田　これは善三(ｾﾞﾝｿﾞｳ)という人の名前じゃないの？繁六(ｼｹﾞﾛｸ)も人の名前。

川野　堀木(ﾎﾘｷ)・明ス平(ｱｹｽﾋﾞﾗ)・明ス迫(ｱｹｽｻﾞｺ)。

平田　判らん。

川野　長作り(ﾅｶﾞﾂｸﾘ)・一杯山(ｲｯﾊﾟｲﾔﾏ)・高見・繁六。一斗谷・一斗谷平(ｲｯﾄﾀﾞﾆﾋﾗ)というのは『南日本の地名』に、そのように書いてありました。牟礼(ﾑﾚｲ)・牟礼平(ﾑﾚｲﾋﾗ)とルビが振ってあったのですが、普通は「ムレ」と呼ぶのですが。

平田　これは「ムレ」でよい。

川野　「ムレ」というのは古代朝鮮の言葉で「山」とか「村」を意味するとあったのでそれに関係があるのかなと思いました。それから、土正(ﾄﾞｼｮｳ)というのは何ですか。勝佐ケ山(ｶｯｻｶﾞﾔﾏ)というのは人の名前かなと思いました。

平田　「カッサ」というのは植物じゃないかな。

川野　打返シ(ｳﾁｶｴｼ)・徳行(ﾄｸｺｳ)。徳光と書くのもあります。

平田　トッコウ。あれは「フクロウ」。トッコどんよ。

川野　あゝ。

平田　トッコウと鳴く。擬音。トッコウと鳴くのは、コノハヅク。

川野　珍ケ崎(ﾁﾝｶﾞｻｷ)、クグルス。

平田　これは「ウグルス」じゃないかな。

川野　ウグルスというのは何？

平田　大きな土地でしょう。クルスは黒い土（シラス：白砂に対するクロス・クルス）平見(ﾋﾗﾐ)・高見(ﾀｶﾐ)は、平から眺める、高い所から見る。高見馬場と同じだね。

平田　もし入れる時は、この「見」というのは、何？どんなふうの分類？

平田　景観地名だろうね。

川野　あゝ、景観地名。木ノ保(ｷﾉﾎ)、というのは何か。

平田　判らん。

川野　判らんですか。小春(ｺﾊﾙ)、何か季節に関係があるかなと思いましたが。

平田　小春(ｺﾊﾞﾙ)。小さな開墾地じゃないかな。

川野　そんじ山・倉床(ｸﾗﾄｺ)・骨返(ﾎﾈｶﾞｴｼ)・内返(ｳﾁｶﾞｴｼ)。

平田　判らん。

川野　出山(ﾃﾞﾔﾏ)・コク山・ワロガ谷。ワロというのは「ヲロ」じゃないかと思いましたけど。

平田　ヲロガ谷ね。

川野　赤ノ間(ｱｶﾉﾏ)・ケドン山。「ケ」というのは化けるとか、そういう意味かなと。

平田　ケドは外戸之口、街道。

川野　あゝ。それから見越川(ﾐｺｼｶﾞﾜ)。

平田　ワロは河童か何か出るような所があるの？河ワロが出るのじゃないかな。あるいは山ワロが。

納　　いいですか。

平田　ちょっと待って下さい。まとめの説明があります。はい。

川野　一応このように分類してみました。坊津を走った時に海のそばをず一っと走って行ったので、海の近くで昔中国方面との貿易で栄えた所だけに、そういうような地名が多いのかなと思ったのですが、調べていくうちに山とか岳などの地名が非常に多く、海に関係する地名は案外少ないと感じました。

それから実際に行ってみて住んでいる人の話を聞いたら、もう少しよく判るかなと思いました。阿久根市が『阿久根の地名』を出しましたが、阿久根の人たちが語り継がれた話を聞いてまとめたものです。あぁいうのを読んだら、地名は私たちの生活に密接につながっている。小字が今どんどん消えていますが、消えていくのは問題があるのかなとも思いました。これから教えて頂いていろいろ勉強したいと思います。

〔質疑応答〕

納　　泊史跡図の中に馬場方とか塩屋方・松堂方・たんたど方・吉原方と「方」が付いていますが、この「方」は何ですか。

この辺は昔は下の海岸線からこの山裾まで全部を上町(ｶﾝﾏﾁ)と普通言うでしょう。厳密な言い方をすれば、この辺は上町じゃない。上方(ｶﾐｶﾀ)です。国道から下の方が上町になる。そういう区別があるのです。この「方」は何でしょうか・

平田　白糖方(ﾊｸﾄｳﾎｳ・ﾊｯﾄｳﾎ)という言い方がある。

納　　方限(ﾎｳｷﾞﾘ)のことでしょうか。

平田　そういう地域区分があったのでしょうね。坊津で独特な呼び方が。どうですか、坊津は？白糖方というのは白砂糖を作った所

尾辻　白糖方(ﾊｯﾄｳﾎ)というのはあります。場所を表す方限の「方」だと思います。

平田　それでいいと思います。

納　　なんとかどんがた（殿方）と、鹿児島語でありますね。

平田　それを「方(ﾎｳ)」と呼んでいる？

尾辻　地名じゃないですね。松堂とか塩屋という大きな区切りはないですから、方限の「方」じゃないかな。

平田　じゃー、まとめに入りましょう。私が気付いた所から。11ﾍﾟｰｼﾞの表を見て、坊津は交通地名のﾊﾟｰｾﾝﾃｰｼﾞが非常に高いと思います。それと産業地名が内之浦とか桜島に比べて高い。坊津は港中心の町で交通地名が発達するし、活気のある所で産業地名が多かったんだなと思います。しかし下の方をみると自然地名が圧倒的なﾊﾟｰｾﾝﾃｰｼﾞを示すので、険しい所ということも判ります。目印地名が多いのも自然地形から来る制約でしょうね。

1ﾍﾟｰｼﾞに返って、真ん中の67・68の小堅山(ｺｶﾞｼﾔﾏ)は木ヘンが抜けたのでしょうね。樫

のこと。2ﾍﾟｰｼﾞ154は、築地(ﾂｷｼﾞ)、これも役場の方の読み違いでしょう。171・173は、街道(ｶﾞｲﾄﾞｳ)じゃなくて「ｹﾄﾞ」でしょう。195は善三(ｾﾞﾝｻﾝ)でなくて「ｾﾞﾝｿﾞｳ」、先程言った通り、人の名前。3ﾍﾟｰｼﾞの80、あなたが指摘したように牟礼(ﾑﾚｲ)じゃなくてﾑﾚ。94・95、これは竹ｶﾝﾑﾘじゃなくて、ｸｻｶﾝﾑﾘ。4ﾍﾟｰｼﾞに行きます。烏帽子（ｴﾎﾞｳｼ)じゃなくて「ｴﾎﾞｼ」。20、樋之口は「ﾋﾉｸﾁ」か「ﾃﾉｸﾁ」か、どっちかでしょう。5ﾍﾟｰｼﾞ、並松(ﾅﾗﾋﾞﾏﾂ)じゃなくて並松(ﾅﾐﾏﾂ)じゃないかな、鹿児島の言い方では。

川野　もう一つの方は並松(ﾅﾐﾏﾂ)でこっちは「ﾅﾗﾋﾞﾏﾂ」になっていました。

平田　そうしたら「ﾅﾐﾏﾂ」でしょうね。それから100.崩平(ｸｽﾞﾚﾋﾗ)、鹿児島県は「ｸｴﾋﾗ」が多いのですが土地の人に確認する必要があるでしょう。あとは大体途中で説明しました。

上野　番号が上から順に1・2・3・4と並んでいますが。

平田　これは字絵図台帳に基づいたものでしょう。

上野　役場が付けた番号。

平田　そうです。

上野　市町村ごとに付け方が決まってる？

平田　そういうものは全然ない。明治の中頃に字絵図を作りますが、その台帳の順番でしょう（後記：大体は測量の順番）。

古木　秋目というのはどういう意味ですか

平田　意味は判りません。

川野　一番最後に書いてあることで『麑藩名勝考』ですか、あれは久志・秋目を合わせて一郷とする。それから『武備志』に「作秋目、蓋赤眼の約たるにや」。

平田　それは白尾国柱の解釈です。申し落しましたが、江戸時代は坊・泊で一郷、久志・秋目で一郷。二郷あったのです。それから『唐大和上東征伝』、いわゆる鑑真が渡って来た記録には、「秋妻」と書いて「ｱｷﾒ」と読ませている。だから「秋」という名の女性がいたと思ってもいいわけです。地名の起こりとしては。

〇〇上と〇〇下

上野　〇〇上という地名と、〇〇下という地名。「上・下」の地名があるわけですが。

平田　「上」と「下」。

上野　「上」があれば当然「下」もあるだろうと思って見ていたのですが、地域によっては「上」というのが多かったり、地域によっては「上」と「下」が大体同じぐらいな所。地名の呼び方のことになるのですが、後で見て頂けたらと思います。

平田　その土地の付け方があるよね。例えば花倉(ｹｸﾗ)と上花倉(ｶﾐｹｸﾗ)はあるが下花倉はない。

上野　花倉が先にあって、後で出来たのが上花倉。そして「下」がない。後に出来た地名は派生的なものとして上・下が付く。

平田　そういうことでしょうね。まだ分類には手を着けていませんが、東串良町の小字が手に入りましたので、次回は東串良町に取り組みます。その次は誰か、テーマはありませんか。繁昌君、ない。松田さん、あなたがいつだったか「神社」をインプットしましたね。それを貰っているのだけど。今は忙しいですか。６月は私がやるので、９月あたりに何か、説明して下さい。今日はこれで終ります。ご苦労さまでした。

坊津の小字（大字　坊・・総数 210）　　No 1

1	大字	坊					
1	白石 ・	シライシ	38	堅山上	カタヤマウエ	75	小山	コヤマ
2	北平 ・	キタヒラ	39	堅山	カタヤマ	76	番屋下	バンヤシタ
3	山涯 ・	ヤマギワ	40	向鼻	ムカイハナ	77	木立山上	コダチヤマウエ
4	前尾 ・	マエオ	41	向	ムカイ	78	深谷	フカタニ
5	横堀 ・	ヨコボリ	42	栗ケ野	クリガノ	79	中須	ナカス
6	ヨ子ス原・	ヨネスハラ	43	野首	ノクビ	80	中須平	ナカスヒラ
7	鍋ケ平 ・	ナベガヒラ	44	上ノ山	ウエノヤマ	81	長尾ノ谷	ナガオタニ
8	鼻谷 ・	ハナタニ	45	野首ノ上	ノクビノウエ	82	深谷ノ平	フカタニノヒラ
9	山尻 ・	ヤマジリ	46	越山上	コシヤマウエ	83	深谷ノ上	フカタニノウエ
10	榎迫	エノキザコ	47	蓑木	イケギ	84	耳取ノ北	ミミトリノキタ
11	前迫	マエサコ	48	峠	トウゲ	85	耳鳥東迫	ミミトリヒガシノサコ
12	東俣	ヒガシマタ	49	峠ノ下	トウゲノシタ	86	小込山	ココミヤマ
13	赤水前	アカミズマエ	50	越山下	コシヤマシタ	87	小込谷	ココミタニ
14	前尾下	マエオシタ	51	小峠	コトウゲ	88	御茶屋ノ下	オチャヤノシタ
15	前尾出口	マエオデグチ	52	越山	コシヤマ	89	近道ノ上	チカミチノウエ
16	落シ	オトシ	53	大迫	オオサコ	90	外戸ノ口	ソトトノクチ
17	迫向	サコムカイ	54	村後	ムラウシロ	91	本ヲロノ尻	モトオロノシリ
18	赤水ノ上	アカミズノウエ	55	笹尾	ササオ	92	本ヲロ	モトオロ
19	大谷口	オオタニクチ	56	近道	チカミチ	93	街道口ノ上	カイドウグチノウエ
20	西俣	ニシマタ	57	長野谷	ナガノタニ	94	十文字平	ジュウモンジヒラ
21	椰木山	ナギヤマ	58	凉松	ススミマツ	95	十文字下	ジュウモンジシタ
22	久保里	クボリ	59	馬込	マコメ	96	馬庭先	マニワサキ
23	芦毛谷	アシゲダニ	60	垂口	タレクチ	97	行司堀	ギョウシボリ
24	赤迫頭	アカサコガシラ	61	堀添	ホリゾエ	98	行司堀ノ上	ギョウシボリノウエ
25	田ノ尻	タノシリ	62	二ツ石ノ下	フタツイシノシタ	99	行司堀ノ下	ギョウシボリノシタ
26	雀島ノ上	ススメジマノウエ	63	二ツ石ノ谷	フタツイシノタニ	100	水涌	ミズワキ
27	清水	シミズ	64	二ツ石	フタツイシ	101	水涌平	ミズワキヒラ
28	野池	ノイケ	65	福ケ迫	フクガザコ	102	牟田ノ平	ムタノヒラ
29	山池	ヤマイケ	66	梅木渡瀬	ウメキワタセ	103	長山ノ下	ナガヤマノシタ
30	長瀬ノ上	ナガセノウエ	67	小堅山	コガシヤマ	104	長山	ナガヤマ
31	源太平	ゲンタヒラ	68	小堅山北	コガシヤマキタ	105	小山上	コヤマウエ
32	岩山	イワヤマ	69	岩塚	イワツカ	106	長瀬ノ前	ナガセノマエ
33	富貴崎	フキザキ	70	主膳下	シュゼンシタ	107	小山ノ下	コヤマノシタ
34	犬戻シ	イヌモドシ	71	北堀	キタボリ	108	先浦尻	サキウラシリ
35	小浜上	コハマウエ	72	北堀ノ上	キタボリノウエ	109	馬庭ノ東	マニワノヒガシ
36	溜ケ平	タメガヒラ	73	庄内下	ショウナイノシタ	110	馬庭ノ迫	マニワノサコ
37	新川	シンカワ	74	庄内	ショウナイ	111	馬庭ノ上	マニワノウエ

1	大字	坊					
112	馬庭ノ平	マニワノヒラ	149	霧島	キリシマ	186	中平	ナカヒラ
113	馬庭西ノ迫	マニワニシノサコ	150	上ノ坊	カミノボウ	187	牟田平	ムタヒラ
114	西ノ迫	ニシノサコ	151	竹内	タケウチ	188	牟田	ムタ
115	先浦尻ノ迫	サキウラシリノサコ	152	野間	ノマ	189	山神ノ上	ヤマガミノウエ
116	先浦尻ノ上	サキウラシリノウエ	153	下浜	シモハマ	190	山神	ヤマガミ
117	田ノ尻	タノシリ	154	築地	チクチ	191	山神ノ下	ヤマガミノシタ
118	田ノ平	タノヒラ	155	深浦	フカウラ	192	今岳平	イマダケヒラ
119	浦尻ノ迫	ウラシリノサコ	156	中坊	ナカボウ	193	焼山平	ヤキヤマヒラ
120	浦尻ノ上	ウラシリノウエ	157	白屋	ハクヤ	194	中尾	ナカオ
121	塩ケ浦平	シオカウラヒラ	158	上中坊	ウエナカボウ	195	善三ケ本	ゼンサンガモト
122	浦尻	ウラシリ	159	平石	ヒライシ	196	辻	ツジ
123	塩ケ浦	シオカウラ	160	崩ケ平	クエガヒラ	197	辻ノ岡	ツジノオカ
124	黒葛山	ツヅラヤマ	161	宇都平	ウトヒラ	198	穴頭	アナトウ
125	南ケ迫	ミナミガサコ	162	狐迫	キツネザコ	199	胡麻田	ゴマデン
126	田代前迫	タシロマエサコ	163	松ケ迫	マツガサコ	200	桜馬場	サクラババ
127	弁財天ノ下	ベンザイテンノシタ	164	弓田尻	ユミタシリ	201	石橋	イシバシ
128	善塚	ゼンツカ	165	十文字	ジュウモンジ	202	鳥越	トリゴエ
129	山神平	ヤマガミヒラ	166	弓田	ユミタ	203	上ノ村	カミノムラ
130	御崎	ミサキ	167	弓田平	ユミタヒラ	204	学校上	ガッコウウエ
131	菖蒲谷	ショウブダニ	168	耳取峠	ミミトリトウゲ	205	上ノ山	カミノヤマ
132	愛宕山	アタゴヤマ	169	耳取下	ミミトリシタ	206	下ノ村	シモノムラ
133	倉浜	クラハマ	170	姥ノ口	ウバノクチ	207	中島	ナカシマ
134	坊ノ町	ボウノマチ	171	街道向迫	ガイドウムカイザコ	208	西ノ尾	ニシノオ
135	岩尾崎	イワオサキ	172	近道平	チカミチヒラ	209	銭迫	ゼニザコ
136	高見	タカミ	173	街道向	ガイドウムカイ	210	四本松	シホンマツ
137	宍解場	シシトキバ	174	堅野平	カタノヒラ			
138	丸岡	マルオカ	175	出来山	デキヤマ			
139	水上	ミズカミ	176	岩ケ平	イワガヒラ			
140	水上平	ミズカミヒラ	177	屋岳	ヤタケ			
141	水上ノ尻	ミズカミノシリ	178	一ノ谷頭	イチノタニガシラ			
142	広林谷	コウリンダニ	179	谷川	タニガワ			
143	宇都川	ウトガワ	180	十王平	ジュウオウヒラ			
144	宇都迫	ウトサコ	181	渡瀬	ワタセ			
145	柳ケ谷	ヤナギガタニ	182	田畑	タバタ			
146	芝山	シバヤマ	183	一ノ谷	イチノタニ			
147	歩行道	ホコウミチ	184	西ノ平	ニシノヒラ			
148	内ノ木場	ウチノコバ	185	岩組	イワグミ			

坊津の小字（大字　泊・・176　　秋目・・31）　　No 2

2	大字	泊								
1	先荒所	ｻｷｱﾗﾄﾞｺﾛ	38	竹原	ﾀｹﾊﾗ	75	札ノ尾	ﾌﾀﾞﾉｵ
2	鵜鳴ケ先	･ｳﾈｶﾞｻｷ	39	落水	ｵﾄｼﾐｽﾞ	76	ｲｹﾞｷ迫	ｲｹﾞｷｻﾞｺ
3	荒所	ｱﾗﾄｺﾛ	40	永山	ﾅｶﾞﾔﾏ	77	一斗谷	ｲｯﾄﾀﾞﾆ
4	小泊ノ上	ｵﾄﾞﾏﾘﾉｳｴ	41	小川	ｵｶﾞﾜ	78	鞍掛	ｸﾗｶｹ
5	西ノ尾越	ﾆｼﾉｵｺﾞｴ	42	ヲロノ元	ﾖﾛﾉﾓﾄ	79	一斗谷平	ｲｯﾄﾀﾞﾆﾋﾗ
6	小泊	ｵﾄﾞﾏﾘ	43	ｿﾏﾌﾞｼ	ｿﾏﾌﾞｼ	80	牟礼	ﾑﾚｲ
7	鳥越後平	ﾄﾘｺﾞｴｳｼﾛﾋﾞﾗ	44	馬神平	ｳﾏｶﾞﾐﾋﾗ	81	牟礼平	ﾑﾚｲﾋﾗ
8	柳ケ谷迫	ﾔﾅｷﾞｶﾞﾀﾆｻｺ	45	馬神迫	ｳﾏｶﾞﾐｻｺ	82	鷲山	ｳｸﾞｲｽﾔﾏ
9	大智院ノ上	ﾀﾞｲﾁｲﾝﾉｳｴ	46	土正鼻	ﾄﾞｼｮｳﾊﾞﾅ	83	鷲山谷	ｳｸﾞｲｽﾔﾏﾀﾆ
10	塩屋	ｼｵﾔ	47	桟敷迫	ｻﾞｼｷｻﾞｺ	84	乱橋	ﾐﾀﾞﾚﾊﾞｼ
11	宇都	ｳﾄ	48	桟敷平	ｻﾞｼｷﾋﾞﾗ	85	下山口	ｼﾓﾔﾏｸﾞﾁ
12	泊浜	ﾄﾏﾘﾊﾏ	49	一本松平	ｲｯﾎﾟﾝﾏﾂﾋﾞﾗ	86	鹿倉	ｶｸﾗ
13	堀木	ﾎﾘｷ	50	明ｽ平	ｱｹｽﾋﾞﾗ	87	鹿倉鼻	ｶｸﾗﾊﾞﾅ
14	吉原	ﾖｼﾊﾗ	51	戸越	ﾄｺﾞｴ	88	鹿倉平	ｶｸﾗﾋﾞﾗ
15	堀木道	ﾎﾘｷﾐﾁ	52	明ｽ迫	ｱｹｽｻﾞｺ	89	大谷	ｵｵﾀﾆ
16	海印寺ノ上	ｶｲｲﾝｼﾞﾉｳｴ	53	茅堀	ｶﾔﾎﾞﾘ	90	大谷平	ｵｵﾀﾆﾋﾞﾗ
17	雨見迫	ｱﾏﾐｻﾞｺ	54	万太堀	ﾏﾝﾀﾎﾞﾘ	91	大谷迫	ｵｵﾀﾆｻﾞｺ
18	鳴ケ谷	ﾅﾙｶﾞﾀﾆ	55	長作リ	ﾅｶﾞﾂｸﾘ	92	鹿倉坂	ｶｸﾗｻﾞｶ
19	喜八堀	ｷﾊﾁﾎﾞﾘ	56	岩山迫	ｲﾜﾔﾏｻﾞｺ	93	赤坂	ｱｶｻｶ
20	勝負ケ谷平	ｼｮｳﾌﾞｶﾞﾀﾆﾋﾗ	57	岩山	ｲﾜﾔﾏ	94	管谷	ｽｶﾞﾀﾆ
21	石橋	ｲｼﾊﾞｼ	58	一杯山	ｲｯﾊﾟｲﾔﾏ	95	管谷平	ｽｶﾞﾀﾆﾋﾗ
22	勝負ケ谷	ｼｮｳﾌﾞｶﾞﾀﾆ	59	岩山平	ｲﾜﾔﾏﾋﾗ	96	兎山	ｳｻｷﾞﾔﾏ
23	石橋迫	ｲｼﾊﾞｼｻﾞｺ	60	矢岳	ﾔﾀﾞｹ	97	船倉	ﾌﾅｸﾗ
24	石橋平	ｲｼﾊﾞｼﾋﾗ	61	湾ノ元	ﾜﾝﾉﾓﾄ	98	市ケ平	ｲﾁｶﾞﾋﾗ
25	内山尻	ｳﾁﾔﾏｼﾞﾘ	62	湾ノ元鼻	ﾜﾝﾉﾓﾄﾊﾞﾅ	99	乱橋下	ﾐﾀﾞﾚﾊﾞｼｼﾀ
26	餅売ケ谷	ﾓﾁｳﾘｶﾞﾀﾆ	63	矢岳迫	ﾔﾀﾞｹｻﾞｺ	100	兎山迫	ｳｻｷﾞﾔﾏｻｺ
27	内山	ｳﾁﾔﾏ	64	高見	ﾀｶﾐ	101	兎山平	ｳｻｷﾞﾔﾏﾋﾗ
28	内山平	ｳﾁﾔﾏﾋﾞﾗ	65	高見迫	ﾀｶﾐｻﾞｺ	102	安達平	ｳﾀﾞﾁﾋﾗ
29	狩俣	ｶﾘﾏﾀ	66	高木迫	ﾀｶｷﾞｻﾞｺ	103	金剛石	ｺﾝｺﾞｳｲｼ
30	堀落	ﾎﾘｵﾄｼ	67	春日谷	ｶｽｶﾞﾀﾆ	104	松ノ尾	ﾏﾂﾉｵ
31	榎迫	ｴﾉｷｻﾞｺ	68	木立山	ｺﾀﾞﾁﾔﾏ	105	小牟田迫	ｺﾑﾀｻﾞｺ
32	赤迫	ｱｶｻｺ	69	春日野	ｶｽｶﾞﾉ	106	外堀	ｿﾄﾎﾞﾘ
33	御茶屋場	ｵﾁｬﾔﾊﾞ	70	繁六	ｼｹﾞﾛｸ	107	土正	ﾄﾞｼｮｳ
34	御茶屋下	ｵﾁｬﾔｼﾀ	71	城ノ谷	ｼﾞｮｳﾉﾀﾆ	108	平	ﾀｲﾗ
35	笛ケ迫	ﾌｴｶﾞｻｺ	72	穴風呂	ｱﾅﾌﾞﾛ	109	中屋祢	ﾅｶﾔﾈ
36	軍見迫	ｸﾞﾝﾐｻﾞｺ	73	屋敷原	ﾔｼｷﾊﾞﾗ	110	椰木野	ﾅｷﾞﾉ
37	土橋迫	ﾄﾞﾊﾞｼｻﾞｺ	74	一本松迫	ｲｯﾎﾟﾝﾏﾂｻﾞｺ	111	宇都迫	ｳﾄｻｺ

2	大字	泊								3	大字	秋目
112	落ｽ山	ｵﾄｽﾔﾏ	149	上平原	ｶﾐﾋﾗﾊﾞﾗ	1	樫名場	ｶｼﾅﾊﾞ
113	霜鶴	ｼﾓﾂﾙ	150	後堀	ｱﾄﾎﾘ	2	坐頭落	ｻﾞﾄｳｵﾄｼ
114	雛ケ迫	ﾋﾅｶﾞｻｺ	151	狢ケ尾	ﾑｼﾞﾅｶﾞｵ	3	田平	ﾀﾋﾞﾗ
115	草野	ｿｳﾉ	152	本越	ﾓﾄｺﾞｴ	4	芋洗川	ｲﾓｱﾗｲｶﾞﾜ
116	深谷	ﾌｶﾀﾆ	153	向本堀	ﾑｶｴﾓﾄﾎﾞﾘ	5	見越川	ﾐｺｼｶﾞﾜ
117	建道	ﾀﾃﾐﾁ	154	黒石原	ｸﾛｲｼﾊﾞﾗ	6	岩ケ平	ｲﾜｶﾞﾋﾗ
118	大園	ｵｵｿﾞﾉ	155	出水	ﾃﾞﾐｽﾞ	7	長瀬	ﾅｶﾞｾ
119	中村	ﾅｶﾑﾗ	156	赤生原	ｱｶｳﾊﾞﾗ	8	長山	ﾅｶﾞﾔﾏ
120	前田	ﾏｴﾀﾞ	157	諏訪原	ｽﾜﾊﾞﾗ	9	塩屋	ｼｵﾔ
121	茅野	ｶﾔﾉ	158	徳行	ﾄｸｺｳ	10	天神免	ﾃﾝｼﾞﾝﾒﾝ
122	梶山	ｶｼﾞﾔﾏ	159	諏訪西	ｽﾜﾆｼ	11	木船山	ｷﾌﾞﾈﾔﾏ
123	梶山平	ｶｼﾞﾔﾏﾋﾗ	160	榎迫平	ｴﾉｷｻﾞｺﾋﾗ	12	東川添	ﾋｶﾞｼｶﾜｿﾞｴ
124	梶山園	ｶｼﾞﾔﾏｿﾉ	161	平野	ﾋﾗﾉ	13	山神	ﾔﾏｶﾞﾐ
125	上山	ｳｴﾔﾏ	162	堂ノ平	ﾄﾞｳﾉﾋﾗ	14	岩瀬戸	ｲﾜｾﾄ
126	亀石平	ｶﾒｲｼﾋﾗ	163	上長下	ｶﾐﾅｶﾞｼﾀ	15	下峠	ｼﾓﾄｳｹﾞ
127	勝佐ケ山	･ｶﾂｻｶﾞﾔﾏ	164	下長下	ｼﾓﾅｶﾞｼﾀ	16	上ノ峠	ｶﾐﾉﾄｳｹﾞ
128	勝佐ケ山尻	ｶﾂｻｶﾞﾔﾏｼﾘ	165	清水	ｼﾐｽﾞ	17	池ノ平	ｲｹﾉﾋﾗ
129	新川	ｼﾝｶﾜ	166	乗越	ﾉﾘｺｼ	18	上ノ宮田	ｶﾐﾉﾐﾔﾀ
130	占畑	･ｼﾒﾊﾀ	167	烏帽子谷	ｴﾎﾞｳｼﾀﾞﾆ	19	西川添	ﾆｼｶﾜｿﾞｴ
131	二俣迫	ﾌﾀﾏﾀｻｺ	168	尾上	ｵﾉｳｴ	20	樋ノ口	ﾋﾉｸﾁ
132	並松	ﾅﾐﾏﾂ	169	本殊院	ﾎﾝｼﾞｭｲﾝ	21	上村	ｱｹﾞﾑﾗ
133	横枕	ﾖｺﾏｸﾗ	170	法光寺平	ﾎｳｺｳｼﾞﾋﾞﾗ	22	宇都ノ上	ｳﾄﾉｳｴ
134	下ノ園	ｼﾓﾉｿﾉ	171	下楠崎	ｼﾓｸｽｻﾞｷ	23	東藤山	ﾋｶﾞｼﾌｼﾞﾔﾏ
135	水無倉	ﾐｽﾞﾅｼｸﾗ	172	上楠崎	ｶﾐｸｽｻﾞｷ	24	野首	ﾉｸﾋﾞ
136	下杤場	ｼﾓﾊｲﾊﾞ	173	車岳	ｸﾙﾏﾀﾞｹ	25	貝取崎	ｶｲﾄﾘｻﾞｷ
137	落ｽ迫	ｵﾄｽｻｺ	174	柳ケ谷	ﾔﾅｷﾞｶﾞﾀﾆ	26	北面	ｷﾀﾂﾞﾗ
138	来畠	ﾗｲﾊﾞﾀ	175	中田	ﾅｶﾀ	27	西藤山	ﾆｼﾌｼﾞﾔﾏ
139	岩山上	ｲﾜﾔﾏｳｴ	176	松山平	ﾏﾂﾔﾏﾋﾗ	28	鍋ノ山	ﾅﾍﾞﾉﾔﾏ
140	米山	ﾖﾈﾔﾏ				29	下鍋山	ｼﾓﾅﾍﾞﾔﾏ
141	神ノ原	ｶﾐﾉﾊﾗ				30	諸越	ﾓﾛｺｼ
142	前畠	ﾏｴﾊﾀ				31	枇榔島	ﾋﾞﾛｳｼﾞﾏ
143	牛道	ｳｼﾐﾁ						
144	打返シ	ｳﾁｶｴｼ						
145	前神	ﾏｴｶﾐ						
146	上川床	ｶﾐｶﾜﾄｺ						
147	清水前	ｼﾐｽﾞﾏｴ						
148	下平原	ｼﾓﾋﾗﾊﾞﾗ						

4	大字		久志						
1	堂崎	ﾄﾞｳｻﾞｷ	38	庵ノ上	ｱﾝﾉｳｴ	75	水呑鼻	ﾐｽﾞﾉﾐﾊﾞﾅ
2	追籠口	ｵｲｺﾞｸﾞﾁ	39	博多浦	ﾊｶﾀｳﾗ	76	帽子ノ下	ﾎﾞｳｼﾉｼﾀ
3	江籠頭	ｴｺﾞｶﾞｼﾗ	40	寺上	ﾃﾗｶﾐ	77	聖ノ平	ｾｲﾉﾋﾗ
4	前野	ﾏｴﾉ	41	赤迫	ｱｶｻｺ	78	屋敷平	ﾔｼｷﾋﾗ
5	上ノ坪	ｶﾐﾉﾂﾎﾞ	42	平尾	ﾋﾗｵ	79	聖ノ上	ｾｲﾉｳｴ
6	田崎	ﾀｻﾞｷ	43	小ケ倉	ｺｶﾞｸﾗ	80	立岩	ﾀﾁｲﾜ
7	元屋敷	ﾓﾄﾔｼｷ	44	南木場	ﾐﾅﾐｺﾊﾞ	81	立岩迫	ﾀﾁｲﾜｻｺ
8	大野	ｵｵﾉ	45	白岩	ｼﾗｲﾜ	82	下水溜	ｼﾓﾐｽﾞﾀﾏﾘ
9	大山頭	ｵｵﾔﾏｶﾞｼﾗ	46	米ケ平	ﾖﾈｶﾞﾋﾗ	83	村前	ﾑﾗﾏｴ
10	塩床	ｼｵﾄｺ	48	山之神	ﾔﾏﾉｶﾐ	84	崩下	ｸｽﾞﾚｼﾀ
11	垣ノ手	ｶｷﾉﾃ	47	ﾍｺﾞ原	ﾍｺﾞﾊﾗ	85	上瀬々別当	ｳｴｾｾﾍﾞｯﾄｳ
12	鑵子山	ｶﾝｽｶﾞﾔﾏ	49	大久志	ｵｵｸﾞｼ	86	クグルス	ｸｸﾞﾙｽ
13	網代山	ｱｼﾞﾛﾔﾏ	50	大坪	ｵｵﾂﾎﾞ	87	下瀬々別当	ｼﾓｾｾﾍﾞｯﾄｳ
14	立瀬	ﾀﾂｾ	51	中尾	ﾅｶｵ	88	脇小路	ﾜｷｺｼﾞ
15	桂山	ｶﾂﾗﾔﾏ	52	山口	ﾔﾏｸﾞﾁ	89	大開	ｵｵﾋﾞﾗｷ
16	楮畑	ｶｼﾞﾊﾀ	53	中尾宇都	ﾅｶｵｳﾄ	90	山寺	ﾔﾏﾃﾗ
17	江ノ浦	ｴﾉｳﾗ	54	橘口	ﾀﾁﾊﾞﾅｸﾞﾁ	91	愛甲作	ｱｲｺｳｻｸ
18	鑢切ケ浦	ﾌｶｷﾘｶﾞｳﾗ	55	山仁田前	ﾔﾏﾆﾀﾏｴ	92	川原田	ｶﾜﾊﾗﾀﾞ
19	松崎	ﾏﾂｻｷ	56	小川	ｵｶﾞﾜ	93	川路	ｶﾜｼﾞ
20	山神迫	ﾔﾏｶﾐｻﾞｺ	57	桑原	ｸﾜﾊﾞﾗ	94	前田	ﾏｴﾀﾞ
21	藤太ケ浦	ﾄｳﾀｶﾞｳﾗ	58	仁田川崎	ﾆﾀｶﾞﾜｻｷ	95	丸田	ﾏﾙﾀ
22	川上	ｶﾜｳｴ	59	荒平	ｱﾗﾋﾗ	96	六反田	ﾛｸﾀﾝﾀﾞ
23	小山平	ｺﾔﾏﾋﾗ	60	鹿籠松	ｶｺﾞﾏﾂ	97	小開	ｺﾋﾞﾗｷ
24	小山宇都	ｺﾔﾏｳﾄ	61	南平	ﾐﾅﾐﾋﾗ	98	大浦坂	ｵｵｳﾗｻﾞｶ
25	甑岩	ｺｼｷｲﾜ	62	内登	ｳﾁﾉﾎﾞﾘ	99	平石	ﾋﾗｲｼ
26	下垣ノ手	ｼﾓｶｷﾉﾃ	63	蜂ノ巣	ﾊﾁﾉｽ	100	平見	ﾋﾗﾐ
27	薗田迫	ｲﾀﾞｻｺ	64	大久保	ｵｵｸﾎﾞ	101	一ノ坂	ｲﾁﾉｻｶ
28	八田河	ﾊﾂﾀﾞｺﾞｳ	65	馬庭	ﾏﾆﾜ	102	落山	ｵﾄｼﾔﾏ
29	大丸木	ｵｵﾏﾙｷ	66	島別当	ｼﾏﾍﾞｯﾄｳ	103	中山	ﾅｶﾔﾏ
30	狐ケ迫	ｷﾂﾈｶﾞｻｺ	67	入道	ﾆｭｳﾄﾞｳ	104	上落山	ｳｴｵﾄｼﾔﾏ
31	珍ケ崎	ﾁﾝｶﾞｻｷ	68	菖蒲平	ｼｮｳﾌﾞﾋﾗ	105	通山	ﾂﾔﾏ
32	樫木山	ｶｼﾉｷﾔﾏ	69	枝ノ頭	ｴﾀﾞﾉｶｼﾗ	106	崩平	ｸｽﾞﾚﾋﾗ
33	並松	ﾅﾗﾋﾞﾏﾂ	70	下小豆平	ｼﾓｱｽﾞｷﾋﾗ	107	金堂	ｶﾅﾄﾞｳ
34	猿内	ｻﾙｳﾁ	71	政三郎	ﾏｻｻﾌﾞﾛｳ	108	上水溜	ｶﾐﾐｽﾞﾀﾏﾘ
35	丸木越	ﾏﾙｷｺﾞｴ	72	白木平	ｼﾗｷﾋﾞﾗ	109	織坂	ｵﾘｻﾞｶ
36	麻畑	ｱｻﾊﾞﾀｹ	73	矢筈	ﾔﾊｽﾞ	110	岩山	ｲﾜﾔﾏ
37	番屋	ﾊﾞﾝﾔ	74	上赤豆平	ｶﾐｱｽﾞｷﾋﾗ	111	上野	ｳｴﾉ

4	大字		久志					
112	木ノ保	ｷﾉﾎ	149	大平	ｵｵﾋﾗ	186	芝之前	ｼﾊﾞﾉﾏｴ
113	上岩山	ｳｴｲﾜﾔﾏ	150	倉床	ｸﾗﾄｺ	187	上永山	ｳｴﾅｶﾞﾔﾏ
114	木ノ保平	ｷﾉﾎﾋﾞﾗ	151	蛇ノ川原	ﾍﾋﾞﾉｶﾜﾊﾗ	188	鎮寿尾	ﾁﾝｼﾞｭｵ
115	牟田	ﾑﾀ	152	横尾	ﾖｺｵ	189	唐乾田	ﾄｳﾎﾞｼﾀ
116	小春	ｺﾊﾙ	153	番屋	ﾊﾞﾝﾔ	190	割石	ﾜﾚｲｼ
117	田野尻	ﾀﾉｼﾘ	154	正仙川	ｾｲｾﾝｶﾞﾜ	191	上米山	ｳｴｺﾒﾔﾏ
118	松山鼻	ﾏﾂﾔﾏﾊﾞﾅ	155	丸山尻	ﾏﾙﾔﾏｼﾞﾘ	192	乗越	ﾉﾘｺｴ
119	下小春	ｼﾓｺﾊﾙ	156	椛木山	ｶﾊﾞﾉｷﾔﾏ	193	上内平	ｳｴｳﾁﾋﾞﾗ
120	そんじ山	ｿﾝｼﾞﾔﾏ	157	陳之尾	ｼﾞﾝﾉｵ	194	下内平	ｼﾓｳﾁﾋﾞﾗ
121	深迫	ﾌｶｻｺ	158	中牧	ﾅｶﾏｷ	195	下米山	ｼﾓｺﾒﾔﾏ
122	藤九郎	ﾄｳｸﾛｳ	159	田平	ﾀﾋﾗ	196	馬込	ﾏｺﾞﾒ
123	厚石	ｱﾂｲｼ	160	向得平	ﾑｶｴﾋﾗ	197	丸塚	ﾏﾙﾂｶ
124	熊ケ野	ｸﾏｶﾞﾉ	161	仁田山尻	ﾆﾀﾔﾏｼﾞﾘ	198	長者	ﾁｮｳｼﾞｬ
125	傘松迫	ｶｻﾏﾂｻﾞｺ	162	骨返	ﾎﾈｶﾞｴｼ	199	ﾜﾛｶﾞ谷	ﾜﾛｶﾞﾀﾆ
126	金ノ平	ｷﾝﾉﾋﾗ	163	肉返	ﾆｸｶﾞｴｼ	200	日陰平	ﾋｶｹﾞﾋﾞﾗ
127	猪ケ倉	ｲｶﾞｸﾗ	164	河頭	ｶﾜｶﾞｼﾗ	201	唐御崎	ﾄｳﾐｻｷ
128	野平	ﾉﾋﾞﾗ	165	鹿間	ｼｶﾏ	202	網代上	ｱｼﾞﾛｳｴ
129	中猪ケ倉	ﾅｶｲｶﾞｸﾗ	166	蛇野	ﾍﾋﾞﾉ	203	鶴ノ川	ﾂﾙﾉｶﾜ
130	下金ノ平	ｼﾓｷﾝﾉﾋﾗ	167	池出口	ｲｹﾃﾞｸﾞﾁ	204	赤崎平	ｱｶｻｷﾋﾞﾗ
131	尾場瀬	ｵﾊﾞｾ	168	出山	ﾃﾞﾔﾏ	205	門ノ山	ｶﾄﾞﾉﾔﾏ
132	瀬戸	ｾﾄ	169	ｺｸ山	ｺｸﾔﾏ	206	乗越後	ﾉﾘｺｴｳｼﾛ
133	大浦坂垣	ｵｵｳﾗｻﾞｶｶﾞｷ	170	池屋敷	ｲｹﾔｼｷ	207	赤ノ間	ｱｶﾉﾏ
134	林之下	ﾘﾝﾉｼﾀ	171	中洲	ﾅｶｽ	208	芝ノ後	ｼﾊﾞﾉｳｼﾛ
135	上楊平	ｳｴﾀｷﾋﾞﾗ	172	鉢窪	ﾊﾁｸﾎﾞ	209	岳ノ後	ﾀｹﾉｳｼﾛ
136	楮畑	ｶｼﾞﾊﾀ	173	村屋敷	ﾑﾗﾔｼｷ	210	永山後	ﾅｶﾞﾔﾏｳｼﾛ
137	下楊平	ｼﾓﾀｷﾋﾞﾗ	174	早稲田	ﾜｾﾀﾞ	211	岳ノ越	ﾀｹﾉｺﾞｼ
138	仁田川	ﾆﾀｶﾞﾜ	175	川崎	ｶﾜｻｷ	212	京之平	ｷｮｳﾉﾋﾗ
139	木場野	ｺﾊﾞﾉ	176	新屋敷	ｼﾝﾔｼｷ	213	ﾂﾜｶﾞ崎	ﾂﾜｶﾞｻｷ
140	荒田	ｱﾗﾀ	177	池ノ崎	ｲｹﾉｻｷ	214	桜ケ谷	ｻｸﾗｶﾞﾀﾆ
141	平太郎	ﾍｲﾀﾛｳ	178	岩下	ｲﾜｼﾀ	215	ｹﾄﾞﾝ山	ｹﾄﾞﾝﾔﾏ
142	神山	ｶﾐﾔﾏ	179	今富士	ｲﾏﾌｼﾞ	216	芋洗川	ｲﾓｱﾗｲｶﾞﾜ
143	山河	ﾔﾏｶﾜ	180	茶屋元	ﾁｬﾔﾓﾄ	217	堀ノ平	ﾎﾘﾉﾋﾗ
144	寺山	ﾃﾗﾔﾏ	181	払川	ﾊﾗｲｶﾞﾜ	218	柳ケ迫	ﾔﾅｷﾞｶﾞｻﾞｺ
145	今村	ｲﾏﾑﾗ	182	嶽ノ前	ﾀｹﾉﾏｴ	219	平崎屋敷	ﾋﾗｻｷﾔｼｷ
146	塩屋	ｼｵﾔ	183	五郎窪	ｺﾞﾛｳｸﾎﾞ	220	川尻	ｶﾜｼﾞﾘ
147	井手山	ｲﾃﾞﾔﾏ	184	鳥井口	ﾄﾘｲｸﾞﾁ	221	出口	ﾃﾞｸﾞﾁ
148	新道	ｼﾝﾐﾁ	185	下永山	ｼﾓﾅｶﾞﾔﾏ	222	梅ケ迫	ｳﾒｶﾞｻｺ

坊　津　の　小　字　　(639)

２００３年３月２日　　川野雄一

〔１〕信仰地名（48）（塚・神・芝・坊・銭・御）

坊（16）・・・岩塚・善塚　・弁財天ノ下　・山神・山神ノ上・山神ノ下・山神平　・愛宕山
・芝山（目印?）　・霧島　・上ノ坊・上中坊・中坊　・胡麻田（自然?）
・銭迫（自然?）　・御崎（自然?）

泊（12）・・・大智院ノ上・海院寺ノ上・本珠院　・法光寺平　・神ノ原・前神
・馬神平・馬神迫　・諏訪原・諏訪西（位置?）　・堂ノ平　・金剛石（目印?）

久志（17）・・・丸塚　堂崎・金堂　・山神迫・山之神・神山　・庵ノ上　・寺上・山寺・寺山
・聖ノ平・聖ノ上　・払川　・鳥井口　・鎮寿尾　・芝之前・芝ノ後（位置・目印?）

秋目（3）・・天神免（免とは?）　・山神　・上ノ宮田

〔２〕城郭・集落・門・入会地（26）

坊（8）・・・・野首　・坊ノ町　・上ノ村・下ノ村　・久保里　・横堀・北堀（水利?）　・庄内

泊（6）・・・・城ノ谷　・中村　・屋敷原　・外堀・後堀・向本堀（水利?）

久志（10）・・垣ノ手（?）・陳之尾（位置?）　・元屋敷・屋敷平・池屋敷・村屋敷・新屋敷
・平崎屋敷　・今村　・門ノ山

秋目（2）・・・野首　・上村（アゲムラ）

〔３〕土地区画地名（2）

坊（）・・・　　泊（）・・・

久志（2）・・上ノ坪・大坪

秋目（）・・

〔４〕市・町・交通地名（65）（・坂・峠・越・道・街道・馬場・渡・橋・辻・十文字・茶屋・泊）

坊（27）・・・一ノ谷（市?）　・峠・小峠・峠ノ下・耳取峠　・越山・越山上・越山下・鳥越
・近道・近道ノ上・近道平・歩行道　・街道口ノ上・街道向・街道向迫
・桜馬場　・渡瀬・梅木渡瀬　・辻・辻ノ岡　・十文字・十文字平・十文字下
・石橋　・御茶屋ノ下　・外戸ノ口

泊（20）・・・市ケ平　・赤坂・鹿倉坂　・西ノ尾越・鳥越後平・戸越・本越・乗越
・堀木道・建道・牛道　・石橋・乱橋・乱橋下　・御茶屋場・御茶屋下
・札ノ尾（信仰?）　・鞍掛　・小泊・泊浜（自然?）

久志（15）・・一ノ坂・大浦坂・織坂・大浦坂垣（城郭?）・丸木越・乗越・乗越後・岳ノ越
・内登　・新道・脇小路・川路・通山（ツヤマ・?）・茶屋元　・唐御崎（トウミサキ）

秋目（3）・・下峠・上ノ峠　・諸越

〔５〕水利地名（溝・樋・井手・落シ・水）・池地名・川地名　（29）

坊（9）・・・落シ　・清水　・水涌・水涌平　・水上　・垂口　・野池・山池　・新川

泊（9）・・・堀落・落水・落ス山・落ス迫　・霜鶴（下水溝?）・出水・清水　・小川・新川

久志（9）・・井手山・落山・上落山・水呑鼻（位置?）・池出口・八田河・小川・山河・正仙川

秋目（2）・・座頭落（信仰?伝承?）　・樋ノ口

〔６〕人名・職掌地名　（21）

坊（6）・・・源太平　・主繕下　・番屋下（歴史?）　・行司堀・行司堀ノ上・行司堀ノ下

泊（2）・・・喜八堀・万太堀

久志（13）・藤太ケ浦　・政三郎（?）藤九郎（?）・平太郎（?）　・五郎窪
・愛甲作（職?）　・番屋・番屋（歴史?）　・島別当・上瀬々別当・下瀬々別当
・入道（?）　・長者（?）

秋目（）・・

〔７〕開発地名　（9）（園・添・ハエ・開）

坊（2）・・・堀添　・築地

泊（3）・・・大園・梶山園・下ノ園

久志（2）・・大開・小開

秋目（2）・・東川添・西川添

〔８〕職業・産業地名　（44）（馬・木場　・倉？）

坊（13）・・・馬込　・本ヲロ・　本ヲロノ尻　・馬庭先・馬庭ノ東・馬庭ノ迫・馬庭ノ上・馬庭ノ平・
・馬庭西ノ迫　・宍解場　・内ノ木場　・焼山平　・倉浜

泊（9）・・・塩屋・餅売ケ谷・狩俣・ヲロノ元・ソマブシ（?）・鹿倉・船倉・水無倉（?）・下**杤場**

久志（17）・・塩床・塩屋　・**鑓子山**・網代山　・鑓切ケ浦・博多浦　・南木場・木場野
小ケ倉・猪ケ倉・中猪ケ倉　・馬庭・馬込・中牧　・芋洗川　・金ノ平・下金ノ平

秋目（5）・・樫名場　・芋洗川　・塩屋　・木船山（キブネヤマ）　・貝取崎

〔９〕田畑地名　（16）

坊（2）・・・弓田・田畑

泊（5）・・・前田・中田　・占畑・来畠・前畠

久志（9）・・・前田・丸田・六反田・荒田・早稲田・唐乾田　・楮畑・楮畑（カジハタ）・麻畑

秋目（）・・

〔10〕瑞祥地名　（1）

坊（1）・・・富貴崎（フキザキ　自然？）

泊（）・・　　久志（）・・　　秋目（）・・

〔11〕自然地名　（102）

（原・野・平・段　谷・迫・窪・宇都　・山・岳　・崎（位置?）・瀬・瀬戸・浜・浦）

坊（37）・・・ヨ子ス原　・溜ケ平・中須平・深谷ノ平・田ノ平・塩ケ浦平・水上平・弓田平
・堅野平・岩ケ平・今岳平　・谷川・鼻谷・芦毛谷・長野谷・二ツ石ノ谷・深谷
・長尾ノ谷・小込谷・広林谷　・前迫・大迫・福ケ迫・浦尻ノ迫・先浦尻ノ迫
・宇都川・宇都迫・宇都平　・岩山・堅山・小込山・屋岳　・岩尾崎
・中須　・下浜　・塩ケ浦・深浦

泊（34）・・・吉原　・春日野・草野・平野　・石橋平・内山平・岩山平・鹿倉平・大谷平
・安達平・平・梶山平・松山平・桟敷平（?）　・春日谷・大谷・深谷
・桟敷迫（?）・大谷迫・石橋迫（?）・土橋迫（?）・軍見迫（?）・岩山迫
・矢岳迫・高見迫（?）・高木迫（?）・二俣迫（交通?）　・宇都・宇都迫
・内山・岩山・木立山・米山（ヨネヤマ　産業?）　・車岳

久志（27）・・・大野　・小山平・米ケ平・荒平・木ノ保平・野平・大平・田平・向得平・赤崎平
・京之平・堀ノ平　・**藺田迫・赤迫・立岩迫・深迫**　・小山宇都・中尾宇都
・岩山　・田崎・川崎・池ノ崎（位置？）・中洲　・立瀬・尾場瀬・瀬戸　・江ノ浦

秋目（4）・・田平・岩ケ平・池ノ平　・岩瀬戸

〔12〕位置地名　(115)
（上中下　・前後　・尾・頭尻　・口・元根・鼻　・東西南北・十二支・横・涯・脇・間）
坊（54）・・・上ノ山（ｳｴﾉﾔﾏ）・上ノ山（ｶﾐﾉﾔﾏ）　・赤水ノ上・雀島ノ上・長瀬ノ上・小浜上
・堅山上・野首ノ上・北堀ノ上・小立山上・深谷ノ上・小山ノ上・先浦尻ノ上
・浦尻ノ上・学校上　・中平・中尾・中島
・前尾下・二ツ石ノ下・庄内下・長山ノ下・小山ノ下・耳取下　・前尾・赤水前
・長瀬ノ前・田代前迫（自然?）　・村後　・赤迫頭・一ノ谷頭・穴頭
・田ノ尻・田ノ尻・山尻・浦尻・先浦尻・水上ノ尻・弓田尻
・大谷口・姥ノ口・前尾出口　・山涯　・野間（?）　・東俣・耳鳥東迫
・西俣・西ノ迫・西ノ平・西ノ尾　・南ケ迫　・北平・小堅山北・耳取ノ北
泊（20）・・・上山（ｳｴﾔﾏ）・上川床（ｶﾐｶﾜﾄｺ）・上平原・上長下・上楠崎（自然・目印?）
・小泊ノ上・岩山上・尾上　・中屋祢　・**下山口・下平原・下長下・下楠崎**
・清水前　・内山尻・勝佐ケ山尻　・湾ノ元　・湾ノ元鼻・土正鼻（?）・鹿倉鼻
久志（38）・・上赤豆平（ｶﾐｱｽﾞｷﾋﾗ　産業?）・上野・上岩山・上永山（ｳｴﾅｶﾞﾔﾏ　形状?）
・上米山（ｳｴｺﾒﾔﾏ　産業?）・上内平・川上・網代上　・中尾・中山
・下垣ノ手（城郭?）・下小豆平（産業?）・下小春・下永山（形状?）・下内平
・下米山（ｼﾓｺﾒﾔﾏ　産業?）　・帽子ノ下・林之下・岩下　・前野・村前・嶽ノ前
・岳ノ後・永山後　・平尾　・江籠頭・大山頭・枝ノ頭・河頭　・田野尻・丸山尻
・川尻　・追籠口・山口・出口　・松山鼻（目印?）　・南平　・横尾
秋目（3）・・宇都ノ上　・下鍋山（形状?）　・北面（ｷﾀﾂﾞﾗ）

〔13〕形状地名　(23)
坊（5）・・・鍋ケ平（自然?）・小山・長山・丸岡・平石
泊（4）・・・永山・矢岳（自然?）・横枕・烏帽子谷
久志（11）・・甑岩・大丸木・大久志（『南日本の地名』湾に関連するｸｼ　・ｸﾁの転訛）
・大久保（自然?）・鉢窪　・矢筈　・立岩・平石・厚石・割石　・今富士
秋目（3）・・長瀬・長山・鍋ノ山（自然?）

〔14〕目印地名　(78)　（色・植物・動物　擬音?）
坊（16）・・・白石・二ツ石　・榎迫・**榔木山・栗ケ野・蕎木・笹尾**　・**凉松・松ケ迫・四本松**
・**小堅山・黒葛山・菖蒲谷・柳ケ谷・竹内**　・**狐迫**
泊（32）・・・亀石平　・黒石原・赤生原・赤迫　・榎迫・榎迫平・**榔木野・梶山・柳ケ谷**
・柳ケ谷迫・勝負ケ谷・勝負ケ谷平・管谷・管谷平・茅堀（城郭?）・茅野
・ｲｹﾞｷ迫（?）　・並松・松ノ尾・一本松平・一本松迫　・竹原
・狢ケ尾　・兎山・兎山平・兎山迫　・鷲山・鷲山谷　・雛ケ迫　・鵜鳴ケ先
・鳴ケ谷　・笛ケ迫（?）
久志（27）・・白岩・白木平　・桂山・松崎・並松・鹿籠松（桜島の地名で「鹿児松」）
・傘松迫・樫木山・ﾍｺﾞ原・橘口・桑原・菖蒲平・上楊平（ｳｴﾀｷﾋﾞﾗ　位置?）
・下楊平（位置?）・桃木山・ﾂﾜｶﾞ崎・桜ケ谷・柳ケ迫・梅ケ迫
・狐ケ迫・猿内（?）　・熊ケ野（昔は熊が生息していたのだろうか?）
・蜂ノ巣・蛇ノ川原・蛇野・鶴ノ川　・鹿間（位置?）
秋目（3）・・東藤山（位置?）・西藤山（位置?）　・枇榔島

〔15〕浸食・崩壊地名　(4)　（崩・走・踊・洗　・禿?）
坊（1）・・・崩ケ平
泊（1）・・・穴風呂（馬追川上流に幅 70m・長さ 30m・深さ 30m の陥没したような長円形の窪地があり、岩風呂・穴風呂とよぶ。底を流れる馬追川の浸食作用によるものか。『南日本の地名』。　ｱﾅﾌﾞﾛ）
久志（2）・・崩下（ｸｽﾞﾚｼﾀ）
・崩平（ｸｽﾞﾚﾋﾗ　鹿児島地方では「ﾋﾗ」に「山の斜面」「崖」「坂」の意味もある。『南日本の地名』小川亥三郎）
秋目（）・・

〔16〕川原・湿地地名　(12)　（川原・牟田・仁田・水溜）
坊（3）・・・牟田・牟田ノ平・牟田平・
泊（1）・・・小牟田迫
久志（8）・・川原田　・牟田　・山仁田前（位置?）・仁田川崎（自然・位置?）・仁田川
・仁田山尻（位置?）　・上水溜・下水溜・
秋目（）・・

〔17〕気象地名　(4)
坊（）・・・
泊（3）・・・荒所・先荒所　・雨見迫
久志（1）・・日陰平（ﾋｶｹﾞﾋﾞﾗ）
秋目（）・・

〔18〕意味不明　(40)（向・戻ｼ・○○見）
坊（10）・・・迫向（ｻｺﾑｶｲ）・向鼻（ﾑｶｲﾊﾞﾅ）・向（ﾑｶｲ）　・犬戻ｼ　・高見　・白屋
・十王平（信仰?）・出来山（自然?）・岩組（形状?）・善三ケ本（ｾﾞﾝｻﾝｶﾞﾓﾄ　位置?）
泊（15）・・・堀木　・明ｽ平・明ｽ迫（自然?）・長作ﾘ　・一杯山・高見　・繁六（ｼｹﾞﾛｸ）
・一斗谷・一斗谷平（田畑地名?　湿地地名?）
（馬追川の水源に、「一斗谷」という湿地で水田がある。一斗というのは一斗蒔のことで、一斗蒔は二反位にあたるからそれぐらいの水田があるようである。『南日本の地名』）
・牟礼・牟礼平（　ﾑﾚ　「山」「村」を意味する。『南日本の地名』）
・土正（ﾄﾞｼｮｳ）・勝佐ケ山（ｶﾂｻｶﾞﾔﾏ）・打返ｼ（ｳﾁｶｴｼ）・徳行（ﾄｸｺｳ）
久志（14）・・珍ケ崎　・ｸｸﾞﾙｽ　・平見　・木ノ保（ｷﾉﾎ）　・小春　・そんじ山（自然?）
・倉床（産業?・形状?）　・骨返（ﾎﾈｶﾞｴｼ）・肉返　・出山（ﾃﾞﾔﾏ　自然?）
・ｺｸ山（自然?）　・ﾜﾛｶﾞ谷（自然?）　・赤ノ間　・ｹﾄﾞﾝ山（信仰?伝承?）
秋目（1）・・見越川

坊津町の地名（数値的分析）　総数 639

人文地名　261（40,8%）自然地名　338（52,9%）意味不明　40

大　字	坊		泊		久志		秋目		計		桜島	内之浦
小字数	210	(%)	176	(%)	222	(%)	31	(%)	639	(%)	695 (%)	378 (%)
1　信仰地名	16	7,6	12	6,8	17	7,7	3	9,7	48	7,5	10,6	8,7
2　集落地名	8	3,8	6	3,4	10	4,5	2	6,5	26	4,1	2,4	6,6
3　区画地名					2	0,9			2	0,3	1,6	3,4
4　交通地名	27	12,9	20	11,4	15	6,8	3	9,7	65	10,2	5,2	5,8
5　水利地名	9	4,3	9	5,1	9	4,1	2	6,5	29	4,5	2,2	4,5
6　人名地名	6	2,9	2	1,1	13	5,9			21	3,3	0,7	2,9
7　開発地名	2	1,0	3	1,7	2	0,9	2	6,5	9	1,4	1,3	6,6
8　産業地名	13	6,2	9	5,1	17	7,7	5	16,1	44	6,9	1,9	2,9
9　田畑地名	2	1,0	5	2,8	9	4,1			16	2,5	1,0	11,1
10 瑞祥地名	1	0,5							1	0,2		
11 自然地名	37	17,6	34	19,3	27	12,2	4	12,9	102	16,0	7,8	5,6
12 位置地名	54	25,7	20	11,4	38	17,1	3	9,7	115	18,0	27,8	14,3
13 形状地名	5	2,4	4	2,3	11	5,0	3	9,7	23	3,6	6,9	6,1
14 目印地名	16	7,6	32	18,2	27	12,2	3	9,7	78	12,2	9,2	7,4
15 浸食地名	1	0,5	1	0,6	2	0,9			4	0,6		1,1
16 湿地地名	3	1,4	1	0,6	8	3,6			12	1,9	5,2	9,8
17 気象地名			3	1,7	1	0,5			4	0,6		
18 噴火地名											5,6	
18 意味不明	10	4,8	15	8,5	14	6,3	1	3,2	40	6,3	8,6	4,8

＊「桜島」「内之浦」の数値は平田先生の分析数値をお借りしました。

大字	坊	泊	久志	秋目	計
総字数	210	176	222	31	639
山・岳・岡	34	28	38	7	107
	16,2%	15,9%	17,1%	22,6%	16,7%
原	1	9	4	0	14
野	7	5	8	1	21
平	25	27	29	3	84
段	0	0	0	0	0
谷	16	18	2	0	36
迫	19	25	9	0	53
久保・窪	1	0	3	0	4
宇都	3	2	2	1	8

＊各大字の中で、「山」「岳」「岡」という文字が使用されている小字の数

＊『麑藩名勝考』（白尾国柱）

◎坊津村（ﾊﾞｳﾂ）

○唐湊（ｶﾗﾉﾐﾅﾄ）

・地志略曰、此地旧上坊・中坊・下坊と號し、軌準をなしてより坊津と名く、

○泊村

・坊津の北方にて、同郷なり、登壇必究作拖馬里、

（拖　ﾀ　ひっぱる・はなす・ひきずる）

○久志村

・同郡にて、今久志・秋目両村を併て一郷とす、武備志にも久志とあり、

・此久志の浦ハ隈曲にして、其廻凡三十五町餘、深七尋、入十二町、博多浦と称ふ、亦網代てふ港もあり、

○九玉大明神（ｸﾀﾞﾏ）

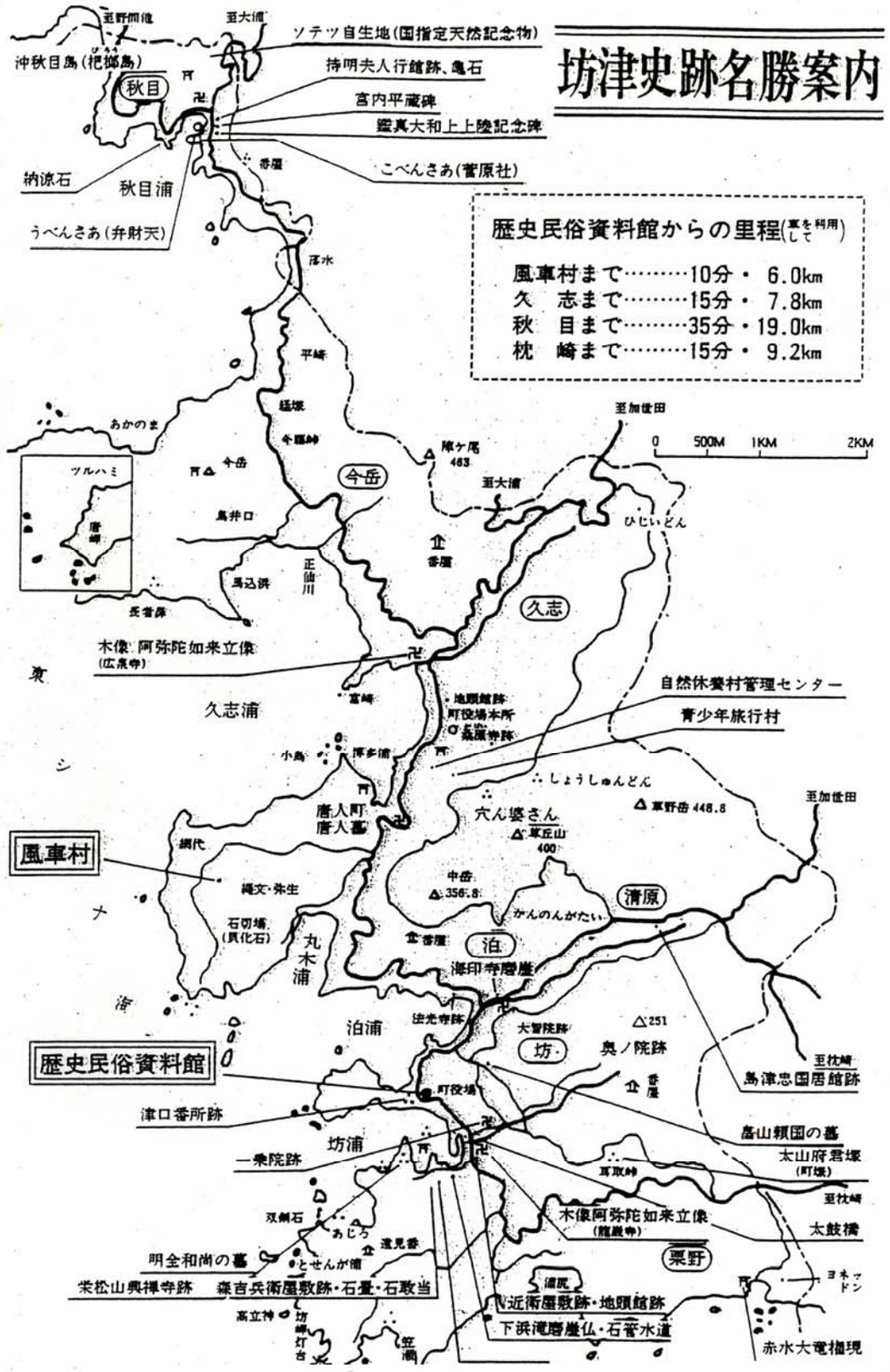
・坊泊の鎮守神也、祭神猿田彦太神、

・　…按に、九玉ハ即奇魂の省なり、…久志浦も奇浦の義なるへし、

○秋目村

・久志・秋目両村を併て一郷とす、武備志に作秋目、蓋赤眼の約たるにや、

坊津史跡名勝案内



かごしま文庫「坊津」

「坊津町郷土誌」

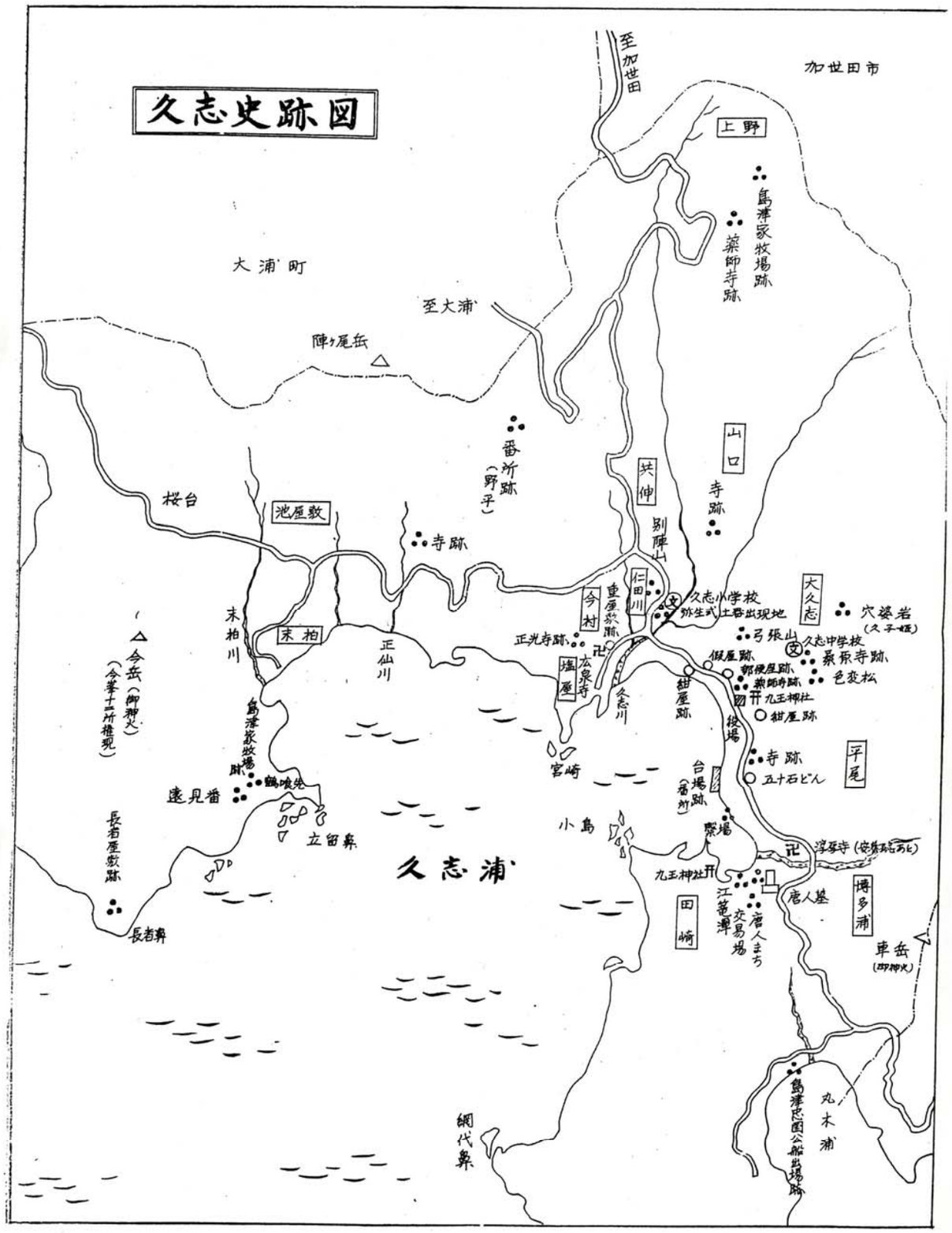
坊史跡図

橘隠軒墓
辻が岡
奥の院跡
お茶掛場
熊野権現
霧島
野原
開伽水権現
枕崎市へ
鳥越
油屋跡
泊へ
上中坊
霧島大竹権現
招魂塚
熊野権現
坊泊小学校
木下大膳太夫墓（若宮じん）
上人墓地
一乗院跡
仁王石像
硯川
近衛信卿公配流跡
竜巌寺
地頭仮屋跡
油屋跡
上の坊
春日
焼酎屋跡
天満天神
日羅禅石
天満天神
白山
中坊
広大寺跡
水銀屋敷
宮田但馬守墓
太鼓橋
下浜
滝摩崖仏
一の宮
供養塔
開伽講坂
丸岡
銭迫
中島坊
熊野権現
深浦船場跡
那智滝
白糸方
よっがあし
山崎家（假屋）
伊瀬知家
森吉兵衛屋敷
寺田屋敷
川崎市次郎屋敷
沈潤塔
役場坊泊支所
番所跡
砲台跡
姪子様
八坂神社
姪子様
坊の浜
宅屋敷跡
伺屋敷跡
異人間屋跡
坊浦
梅崎春生文学碑
唐船錨
姪子様
寺ヶ崎
金毘羅様
興禅寺跡
明全和尚没地
海難慰霊塔
鐘乳洞（下り観音）
亀ヶ浦
遠見番
灯台に至る

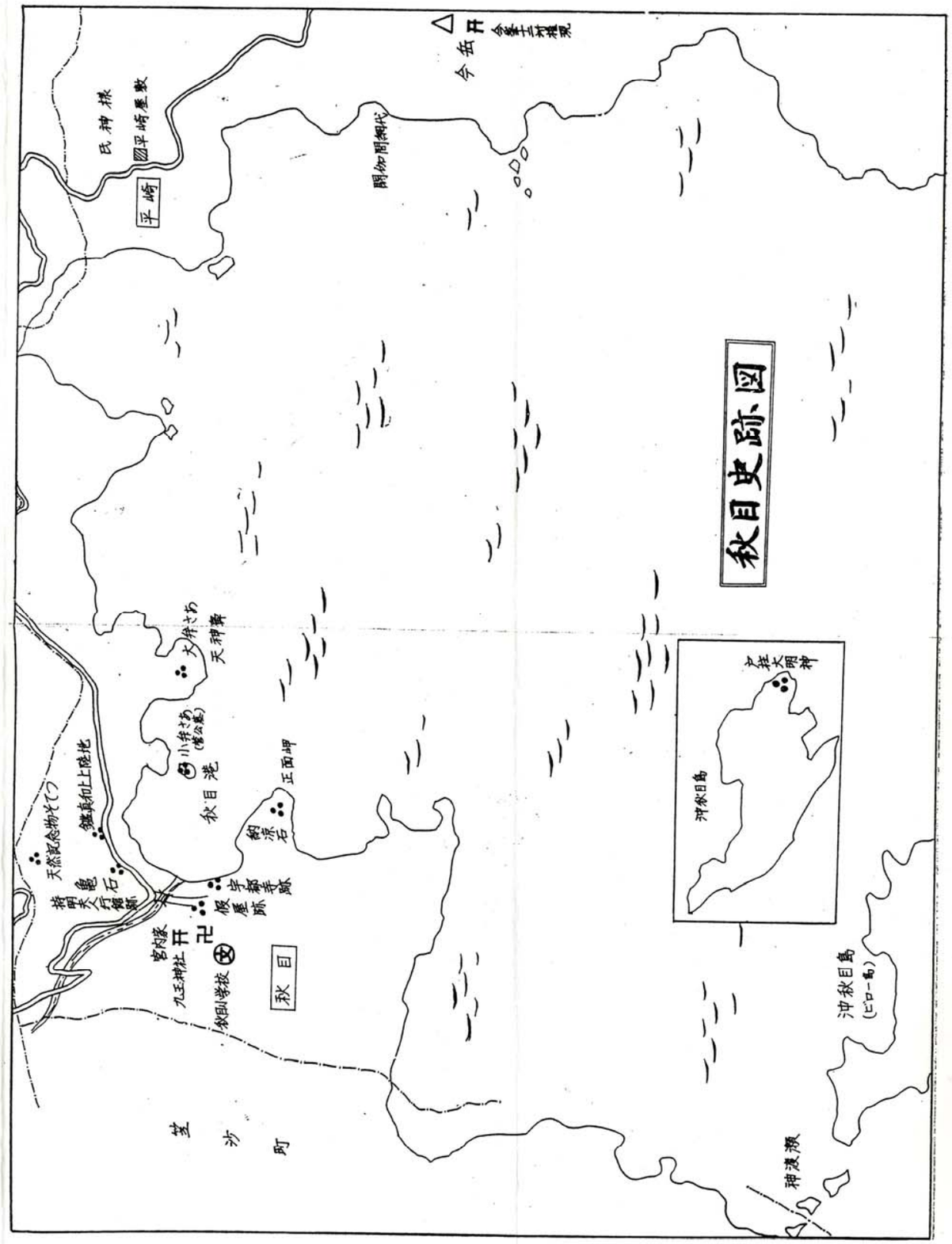
泊史跡図

草野
茅野
枕崎へ
島津忠国公行館跡
馬頭観音
尊牛
鉾迫
平原
諏訪神社跡
吉原方
たんたと方
攝光寺
海印寺跡
東光寺跡
松堂方
宇都
坊泊中学校
車岳
鍛冶屋川
町
質屋跡
塩屋方
大智院跡
坊へ
本瑋院
慈眼院跡
泊
堤防
井
弘法の井戸
浜
方丈房
天神様
倉
馬場方
紺屋跡
井
貴船神社
法光寺跡
小泊
泊浦
久志へ
九王神社
護国神社
井
井
坊へ

久志史跡図


加世田市
至加世田
上野
島津家牧場跡
薬師寺跡
大浦町
至大浦
陣ヶ尾岳
番所跡（野子）
山口
寺跡
共伸
別陣山
桜台
池屋敷
寺跡
仁田川
大久志
久志小学校
弥生式土器出現地
穴婆岩（久子姫）
末柏
末柏川
今村
重臣邸跡
正光寺跡
弓張山
久志中学校
正仙川
広泉寺
温屋
久志川
甜屋跡
假屋跡、郭便屋跡、薬師寺跡、色変松
九王神社
甜屋跡
役場
寺跡
五十石ビん
平尾
台場跡（番所）
宮崎
遠見番
鶴喰発
立留鼻
小島
長者屋敷跡
久志浦
長者鼻
浮屋寺（安養寺あと）
九王神社
江笹潭
交易場
唐人まち
唐人基
博多浦
田崎
車岳（即神火）
島津忠国公船出場跡
丸木浦
網代鼻
（△今岳（御神火）（今峯十二所権現））

秋目史跡図


今岳（今峯十二所権現）
民神様
四平崎屋敷
平崎
開如開拓
大神さわ
天神峯
小神さわ（虎公堂）
正面岬
秋目浜
納涼石
天然記念物ベイ
鏡真向上陸地
横間大石観音
亀石
宇都孝跡
假屋跡
客内家
九王神社
秋目学校
秋目
笠沙町
女狭大明神
沖秋目島
沖秋目島（ビロー島）
神渡瀬